博多 41

――博多遺跡群第70次発掘調査報告――

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第370集

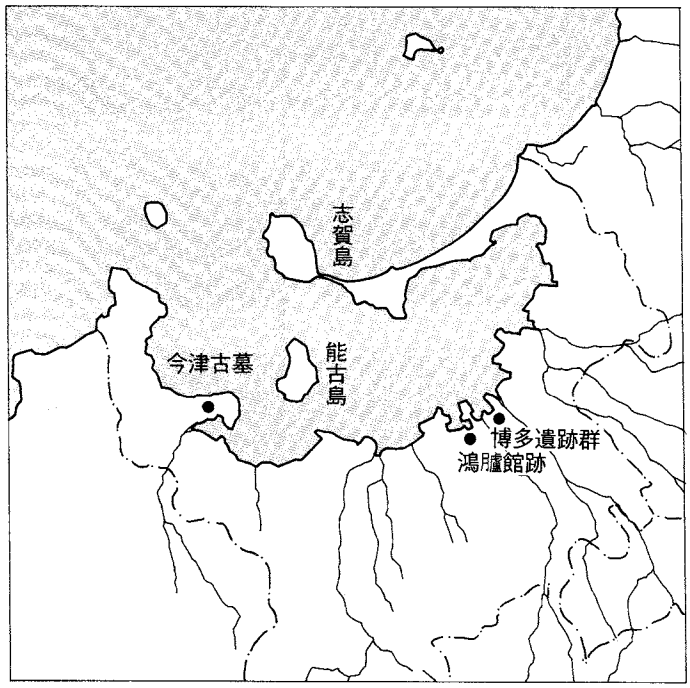
1994

福岡市教育委員会

博　多 41

—— 博多遺跡群第70次発掘調査報告 ——

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第370集



1994

福 岡 市 教 育 委 員 会

第１面　全景　南から

第３面　全景　南から

「櫛田宮」銘瓦出土状況

序　　文

玄界灘に面した福岡市は、豊かな自然環境と歴史的な遺産に恵まれています。しかし、近年の福岡市は著しい都市化によってその姿を変貌しつつあります。

福岡市の自然環境と歴史的遺産を保護し、後世に伝えてゆくために、日頃その保存に、私達が努めることは言うまでもないことです。

福岡市教育委員会では、各種の開発事業に伴い、失なわれゆく埋蔵文化財の保存・保護措置に努めているところです。

本書は平成２年度に発掘調査を行った博多遺跡第70次調査の成果について報告するものです。この調査地点は「博多浜」と呼ばれた砂丘上に立地しており、古墳時代から江戸時代までの遺構・遺物を発見することができました。なかでも越州窯青磁、緑釉陶器、古代瓦の出土は鴻臚中島館の位置を知る重要な手懸かりになるものと考えられます。

本書が市民の埋蔵文化財へのご理解と認識を深める一助となり、また研究資料としてご活用頂ければ幸いに存じます。

平成６年３月31日

福岡市教育委員会

教育長　尾花　剛

例　　言

1．本書は博多区冷泉町におけるマンション建設に伴い、福岡市教育委員会が平成３（1991）年３月11日から３（1991）年５月31日の期間中に発掘調査を実施した博多（はかた）遺跡群第70次調査の報告である。

2．発掘調査は、文化財部埋蔵文化財課の井澤洋一、佐藤一郎が担当した。

3．本書に掲載した遺構の実測は、井澤洋一、吉田扶希子、多田映子、福田小菊、西嶋彰子、上村素が行った。

4．遺物の実測は池田孝弘、牛房綾子、福田小菊、多田映子、井澤が行った。尚、文様のある陶磁器や染付或いは石器、大型遺物については機械実測を行い、廣嵜香が担当した。

5．遺構・遺物の製図は牛房、廣嵜、吉永祐美子、井澤が担当した。

6．遺構の写真撮影は井澤、佐藤一郎、遺物の撮影は藤川繁昌、井澤が行った。

7．本書に掲載する遺構一覧表は牛房が作成した。

8．本書作成にあたっては、西口キミ子、三浦明子の協力を得た。

9．遺構番号は発掘調査中に於いて検出した順に番号をふり、本書では遺構略号を遺構番号の頭に付けた。遺構の略号として用いたのはSE（井戸）、SK（土壙）、SX（炉・墓・構築物）である。

10．本書の遺物番号は遺構の種類毎に通し番号で示し、挿図・図版番号に一致させている。

11．本書に用いた方位は磁北である。

12．本書に掲載した瓦文字の解読は福岡市博物館の林文理氏に依頼した。

13．本報告にかかわる図面・写真・遺物などの一切の資料は、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される予定である。

14．本書の執筆は井澤が担当し、編集は牛房の協力のもと井澤が行った。

遺跡調査番号	９０６２			遺跡略号	ＨＫＴ-70
地番	福岡市博多区冷泉町 388外			分布地図番号	天神 49
開発面積	571.06㎡	調査対象面積	571.06㎡	調査面積	350㎡
調査期間	1991年（平成３年）３月11日～1991年（平成３年）５月31日				

本 文 目 次

第1章 はじめに …… 3
1．発掘調査に至る経緯 …… 3
2．発掘調査の組織 …… 3
3．立地・環境 …… 4
第2章 調査の記録 …… 5
1．試掘調査の概要 …… 5
2．発掘調査の概要 …… 5
(1) 調査経過 …… 5
(2) 土層 …… 7
(3) 第1～4面の調査概要 …… 7
3．遺構・遺物解説 …… 14
(1) 井戸 (SE) …… 14
(2) 井戸出土遺物 …… 14
(3) 土壙 (SK) …… 48
(4) 土壙出土遺物 …… 57
(5) 炉跡・構造物 (SX) …… 80
(6) 炉跡・構造物出土遺物 …… 86
(7) 土壙墓 (SX) …… 91
(8) 土壙墓出土遺物 …… 93
(9) 溝 (SD) …… 97
(10) 溝出土遺物 …… 99
(11) Pit 遺構 (SP) …… 101
(12) Pit 遺構出土遺物 …… 101
(13) 表土・遺構面・包含層出土遺物 …… 107
(14) その他の遺物 …… 107
(15) 弥生式土器・土師器 …… 107
(16) 文字瓦 …… 108
(17) 鉄製品・青銅製品・ガラス製品 …… 108
付編 福岡市内出土の五輪塔と板碑 …… 119

挿 図 目 次

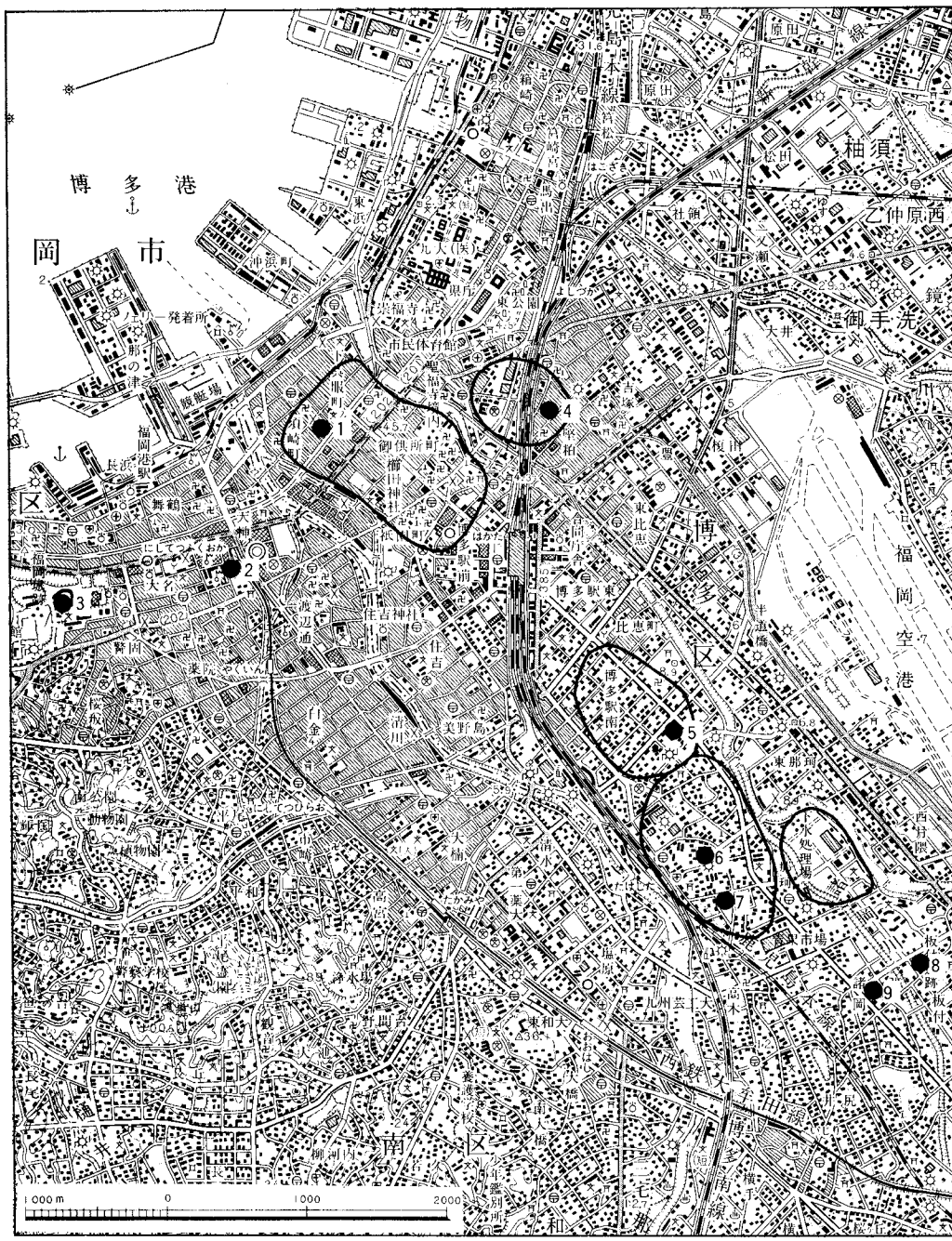
Fig. 1 博多遺跡群と周辺の遺跡（縮尺 1/50,000） …… 1
Fig. 2 博多遺跡群と調査区位置図（縮尺 1/9,000） …… 2
Fig. 3 第70次調査地点位置図（縮尺 1/2,000） …… 4
Fig. 4 調査区内壁面土層図（縮尺 1/80） …… 6
Fig. 5 第70次調査の調査範囲図（縮尺 1/400） …… 8
Fig. 6 第70次調査第1面遺構配置図（縮尺 1/150） …… 8
Fig. 7 第70次調査第2・3面遺構配置図（縮尺 1/150） …… 11
Fig. 8 井戸 SE 01・02・90・136・156 実測図（縮尺 1/60） …… 15
Fig. 9 井戸 SE 155・158・159・165 実測図（縮尺 1/60） …… 17
Fig. 10 井戸 SE 177～222 実測図（縮尺 1/60） …… 19
Fig. 11 井戸 SE 01・02・52 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 23
Fig. 12 井戸 SE 90 出土遺物実測図①（縮尺 1/3） …… 24
Fig. 13 井戸 SE 90 出土遺物実測図②（縮尺 1/3） …… 25
Fig. 14 井戸 SE 90 掘り方・井側内出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 26
Fig. 15 井戸 SE 90 出土瓦類実測図（縮尺 1/4） …… 27
Fig. 16 井戸 SE 90 出土石製品実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 28
Fig. 17 井戸 SE 136 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 29
Fig. 18 井戸 SE 136 井側内出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 30
Fig. 19 井戸 SE 155 出土遺物実測図①（縮尺 1/3） …… 31
Fig. 20 井戸 SE 155 出土遺物実測図②（縮尺 1/3） …… 32
Fig. 21 井戸 SE 155 出土遺物実測図③（縮尺 1/3） …… 33
Fig. 22 井戸 SE 155 出土遺物実測図④（縮尺 1/3） …… 34
Fig. 23 井戸 SE 155 出土遺物実測図⑤（縮尺 1/3） …… 35
Fig. 24 井戸 SE 156 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 36
Fig. 25 井戸 SE 158・159 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 37
Fig. 26 井戸 SE 159・163 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 38
Fig. 27 井戸 SE 163 井側内出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 39
Fig. 28 井戸 SE 165 掘り方出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3） …… 40
Fig. 29 井戸 SE 165・169・188 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 41
Fig. 30 井戸 SE 188・199 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 42
Fig. 31 井戸 SE 205・206 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 43

Fig. 32　井戸 SE 207・217・218・221 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 44
Fig. 33　井戸 SE 222 出土遺物、及び各井戸出土の土製品、石製品実測図(縮尺 1/2・1/3) …… 45
Fig. 34　土壙 SK 21～83 実測図（縮尺 1/40） …… 49
Fig. 35　土壙 SK 94～166 実測図（縮尺 1/40） …… 51
Fig. 36　土壙 SK 168～189 実測図（縮尺 1/40） …… 54
Fig. 37　土壙 SK 04～26 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 59
Fig. 38　土壙 SK 31～60 出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3） …… 60
Fig. 39　土壙 SK 62～79 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 61
Fig. 40　土壙 SK 83～94 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/6） …… 62
Fig. 41　土壙 SK 95～106 出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3） …… 63
Fig. 42　土壙 SK 110～124 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 64
Fig. 43　土壙 SK 130～133 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 65
Fig. 44　土壙 SK 133～142 出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3） …… 66
Fig. 45　土壙 SK 157 出土遺物実測図①（縮尺 1/3） …… 67
Fig. 46　土壙 SK 157 出土遺物実測図②（縮尺 1/3・1/4） …… 68
Fig. 47　土壙 SK 157・164 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 69
Fig. 48　土壙 SK 164 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 70
Fig. 49　土壙 SK 164・166 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 71
Fig. 50　土壙 SK 168・170 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 72
Fig. 51　土壙 SK 171～176 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 73
Fig. 52　土壙 SK 177～179 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 74
Fig. 53　土壙 SK 179～182 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 75
Fig. 54　土壙 SK 182・183 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 76
Fig. 55　土壙 SK 184～189 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 77
Fig. 56　土壙 SK 195～208 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 78
Fig. 57　土壙 SK 216 出土遺物実測図（縮尺 1/3） …… 79
Fig. 58　炉跡 SX 11、溜桝 SX 02、石積遺構 SX 129 実測図（縮尺 1/40・1/60） …… 83
Fig. 59　炉跡 SX 64・SX 211 実測図（縮尺 1/40） …… 86
Fig. 60　土壙 SX 01・溜桝 SX 02 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 87
Fig. 61　溜桝 SX 02出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 88
Fig. 62　溜桝 SX 02・14、土壙墓 SX 05 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 89
Fig. 63　炉跡 SX 64・211 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4） …… 90
Fig. 64　土壙墓 SX 05～113 実測図（縮尺 1/40） …… 92

Fig. 65　土壙墓 SX 215 実測図（縮尺 1/40）…… 93
Fig. 66　土壙墓 SX 20・24 出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 94
Fig. 67　土壙墓 SX 24～111 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）…… 95
Fig. 68　溝 SD 02～09 実測図（縮尺 1/40）…… 97
Fig. 69　溝 SD 02～09 出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 98
Fig. 70　溝 SD 150 出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 99
Fig. 71　SP 82～377 出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 100
Fig. 72　SP 364～408 出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 101
Fig. 73　表土出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）…… 102
Fig. 74　1 面・2 面下包含層出土遺物実測図（縮尺 1/3）…… 103
Fig. 75　第 3 面出土遺物、及び各遺構出土土製品実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 104
Fig. 76　各遺構出土の硯実測図（縮尺 1/3）…… 105
Fig. 77　各遺構出土の弥生式土器・土師器実測図（縮尺 1/3・1/4）…… 106
Fig. 78　各遺構出土文字瓦拓影（縮尺 1/1）…… 109
Fig. 79　鉄製品実測図（縮尺 1/3）…… 110
Fig. 80　青銅製品・鉄製品・ガラス製品実測図（縮尺 1/2・1/3）…… 111
Fig. 81　第70次調査出土の貨幣①（縮尺 1/1）…… 113
Fig. 82　第70次調査出土の貨幣②（縮尺 1/1）…… 114
Fig. 83　五輪塔実測図（縮尺 1/6）…… 122
Fig. 84　板碑実測図（縮尺 1/6）…… 123

表　目　次

Tab. 1　第70次調査出土土錘・石錘一覧表 …… 105
Tab. 2　第70次調査出土鉄製品一覧表 …… 108
Tab. 3　第70次調査出土青銅製品一覧表 …… 111
Tab. 4　第70次調査出土貨幣一覧表 …… 114
Tab. 5　第70次調査遺構一覧表 …… 126



1. **博多遺跡群**
2. 肥前堀跡
3. 鴻臚館跡
4. 堅粕遺跡
5. 比恵遺跡
6. 那珂八幡古墳
7. 那珂遺跡群
8. 板付遺跡
9. 諸岡遺跡

Fig. 1 博多遺跡群と周辺の遺跡（縮尺 1/50,000）

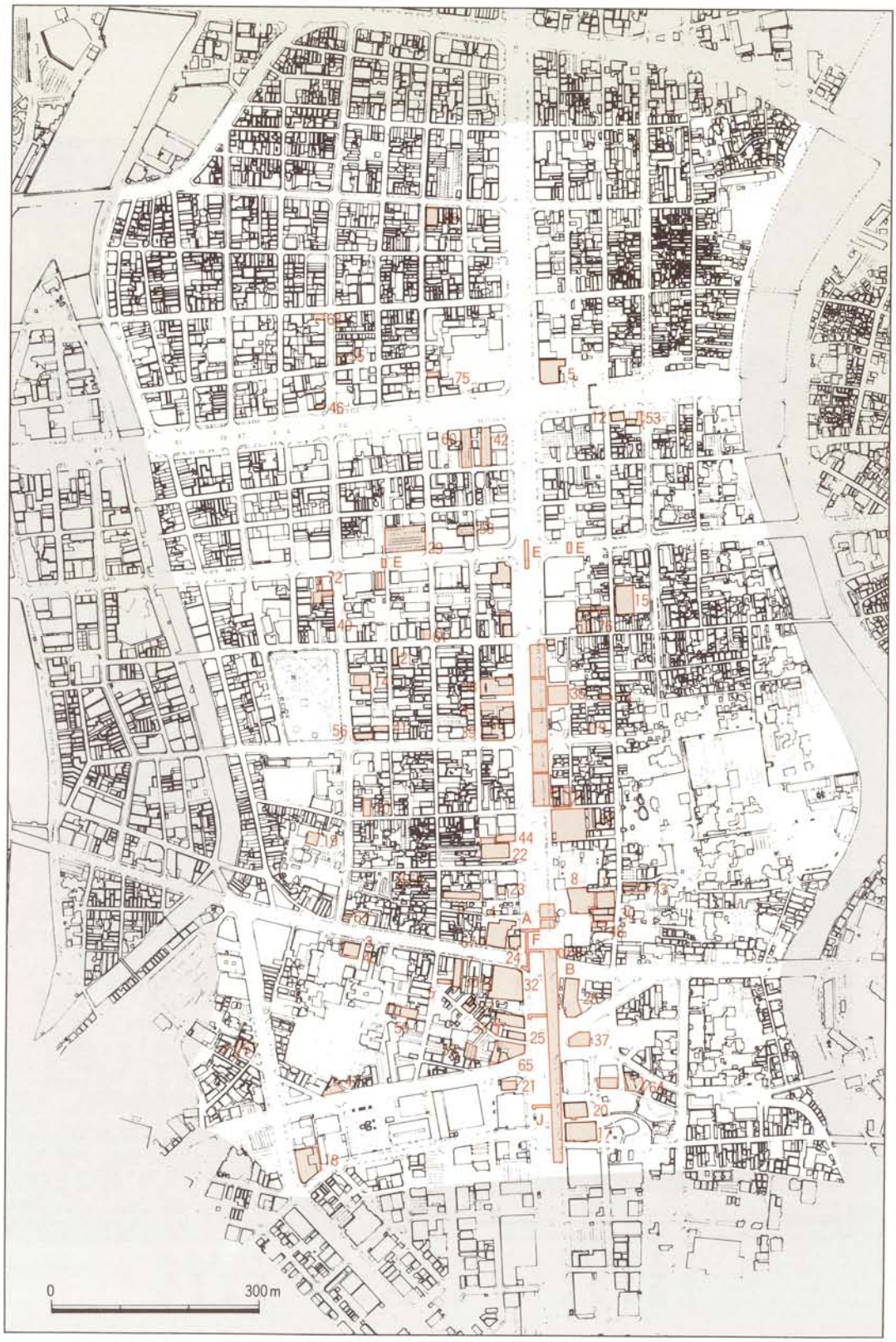


Fig. 2　博多遺跡群と調査区位置図（縮尺 1/9,000）

第1章　はじめに

1．発掘調査に至る経緯

博多区冷泉町に所在する櫛田神社の東側の一角に株式会社高木土木による分譲マンション建設の計画があり、平成2年9月14日に福岡市教育委員会埋蔵文化財課に対して、事前審査願いが提出された。同地域は博多遺跡群として周知されている地域であり、周辺の調査成果からも奈良時代～室町時代までの遺構の存在が予想されたため、埋蔵文化財課では同年9月25日に試掘調査を実施した。この結果、奈良時代から江戸時代までの遺構・遺物の存在を確認した。このため、株式会社高木土木との間で保存協議を行った結果、現状保存が困難なマンション建物の範囲についてのみ記録保存のための発掘調査を行うこととなった。調査は表土の鋤取り工事等の条件整備を行った後に、平成3年（1991）3月11日から開始し、平成3年（1991）5月31日に終了した。

尚、表土の鋤取り工事、及び調整中の残土の搬出作業は株式会社高木土木のご協力をいただいた。

2．発掘調査の組織

調査委託　株式会社高木土木

調査主体　福岡市教育委員会文化財部（前文化部）埋蔵文化財課

調査総括　課長　柳田純孝（前任）、第2係長　柳沢一男（前任）、塩屋勝利（前任）

調査・整理　主任文化財主事　井澤洋一

庶務　松延好文（前任）、吉田麻由美

試掘調査　吉留秀敏、加藤義彦

調査・整理補助　吉田扶希子、牛房綾子、中西（廣嵜）香、池田孝弘

調査協力者　家村富基郎、井上八郎、上村素、内田修一、内野弘行、大村芳雄、神田武則、熊本交伸、斎藤義弘、島津明男、高田一弘、橘良平、西嶋武司、浜地富男、原田啓一郎、福澤山次郎、船越恒人、八尋弘人、横尾泰広、吉川春美、吉川順缶、石川洋子、石橋テル子、牛房綾子、江里ヨシエ、荻野敦子、小山田緑、倉光京子、小林光子、坂本ハツ子、多田映子、橘知子、谷吉美、中西香、永井鈴子、西口キミ子、西嶋彰子、箱田香代子、福田小菊、堀タケ子、脇坂レイコ、脇山喜代子

整理作業　多田映子、西嶋彰子、堀タケ子、永井鈴子、谷吉美、箱田香代子、福田小菊、西口キミ子、三浦明子

3．立地・環境

調査地点は博多浜の砂丘中央部から南西側に位置しており、調査地点西側には櫛田神社が所在する。当該地の旧町名は「櫛田前町」に相当し、南側の櫛田神社を含んだ地域は「社家町」に当るところから、当該地は元来、櫛田神社の社域に含まれていたと考えられる。櫛田神社は大宰大弐であった平清盛が、肥前国神崎荘の櫛田宮を勧請したとする説が有力であるが、実際に記録に出てくるのは、京都東福寺の僧良寛が博多に滞在した際に見聞したことを記した『博多日記』である。『博多日記』には鎌倉時代末期の博多の様子を書き付けており、櫛田宮に隣接していたと言われる鎮西探題の御殿に対して、天慶２年（1333年）に肥後の豪族菊池武時が鎮西探題北条英時を攻めた時の状況や櫛田宮の様子及び博多の地名が記されている。

当該地の周辺では、７ヶ所の発掘調査が行われており、その内、第14・56次調査では中国白磁が多量に投棄された状況で出土したことから、古代の港の存在も推定されている。又、古代の博多には「鴻臚中島館」があったことが指摘されているが、官衙に相当する施設或いは高級官吏の存在を想定させる墨書土器や石帯、或いは越州窯、緑釉陶器などの遺物が出土し、又、方一町を区画する溝の検出は、官衙や鴻臚中島館等の建物の存在を裏付ける手懸かりとなっている。

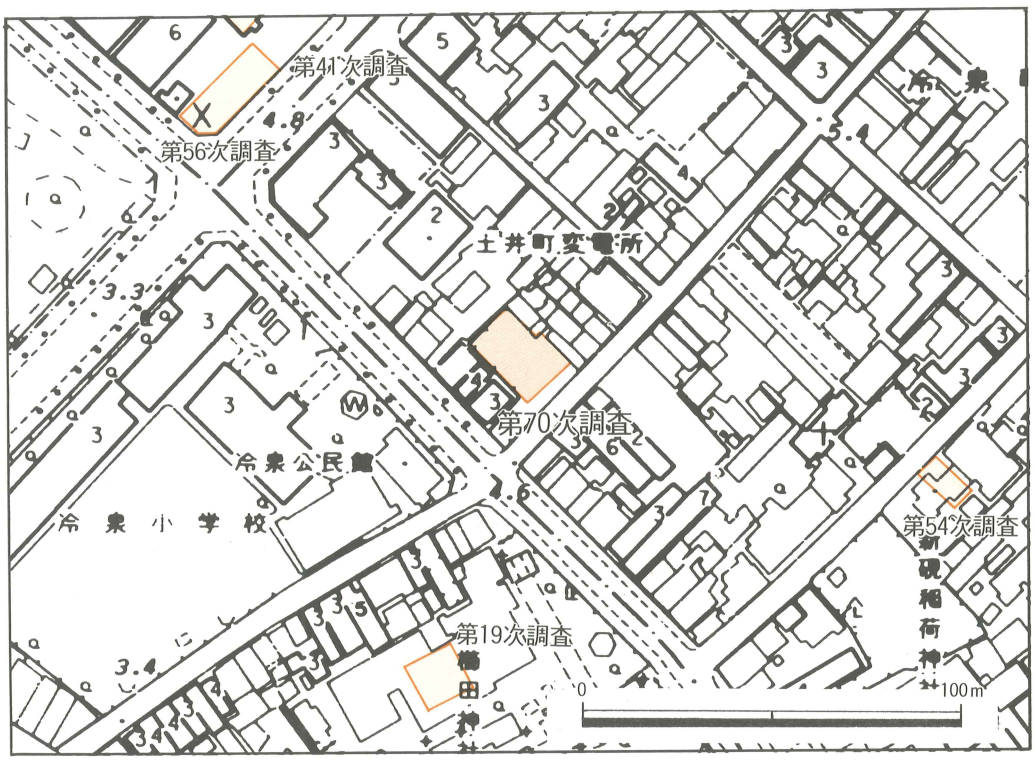


Fig. 3　第70次調査地点位置図（縮尺 1/2,000）

第2章　調査の記録

1．試掘調査の概要

平成2年9月25日に実施した。周辺では第2・3・14・19・41・56・63次の発掘調査が行われているが、当該地は第19・63次調査に隣接した位置にある。従来の周辺における発掘調査によれば古墳時代から江戸時代までの遺構・遺物を検出している。

試掘調査は逆L字型を呈する敷地に2ヶ所のトレンチを設定した。これらのトレンチはT1が長さ9m、深さ2.1m、T2が長さ5m、深さ1.3mである。

T1は①層 表土、②層 黒灰色土（盛土）、③層 暗灰褐色土、④層 暗灰色土、⑤層 暗灰褐色砂質土、⑥層 黒灰色土、⑦層 暗褐色土、⑧層 黒灰色土、⑨層 淡灰褐色砂、⑩層 黄灰色砂の層序となっている。地表面から深さ55cmまでが第②層の盛土層、深さ55cmから127cmまでが第③層～⑤層の近世の包含層である。深さ127cmから210cmまでは第⑥層～⑨層に相当する古代・中世の包含層である。深さ210cmの上面が、第⑩層の黄灰色砂で、基盤層となる。

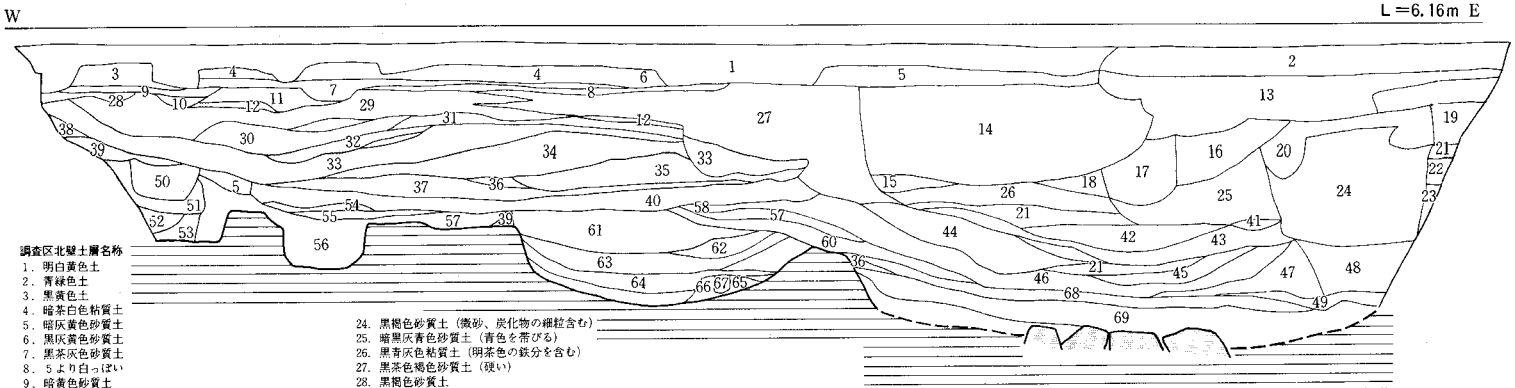
T2T1とは、地表面の比高差が約70cmあり、T2はT1より低い位置にある。T2の土層は①層 表土、②層 黒灰色土（盛土）、③層 暗褐色土、④層 暗灰色土、⑤層 暗灰色砂質土、⑥層 暗褐色砂、⑦層 黄灰色砂の層序となっている。地表面から深さ50cmまでが第②層の盛土層、深さ50cm～80cmまでが第③層の近世包含層、深さ80cm～130cmまでが古代・中世の包含層を形成しているが、T1に比べ、包含層が薄い。基盤層の第⑦層 黄灰色砂層上面はT1・T2ともに同レベルである。この面では古代・中世の柱穴を検出した。

古代・中世の文化面（生活面）はT1の第⑥層～⑩層までの間において3～4面程あると思われる。出土した遺物は少ないが、奈良時代の遺物が目立っている。

2．発掘調査の概要

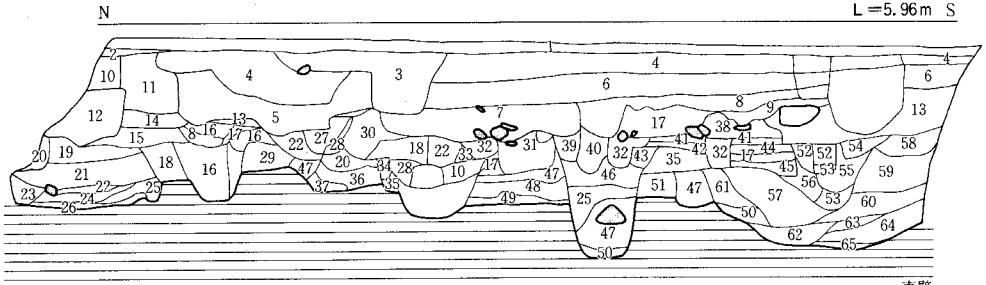
(1) 調査経過

発掘調査は平成3（1991）年3月11日から平成3年5月31日の期間に実施した。調査に先立って、外周のフェンス工事、事務所の設置、表土の鋤取り工事が行われている。この鋤取り工事は試掘調査のデータに合わせて深さ1～1.5mまで盛土層、及び攪乱層を除去しており、この面の標高は約4.96～4.66cmを測る。地山の黄灰色砂層は、調査区の南側から北側へ緩く傾斜しており、北側は整地層（包含層）が厚く堆積している。これに合わせて、各遺構面のレベルの状態も同様に北側に傾斜する傾向をもっている。第1面は、表土の鋤取りを行った面を便宜的に遺構面とし、



調査区北壁土層名称

1. 明白黄色土
2. 青緑色土
3. 黒黄色土
4. 暗茶白色粘質土
5. 暗灰黄色砂質土
6. 黒灰黄色砂質土
7. 黒茶灰色砂質土
8. 5より白っぽい
9. 暗黄色砂質土
10. 黒黄色粘質土
11. 暗茶白色粘土
12. 炭化物層
13. 暗茶灰色砂質土（青色を帯びる）
14. 暗黒黄色砂質土（土器、明黄白色粘土のブロックあり）
15. 黒色土（炭化物と鉄分の細粒含む）
16. 暗黒青色粘質土（鉄滓と粒子）
17. 暗茶褐色砂質土（硬い18より明るい）
18. 暗茶褐色砂質土
19. 黒灰褐色砂質土（黄白色粘土のブロックあり）
20. 12（微粒）
21. 暗黒褐色砂質土
22. 黒灰褐色砂質土（2～5㎜の明茶色粗砂含む）
23. 21より黒色が強い
24. 黒褐色砂質土（微砂、炭化物の細粒含む）
25. 暗黒灰青色砂質土（青色を帯びる）
26. 黒青灰色粘質土（明茶色の鉄分を含む）
27. 黒茶色褐色砂質土（硬い）
28. 黒褐色砂質土
29. 暗灰黄色粘質土
30. 5に炭化物含む
31. 茶褐色砂質土
32. 6より炭化物多い
33. 黒灰褐色砂質土（細粒）
34. 28に炭化物、土器を含む（硬い）
35. 黒灰色砂質土（土器、瓦、炭化物を含む）
36. 暗灰褐色砂質土
37. 28より硬いしまっている
38. 黒褐色粘質土
39. 暗黒灰色砂質土
40. 暗黒灰褐色砂質土に暗茶白色粘土のブロック混入
41. 暗灰褐色粘質土
42. 暗灰黒褐色砂質土（炭化物含む）
43. 黒灰色砂質土（青色を帯びる炭化物含む）
44. 暗茶灰色砂質土（明赤色粘土を含む）
45. 36に粗粒、炭化物含む
46. 39に黒灰色粘質土混入（炭化物含む）
47. 黒灰色粘質土（明赤色焼土のブロック炭化物含む）
48. 暗茶色土（焼土）
49. 黒灰色粘土
50. 36より粗粒
51. 黒灰色粘質土
52. 暗黒灰色粘質土
53. 黒灰褐色粘質土
54. 39より黄色味強い
55. 暗灰色砂質土（2～5㎜粗い炭化物含む）
56. 黒色粘質土（黄色を帯びる）
57. 黒灰色砂質土（赤味を帯びる）
58. 黒灰褐色砂質土
59. 黒灰色砂質土
60. 暗灰色砂質土（黄色を帯びる）
61. 39より硬くしまる（炭化物含む）
62. 暗茶色徴砂層に黒灰色粘質土混入
63. 暗黒灰黄色砂質土（粗粒）
64. 52に炭化物含む
65. 59と明白黄色徴砂の混入
66. 36（粗粒）
67. 暗茶灰色徴砂層
68. 暗灰色砂質土
69. 暗灰色粘質土（明茶色の焼土ブロックあり、炭化物含む）



調査区東壁土層名称

1. 青緑色土
2. 灰白色砂質土（粗砂）
3. 暗茶色粘質土（炭化物多く含む）
4. 黒褐色砂質土（炭化物、土器、瓦、多量に含む）
5. 黒灰色粘質土（粘土と炭化物の層を含む鉄分の塊あり）
6. 暗灰褐色粘質土（炭化物多く含む）
7. 黒灰褐色砂質土
8. 暗茶灰色粘質土
9. 暗黄灰色粘質土
10. 暗灰褐色砂質土（炭化物含む）
11. 暗茶灰色砂質土（炭化物含む）
12. 暗灰色砂質土（粗粒含む）
13. 黒褐色粘質土
14. 暗灰茶黄色砂質土（細粒）
15. 暗灰色砂質土（炭化物わずかに含む）
16. 黒灰色砂質土
17. 暗茶灰色砂質土
18. 暗茶灰色砂質土（粗砂）
19. 黒褐色砂質土（青色を帯びる）
20. 暗灰褐色砂質土
21. 黒灰褐色砂質土（細粒）
22. 暗灰青色砂質土
23. 暗黒灰色粘質土
24. 暗灰色粘質土
25. 暗灰色砂質土
26. 暗黒褐色砂質土（細粒）
27. 黒青灰色砂質土（挙大の石含む）
28. 黒灰色粘質土
29. 暗茶褐色粘質土
30. 黒灰色粘質土（青色帯びる）
31. 暗灰色粘土
32. 暗灰黄色砂質土（粗砂）
33. 暗灰褐色粘土
34. 暗茶色徴砂に暗灰色粘質土混入
35. 黒褐色砂質土（徴砂）
36. 暗茶灰色徴砂層
37. 明茶色徴砂層
38. 暗灰褐色砂質土（粗粒）
39. 暗灰褐色砂質土（細粒）
40. 暗灰褐色砂質土より黄色帯びる
41. 暗灰黄色粘土
42. 黒褐色砂質土に暗灰黄色
43. 暗黒灰黄色砂質土
44. 黒黄色砂質土
45. 黒褐色砂質土
46. 暗灰色砂質土（鉄分沈着）
47. 暗灰黄色砂質土（粗砂）
48. 暗灰色粘土に茶褐色砂混入
49. やや暗い黄褐色砂
50. 黄灰色砂（暗灰色粘土含む）
51. 暗黄灰色砂層
52. 暗黄灰色砂質土
53. 暗灰色粘土
54. 暗灰黄色粘質土
55. 灰色砂質土
56. 淡茶褐色砂質土
57. 暗灰褐色粘土（砂、炭化物含む）
58. 暗灰褐色粘質土（黄色を帯びる）
59. 黒褐色粘土（徴砂含む）
60. 黒褐色粘土（炭化物含む）
61. 暗灰色粘土（黄灰色粘土含む）
62. 暗灰色粘土（黄灰砂、炭化物多く含む）
63. 暗茶褐色砂質土
64. 暗茶褐色砂質土（炭化物含む）
65. 黄灰色砂（暗茶褐色粘土含む）

Fig. 4 調査区内壁面土層図（縮尺 1/80）

ここでは中世後半期から近世の遺構を確認した。第２面は第１面の中世後半期から近世の遺構や整地層（包含層）を除去した後、更に地表面を約20～30㎝掘り下げて新に検出した中世前半期から後半期の遺構面が相当する。第３面は第２面の中世遺構の内、土壙等を完堀・撤去した後に発見した遺構で、井戸等の大型遺構の他、平安時代に相当する時期の遺構群であるが、遺構面の標高は第２面とほぼ同レベルを形成している。第４面は調査区の南側に遺存していた古墳時代の木棺直葬墓を中心とする遺構群であるが、中世遺構の切り込み、削平が著しく、遺存状態は悪い。この周辺は地山面が高くなっており、古代～中世までの文化面（生活面）の深さには大きな差異はなく、同一面にて検出が可能である。

調査対象面積は571.06㎡であったが、株式会社高木土木との保存協議にもとづき、構造物部分のみに発掘調査を限定したため、調査範囲は350㎡にとどまった。

(2)　土　　層

発掘調査地点は砂丘上に立地しており、現在の地表面の標高は約4.7ｍを測る。地山は浜砂の砂堆層である黄灰色砂層であるが、調査区の南側から北側へ傾斜しており、比高差は約40㎝を測る。南側の高いところでは標高約4.8ｍを測る。各時代の生活面は北側に整地層を形成することでレベルを一定としており、北側では整地層（包含層）の厚さは約190㎝を測り、それと比べ南側は110㎝である。古代から近世までの遺構の切り合い関係は北側では標高4～5.5㎝まで、南では、標高4.4～5.6㎝の間に認められる。調査区北側の土層では、大略の層序は、上から順に①暗灰黄色砂質土、②瓦礫層、③暗灰黄色砂質土、④黒灰褐色砂質土、⑤黒褐色砂質土、⑥黒灰色砂質土、⑦黒褐色砂質土、⑧暗灰褐色砂質土である。①～⑧層は水平堆積をしており整地層と考えられる。東南側の土層の序列は、①黒褐色砂質土、②暗灰褐色砂質土、③暗灰黄色砂質土、④黒灰色砂質土、⑤暗灰色砂質土、⑥黒褐色砂質土、⑦暗茶褐色砂質土である。

(3)　第１～４面の調査概要

１～４面の遺構面の区別については層位的見解に寄ったものではなく、又、時代・時期として特定できた訳ではない。調査の作業上において、便宜的に設定したものである。遺構はどの面から掘り込まれたかが問題となるが、各時代の重複状況が著しいことに加え、表土、及び上層の鋤取り工事を先行したために文化層の把握が不可能となった。よって、作業上最も確認し易い面で遺構の把握を行ったにすぎないため、各々の任意の遺構面において記録した遺構群が、時代的に整合性をもつとは限らず、各々の面において、各時代の遺構が混合していることは否めない。但し、大略においては第１面の時期を江戸時代～戦国時代を中心とする面、第２面を室町時代～鎌倉時代に、第３面を鎌倉時代～奈良時代、第４面を古墳時代に当てることは可能である。

①第１面の調査（Fig. 6）

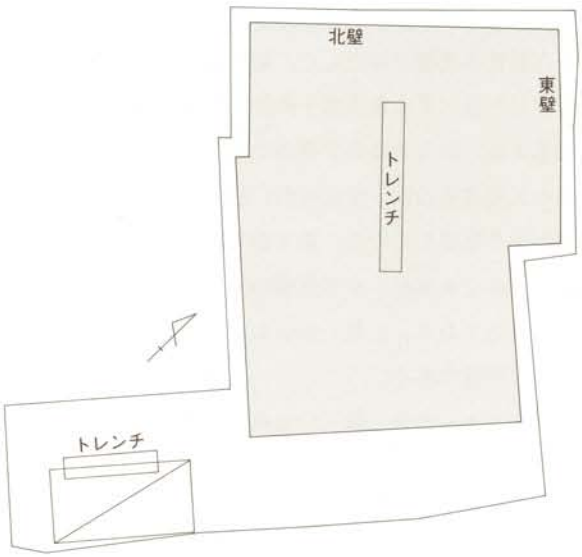


Fig. 5　第70次調査の調査範囲図（縮尺 1/400）

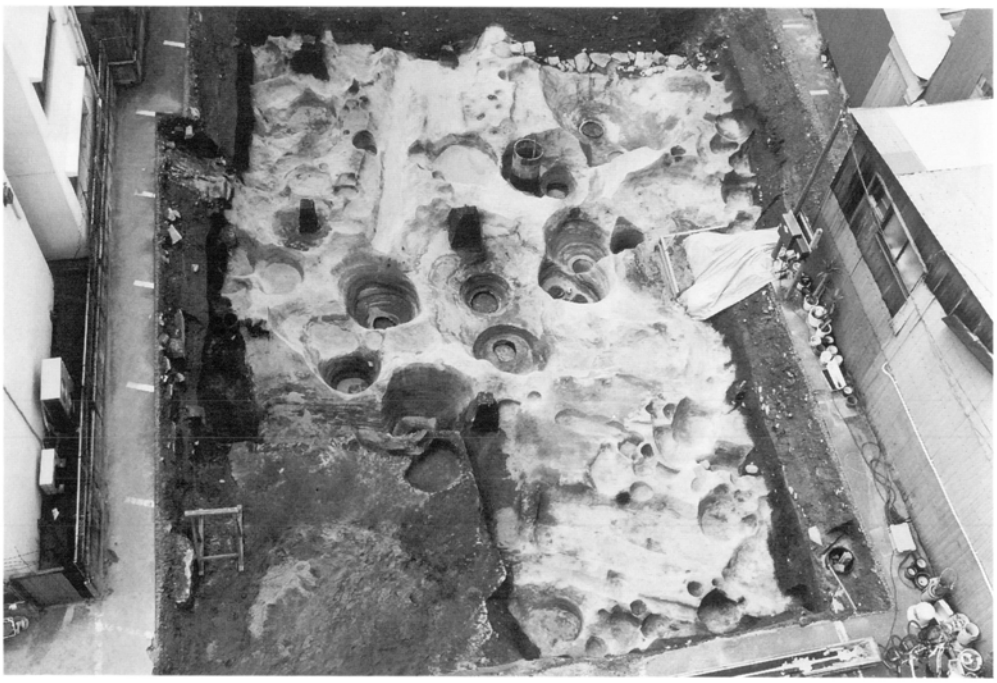
第1面

Fig. 6　第70次調査第1面遺構配置図（縮尺 1/150）

第70次調査　第１面全景（南から）

第70次調査　第２面全景（南から）

第70次調査　第３面全景（南から）



第70次調査　第３面完掘後の全景（南から）

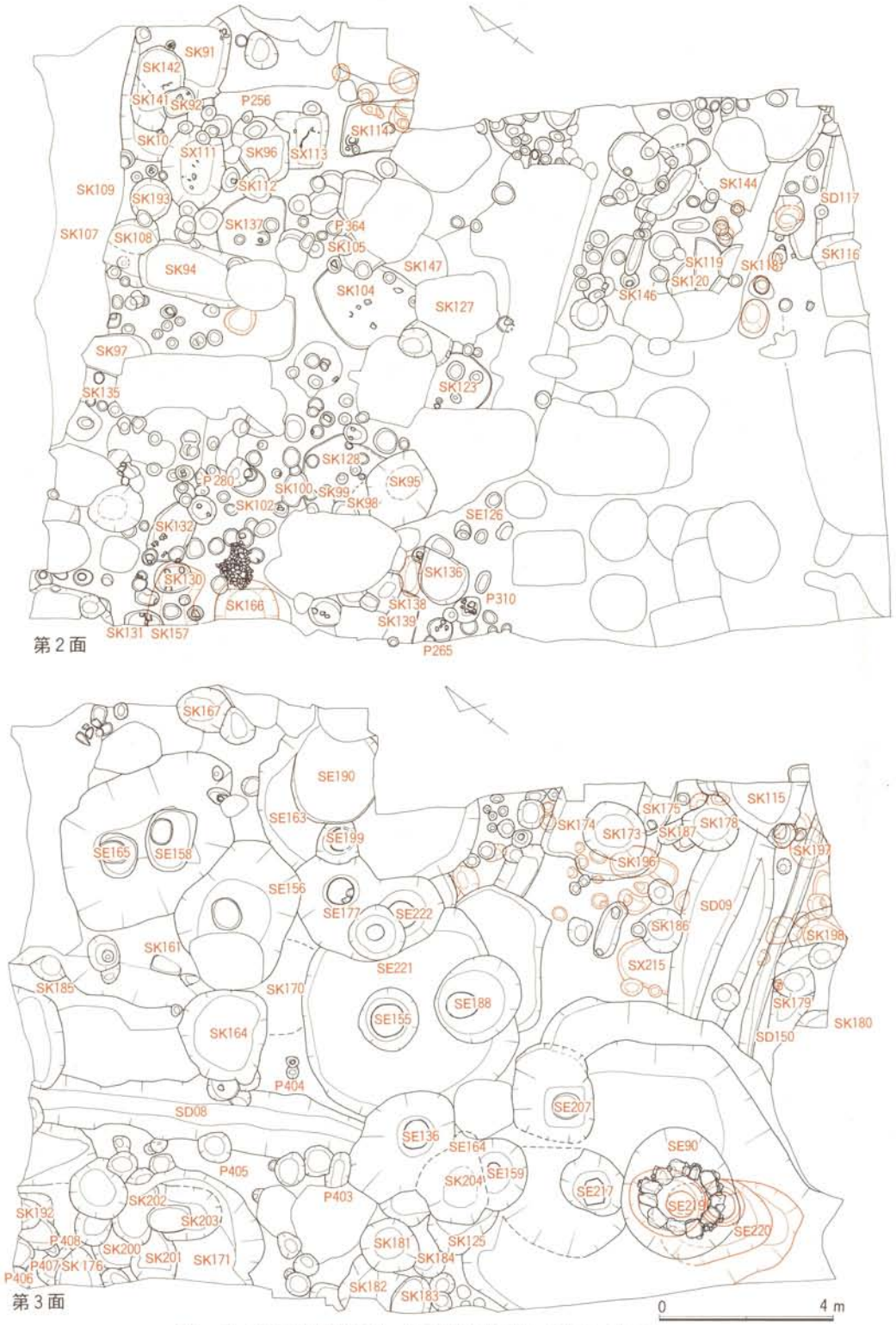


Fig. 7 第70次調査第２・３面遺構配置図（縮尺 1/150）

標高4.4～4.8ｍを測る。南東側は北西側に比べ約40㎝の比高差がある。調査経過で述べたように遺構面は試掘調査のデータにもとづき、機械的に深さ１～1.5ｍまで掘り下げている。遺構は暗茶色、又は暗灰褐色の砂質土であるが、遺構の切り合いが著しいため、遺構の把握に困難を極めた。ここでは江戸時代から室町時代までの遺構が混在するが、特に江戸時代を中心としており、井戸の他、石垣組みの溜桝、炉跡、土壙、溝などを多数検出した。江戸時代の石垣組みの溜桝は調査区の北西側境界地にあるため全体形は不明であるが、大型の構造物である。炉跡には竈(くど)突、及び、製鉄炉がある。製鉄炉は瓦と粘土で構築されているが、半分以上を他の土壙によって破壊されている。文献によれば、冷泉公園の周辺には鋳物師の磯野家、深見家の所在がみえている。

その他、室町時代から戦国時代の遺構も存在しており、第１面の時期は15世紀から19世紀までと考えられる。

②第２面の調査（Fig. 7）

遺構面の標高は3.7～4.1ｍを測る。元来は第１面と同一面の遺構面を形成しているが、遺構の重複が著しく、個々の遺構を把握し得ないため第１面において検出した室町時代から江戸時代の遺構、及び攪乱を全て発掘もしくは除去した後、若干の深さに掘り下げた面である。この面においては土壙、土壙墓、井戸、Pit を多数検出することができたが、遺構の切り合いが著しいため、井戸については掘り方の全体形を把握するに至っていない。遺構面は暗灰褐色砂質土であるが、一部に暗茶色の砂層が表出している。遺構は全体に拡がっているが、調査区南側の一隅においては近世遺構以外は把握できなかった。遺構の時期は11世紀～15世紀の間である。

③第３面の調査（Fig. 7）

上層の整地層又は、遺構内からは奈良時代を中心とした遺物が多量に出土しており、この時代の遺構の存在が予想されるところであった。又、第２面において多くの井戸が存在していることを把握していたが、遺構の重複が著しく、井戸の規模、内容を把握することが不可能であったため、井戸遺構の正確な把握と奈良～平安時代の遺構を確認することを目的として、第２面遺構群の除去後に、地山面の砂層まで掘り下げた。標高は南東側で約3.8ｍ、北西側で3.5ｍを測る。

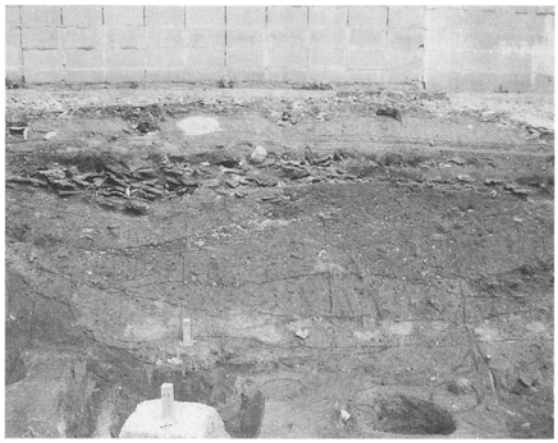
遺構は井戸、土壙、溝等が存在したが、この内の土壙の多くは中世遺構であり、且つ、調査区東側では近世遺構によって著しく破損した石組井戸を検出した。遺構の時期は奈良～平安時代を中心とするが、鎌倉時代から戦国時代まで幅をもっている。

④第４面の調査

基本的には第３面と同一面をなす。第１～３面の遺構を発掘・除去した際、調査区の南側半分についてのみ特に再度の遺構確認作業を行った。この結果、地山の灰褐色砂層において、赤色顔料が分布する範囲が確認できた。この赤色顔料分布地域は溝 SD09に切られており、断面観察状況から木棺直葬の遺構であることが判明した。従って、古墳時代の周溝墓が作られた文化層として第４面を設定した。

第１面遺構全景西北部（南から）

第１面南東部遺構（西から）



調査区北壁土層(1)

調査区北壁土層(2)

調査区北壁土層(3)

第３面井戸完掘後の状態（南から）

3．遺構・遺物解説

Pit を除く遺構の数は約200ヶ所を超えるため、個々の遺構の説明については、後に掲載した遺構一覧表を参考にされたい。ここでは、遺構の時代・時期及び第１～４面の、どの遺構面において検出したかにはとらわれずに遺構の種類毎にまとめて説明する。

(1)　井戸（Fig．８～10）

全部で27ヶ所の井戸を検出したが、検出した遺構面の内訳は第１面では３ヶ所、第３面は24ヶ所である。

SE01・02 は江戸時代から近代の瓦井戸である。SE01 の瓦組の井側は、直径80cmを測り、現存の深さは約４ｍを測る。遺物は丸瓦片が出土した。SE02 は非常に浅く、井側は１段しか残っていない。井側の直径は85cmを測り、底面に桶を置いた痕跡がある。SE02 に切られる SE52 は井側に木桶を用いているが、井戸底までの深さは SE02 同様に浅い。SE90 は第３面において検出した石組み井戸であるが、上部を近世遺構に破壊されており、石組みは１～２段しか遺存していない。井側の内径は68～80cm、井側の深さ107cmである。石組み井側の下位には木桶を重ねており、桶の直径は70cmを測る。SE136～SE207・SE219・221・222 は井側に木桶を重ねて用いているが、SE155・156・163 の掘り方は大規模で、SE155は径534cm、SE156は350cm、深さは SE155が237cm、SE156が206cmを測る。井戸底の高さは大部分の井戸が標高0.2～0.7ｍの間にあるが、小型の井戸 SE159 とSE199の井戸底は高く、標高1.5～1.7ｍを測る。井側に用いた木桶の大きさは様々で、直径35～80cmを測るが、小型の井戸 SE159 と SE221 の井側の直径は、極端に小さく35cm前後の大きさである。SE207 の掘り方底面は東西96cm、南北95cmを測り、平面形はほぼ方形をなしているところから、本来、方形の井戸枠があったのであろう。SE217・220では底において六角形の井側を検出した。このような井側を用いた例は全国でも少なく、わずかに鎌倉において検出されているだけであり、博多遺跡では初例である。井側の一辺は約35～40cmを測り、高さ10～20cmまで遺存している。板材をヨコに用いて組み合わせるもので、つぎ目に支柱などはない。SE217 は上部に石組井戸SE90 が存在しており、中心が若干ズレるものの、重複状態から同一遺構の可能性もある。

これらの井側に木桶を用いた井戸の時代は平安時代から鎌倉時代までの幅をもち、最も古い井戸は SE165 で、８世紀後半から９世紀初頭、SE158 は11世紀後半代、他は12世紀後半から14世紀初頭までの幅をもっている。

(2)　井戸出土遺物（Fig．17～33）

SE01 の出土遺物は１の丸瓦で、目釘穴がある。SE02 の出土遺物には、２の常滑焼甕片、３の

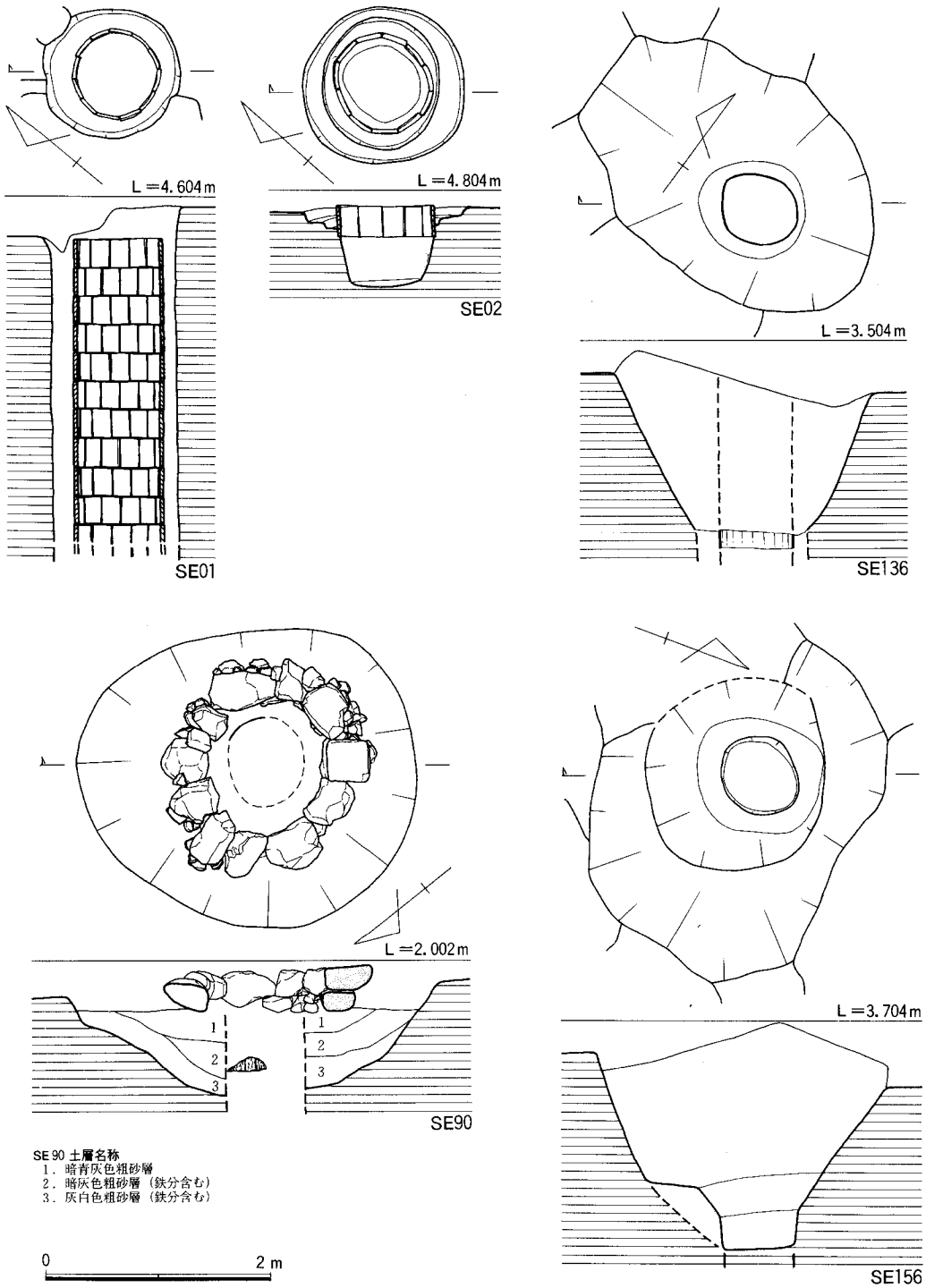
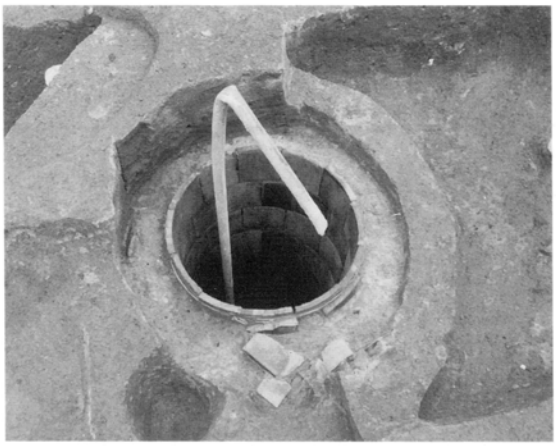


Fig. 8　井戸 SE 01・02・90・136・156 実測図（縮尺 1/60）



井戸 SE 01（北から）

井戸 SE 02（西から）

井戸 SE 52（東から）

井戸 SE 90（南から）

井戸 SE 136（東から）

井戸 SE 136 完掘状態（北西から）

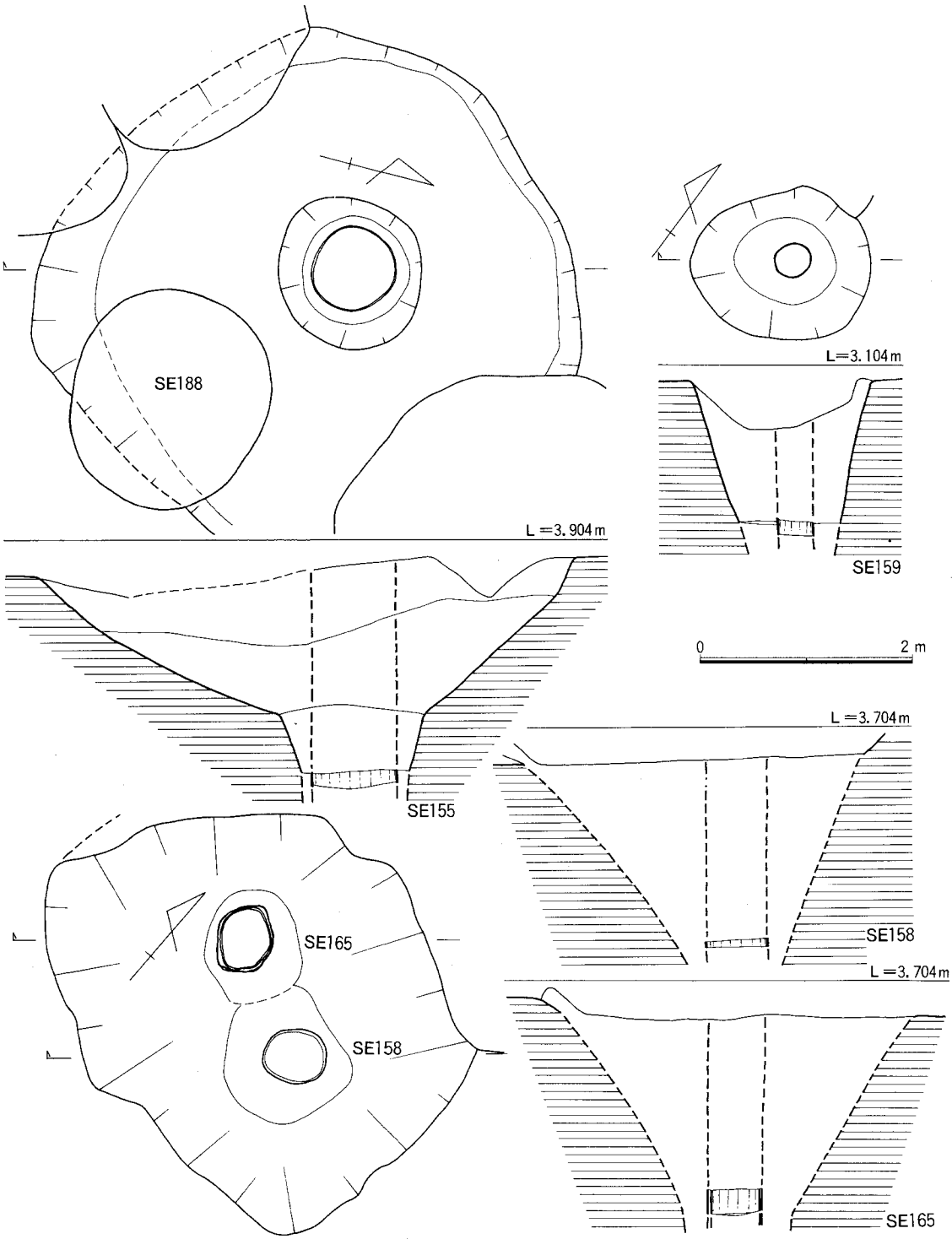
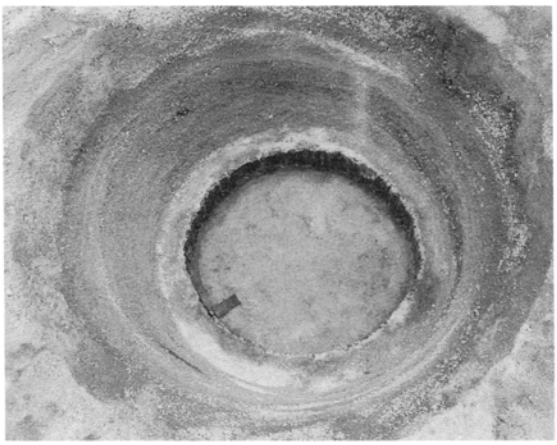


Fig. 9 井戸 SE 155・158・159・165 実測図（縮尺 1/60）

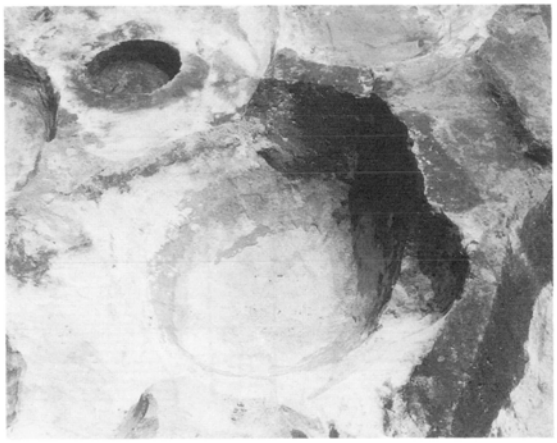
井戸 SE 155・188（東から）



井戸 SE 155（東から）

井戸 SE 156（東から）

井戸 SE 163（東から）



井戸 SE 159（西から）

井戸 SE 158・165A・165B（北から）

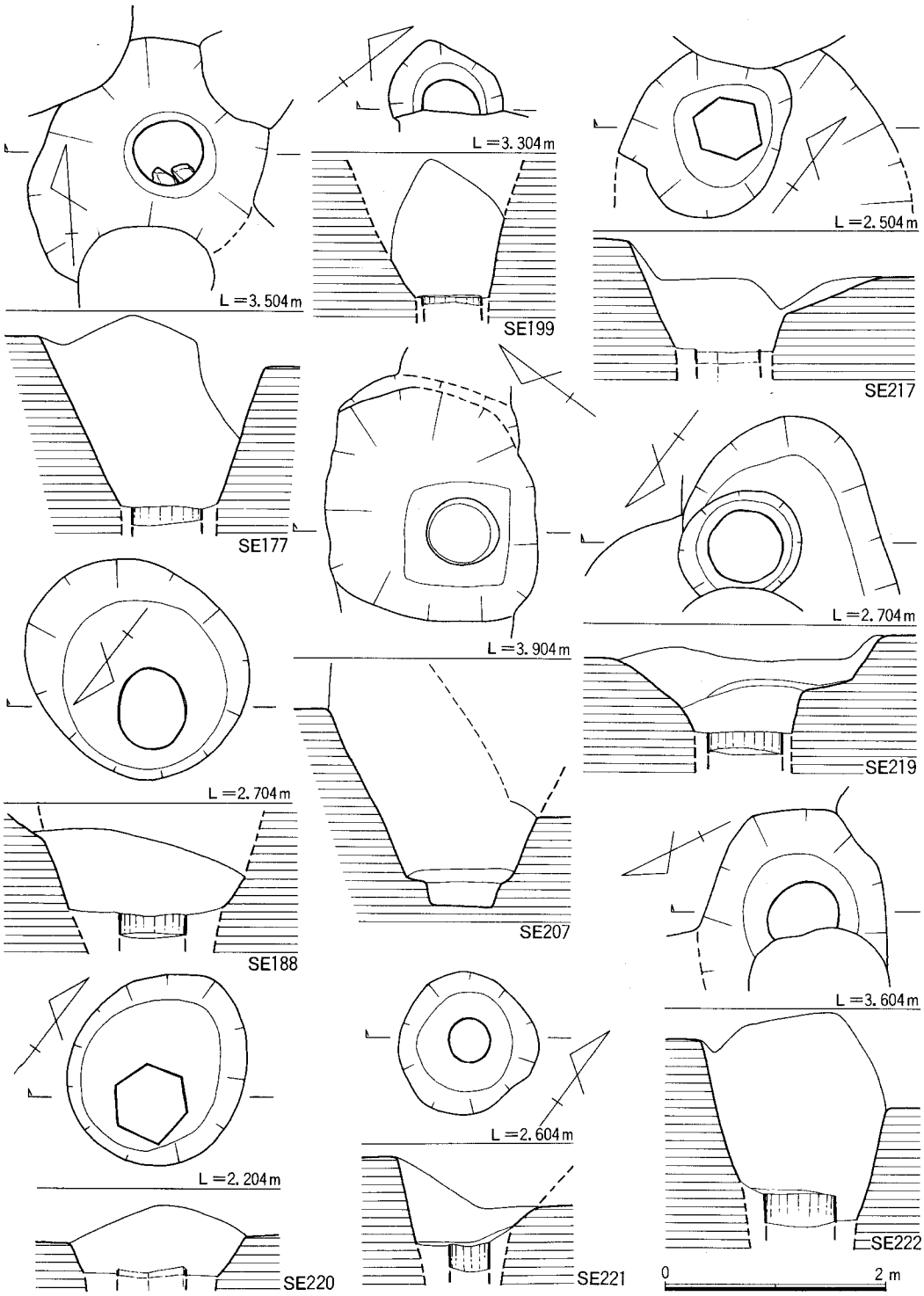


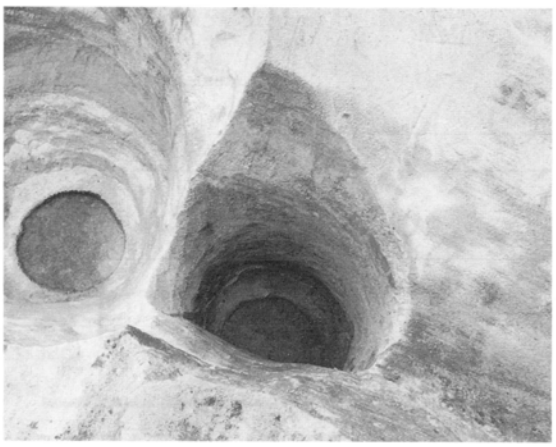
Fig. 10 井戸 SE 177～222 実測図（縮尺1/60）

井戸 SE 169（南から）

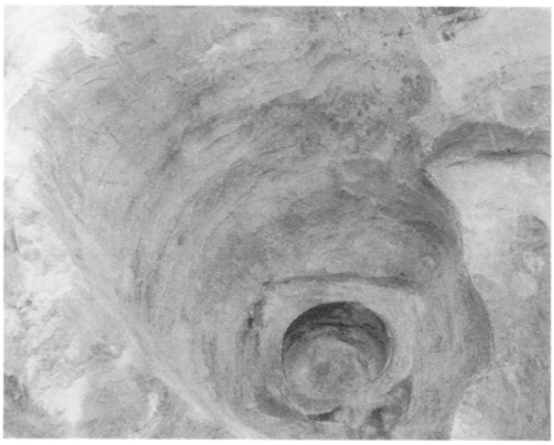
井戸 SE 177（東から）

井戸 SE 188（南から）

井戸 SE 188（南から）

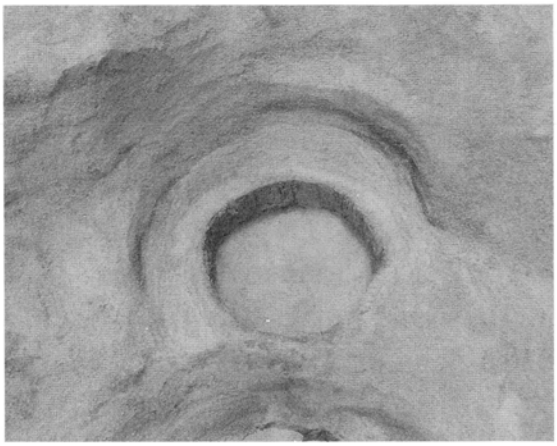


井戸 SE 199（南から）



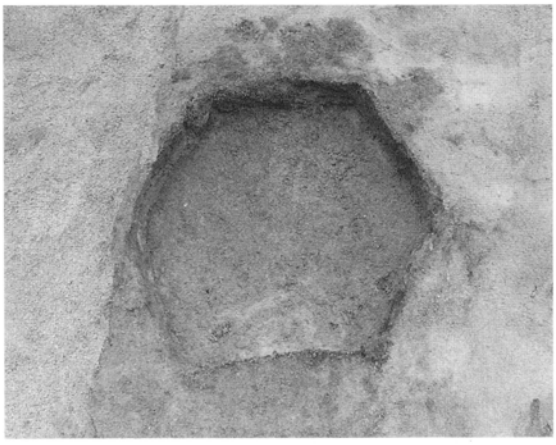
井戸 SE 207（西から）

井戸 SE 207（西から）



井戸 SE 220（北から）

井戸 SE 217（西から）



井戸 SE 217（西から）

井戸 SE 221・222（東から）

井戸 SE 222（西から）

瓦質土器の火舎片が出土した。**SE52 の出土遺物**は、4の糸切りの土師器皿、5の伊万里系の白磁皿、7の唐津焼の刷毛目白象嵌皿、8の鉄絵皿、9の唐津焼壺、6の高取焼摺鉢、10の三巴文の丸瓦が出土しており、17世紀の前半代と考えられる。**SE90 の出土遺物**は、11が明代の染付皿、12・13が初期伊万里の染付皿・碗、16が備前焼摺鉢、14・15は瓦質土器の摺鉢、17・18は瓦質土器の火舎、19・20は瓦質土器の湯釜、21～23・24は糸切り底の土師器皿・坏、25は須恵器坏、27は須恵器赤焼け土器である。26は須恵器鉢で、東海系と考えられる。28は土師器椀、29・31～34は白磁碗、35～39は青磁碗で、35・36・38・39は龍泉窯である。40は青磁蓋、30は青白磁碗、42は青白磁合子身、43・44は李朝陶器碗、45は唐津皿、67～73は瓦類で、67・68・71・72は丸瓦、69・70は平瓦、73は伏間瓦である。68～69の背部には斜格子目叩き、72の背部には縄目叩き、73の背部はタテ方向のヘラナデで、谷部には糸切り痕がある。**掘り方出土遺物**は、46が白磁碗、47が青磁碗、48が瓦質土器の摺鉢である。**井側内の出土遺物**は、49・50は土師器糸切り底の皿・坏、51・52・54は須恵器で、51は蓋、52は坏、54は甕で、外面にヘラ記号がある。53は白磁碗、55は青磁皿、56・57は明代の染付碗・坏、58は備前摺鉢、59・60は瓦質土器で、59は火舎、60は摺鉢である。61は中国陶器の壺、62・63は軒平瓦で、62は鴻臚館系の軒平瓦で、瓦当の文様は均整唐草文、63は菊花文を配している。64・66は平瓦で、背部に斜格子目の叩きがある。74は赤色凝灰岩製の硯、75は滑石製石鍋、76は小豆色凝灰岩製の下臼、77は凝灰岩製の石塔で、宝輪部分である。これらの遺物の時期は16世紀後半から17世紀初頭の時期であろう。**SE136 の出土遺物**は、78～80は土師器の糸切り皿、81は坏、82～90は白磁で、82・83は皿、84～90は碗である。91・92は平瓦で、背部に斜格子目の叩きがある。93～98は青磁で、93～95は龍泉窯、96～98は同安窯である。99・100は中国陶器壺・鉢、101は黄釉盤である。**SE155 の出土遺物**は、102～105・128～132・135～141が糸切り底の土師器皿・坏、111～119・143～153は中国白磁皿・碗、120～123・154～157は青磁碗、124は白磁壺、125～127・134・159～161は陶器、158は土師器鉢、162・164は須恵器甕、163は滑石製の石鍋である。190は丸瓦、192・193・194は平瓦で、192・193の背部には格子目叩きがある。194は縄目叩きである。**掘り方出土遺物**は、165～170は糸切り底の土師器皿・坏、171～173は中国白磁で、173は皿、171・172は碗である。174～176は青磁碗、177は東播系の須恵器鉢、178～181は中国陶器、191は丸瓦、195は平瓦で、191は背部に斜格子目の叩きがある。195の背部は縄目叩きである。**井側内の出土遺物**は、182～185が、土師器糸切り底の皿・坏、186は白磁皿、189は東播系の須恵器である。**SE156 の出土遺物**は、196～203が糸切り底の土師器皿・坏・丸底坏、204は黒色土器Bの椀、205～211が中国白磁皿・碗で、211は口ハゲの皿である。212は青磁皿、213は背部が格子目叩きの平瓦、214は縄目叩きの平瓦である。**SE158 の出土遺物**は、215～217がヘラ切り底の土師器皿・丸底坏、218～220が白磁碗、221が格子目叩きの平瓦である。**SE159 の出土遺物**は222～224が土師器糸切り底の坏、225・226は瓦器椀、227～232は白磁碗、233は陶器壺、234は青磁碗、275は斜格子目叩きの平瓦である。**掘り方の出土遺物**は、

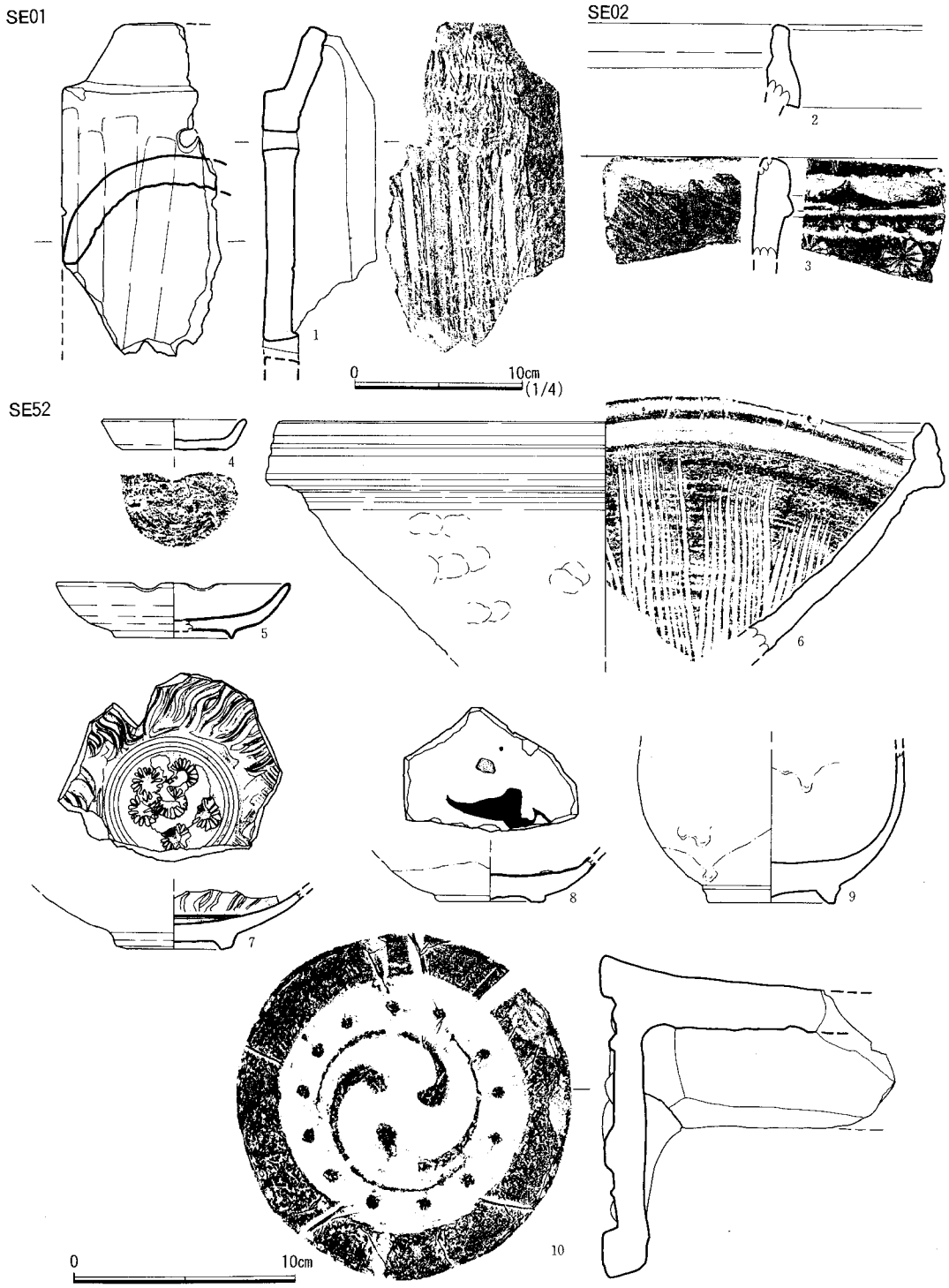


Fig. 11 井戸 SE 01・02・52 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

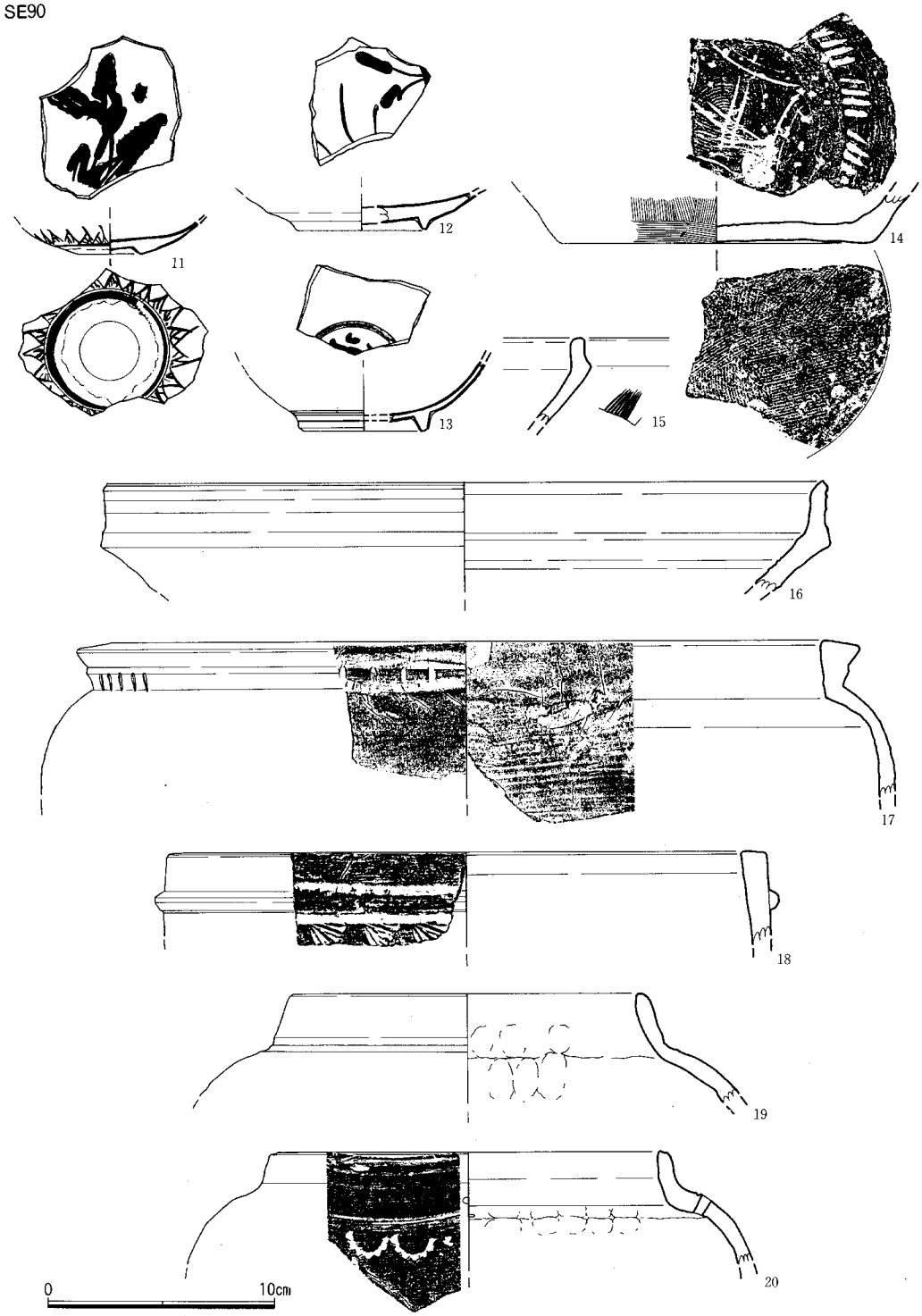


Fig. 12 井戸 SE 90 出土遺物実測図①（縮尺 1/3）

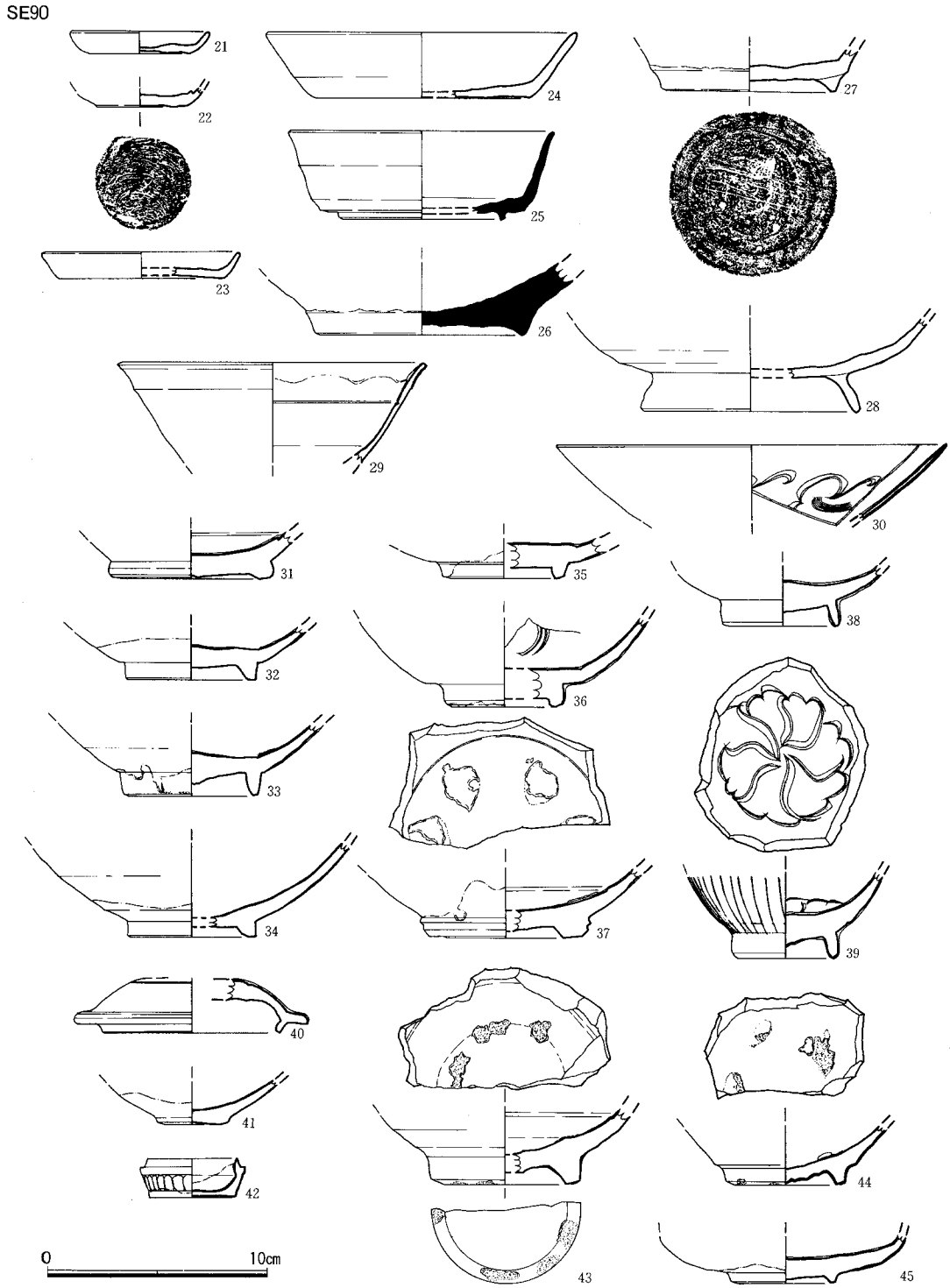


Fig. 13 井戸 SE 90出土遺物実測図②（縮尺 1/3）

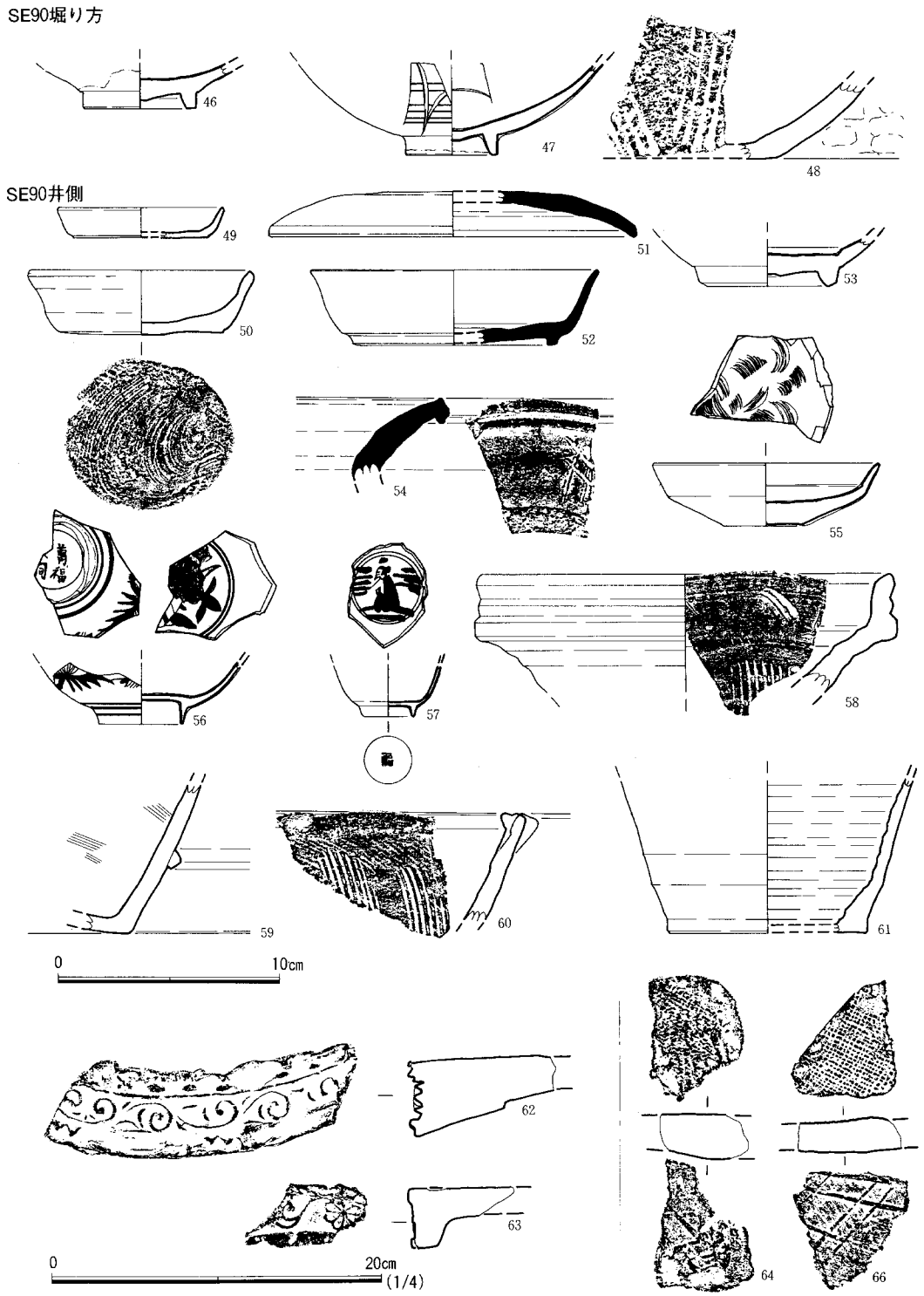


Fig. 14 井戸 SE 90掘り方・井側内出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

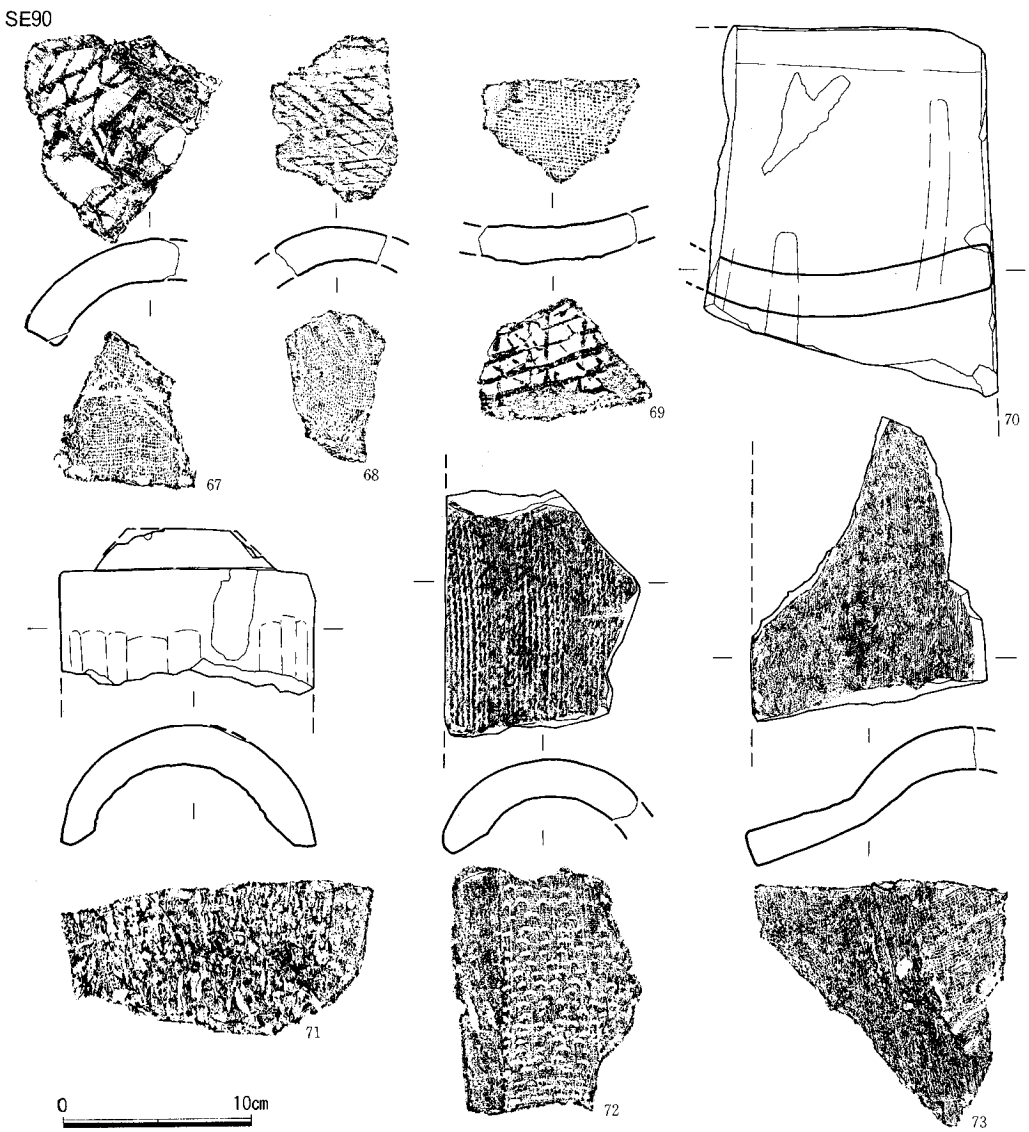


Fig. 15 井戸 SE 90出土瓦類実測図（縮尺 1/4）

236が糸切り底の土師器坏、237～240は白磁碗である。**井側内の出土遺物**は、241～243は糸切り底の土師器皿、244～247は白磁碗である。**SE163 の出土遺物**は、248～251は糸切り底の土師器皿・坏、252・253は須恵器で、252は坏、253は皿である。、254・256は白磁碗・皿、255・257は青磁碗・皿、258は陶器壺、259は陶器盤である。**井側内の出土遺物**は、260～262が糸切り底の土師器皿・坏、263・264は黒色土器の椀、265は白磁碗、266・267は背部が斜格子目叩きの平瓦、268・269は背部が縄目叩きの平瓦と丸瓦である。**SE165 の出土遺物**は、270～273は須恵器の坏

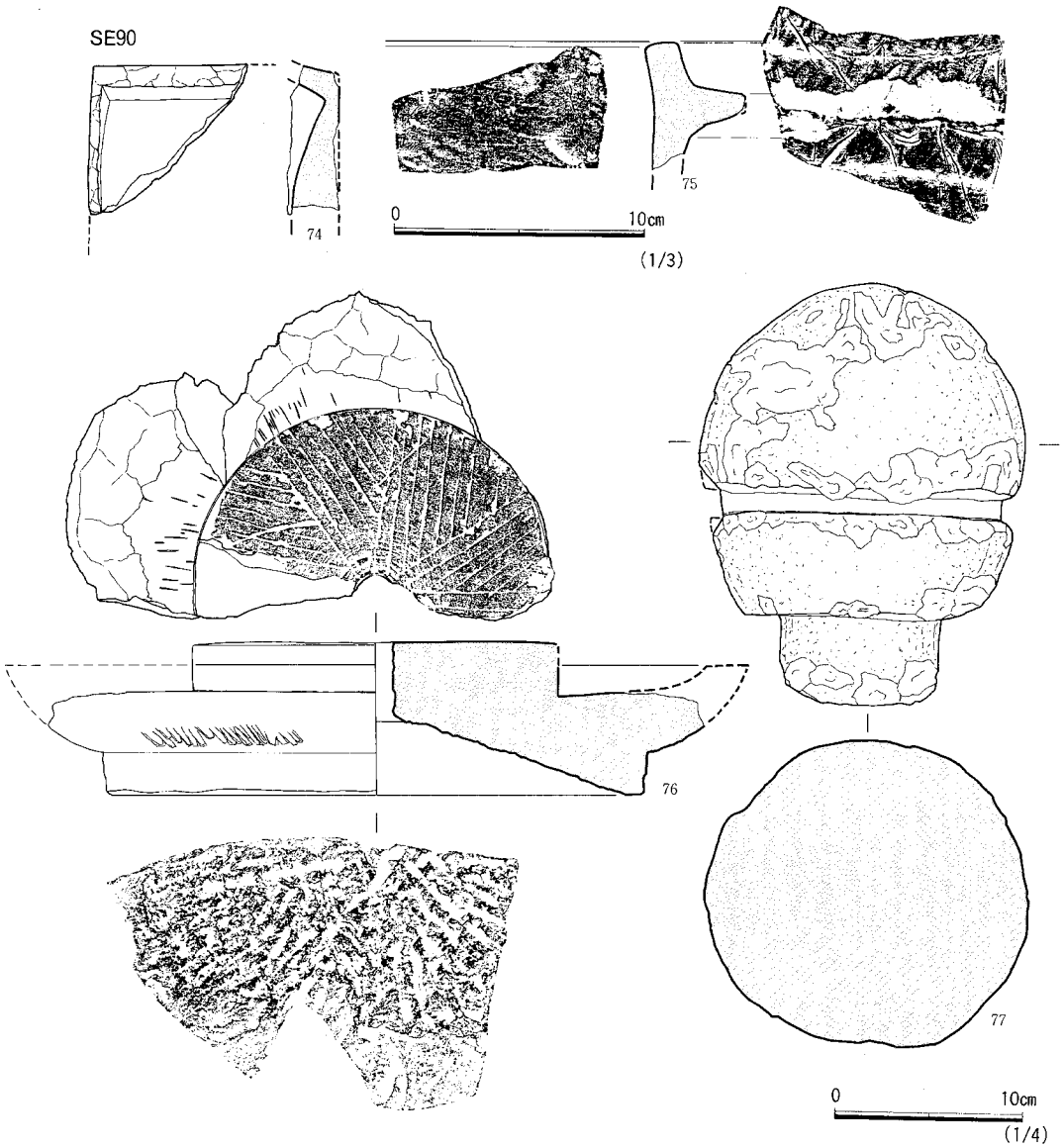


Fig. 16 井戸 SE 90 出土石製品実測図（縮尺 1/3・1/4）

蓋、274～282は坏、283は皿、284～286は壺で、285・286は同一個体の可能性がある。289・290は甕である。287・288は土師器で、287は甕、288は甑の把手である。291は滑石製の紡錘車である。**井側内の出土遺物**は、292が土師器甕、293は須恵器赤焼け土器の皿、294は背部が格子目叩きの平瓦である。**SE169 の出土遺物**には、295が白磁碗、296は白磁の蓋、297は瓦質土器の捏鉢がある。**SE188 の出土遺物**は、298・299が土師器糸切り底の皿・坏、300～302は白磁皿、306～

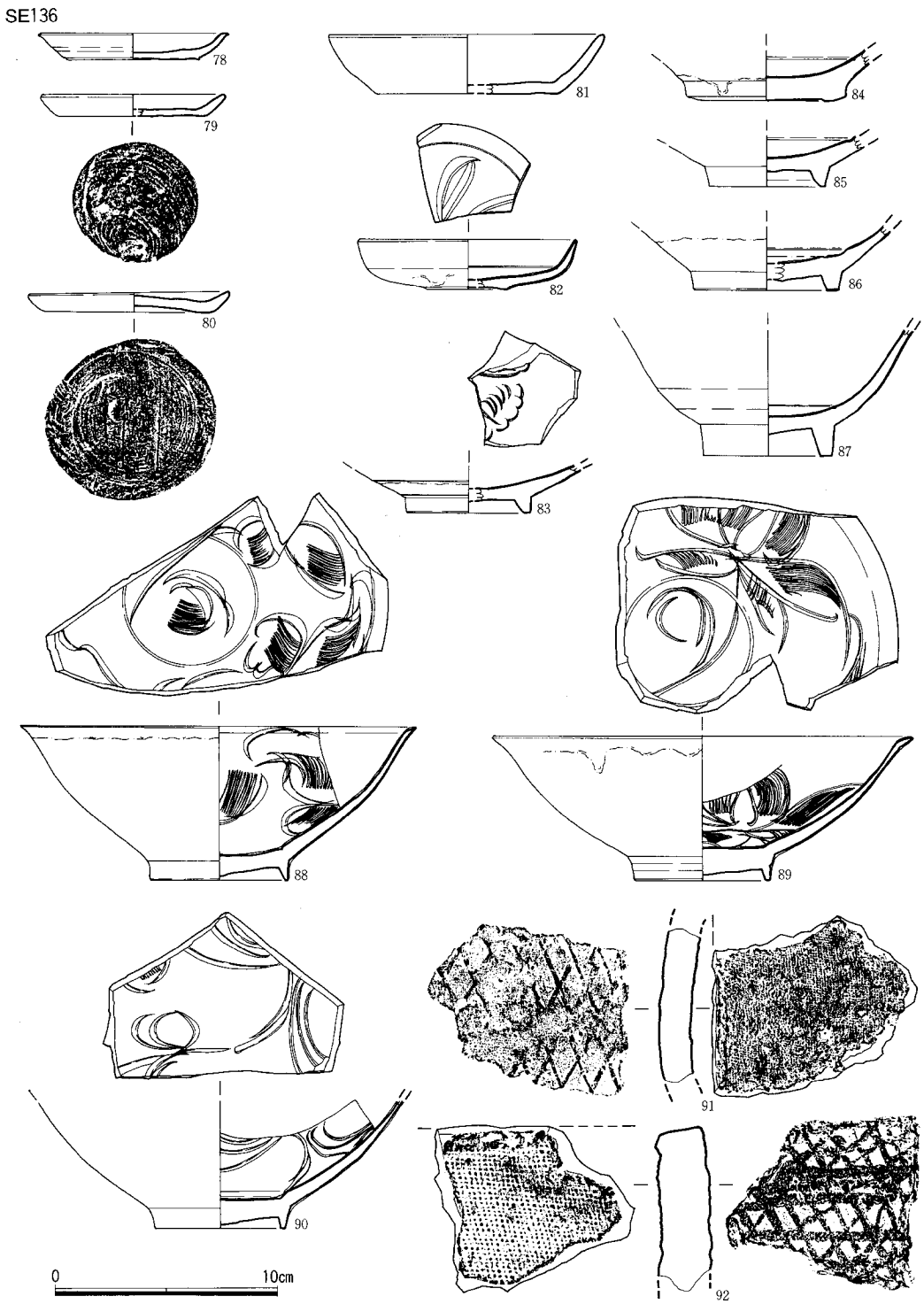


Fig. 17 井戸 SE 136 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

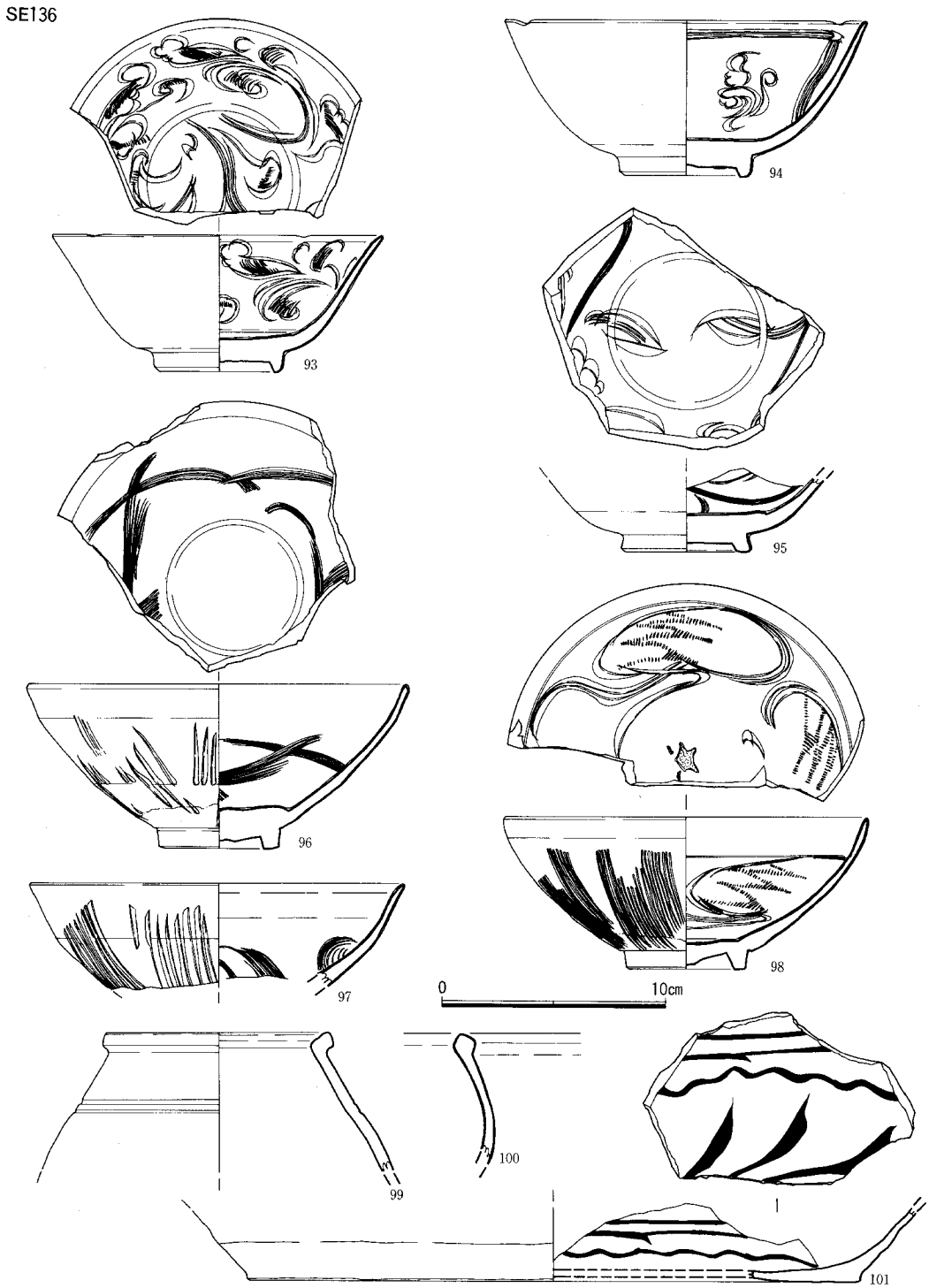


Fig. 18 井戸 SE 136 井側内出土遺物実測図（縮尺 1/3）

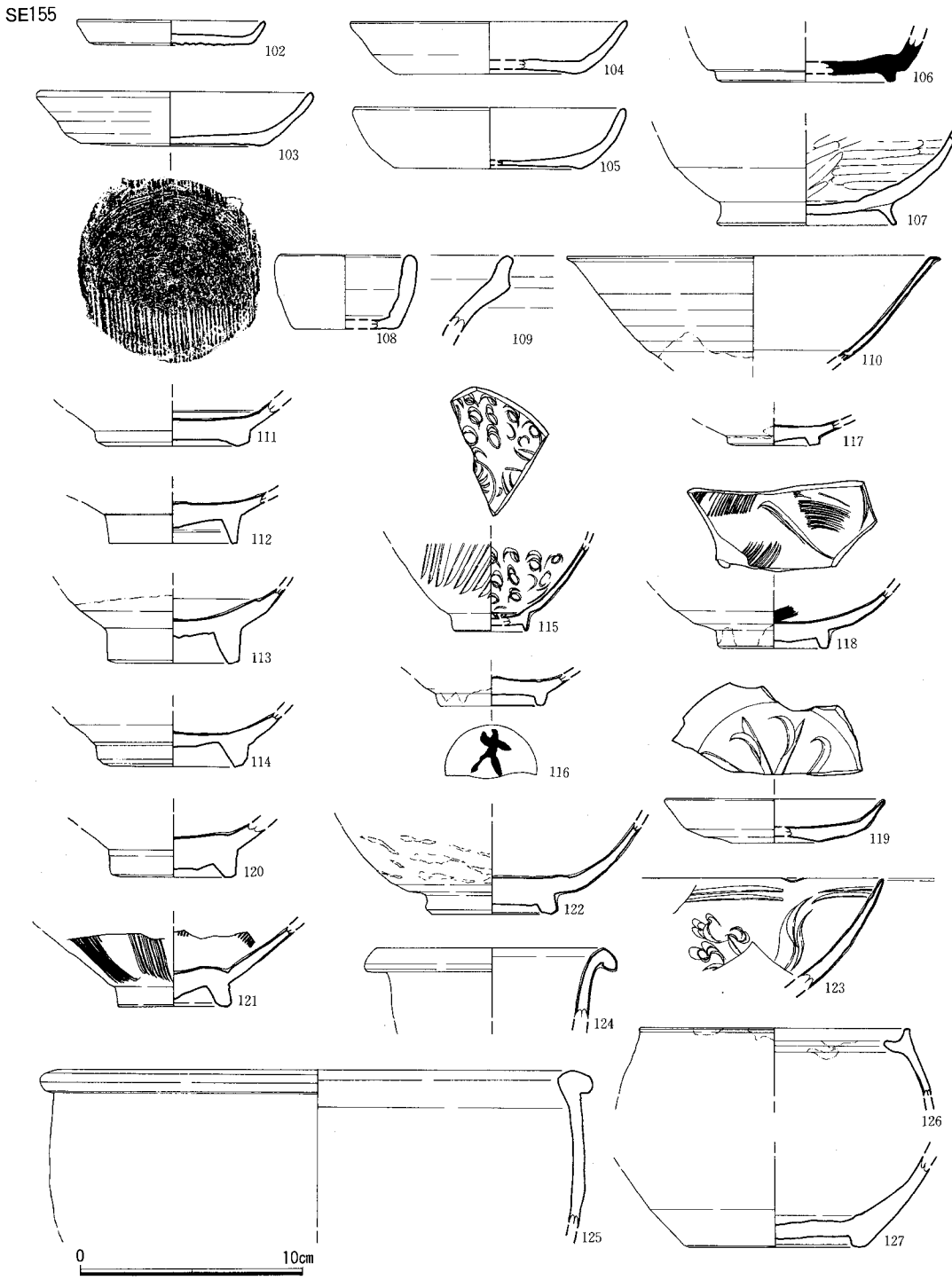


Fig. 19 井戸 SE 155 出土遺物実測図①（縮尺 1/3）

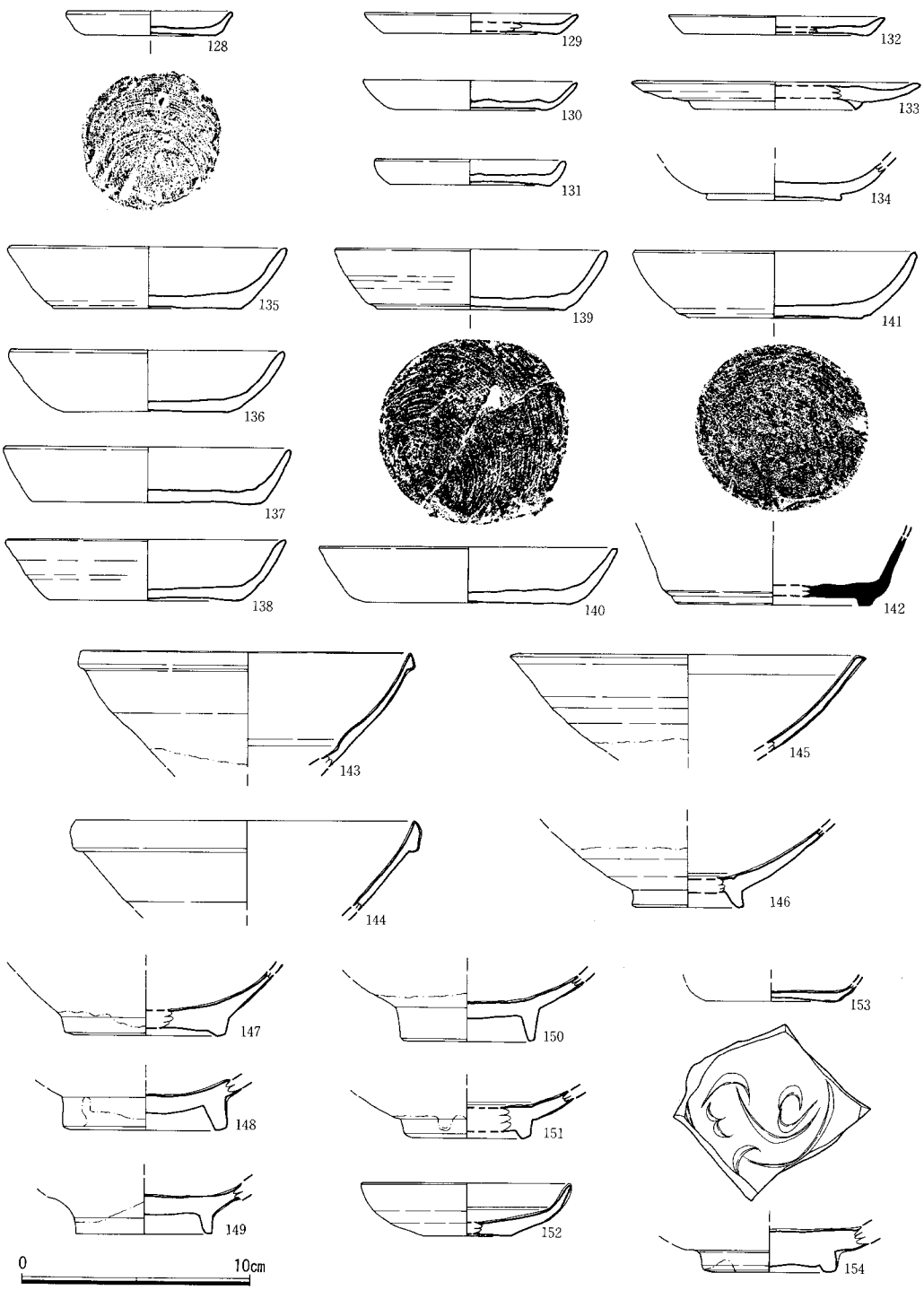


Fig. 20 井戸 SE 155 出土遺物実測図②（縮尺 1/3）

SE155

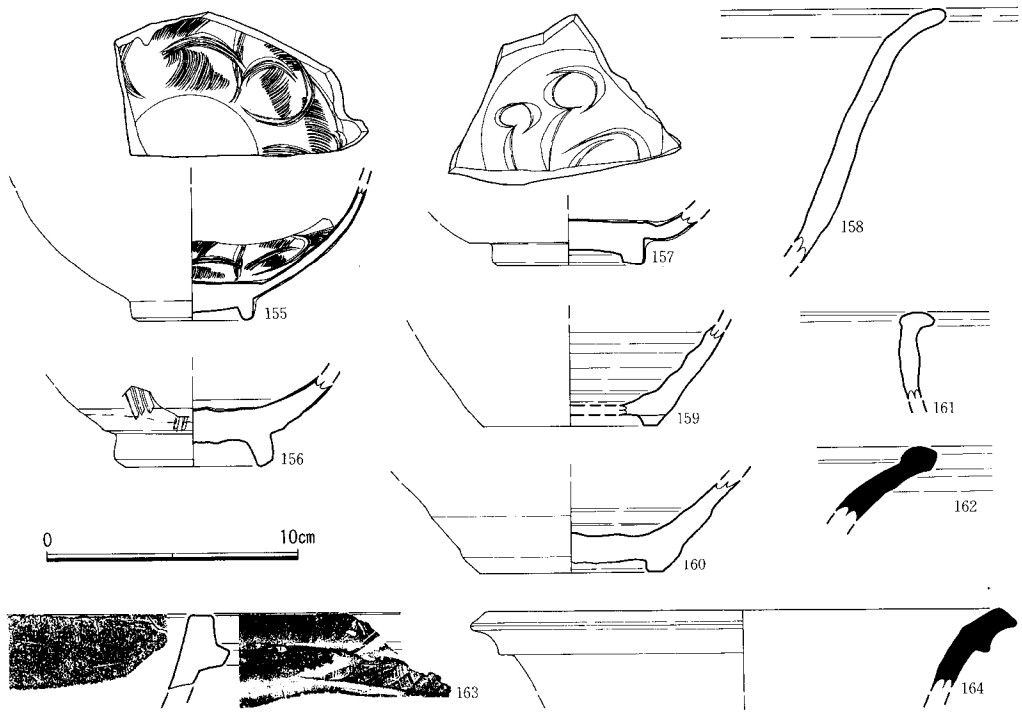


Fig. 21　井戸 SE 155 出土遺物実測図③（縮尺 1/3）

308は白磁碗、303は瓦器椀、304・305は龍泉窯青磁碗・皿である。309は中国陶器盤、310は陶器捏鉢である。**掘り方の出土遺物**は、311が魚住窯系の甕、312は背部が縄目叩きの平瓦である。**井側内の出土遺物**は、313が白磁壺で、底部に花押状の墨書がある。314は龍泉窯系青磁小碗、315・316は同安窯系の青磁碗である。317は中国陶器壺、318・319は陶器甕である。**SE199 の出土遺物**は、320・321共に瓦器椀である。**SE205 の出土遺物**は、322がヘラ切り底の土師器坏、323は真黒色を呈する瓦器椀で、畿内系土器である。324・325は白磁皿、326は白磁碗、329は白磁合子身、327は中国緑釉陶器の蓋、330は背部が縄目叩きの平瓦、331は黄釉盤である。**SE206 の出土遺物**は、332が糸切り底の土師器坏で、内底に累線状のヘラ描き文がある。333は瓦器椀、334・335は青磁碗、336・337・338は白磁碗・皿で、337は円形状に周辺を打ち欠いてメンコ状に成形する。**SE207 の出土遺物**は、339が土師器椀、340が白磁碗、341は谷部が布目の平瓦である。**SE217 の出土遺物**は、342が同安窯系青磁碗、343が須恵器坏である。**SE218 の出土遺物**は、344が白磁皿、345が青磁皿、347・348は白磁碗、349は白磁碗壺、346は土師器椀である。**SE221 の出土遺物**は、350がヘラ切り底の土師器皿、351・352が白磁皿、353・354が白磁碗である。354の外底には墨書がある。355は瓦塼、356は、背部が斜格子目叩きの丸瓦である。**SE222 の出土遺**

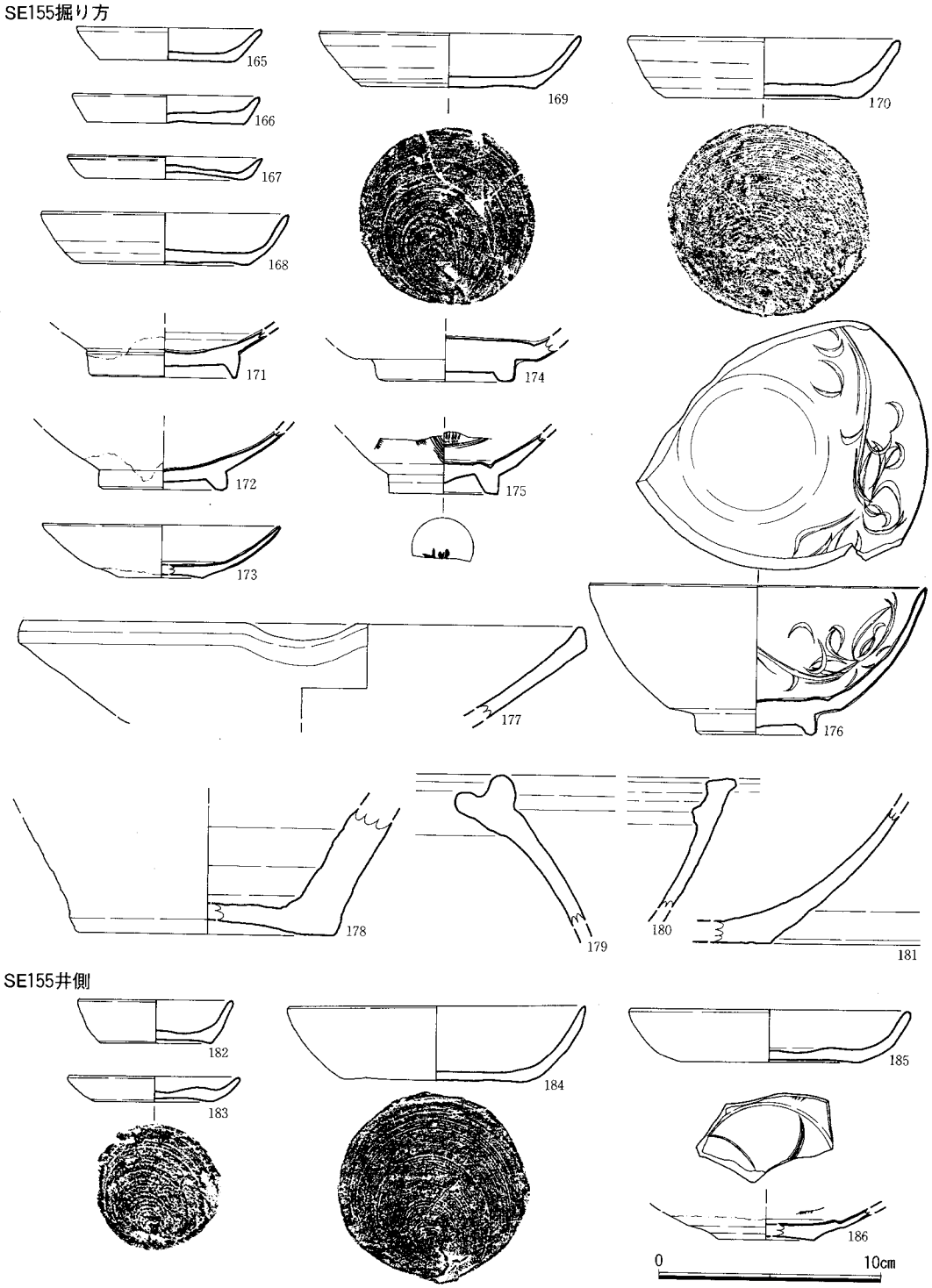


Fig. 22 井戸 SE 155 出土遺物実測図④（縮尺 1/3）

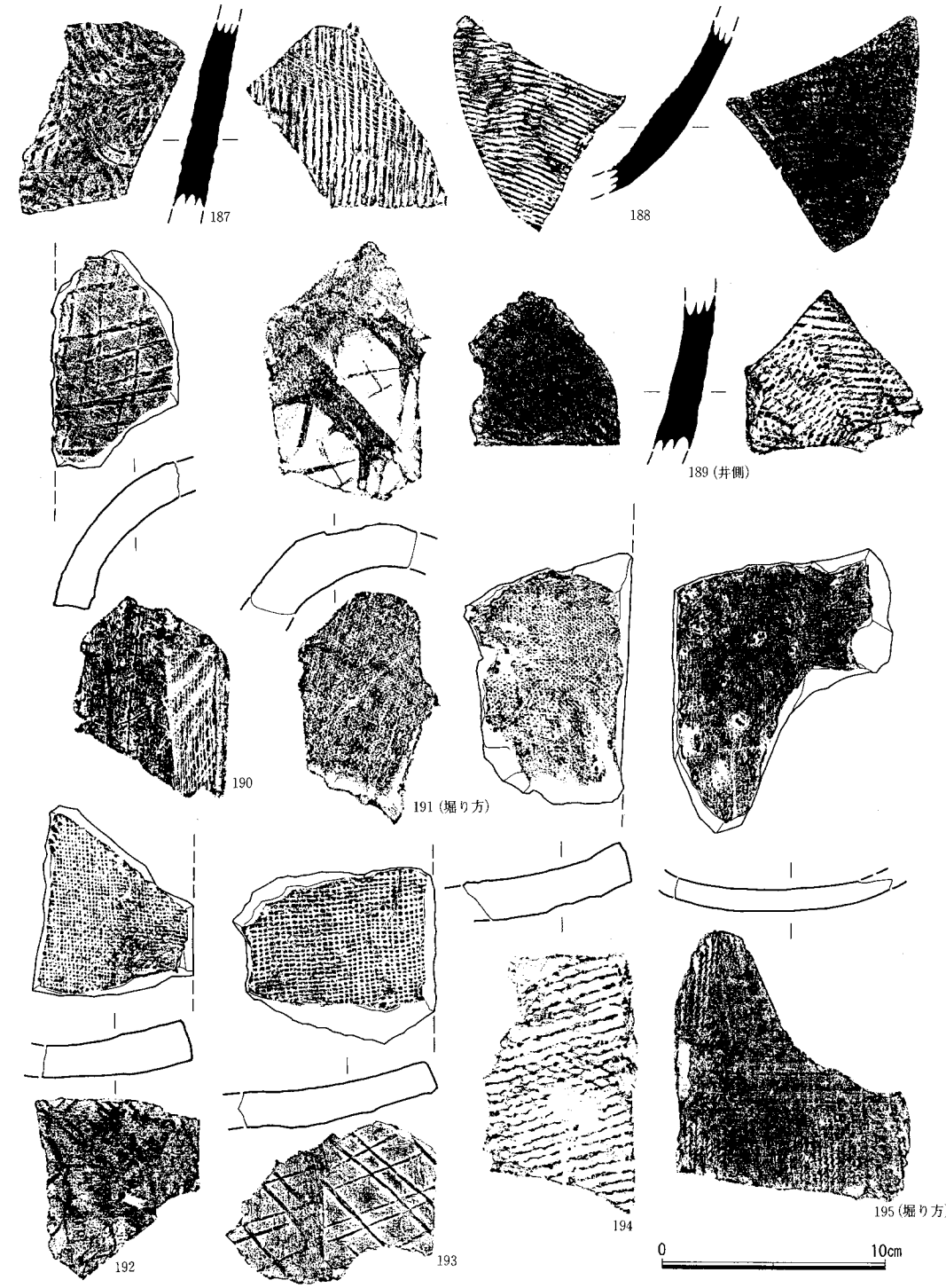


Fig. 23 井戸 SE 155 出土遺物実測図⑤（縮尺 1/3）

物は、357がヘラ切り底の土師器皿、358～360は白磁碗で、360の内面には櫛描文を施す。361は龍泉窯系青磁皿で、内底にはヘラ片彫りと櫛摺きの花文がある。362は陶器甕、363は縄目叩きの平瓦である。

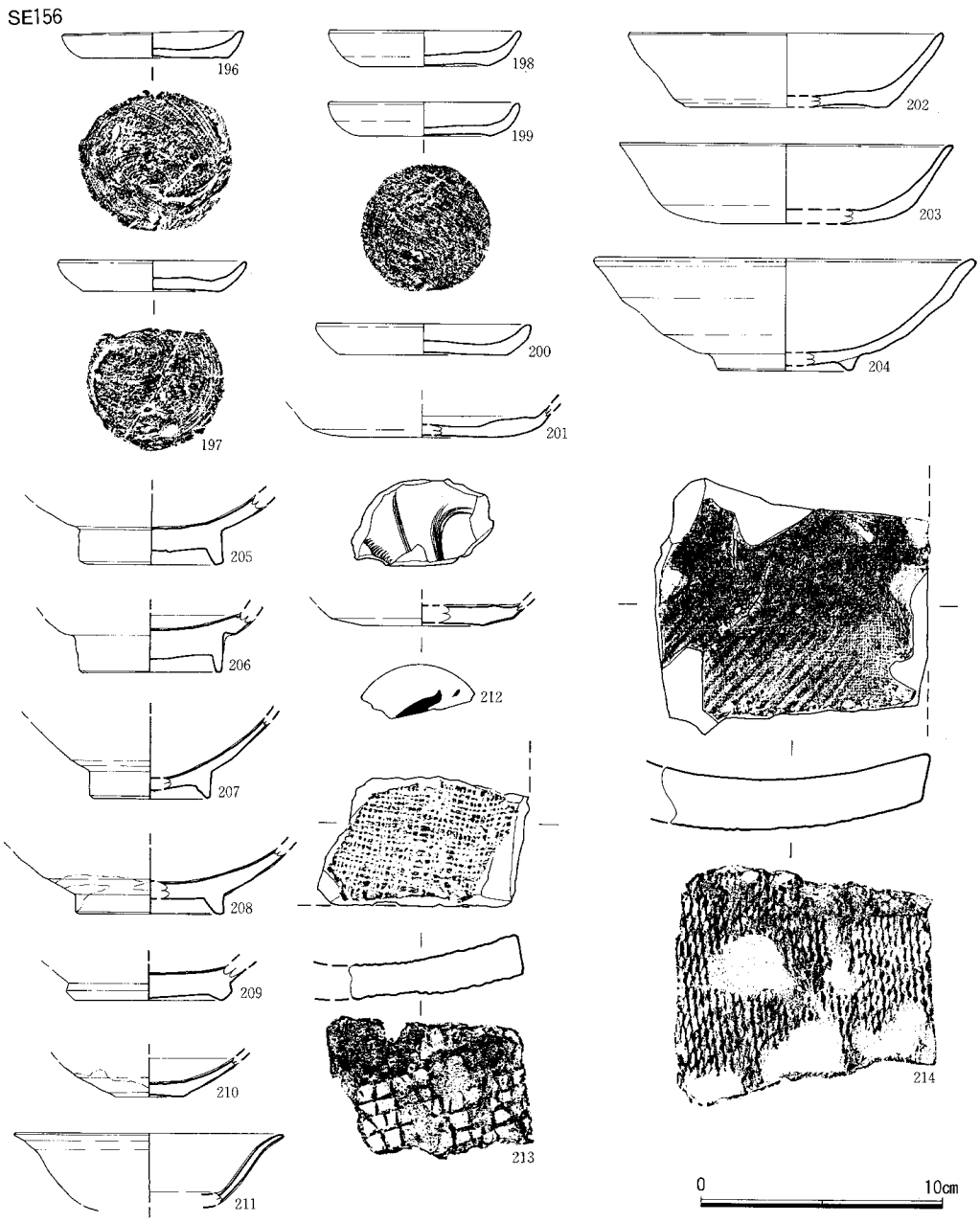


Fig. 24 井戸 SE 156 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

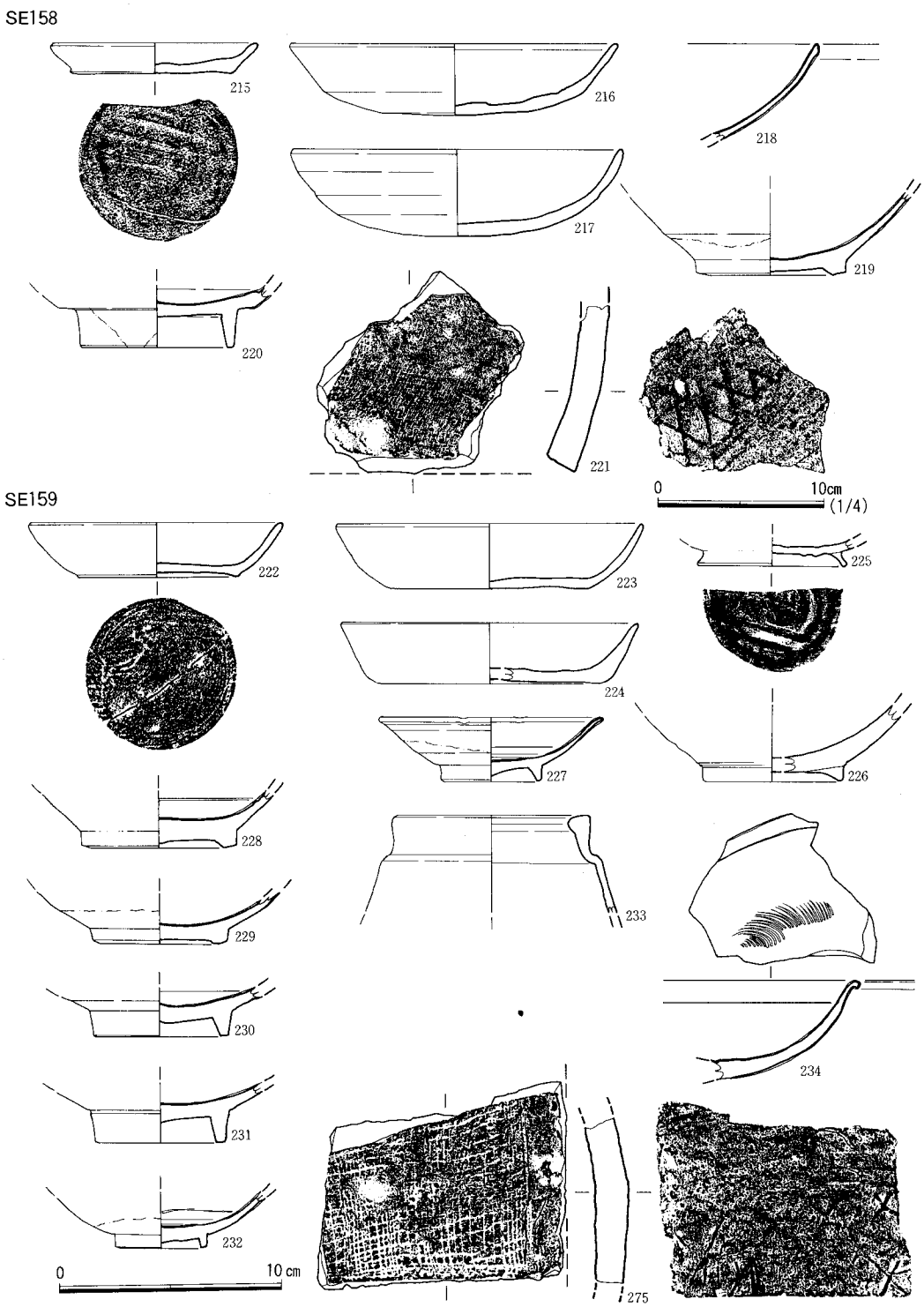


Fig. 25 井戸 SE 158・159 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

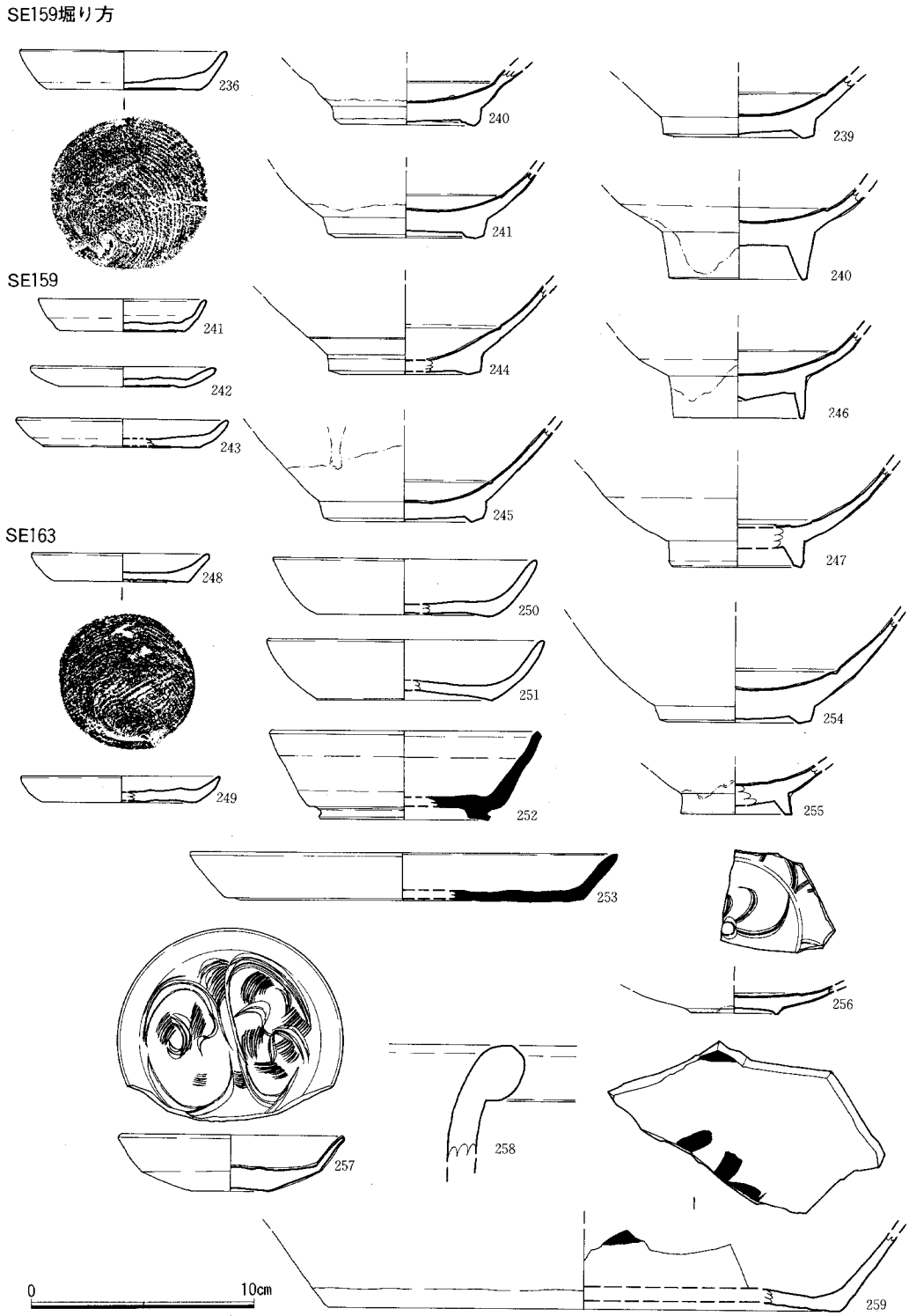


Fig. 26 井戸 SE 159・163 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

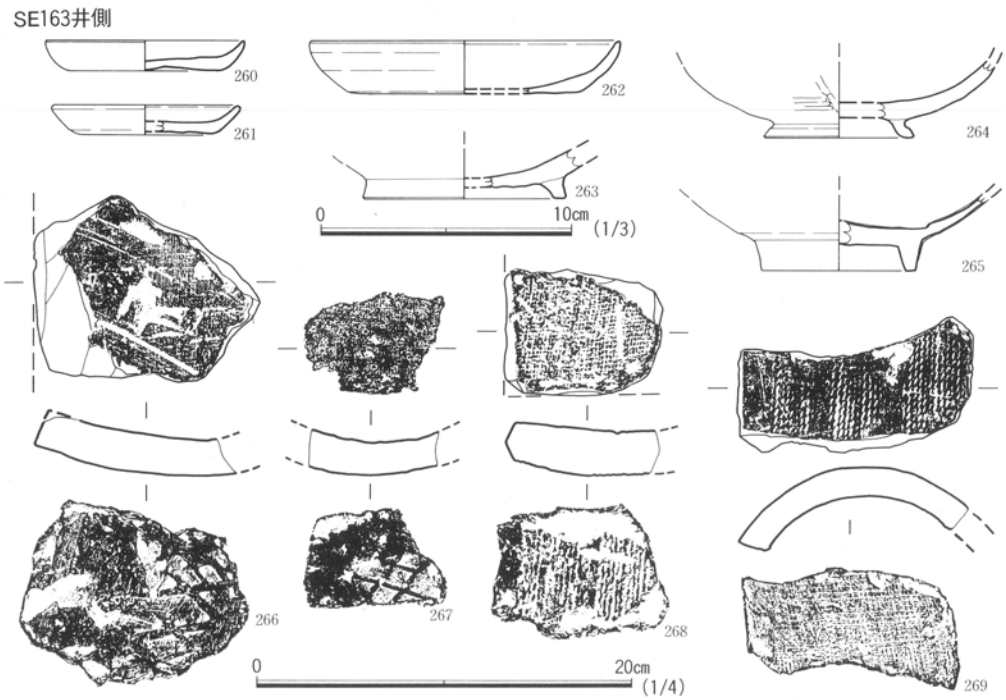
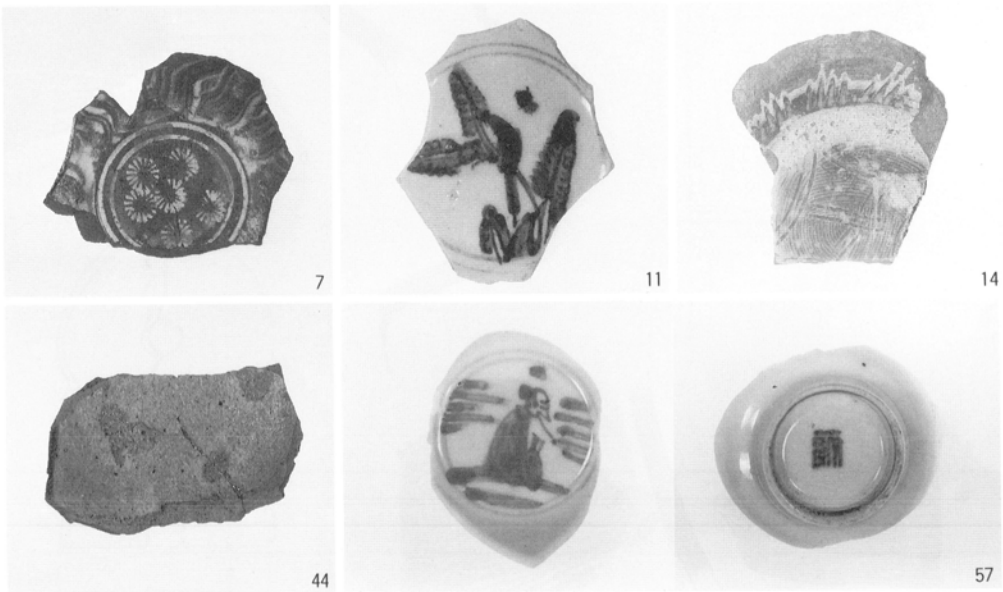


Fig. 27　井戸 SE 163 井側内出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）



井戸（SE）出土遺物

※数字は実測図の番号に一致する

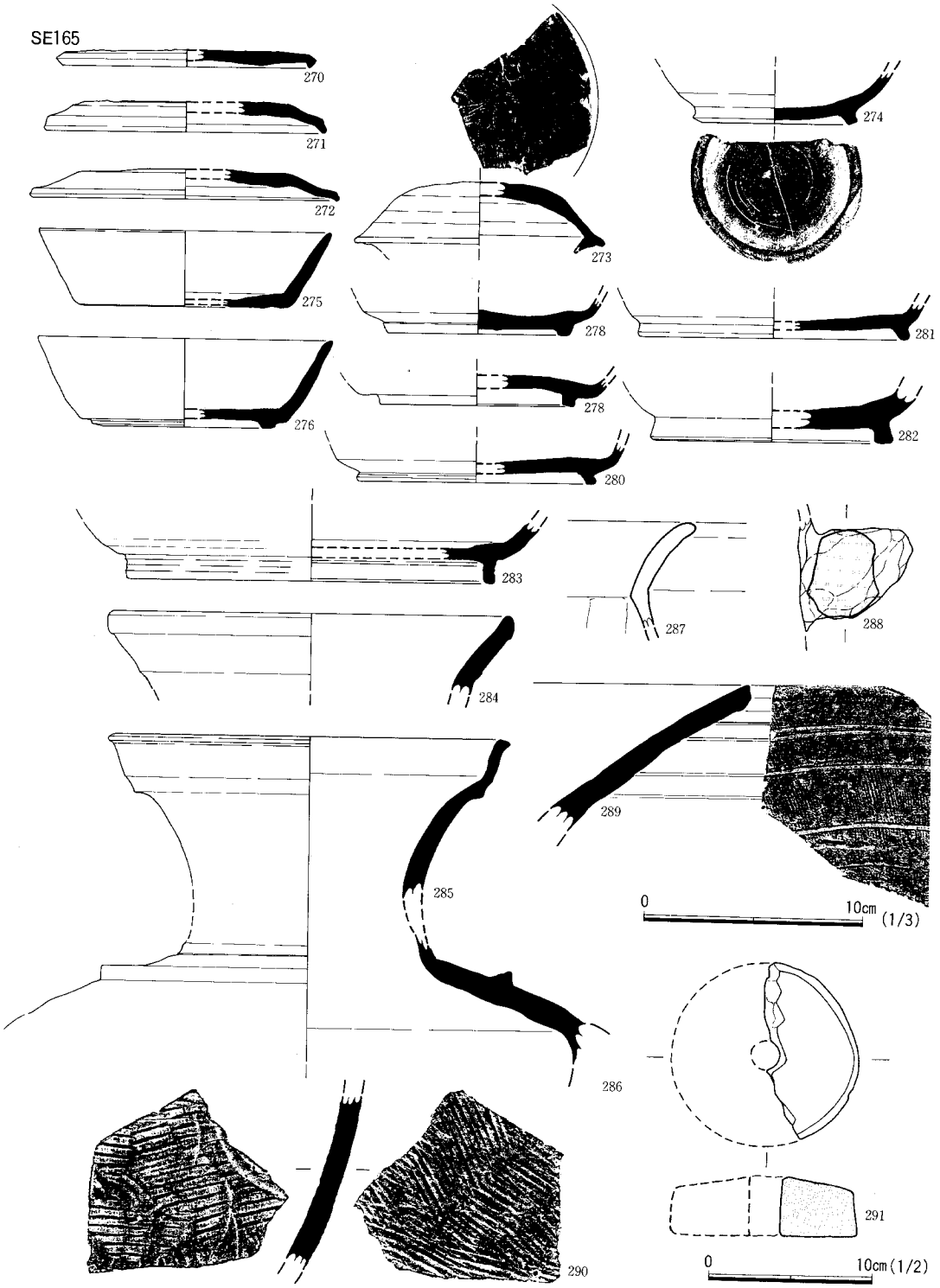


Fig. 28 井戸 SE 165 掘り方出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）

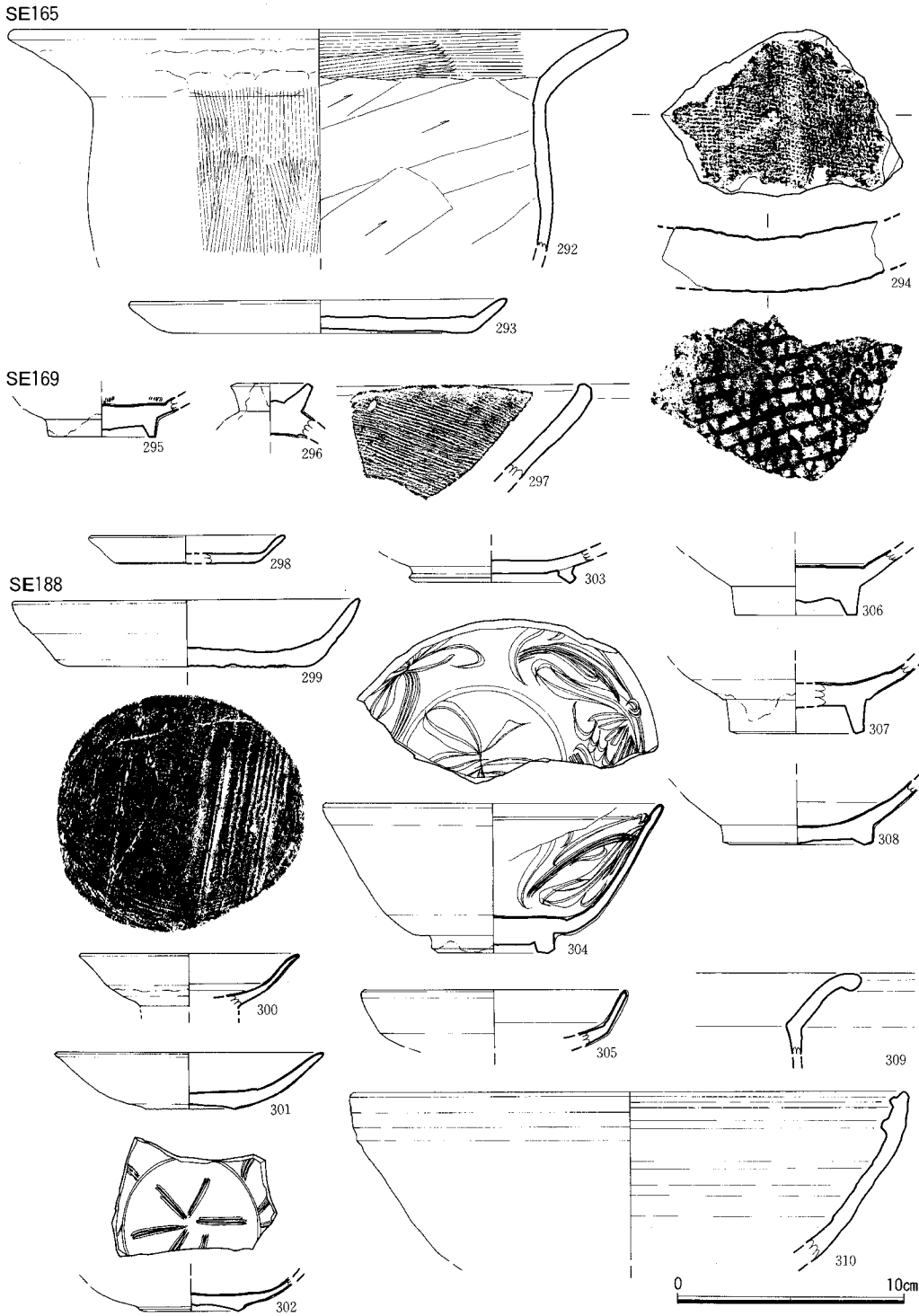


Fig. 29　井戸 SE 165・169・188 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

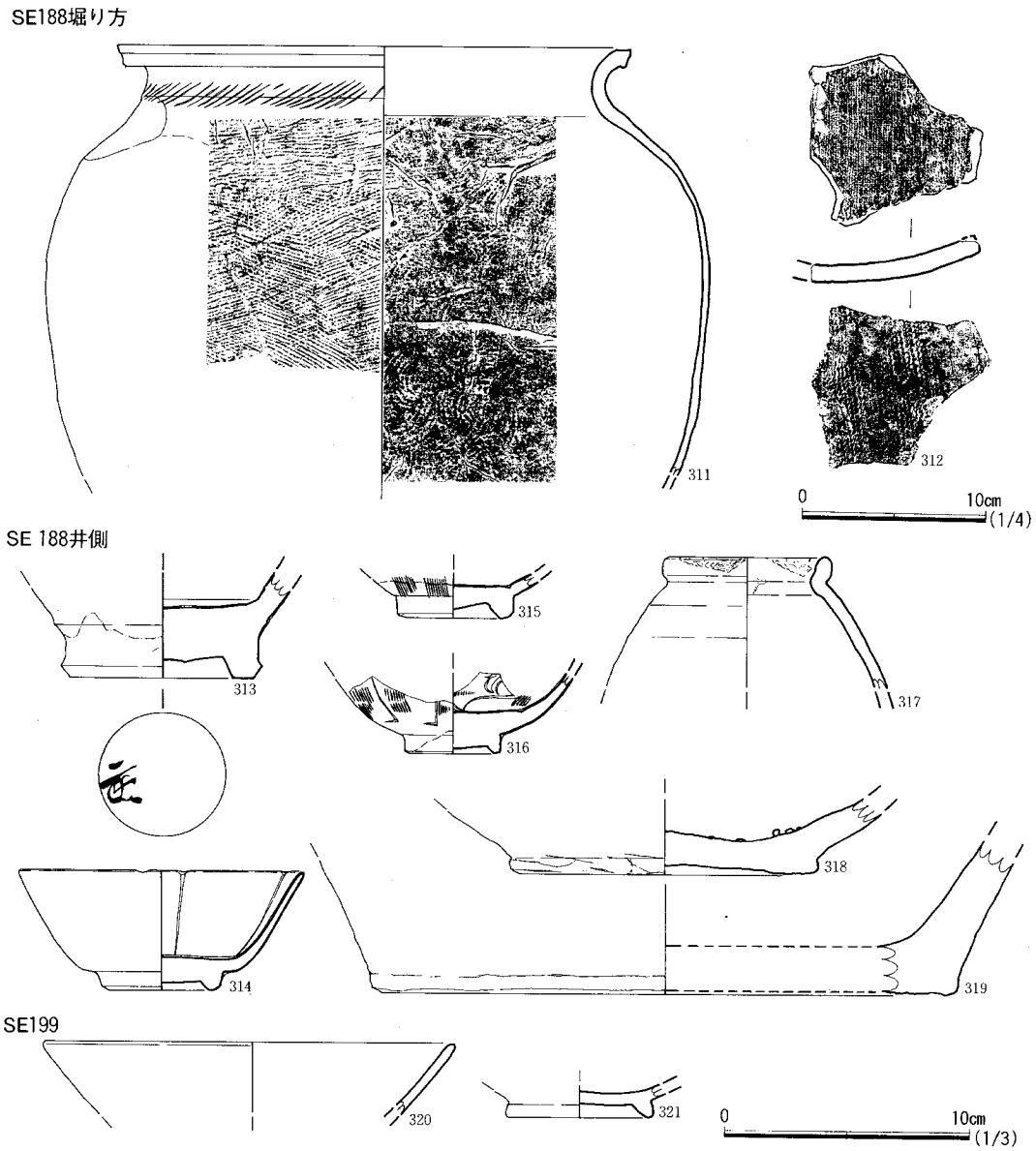


Fig. 30 井戸 SE 188・199 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

その他には各井戸から土製品・石製品が出土している。364・365・368・372は SE155、366・367・370・371・374・375は SE90、373は SE188 出土である。364～372は管状の土錘である。373は石錘、374は石製の玉、375は瓦転用の玉である。

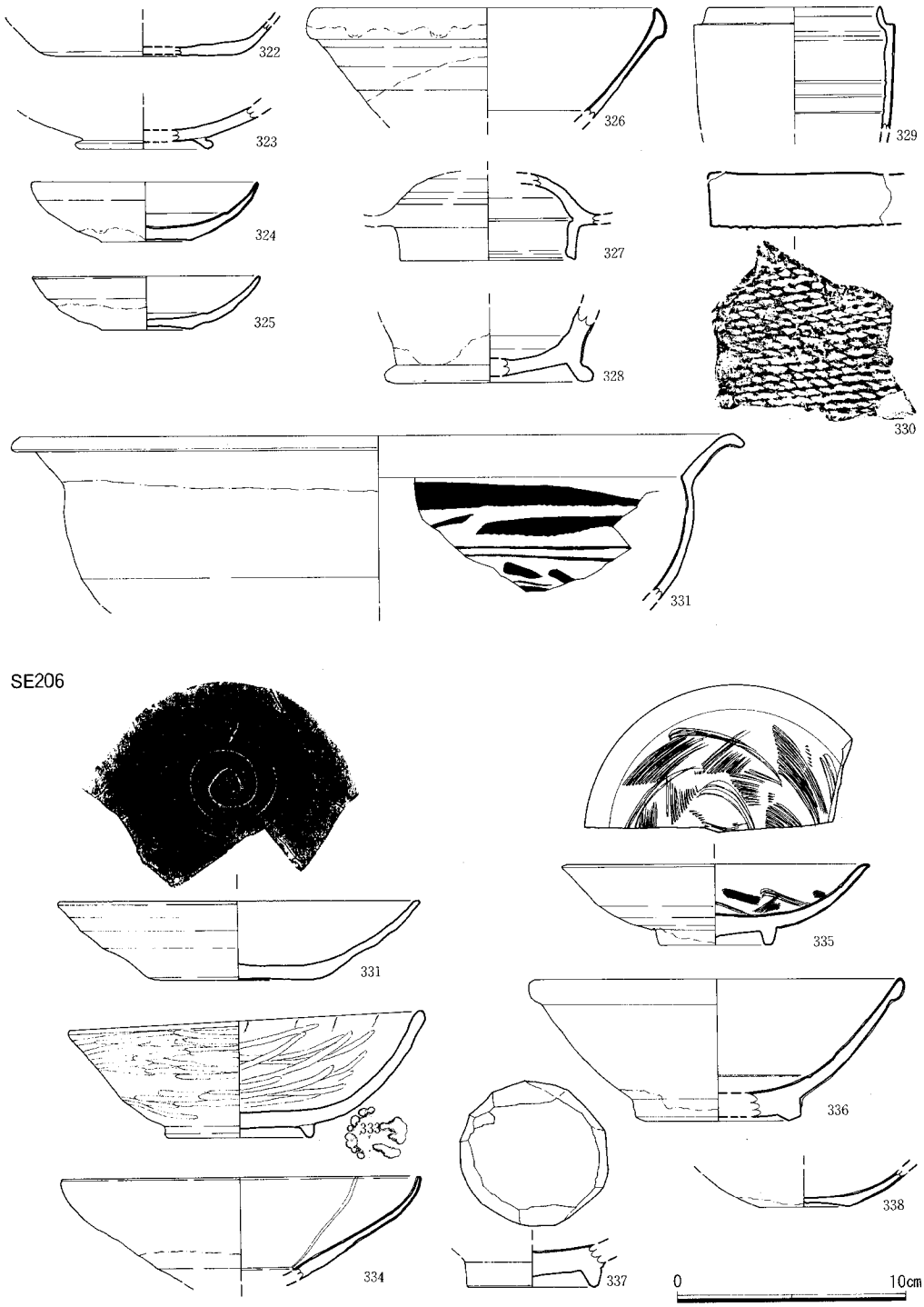


Fig. 31 井戸 SE 205・206 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

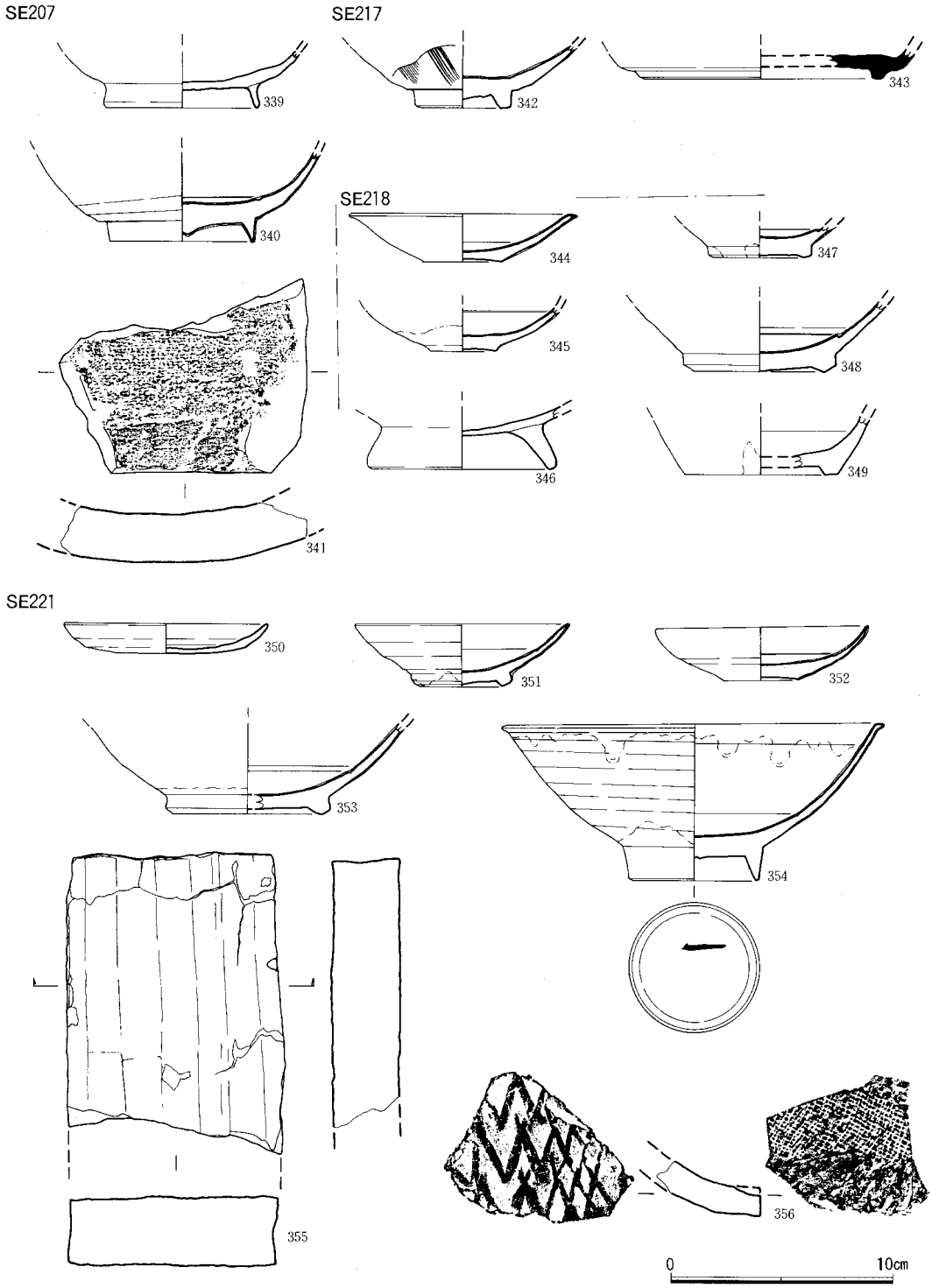


Fig. 32 井戸 SE 207・217・218・221出土遺物実測図（縮尺 1/3）

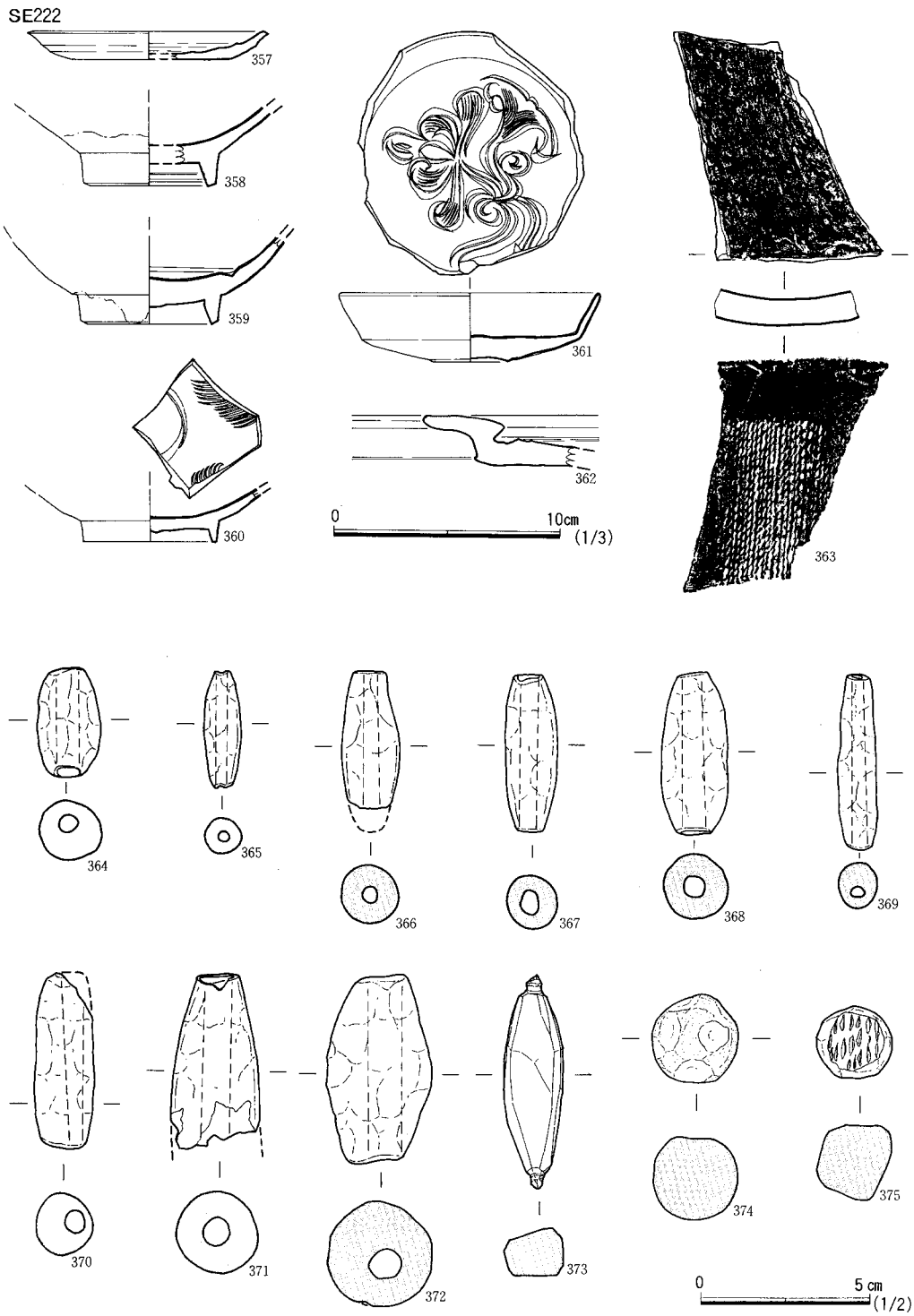
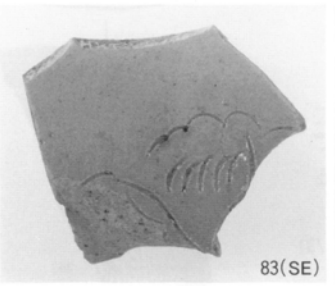


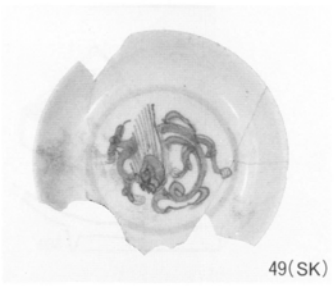
Fig. 33 井戸 SE 222 出土遺物、及び各井戸出土の土製品、石製品実測図（縮尺 1/2・1/3）

76(SE)

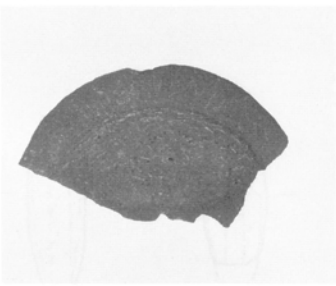
77(SE)

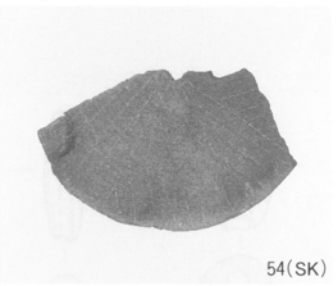

83(SE)

311(SE)


49(SK)

2(SK)




54(SK)

352(SK)

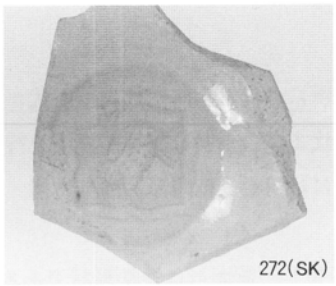
351(SK)

41(SK)

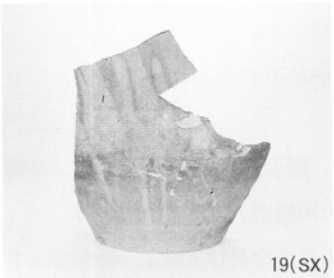
413(SK)

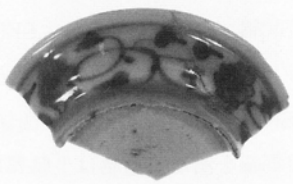
第７0次調査出土遺物①

※数字は実測図の番号に一致する

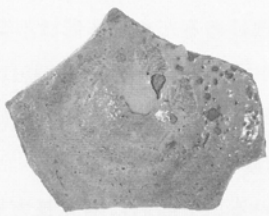

272(SK)

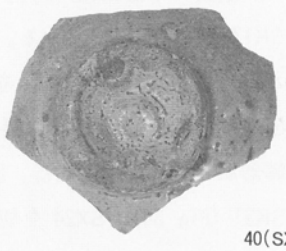
16(SX)


19(SX)

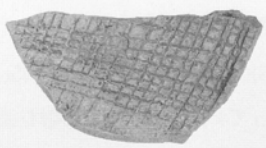

11(SX)

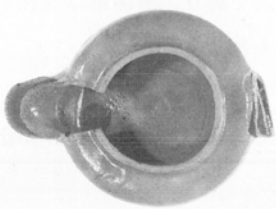
16(SX)

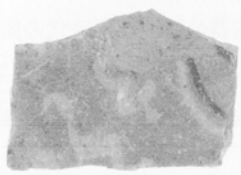



40(SX)

13(SX)


14(第1面包含層)


9(SX)


30(SX)

57(第1面遺構面)

第70次調査出土遺物②

※数字は実測図の番号に一致する

(3) 土　壙(Fig. 34～36)

貯蔵用土壙、ゴミの廃棄土壙を含めて、土壙の総数は約55ヶ所にのぼる。時期は古墳時代から江戸時代の幅をもっているため、ここでは古墳時代から室町時代までの土壙に限って説明を行う。

土壙の形状・規模は多種あって、一定の規格性は無い。形状には円形・楕円形・隅丸方形・不整形がある。

SK04　トレンチと SP38 に切られている。平面形は不整円形を呈し、断面形は逆梯形状である。遺物は中国青磁の他、江戸時代の陶磁器、丸瓦等が多く出土している。

SK08　SE01 に切られ、SK62 とは重複関係にあるため、平面形は不明である。遺物は糸切り底の土師器皿、瓦質土器、国産陶器、江戸時代の瓦等が出土した。

SK12　SX11 と切り合い関係にある。平面形は不整円形を呈し、断面形は逆梯形である。長径165cmを測る。遺物は土師器皿・坏、中国陶器の他、江戸時代の陶磁器、瓦類が出土した。

SK15　東側境界地にある。隅丸長方形状を呈し、浅い土壙である。全長は306cm、深さ32cmを測る。遺物の中心は江戸時代で、国産陶磁器、瓦、土師器等が出土した。

SK17　西北隅に位置する。境界地にあるため全体形は不明だが、平面形は隅丸長方形が考えられる。長さ163cmを測る。遺物は中国陶磁器の他、江戸時代の陶磁器、瓦類が出土した。

SK19　SK38 と切り合い関係にある。平面形が楕円形の土壙で、長さ94cmを測る。遺物には土師器皿・坏、中国陶磁器、国産陶器が出土している。

SK21 (Fig. 34)　SX24 を切っている。平面形は隅丸長方形と考えられる。最大長255cm、深さ58cmを測る。遺物は国産陶磁器の他、瓦類、寛永通寶等も出土している。

SK26 (Fig. 34)　北側を攪乱壙に切られている。平面形は隅丸長方形を呈し、全長207cmを測る。覆土は灰黒色を主体としている。糸切り底の土師器皿・坏が出土した。

SK31 (Fig. 34)　全長105cmを測り、平面形は楕円形を呈し、断面形は舟底状で、2段掘りになっている。遺物は糸切り底の土師器皿・坏が多く出土した。

SK33　SK36 に切られる。平面形は不整円形と考えられる。最大径120cm、深さ24cmを測る。土師器皿・坏の他、中国陶磁器、鉄製品が出土している。

SK34　SK36 を切っている。平面形は不整形である。最大長217cmを測り、断面形は逆梯形である。遺物は土師器皿・坏、中国陶磁器の他、江戸時代の陶磁器等も出土した。

SK43 (Fig. 34)　径134cmを測り、平面形は不整円形である。掘り方は2段になっており、内底は長径35cmを測る。糸切り底の土師器皿、李朝陶器、土鈴の他、「櫛田宮」銘の軒平瓦が出土している。

SK62 (Fig. 34)　トレンチと井戸 SE01 から切られる。平面形は隅丸長方形を、断面形は逆梯形を呈し、全長162cmを測る。糸切り底の土師器皿、及び捏鉢が出土している。SK08 と重複して

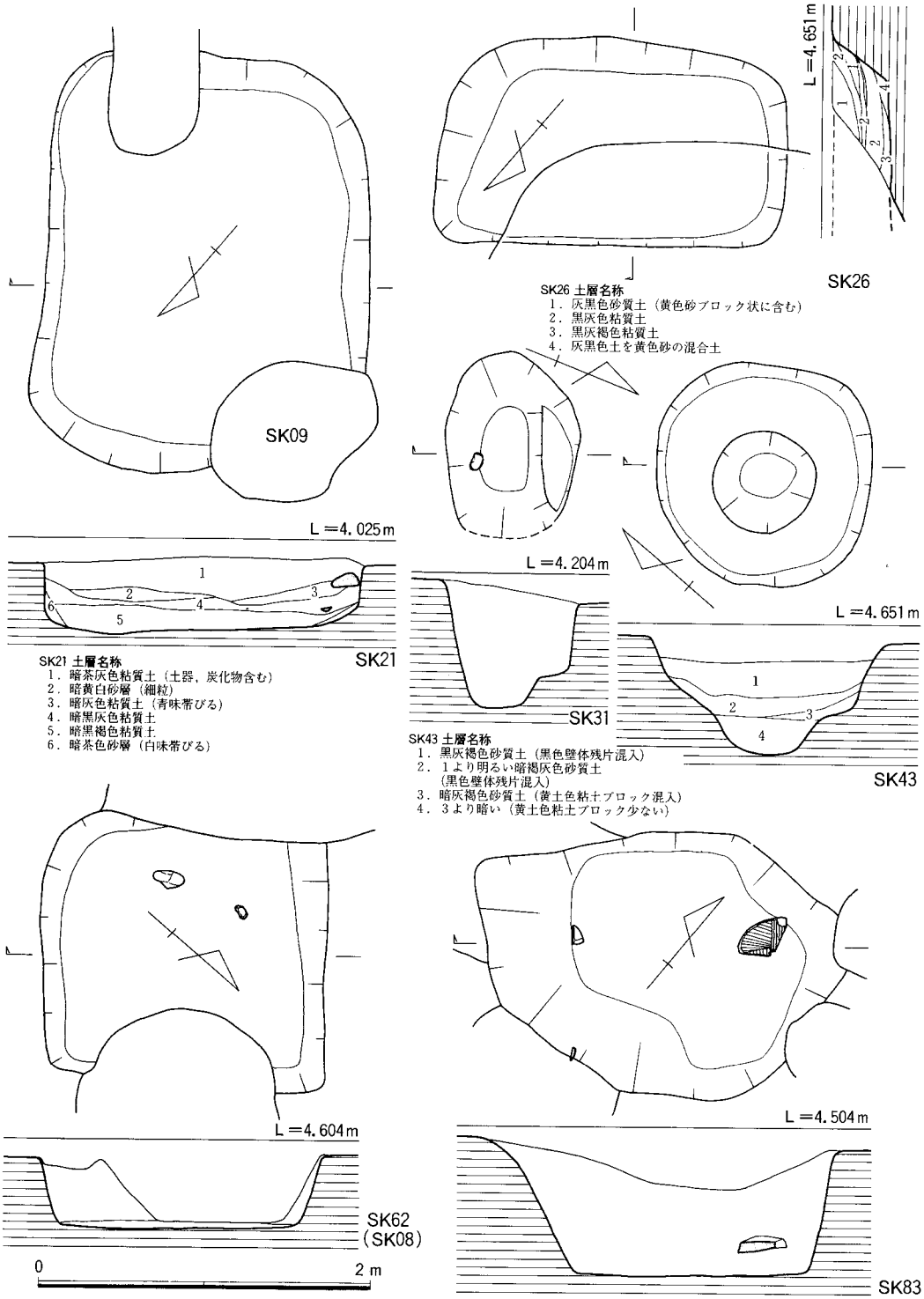
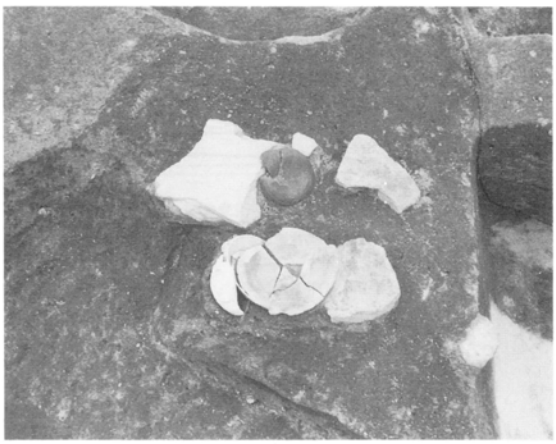


Fig. 34　土壙 SK 21～83 実測図（縮尺 1/40）

土壙 SK 21・79（東から）

土壙 SK 31・78（西から）

土壙 SK 43 土層状態（南から）



土壙 SK 73 遺物出土状態（北から）

土壙 SK 91（西から）

土壙 SK 95 土層状態（南壁）

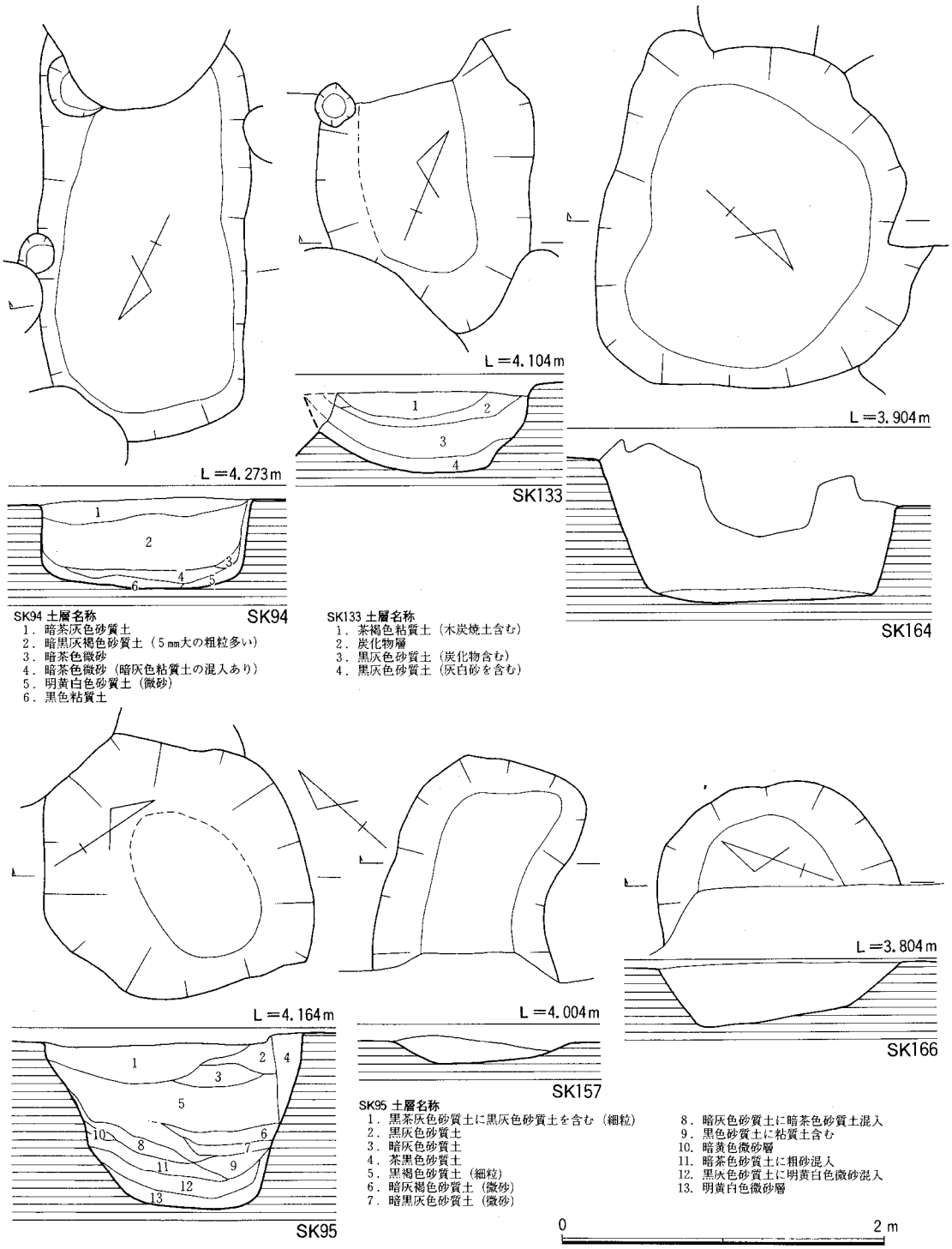
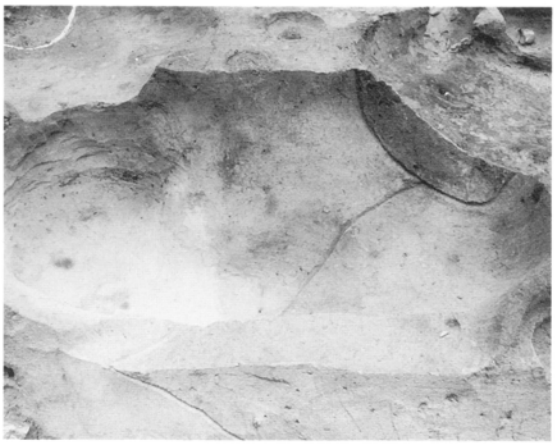


Fig. 35　土壙 SK 94～166 実測図（縮尺 1/40）

土壙 SK 114（西から）

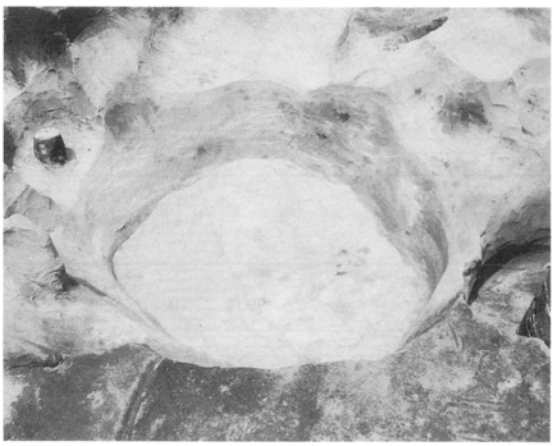
土壙 SK 132（南から）

土壙 SK 133（西から）



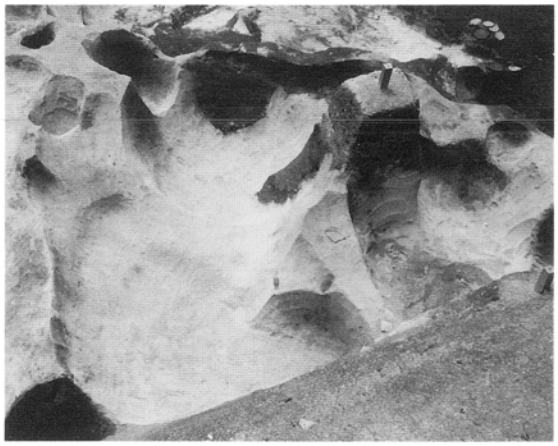
土壙 SK 141（北から）

土壙 SK 157 B（東から）

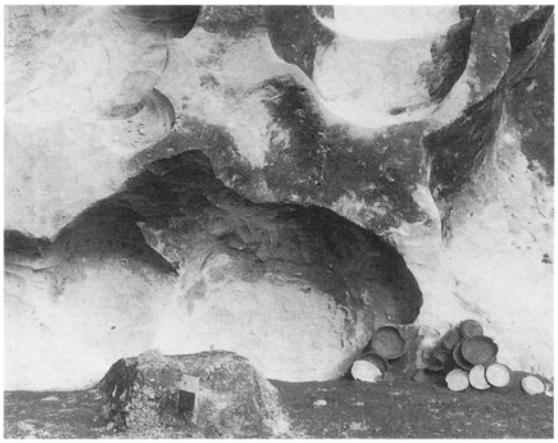


土壙 SK 164（南から）

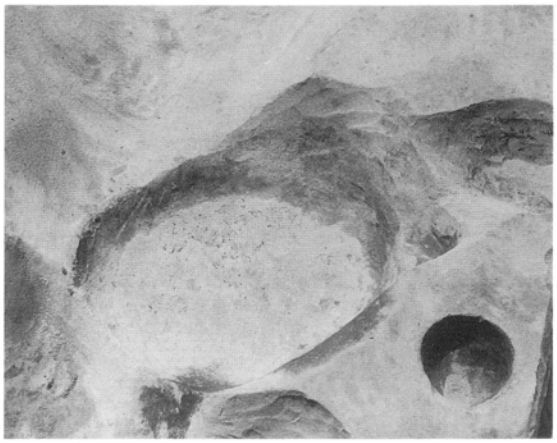
土壙 SK 164 内遺物出土状態（北から）



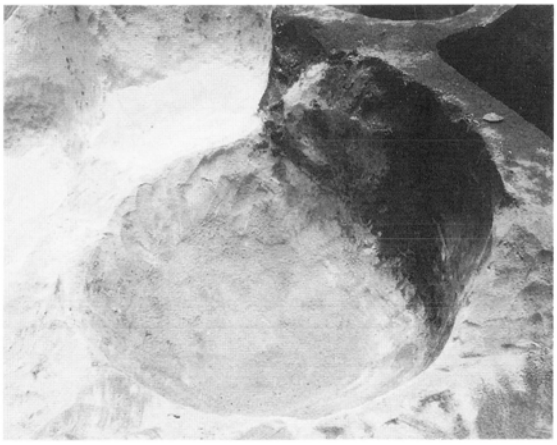
土壙 SK 168・192（北から）



土壙 SK 176（西から）



土壙 SK 178（東から）



土壙 SK 181（北から）

土壙 SK 182・195（西から）

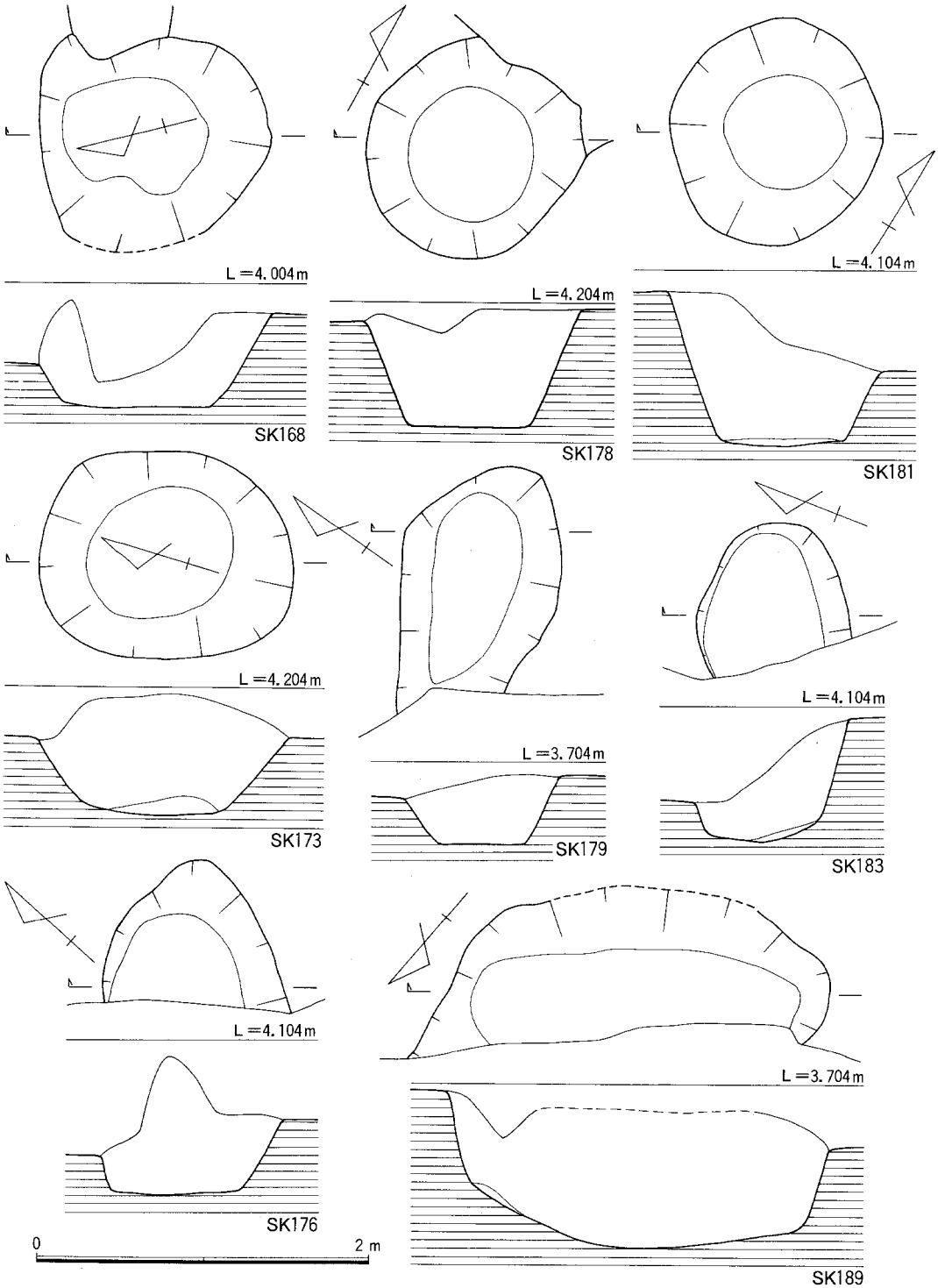


Fig. 36 土壙 SK 168～189 実測図（縮尺 1/40）

おり、同一遺構の可能性もある。

SK71　他の土壙との切り合い関係が著しく、平面形が不明である。江戸時代を中心とした遺物が出土している。

SK73　SK21・SP21 に切られるため平面形は不明である。土師器皿の他、明代の染付皿等が出土している。

SK79　SK21 に切られる。平面形は不整の隅丸長方形、断面形は逆梯形を呈する。遺物は中国陶磁器の他、国産陶磁器、瓦類等が出土した。

SK83 (Fig. 34)　平面形は不整円形である。2つの土壙が重複している可能性もある。最大長は194cmを測る。糸切り底の土師器坏、中国陶器、捏鉢、石臼が出土した。

SK91　SK141・142 に切られる。北側境界地にあるため全体形は不明である。現存長228cmを測る。土師器皿・坏の他、中国陶磁器、布目瓦等が出土した。

SK94 (Fig. 35)　平面形は隅丸長方形を呈しているが、一部を井戸 SE01 に切られる。現存長223cmを測る。覆土は黒灰色粘質土を主体としている。SK106 と同一遺構の可能性がある。遺物は糸切り底の土師器皿、明代の染付皿、白磁皿、布目瓦が出土した。

SK95 (Fig. 35)　平面形は不整の隅丸長方形、断面形は摺鉢状を呈し、全長は167cmを測る。暗灰色砂質土、又は暗灰褐色砂質土を主体としている。覆土から糸切り底の土師器皿、中国青磁、中国白磁、紡錘車、瓦質の玉等が出土した。

SK110　SX141・142・SX111 に切られるため、全体形は不明であるが、平面形は不整円形と考えられる。現存長は93cmである。ヘラ切り・糸切り底の土師器皿・坏・丸底坏、瓦器椀、越州窯系青磁、布目瓦が出土した。

SK114　東側境界地にあって、SK75 に切られる。平面形は不整の隅丸長方形と考えられる。現存長156cmを測る。遺物は土師器皿・坏の他、中国白磁、越州窯系青磁が出土した。

SK116　南側境界地にあって、攪乱土壙に切られる。SD117 を切っている。平面形は隅丸長方形と考えられる。現存長114cmを測る。土師器皿・坏の他、中国白磁、越州窯系青磁、龍泉窯系青磁が出土した。

SK130　SK157 と切り合う。平面形は不整楕円形を呈し、長径87cmを測る。土師器皿・坏、中国陶磁器、朝鮮系の須恵器等が出土した。SK157 と同一遺構の可能性あり。

SK132　SP274 等の柱穴に切られる。平面形は不整の楕円形を呈し、現存の長さ134cm、深さ22cmを測る。土師器皿・坏、中国青白磁、鉄製品が出土した。

SK133 (Fig. 35)　調査区の境界地にあるため、全体形は不明。平面形は隅丸長方形と考えられ、断面形は摺鉢状である。現存長152cmを測る。土師器皿・坏、白磁碗・皿、斜格子目叩きの平瓦など多量の遺物が出土した。

SK139　西側境界地にあって、SK80 に切られる。現存長120cmを測る。遺物は土師器皿・坏、

中国陶磁器、鉄製釘等が出土した。

SK141　SK142 と切り合う。平面形は不整の楕円形を呈し、現存長100㎝を測る。断面形は逆梯形である。遺物は土師器皿・坏、中国白磁等が出土した。

SK142　SK141 と切り合う。平面形は不整円形を呈し、断面形は逆梯形である。現存長195㎝を測る。遺物は土師器皿・坏・丸底坏等が出土した。

SK157（Fig. 35）　境界地に位置し、平面形は不整隅丸長方形を呈している。現存長は123㎝である。浅い土壙ではあるが、上面から糸切りの土師器皿・坏の他、中国青磁、中国白磁、布目瓦等が多量に出土した。

SK164（Fig. 35）　平面形は不整隅丸長方形を呈し、断面形は逆梯形である。全長220㎝を測り、覆土からは糸切り底の土師器皿・坏、中国白磁、青磁合子、斜格子目叩きの丸瓦・平瓦等が多量に出土した。

SK166（Fig. 35）　境界地にあるが、平面形は円形を呈し、断面形は摺鉢状である。長径150㎝を測る。覆土から糸切り底の土師器皿・坏、中国白磁碗、斜格子目叩きの平瓦等が出土した。

SK168（Fig. 36）　平面形は不整円形を呈し、断面形は逆梯形である。長径138㎝を測り、糸切り底の土師器皿・坏、瓦器椀、中国白磁碗などが出土した。

SK170　SE155・SK137・164 に切られる。平面形は不整の隅丸長方形と考えられる。遺物は土師器皿・坏・椀、瓦器椀、布目瓦等が出土した。

SK171　西側境界地にある。SK203 と切り合っているが、同一遺構の可能性もある。SK201 等の土壙に切られるため平面形状は不明である。規模の大きな土壙である。遺物は土師器皿、瓦器椀、中国白磁、布目瓦等が出土している。

SK173（Fig. 36）　平面形は楕円形を呈し、断面形は摺鉢状である。長径152㎝、深さ72㎝を測る。遺物は糸切り底の土師器皿・坏、中国白磁碗、明染付皿が出土している。

SK176（Fig. 36）　境界地にあるため全体形は不明であるが、平面形は不整円形と考えられる。

土壙 SK 183（西から）

土壙 SK 189（北から）

断面形は逆梯形である。現存長108cm、深さ47cmを測る。遺物は土師器皿・坏、瓦質土器、中国陶磁器、明染付、国産陶磁器が出土している。

SK178（Fig. 36） 平面形は円形を、断面形は逆梯形を呈する。長径133cmを測り、覆土からヘラ切り底の土師器皿・坏、瓦器椀、中国白磁碗、青磁碗、須恵器鉢、布目瓦が出土した。

SK179（Fig. 36） 境界地にあるため全体形は不明。平面形は不整形を呈する。現存長は141cm測る。土師器糸切り底の皿、瓦器椀、中国白磁碗、青磁碗、須恵器鉢、土師質土器鉢が出土した。

SK181（Fig. 36） 平面形は円形を、断面形は逆梯形を呈する。長径138cm、深さ128cmを測る。土師器糸切り底の坏、瓦器椀、白磁皿・碗が出土した。

SK182（Fig. 36） 西側境界地にあって、SK181・183 に切られる。全体形は不明だが、隅丸長方形が考えられる。現存の深さは83cmである。遺物は糸切りの土師器皿・坏、瓦器椀、中国白磁皿・碗、青磁碗が出土している。

SK183 境界地にあるため全体形は不明である。平面形は不整楕円形を、断面形は摺鉢状を呈している。短径82cm、深さ77cmを測る。遺物は糸切りの土師器皿・坏、中国白磁碗、瓦質土器がある。

SK186 調査地の南側にあって、溝 SD09 を切っている。平面形は不整楕円形を呈し、長径102cm、深さ46cmを測る。遺物は須恵器赤焼け土器、土師器甕、格子目叩きの平瓦等が出土している。

SK189（Fig. 36） 北側境界地にあるため全体形は不明。平面形は長楕円形と考えられ、長径235cm、深さ46cmを測る。遺物はヘラ切り底の土師器皿、中国白磁碗・皿、格子目叩きの丸瓦・平瓦や瓦塼が出土している。

SK195 SK181～184 に切られるため、平面形、断面形共に形状は不明。遺物は土師器糸切り皿・坏、中国白磁碗、中国陶器鉢が出土している。

SK197 南側境界地にある。溝 SD150 に切られる。平面形は不整円形を呈し、長径93cm、深さ72cmを測る。遺物には糸切りの土師器坏、瓦器椀、中国白磁碗が出土している。

SK201 西側境界地にある。SK202 に切られている。平面形は隅丸長方形で、最大幅112cm、深さ54cmを測る。遺物は須恵器蓋・坏、瓦器、土師器糸切り底の皿・坏、中国白磁皿・碗がある。

SK203 SK201・202 に切られる。平面形が不整の隅丸長方形を呈する土壙で、現存幅は105cm、深さ56cmを測る。遺物は須恵器坏、国産染付皿、格子目叩きの布目瓦が出土した。SK208 南側境界地にあるため形状は不明である。遺物は糸切り底の土師器皿、中国白磁碗、国産陶器碗・摺鉢が出土している。

SK216 切り合い関係が著しいため、遺構の形状は不明である。遺物は糸切り底の土師器皿・坏、内黒土器、中国青磁碗、泥面子がある。

(4) 土壙出土遺物（Fig. 37～57）

SK04 の出土遺物は、1が伊万里の染付皿で、外底には「酒桝カ」の墨書がある。2は中国青磁

皿で、内底にヘラ描きの花文と櫛描き文がある。3は丸瓦片で、背部に「右衛門」銘のスタンプがある。**SK08の出土遺物**は、4が糸切り底の土師器皿、5が瓦質土器摺鉢である。**SK17の出土遺物**は、6が中国白磁皿であるが、他は江戸時代の遺物が主体である。**SK12の出土遺物**は、江戸時代を主体としており、7は梅花文と退化した唐草文を配した軒平瓦である。**SE15の出土遺物**には、8の糸切り底の土師器坏、9の土師器皿、10の滑石製石鍋片がある。**SE19の出土遺物**には、11の土師器糸切り底の皿、12は糸切りの坏、13は背部に格子目叩きを施した丸瓦であるが、他に国産陶磁器も出土している。**SK21の出土遺物**には14の龍泉窯系青磁碗、15の緑釉陶器壺がある。**SK26の出土遺物**は、16・17が土師器糸切り底の皿・坏である。**SK31の出土遺物**は、18～22が土師器糸切り底の皿、23～28が糸切り底の坏である。**SK33の出土遺物**は、29が土師器糸切り底の皿、30が坏である。**SK34の出土遺物**には、31の中国白磁碗、32の中国青磁碗がある。**SK37の出土遺物**は、33の中国白磁碗があるが、外底部に「倆」の墨書文字がある。**SK43の出土遺物**は、34～36が土師器糸切り底の皿、37が李朝白磁碗、38は「櫛田宮」銘の軒平瓦である。**SK51の出土遺物**は、39が瀬戸・美濃系の皿で、他に土鈴が出土している。**SK60の出土遺物**は、40が中国白磁碗、41は内外面に円文を描いた滑石製の容器で、土器型の可能性がある。**SK62の出土遺物**は、42が糸切り底の土師器皿、43が瓦質土器捏鉢である。**SK71の出土遺物**は、44が8弁の花文を中心飾りに配した軒平瓦、45が三巴文の軒丸瓦である。**SK73の出土遺物**は、46が土師器糸切り底の皿、47・49は明代の染付皿、48は瓦質土器皿、又は壺の蓋で、内底にヘラ描きの「大」の文字がある。**SK79の出土遺物**には、50の軒平瓦がある。中心飾りは三葉文である。**SK83の出土遺物**は、51が糸切り底の土師器皿、52は中国白磁碗、53は中国陶器捏鉢、54は凝灰岩製石臼の上臼である。石臼の擦目は分割溝の引き直しを行っている。**SK91の出土遺物**は、56が中国白磁碗、57・58が内黒土器、59は背部に斜格子目叩きを施した丸瓦である。**SK94の出土遺物**は、60・61が土師器糸切り底の皿、62が中国白磁皿、63・64は明代の磁器で、63は染付皿、64は白磁皿である。65は背部が縄目叩きの平瓦である。**SK95の出土遺物**は、66が土師器糸切り皿、67は土師器椀、422・68・69は中国白磁皿、71～73は中国白磁碗、70は青磁碗である。74は布目瓦を転用した紡錘車である。他に51の石製の玉が出土している。**SK96の出土遺物**は、75・76が土師器糸切り底の皿、77が坏、78は中国白磁碗で、外底部には墨書がある。**SK97の出土遺物**は、85が内黒土器、86が越州窯系青磁碗である。**SK106の出土遺物**は、79は白磁碗で、81は明代の白磁皿、80は伊万里染付碗である。83は神出窯の須恵器鉢、82は陶器壺、84は砥石である。**SK110の出土遺物**は、87～89・91は土師器ヘラ切りの皿、90は糸切り皿、92・93はヘラ切りの丸底坏、94・95は黒色土器Bの椀、97は越州窯系青磁碗、98～100は背部が格子目、又は斜格子目叩きの平瓦である。**SK114の出土遺物**は、101が土師器糸切り底の坏、102が中国白磁碗、103が越州窯青磁碗である。**SK116の出土遺物**は、104が中国白磁碗、105が越州窯青磁碗である。**SK124の出土遺物**は、106が土師器糸切り底の皿、107・108は中国白磁碗、109は龍泉窯青磁碗である。

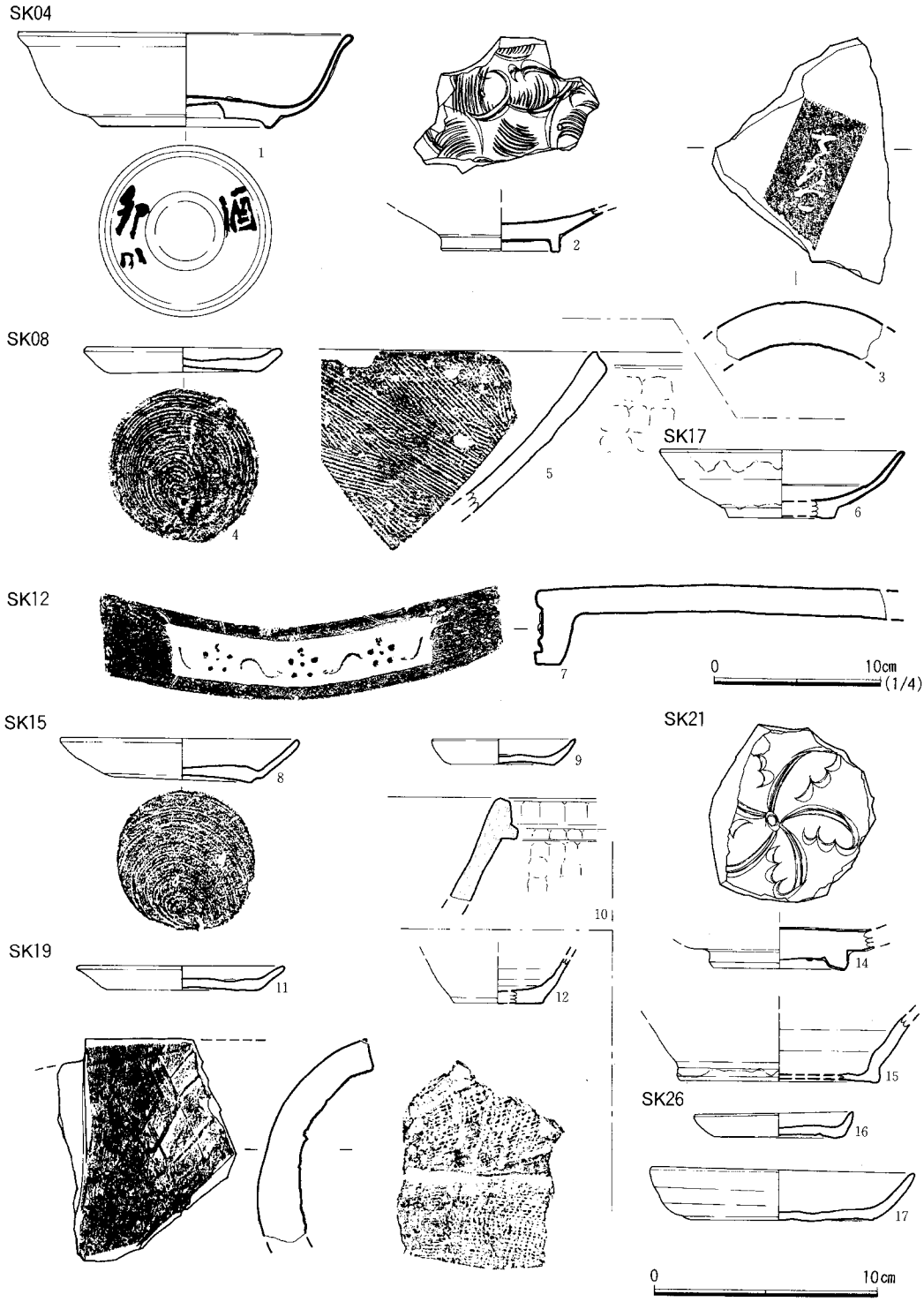


Fig. 37 土壙 SK 04～26 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

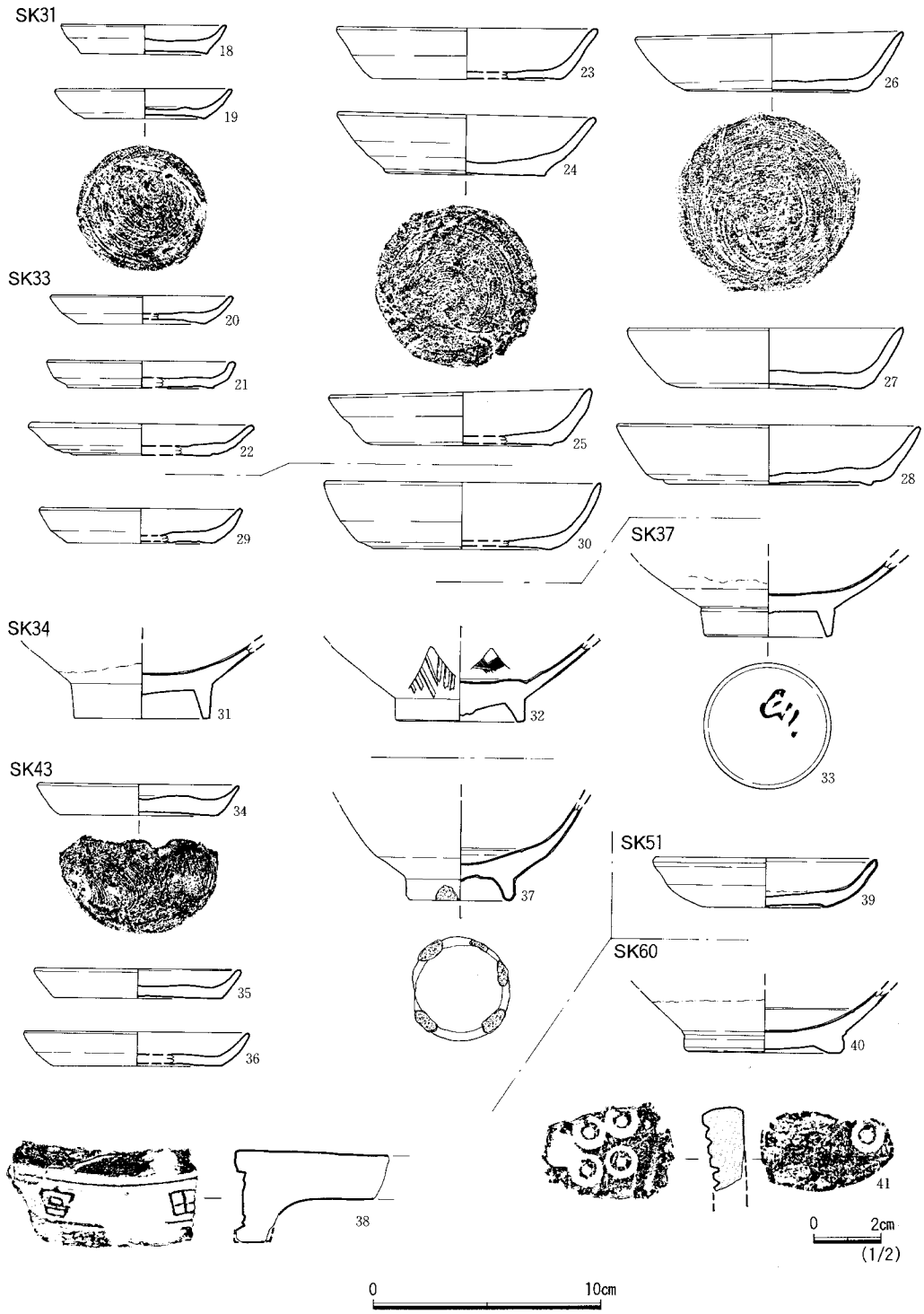


Fig. 38 土壙 SK 31～60 出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）

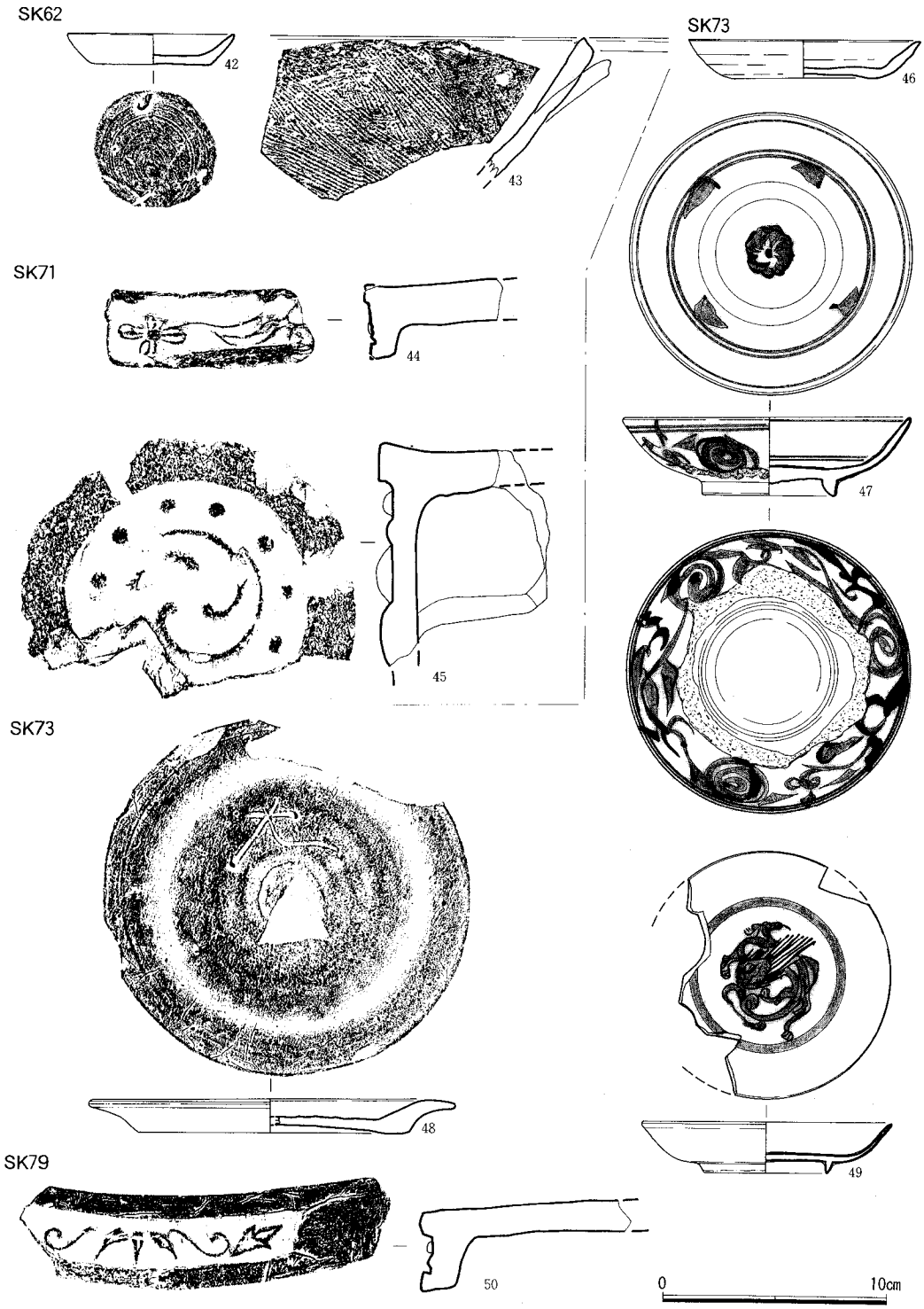


Fig. 39 土壙 SK 62～79 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

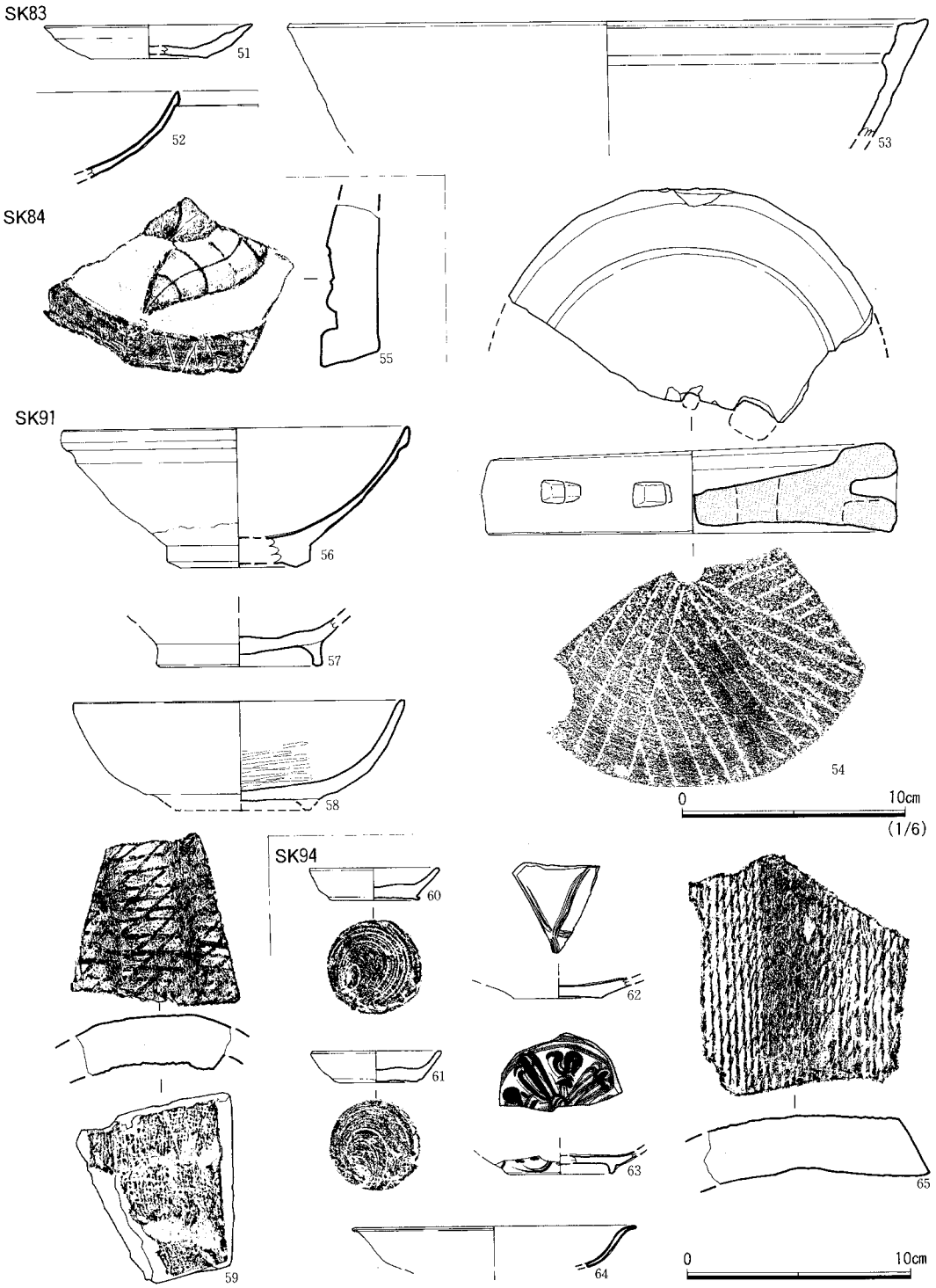


Fig. 40 土壙 SK 83～94 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/6）

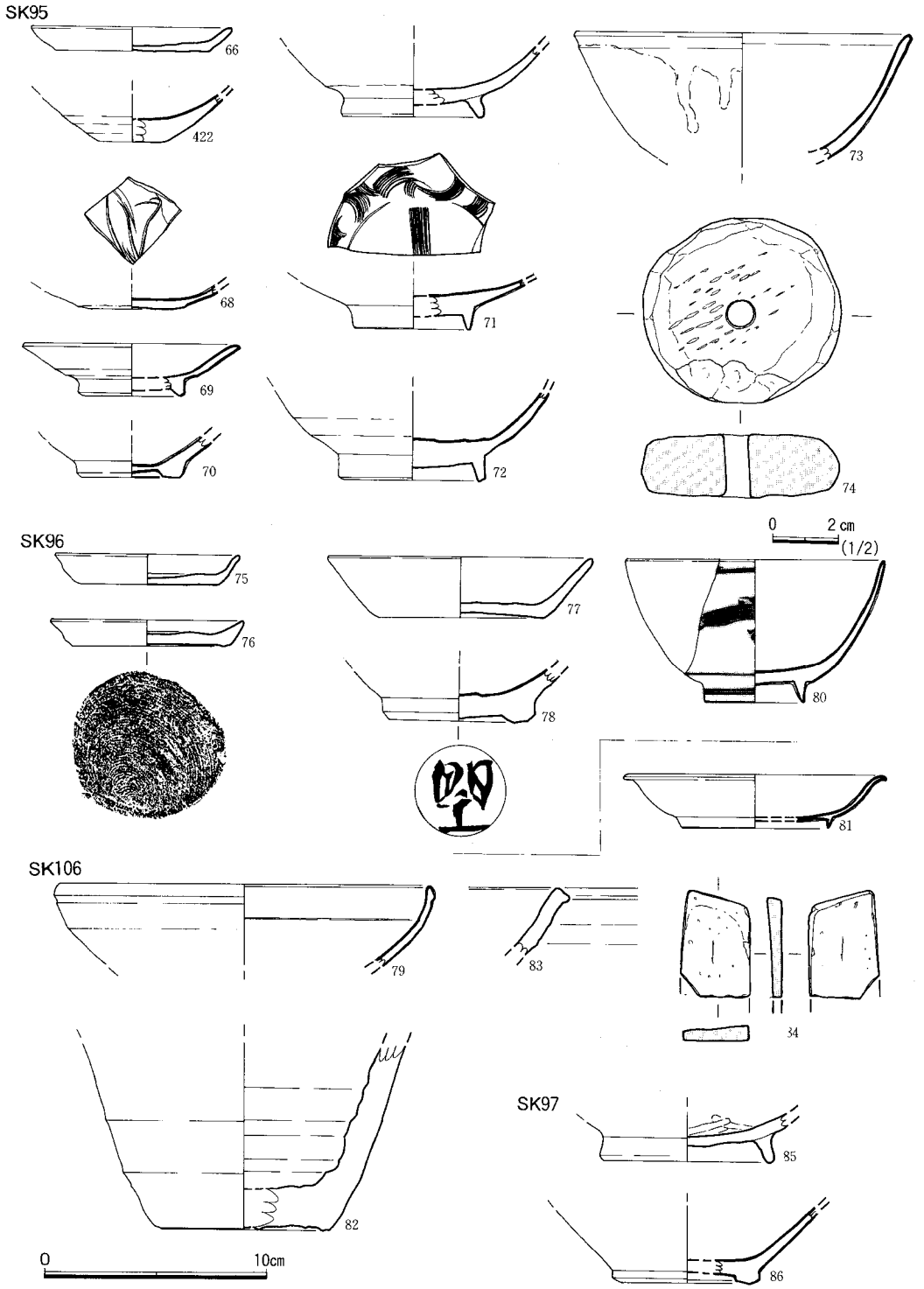


Fig. 41 土壙 SK 95～106 出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）

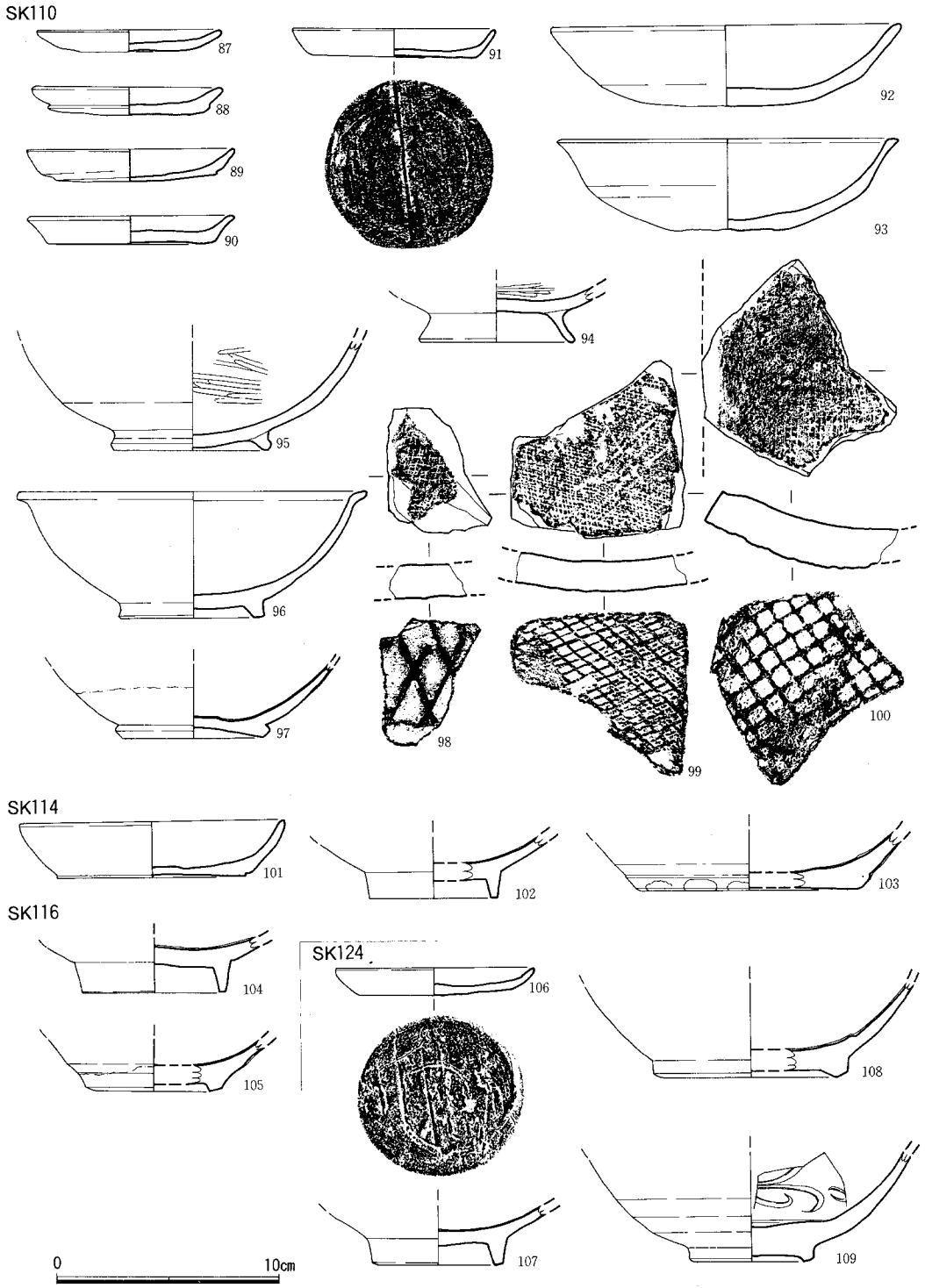


Fig. 42 土壙 SK 110～124 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

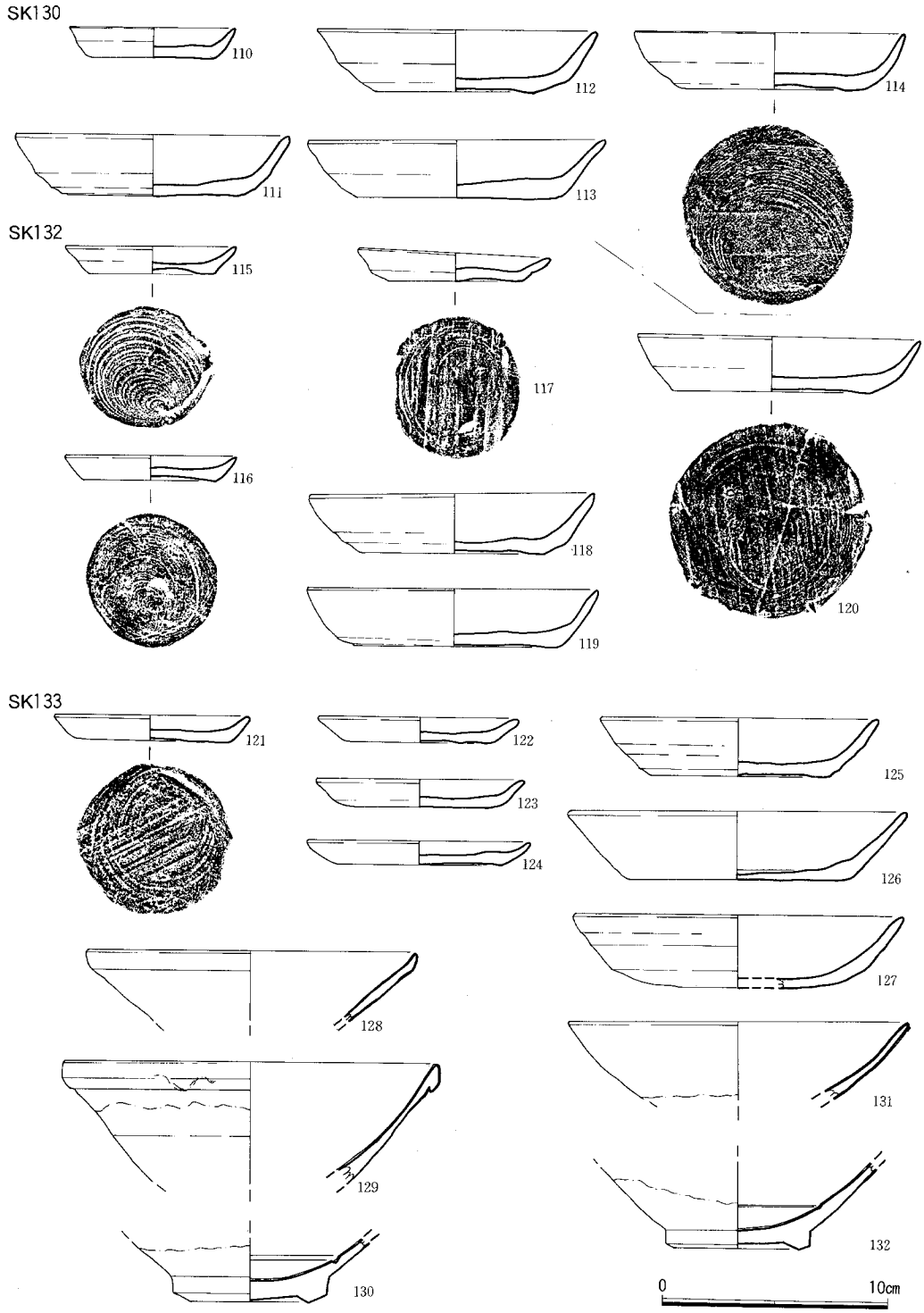


Fig. 43 土壙 SK 130～133 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

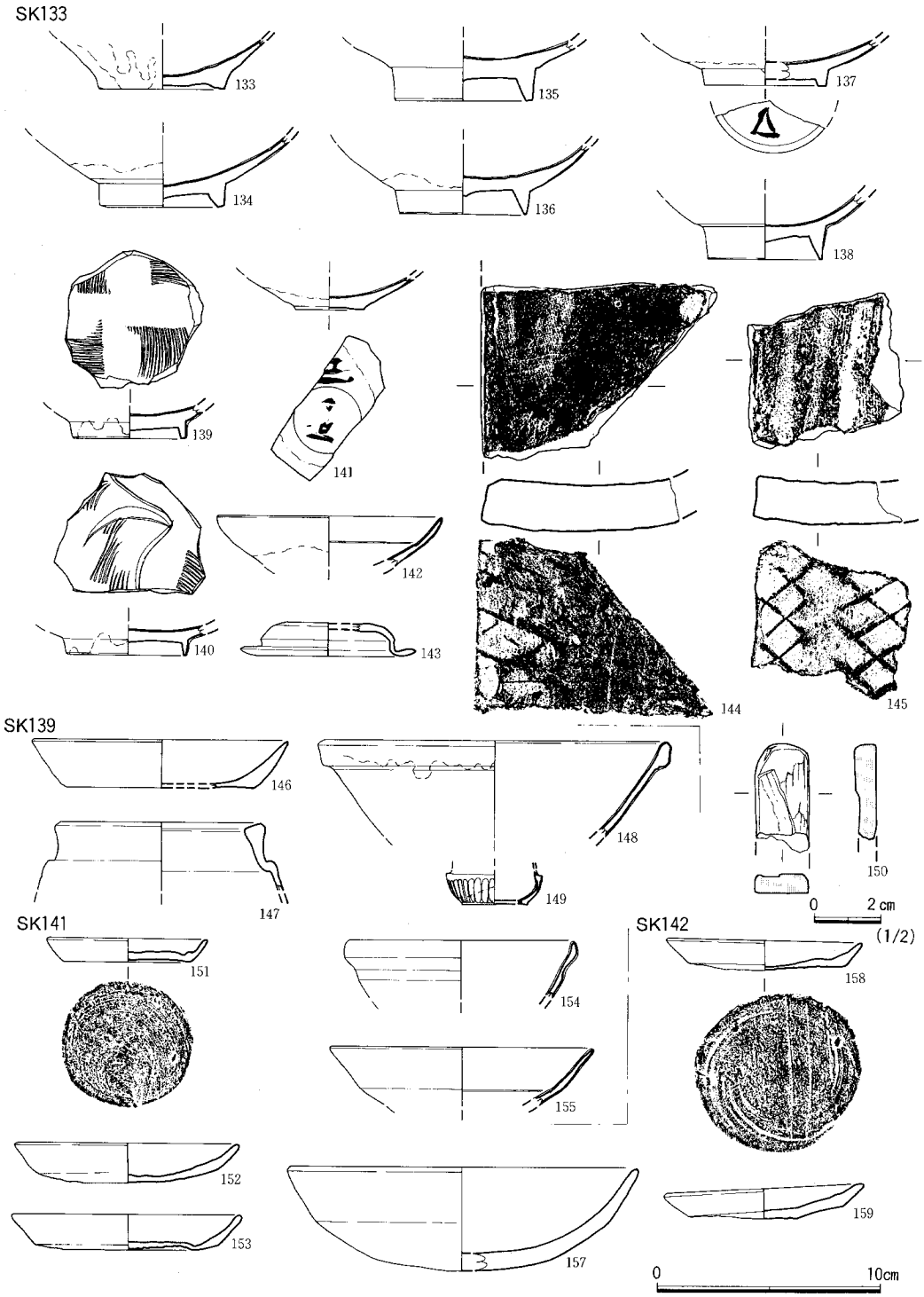


Fig. 44　土壙 SK 133～142 出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）

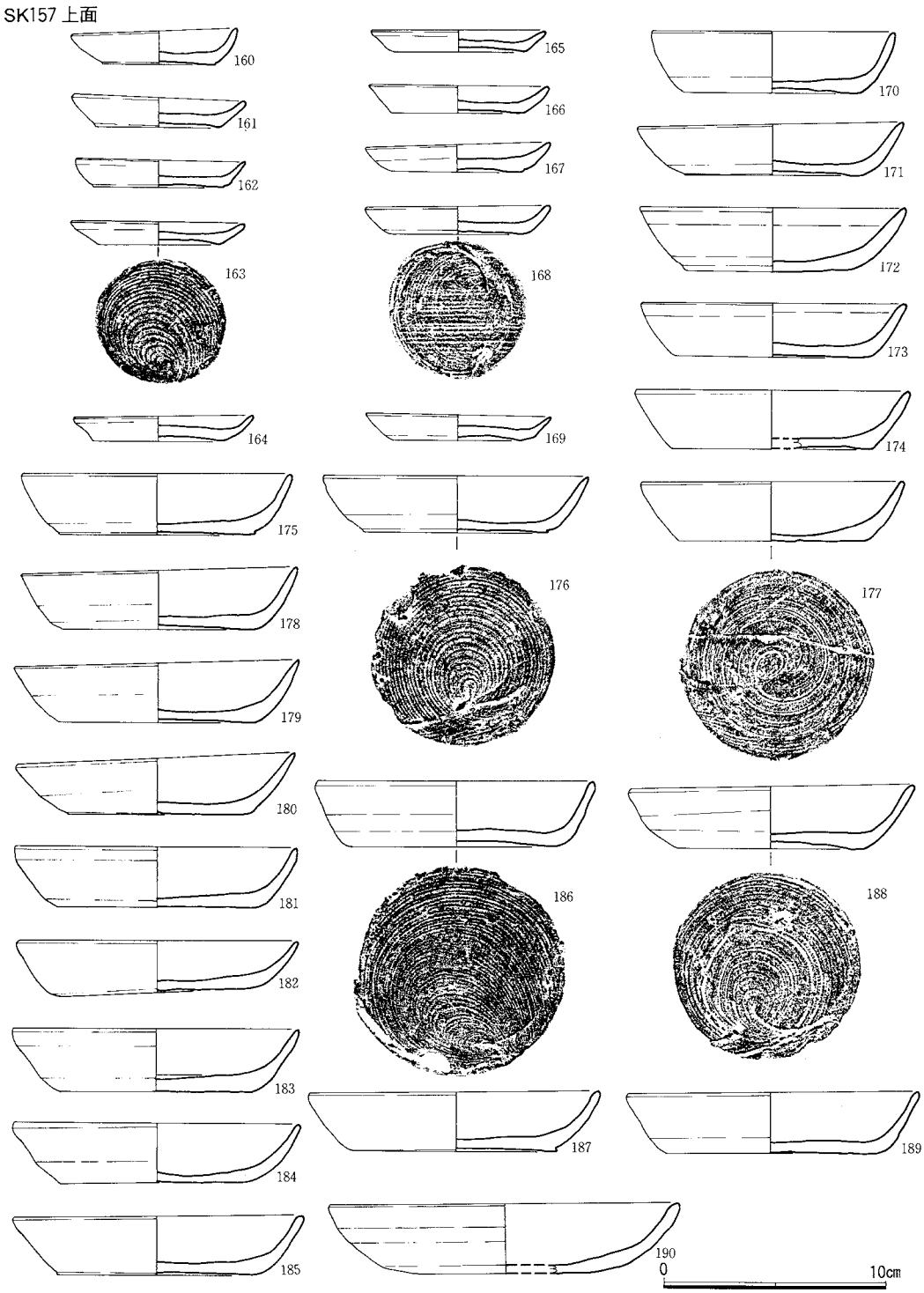


Fig. 45 土壙 SK 157 出土遺物実測図①（縮尺 1/3）

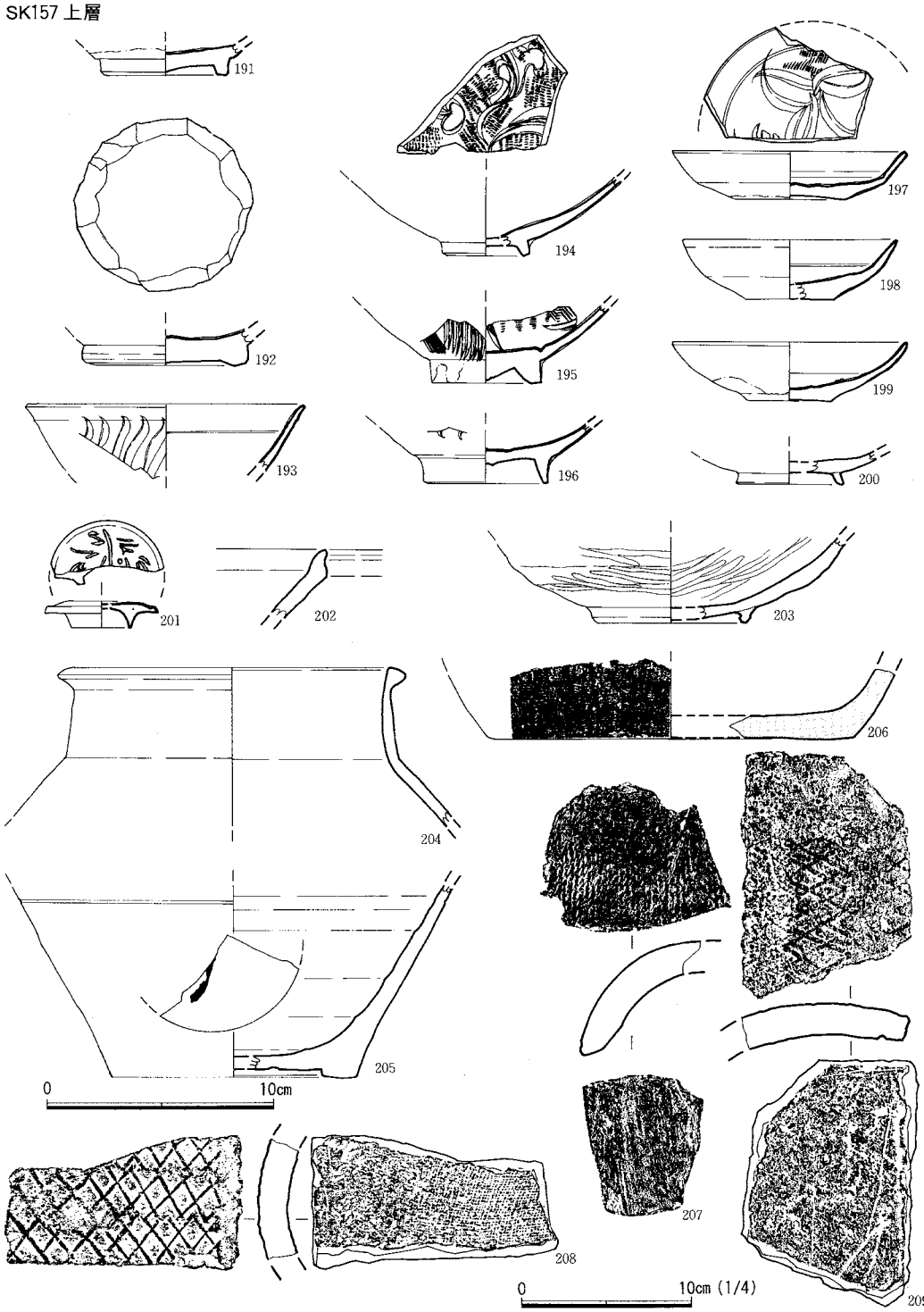


Fig. 46 土壙 SK 157 出土遺物実測図②（縮尺 1/3・1/4）

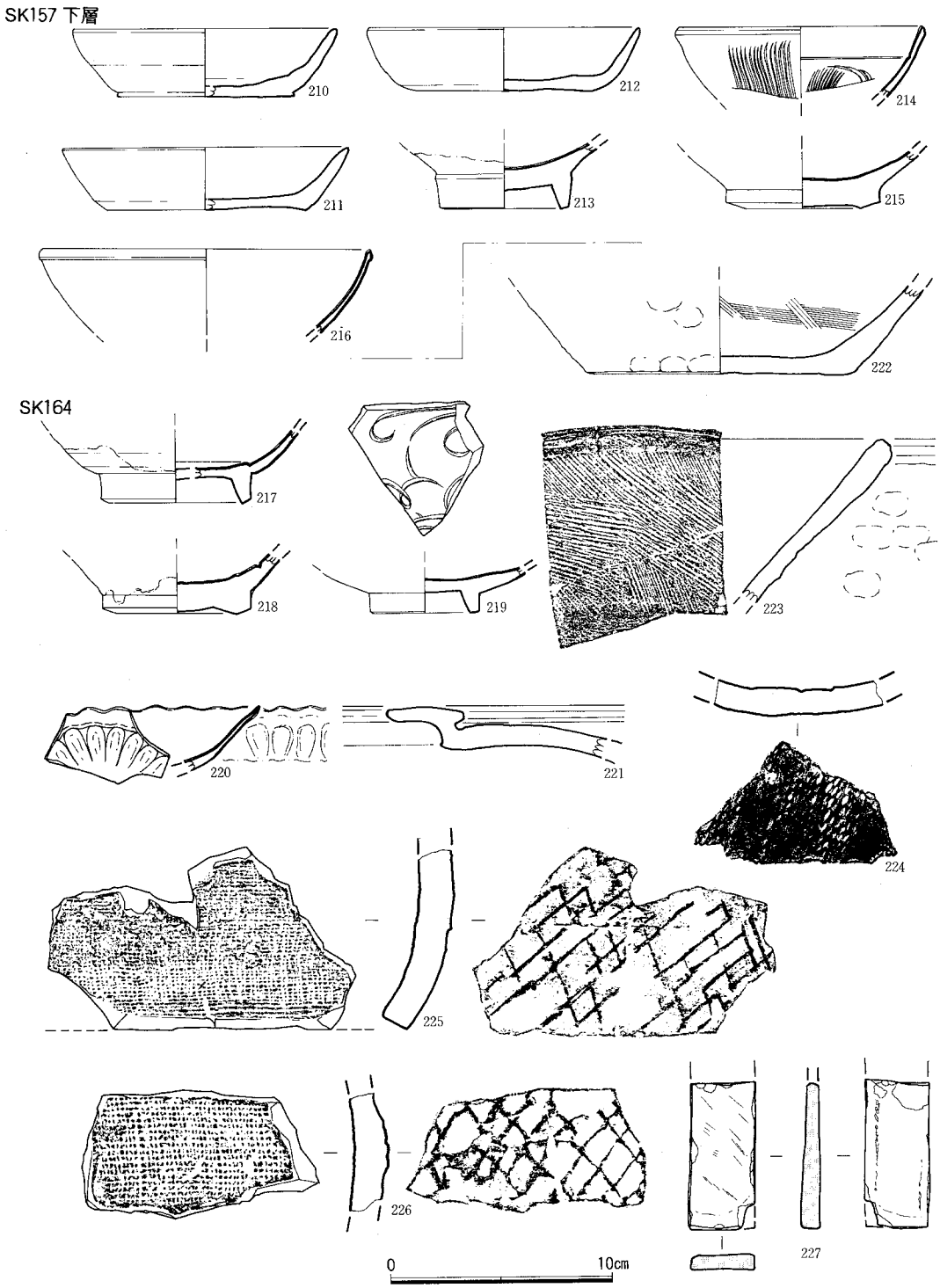


Fig. 47 土壙 SK 157・164出土遺物実測図（縮尺 1/3）

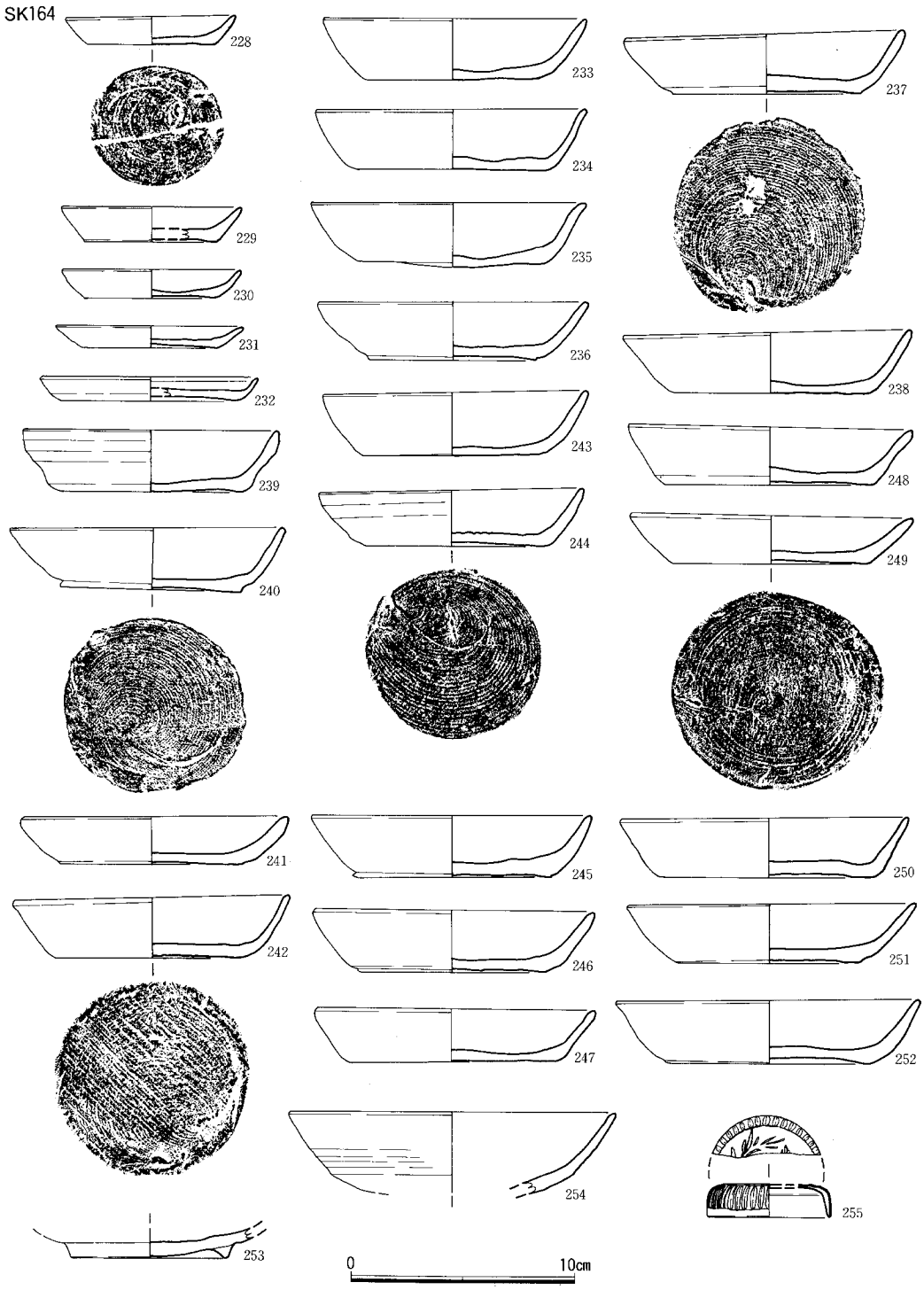


Fig. 48 土壙 SK 164 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

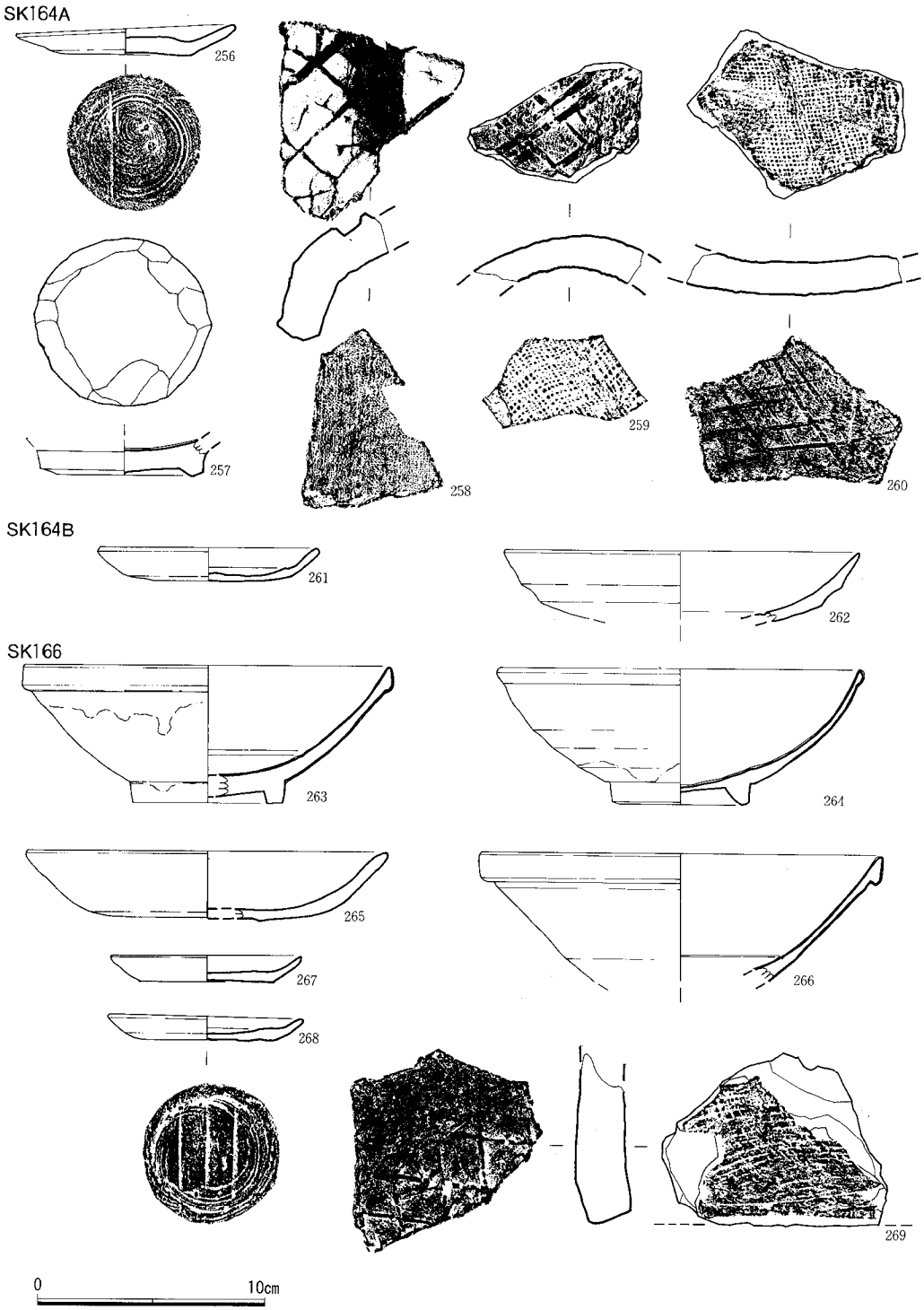


Fig. 49 土壙 SK 164・166 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

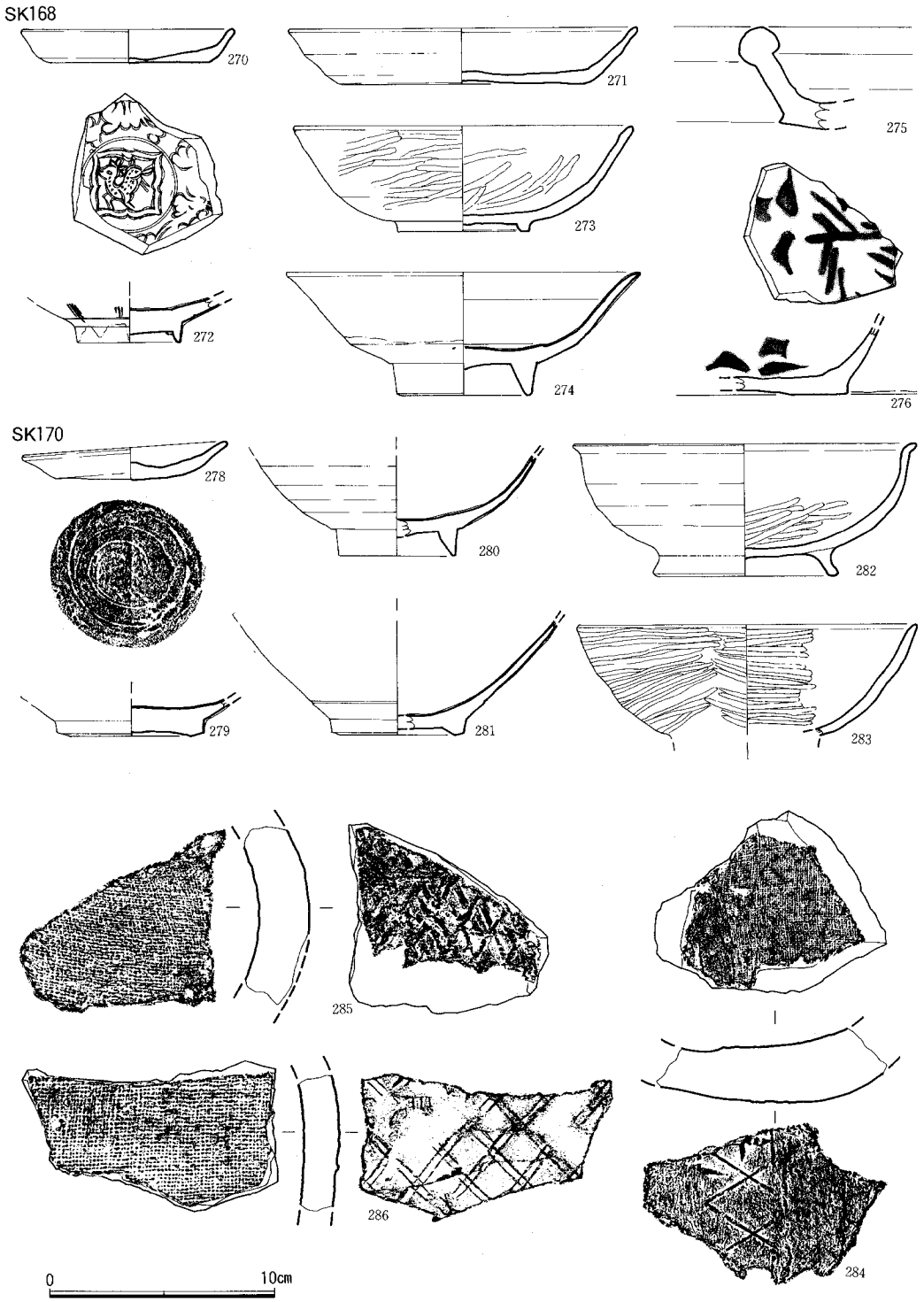


Fig. 50 土壙 SK 168・170 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

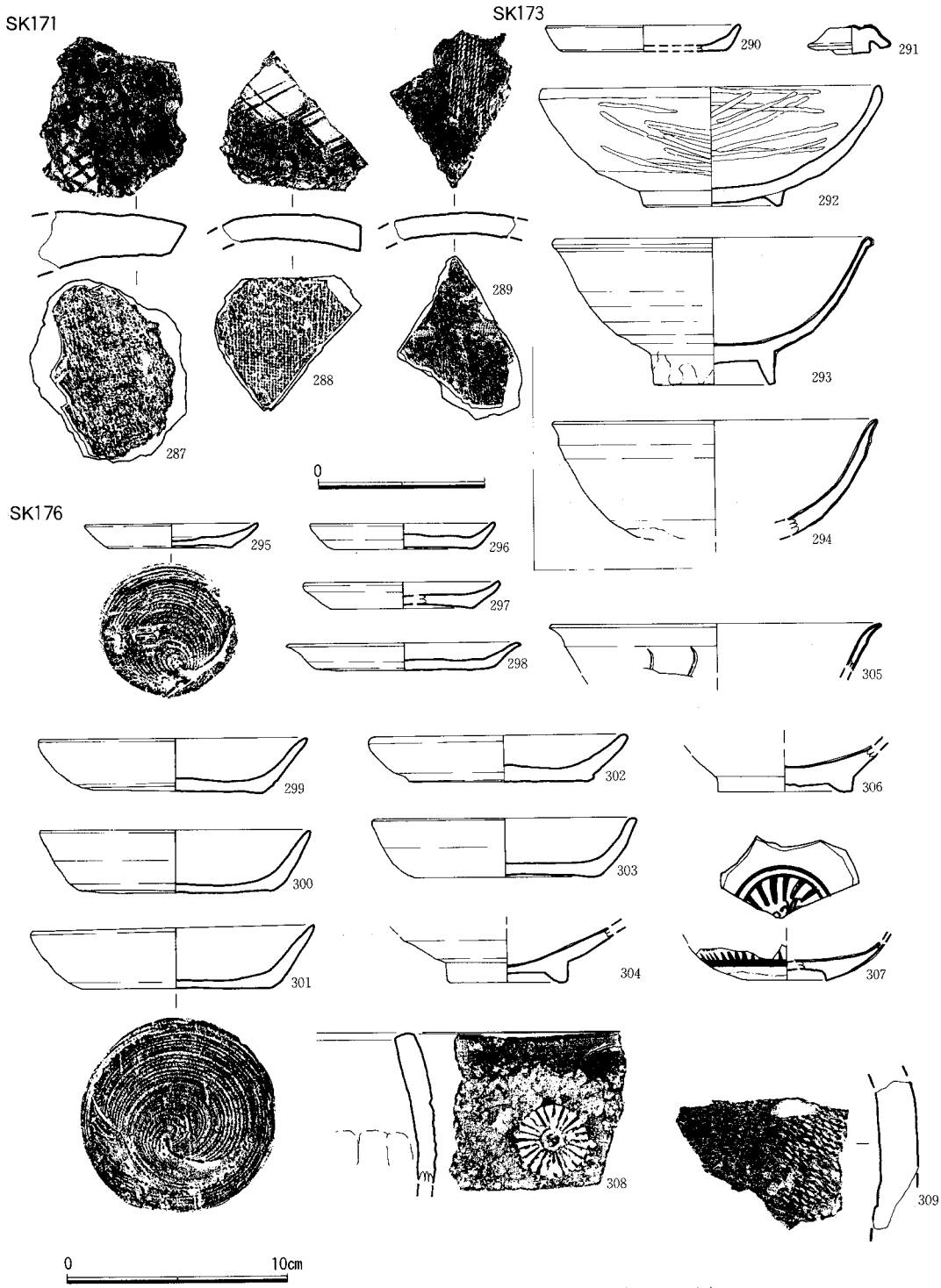


Fig. 51 土壙 SK 171～176出土遺物実測図（縮尺 1/3）

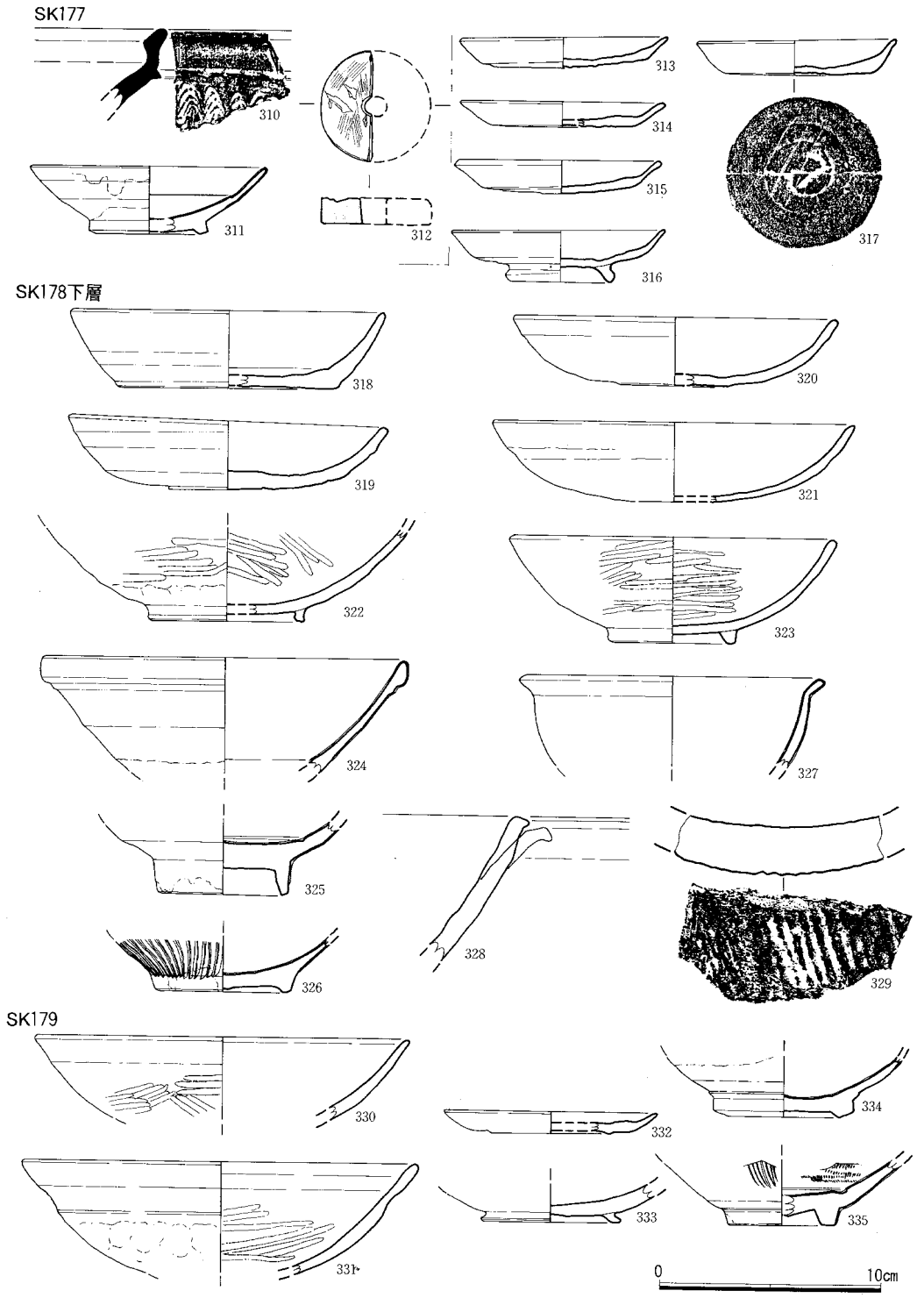


Fig. 52 土壙 SK 177～179 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

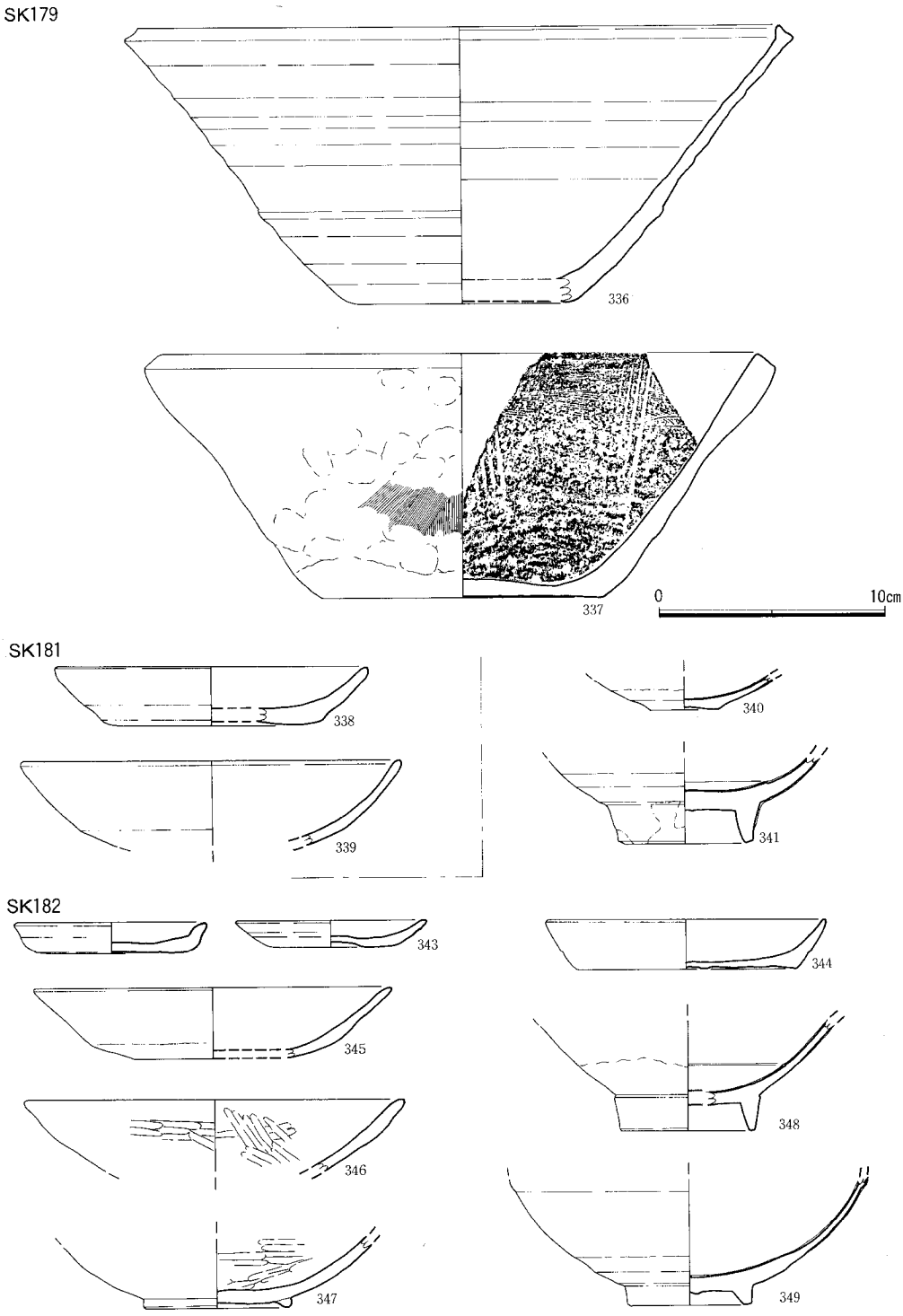


Fig. 53 土壙 SK 179～182 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

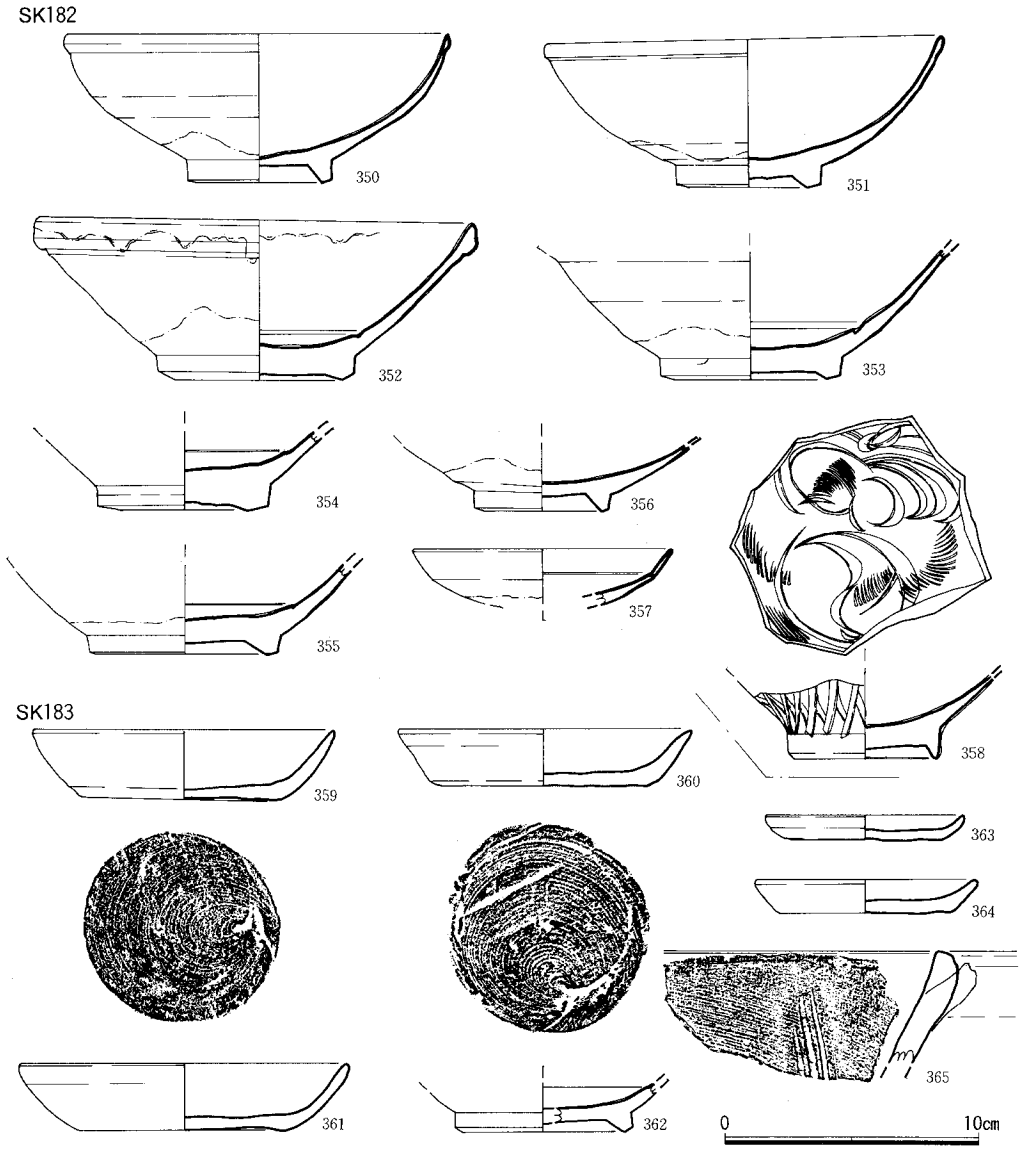


Fig. 54 土壙 SK 182・183 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

SK130 の出土遺物は、110が糸切り底の土師器皿、111～114は糸切り底の坏である。**SK132 の出土遺物**は、115～117が糸切り底の土師器皿、118～120が糸切り底の坏である。**SK133 の出土遺物**は、121～124が糸切り底の土師器皿、125～127が糸切り底の坏で、127は丸底である。128～140は、中国白磁碗である。137の外底部に花押状の墨書がある。139・140の内面は櫛描き文を施す。141・142は中国白磁皿、141の外底部に墨書がある。143は陶器蓋、144・145は背部が斜格子

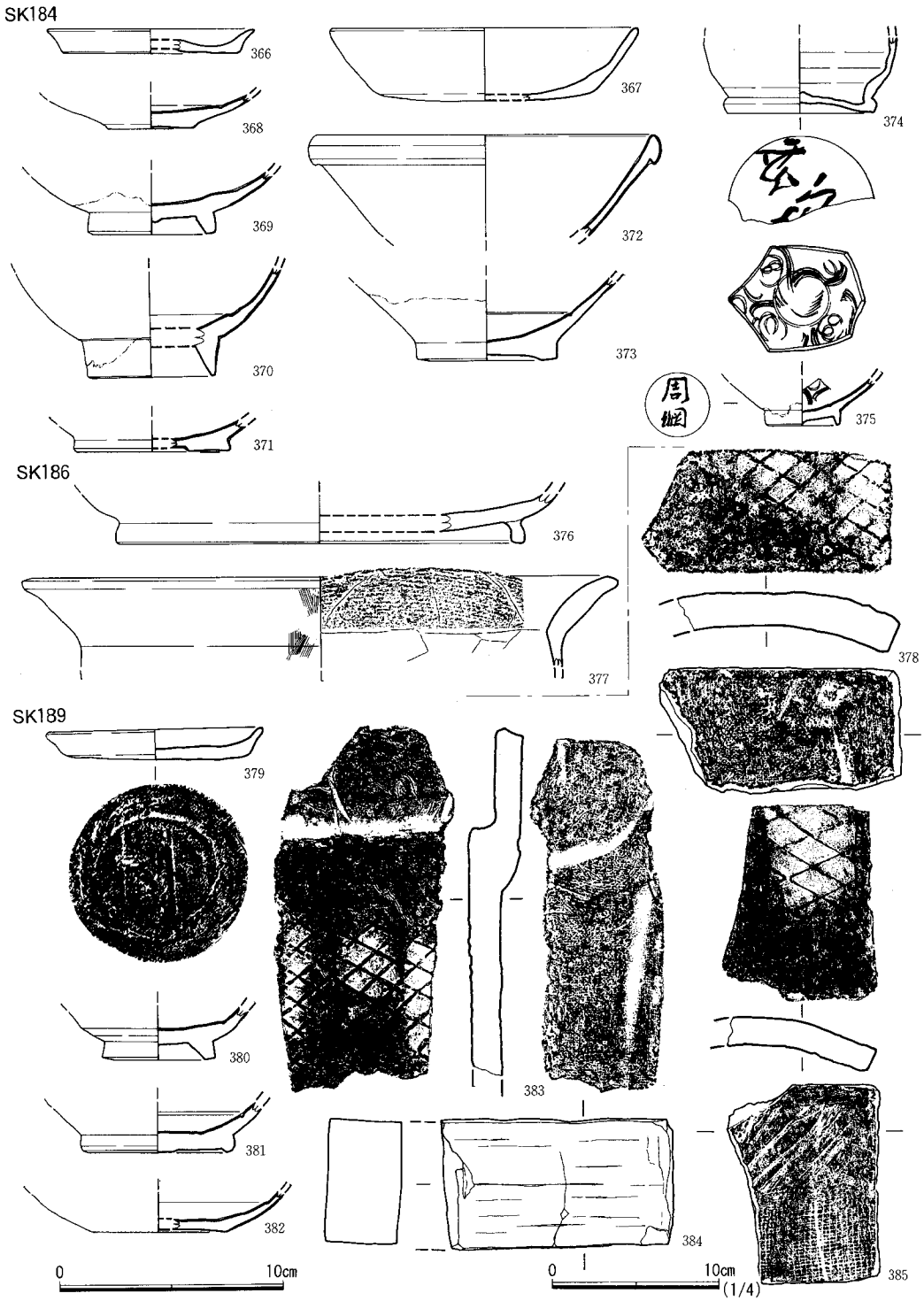


Fig. 55 土壙 SK 184～189 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

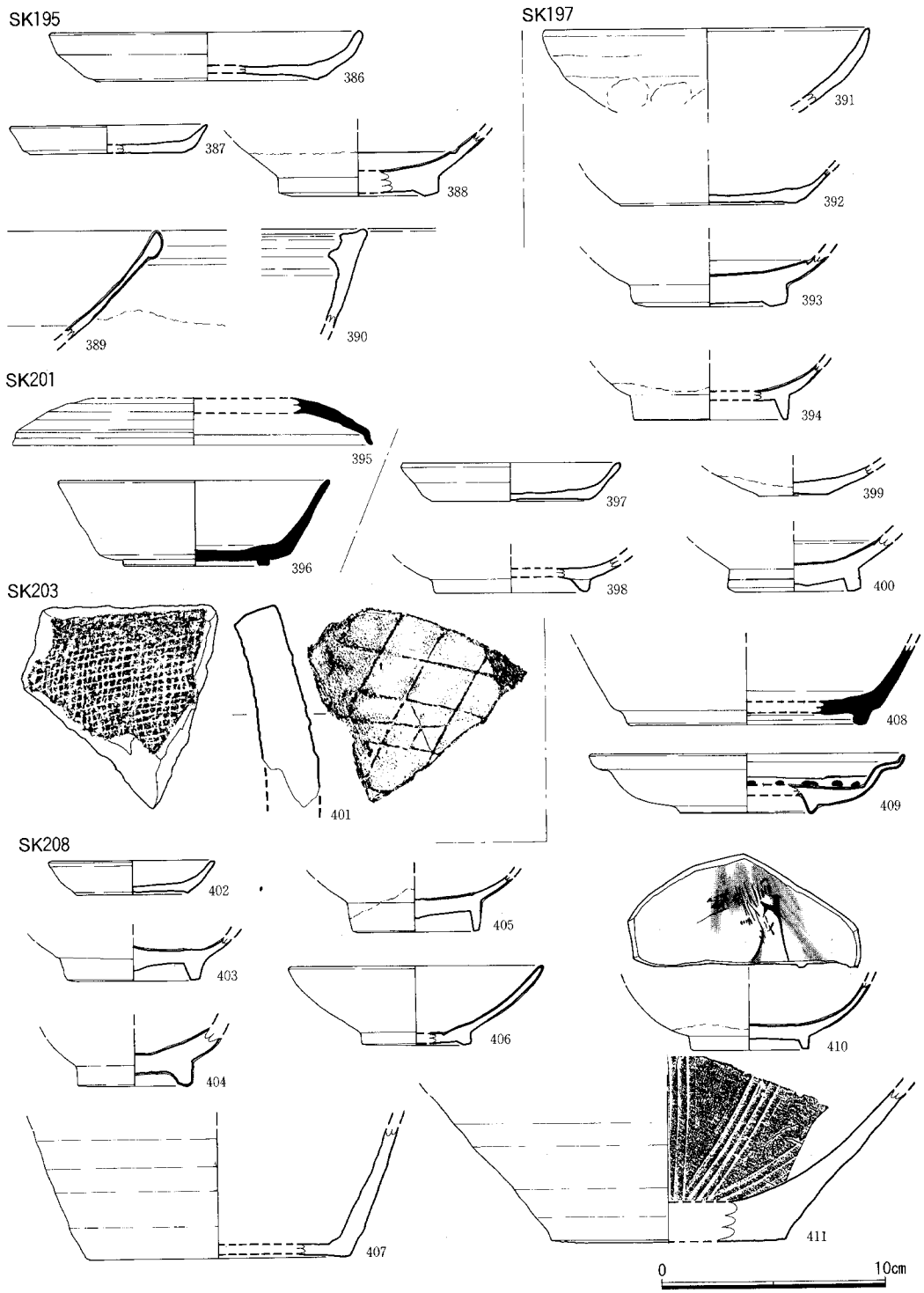


Fig. 56 土壙 SK 195～208 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

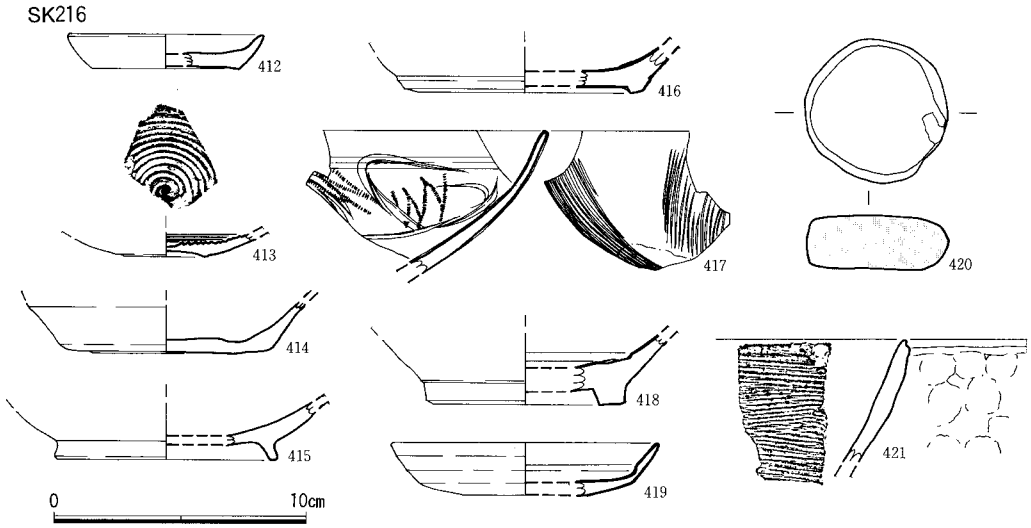


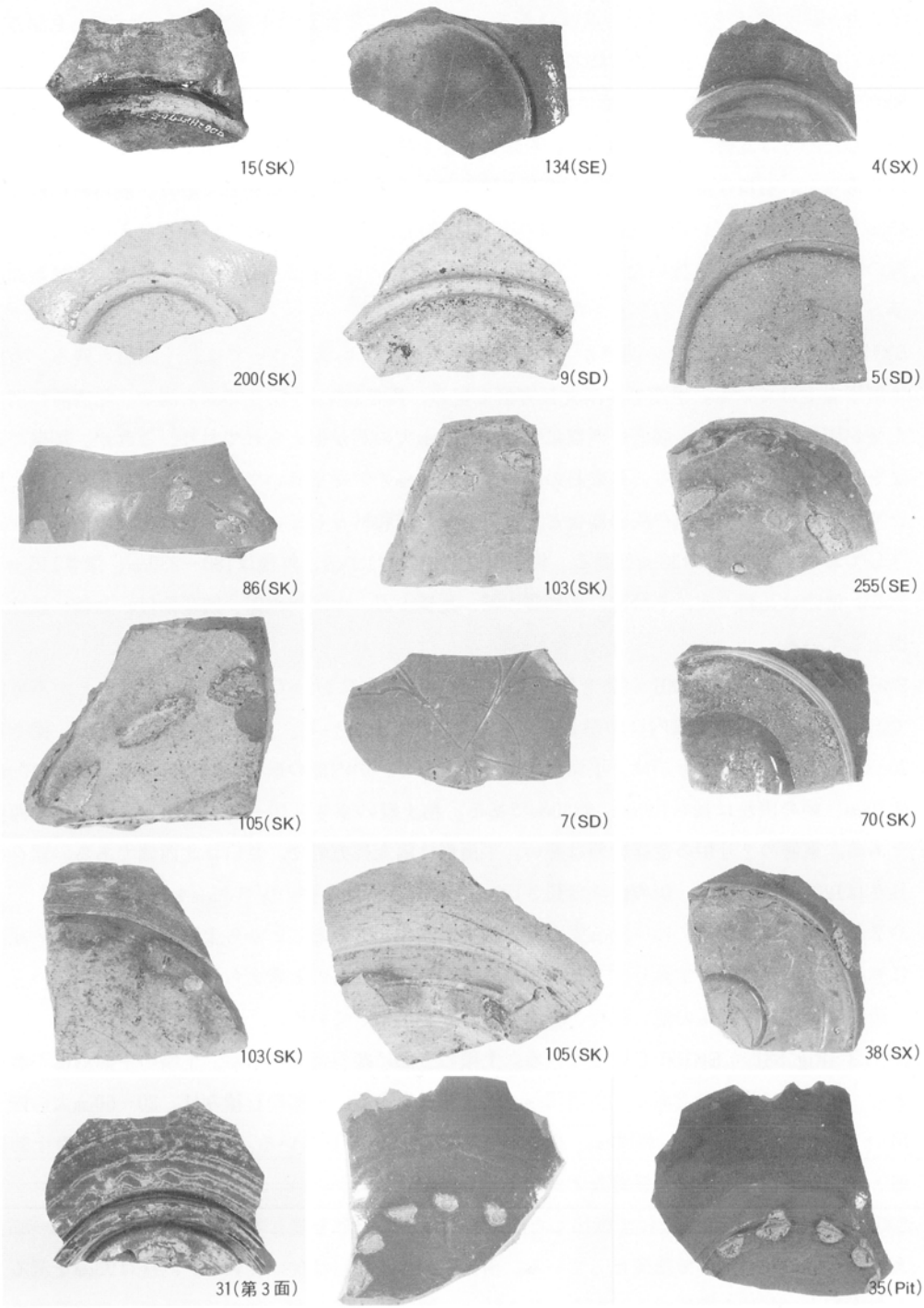
Fig. 57　土壙 SK 216 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

目叩きの平瓦である。**SK139 の出土遺物**は、146が土師器糸切り底の坏、148が中国白磁碗、149は青白磁合子、147は陶器壺、150は砥石である。**SK141の出土遺物**は、151が土師器糸切り底の皿、152・153は糸切りの底坏、154・155は中国白磁碗・皿である。**SK142 の出土遺物**は、157が土師器丸底坏、158・159が糸切り底の皿である。**SK157 の上層の出土遺物**の内、160～169が土師器糸切り底の皿、170～190が糸切り底の坏、191～193は中国白磁碗で、192は泥メンコ状に外縁を成形する。198・199は中国白磁皿、201は青白磁合子蓋、194～196は青磁碗、197は青磁皿、200は緑釉陶器、202は東播系の須恵器鉢、203は瓦器椀、204・205は中国陶器壺で、205の外底には墨書がある。206は滑石製の石鍋、207・208は丸瓦、209は平瓦である。207の背部は縄目叩き、209の背部は格子目叩きである。**SK157 の下層の出土遺物**は、210～212が土師器糸切り底の坏、213～216が中国白磁碗である。**SK164 の出土遺物**は、217～219は中国白磁碗、220は青磁菊花皿、221は陶器甕、222・223は瓦質土器の捏鉢、224～226は平瓦である。224は、背部が縄目叩き、225・226は、背部が斜格子目叩きである。227は砥石。228～232は糸切り底の土師器皿、233～253は坏で、253は丸底の坏である。254は青白磁の合子蓋である。**SK164A の出土遺物**は、256が土師器糸切り底の皿、257が泥メンコ状に外縁を成形した白磁碗片、258～260は、背部が斜格子目叩きの瓦で、258・259は丸瓦、260は平瓦である。**SK164B の出土遺物**は、261が土師器ヘラ切り底の皿、262は丸底の坏である。**SK166 の出土遺物**は、263・264・266が中国白磁碗、265が土師器糸切り底の坏、267・268は糸切り底の皿、269は背部が格子目叩きの平瓦である。**SK168 の出土遺物**は、270は糸切り底の土師器皿、271が糸切り底の坏、273は瓦器椀、272・274は中国白磁碗で、272の内底にはヘラ彫りの鹿を描く。外底に目痕が残っている。276は陶器盤である。**SK170 の出土遺物**は、278はヘラ切り底の土師器皿、279～281は中国白磁碗、282は黒色土器A

の椀、283は瓦器椀、284～286は、背部が格子目叩きの平瓦と丸瓦である。**SK171 の出土遺物**は、287～289は平瓦で、背部の叩きは289が縄目叩き、287・288は斜格子目叩きである。**SK173 の出土遺物**は、290が糸切り底の土師器皿、291は白磁蓋、293は中国白磁碗、292は瓦器椀である。**SK176 の出土遺物**は、295～298が土師器糸切り底の皿、299～303は坏、304～306は中国白磁碗、307は明代の碁笥底の皿、308は瓦質土器火舎、309は背部が縄目叩きの平瓦である。**SK177 の出土遺物**は、310が須恵器甕、311は中国白磁碗、312は蛇紋岩製紡錘車である。**SK178 の下層出土遺物**は、313～317はヘラ切り底の土師器皿で、316は高台付皿である。318～321はヘラ切り底の坏で、320・321は丸底である。322・323は瓦器椀、324～326は中国白磁碗、327は青磁碗、328は神出窯系の須恵器鉢、329は背部が縄目叩きの平瓦である。**SK179 の出土遺物**は、330・331・333が瓦器椀、332がヘラ切り底の土師器皿、334は中国白磁碗、336は東播系の須恵器鉢、337は瓦質土器の摺鉢である。**SK181 の出土遺物**は、338は土師器糸切り底の坏、339は瓦器椀、340は中国白磁皿、341は白磁碗である。**SK182 の出土遺物**は、342・343は土師器皿で、343はヘラ切り、342は糸切り底である。344・345は糸切り底の坏、346・347は瓦器椀、348～356は中国白磁碗である。357は白磁皿、358は青磁碗である。**SK183 の出土遺物**は、359・360が土師器糸切り底の坏、363・364は糸切り底の皿、362は中国白磁碗、365は瓦質土器の摺鉢である。**SK184 の出土遺物**の内、366は土師器糸切り底の皿、367は坏、368は中国白磁皿、369～373は白磁碗で、371は越州窯系の青磁碗である。374は緑釉陶器の壺で、外底に花押状の墨書がある。375は中国白磁小碗で、外底に「周倆」の墨書がある。**SK186 の出土遺物**は、376が須恵器赤焼け土器の皿、377は土師器甕、378は、背部が格子目叩きの平瓦である。**SK189 の出土遺物**は、379がヘラ切りの底の土師器皿、380・381が中国白磁碗、382が白磁皿、383は背部が格子目叩きの丸瓦、385は平瓦、384は長方形の瓦塼である。**SK195 の出土遺物**は、386が糸切り底の土師器坏、387が皿、388・389が中国白磁碗、390は陶器捏鉢である。**SK197 の出土遺物**は、391が瓦器椀、392が土師器糸切り底の坏、393・394は中国白磁碗である。**SK201 の出土遺物**は、395が須恵器蓋、396は坏である。**SK202 の出土遺物**は、397が瓦器皿、398は瓦器椀、399は中国白磁皿、400は白磁碗である。**SK203 の出土遺物**には、401の背部が格子目叩きの平瓦がある。**SK208 の出土遺物**は、402が土師器糸切り底皿、403・405は中国白磁碗、406は白磁小碗、408は須恵器坏、409は国産染付皿、410は肥前陶器碗、404は陶器碗、407は陶器壺、411は国産の陶器摺鉢である。**SK216 の出土遺物**の内、412は土師器糸切り底の皿、413・414は坏で、413の内底には渦巻状の水引痕がある。415は内黒土器、416は越州窯系青磁碗、417は同安窯系青磁碗、418は白磁碗、419は白磁皿、420は瓦片を転用した泥メンコ、421は土師質土器の鉢である。

(5)　炉跡・構造物 (Fig. 58・59)

いずれも近世の炉跡であるが用途については **SX64** が竈突(くど)、**SX11** が鍛治炉と考えられる。



第70次調査出土緑釉陶器・越州窯系青磁　※数字は実測図の番号に一致する

SX01　北側の境界地にあるため規模・構造は不明である。当初はSX02に連続する遺構と考えていたが、完掘状況から別個の遺構であると判断した。平面形は不整形で最大長330cmを測る。遺物には中国陶磁器の他、国産陶器、瓦類が出土した。

SX02（Fig. 58）　北側の境界地にあるため、規模は不明である。石垣積みの溜桝である。今回検出した部分は北側の一辺に相当し、石垣の裏側を検出した。石垣面を出しているのは一部分だけであった。石垣は長さ40～70cm大の石を積んでおり、２段分が遺存していた。裏込めには15～45cm大の礫を用いている。元来、石垣の高さは180cm以上まで築かれていたと考えられるが、溜桝の廃棄に伴い石材を抜いたものと考えられる。石垣の現存長5.7cmを測る。遺物は土師器皿、伊万里焼皿・碗、瓦類、石塔など出土した。

SX11（Fig. 58）　切り合い関係が不明な部分もあって、形状については若干問題も残る。上部は削平を受けている。平面形は隅丸長方形を呈し、長さ325cm、深さ95cmを測る。北側隅に別の土壙が切り合っている。壙底の西側に長さ30～62cm大の石が据えられており、これが、炉壁の基礎をなすものと考えられる。基礎石の上に厚さ約50cmの炉壁を築いている。炉壁は瓦を多量に用いているが、その他に礫や陶磁器などを混入させて緩和材としている。炉壁は南側の一部しか遺存しておらず、高さは130cmを測る。炉の復原内径は約120cm、外径は180～230cm、深さ115cmを測る。遺物は瓦類の他、土師器、土師質土器、瓦質土器、中国陶磁器、国産染付、七輪、鉄滓が出土している。

SX64（Fig. 59）　溝SD01・02を切っているが、遺構面において形状を把握することが不可能であった。不整形の土壙内に炉が２基が並んで構築されている。土壙の最大長は300cm、深さ約30cmである。西側の１号炉は、平面形が隅丸長方形で、炉内部の形状も同じである。長さ110cm、幅70cm、炉の内法は長さ100cm、幅35cmである。粘土壁の厚さは10～20cmを測る。焚口は北西側である。東側の２号炉の遺存状態は悪い。平面形は隅丸長方形で、焚口は北西側である。現存の長さは120cm、幅110cm、炉の内法は長さ120cm、幅64cm、粘土壁の厚さ30cmを測る。

２基の炉の南側には、10～30cm大の礫と粘土が混在していることから土壙壁との間に礫・瓦混じりの粘土壁が作られており、２基の炉の外護を形成するものと考えられる。

遺物には平瓦・丸瓦の他、硯片、唐津焼摺鉢等が出土している。

SX129（Fig. 58）　SK166を切っている。土壙の上部に礫石積みがある。土壙の平面形は不整円形で、断面形は逆梯形である。長径75cm、深さ18cmを測る。上部の石積みは、20～50cm大の礫を用いており、長さ110cm、幅80cm、高さ25cmの範囲に分布している。遺物は糸切り底の土師器皿・坏、中国白磁、陶器、鉄釘などが出土している。

SX211（Fig. 59）　第１面にて検出した。平面形は不整円形を呈しており、外周に長さ25～35cm大の石を、環状に列べて基礎としている。南側半分の基礎石は欠いている。内径は95cmを測る。この礎石上に炉体を構築する。炉底は長さ80cm、幅65cm、深さ30cmに掘り窪めている。遺物は糸

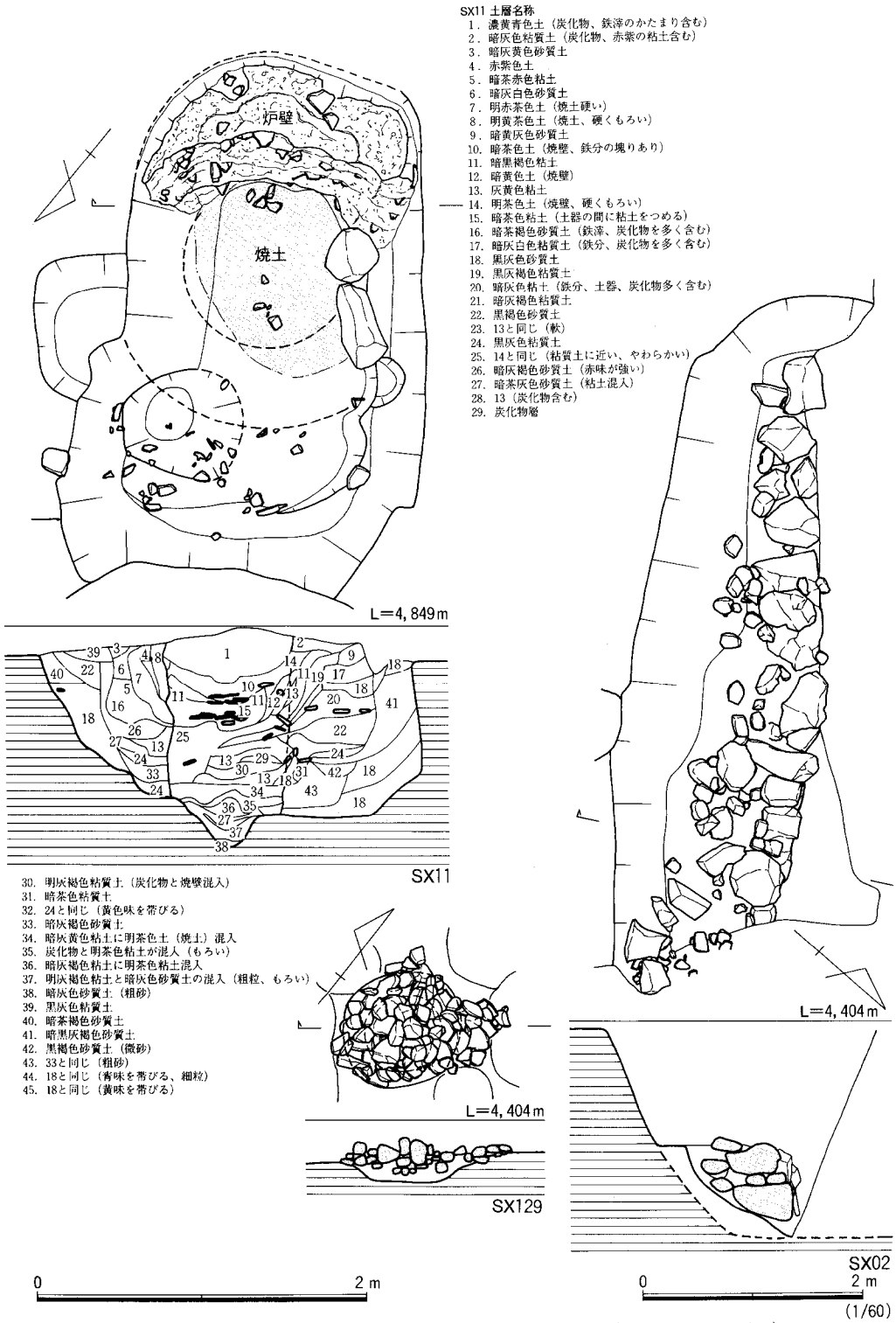


Fig. 58 炉跡 SX 11、溜桝 SX 02、石積遺構 SX 129実測図（縮尺 1/40・1/60）

溜桝 SX 02（東から）

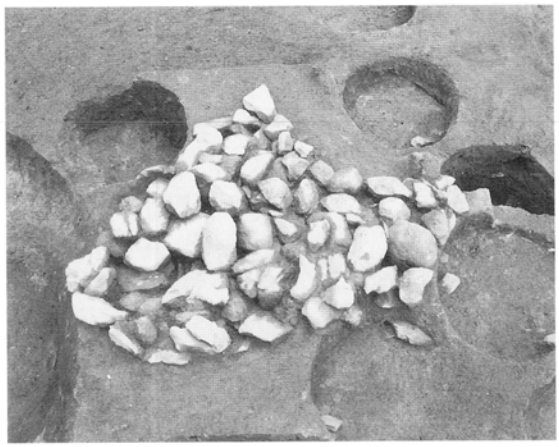
溜桝 SX 02（北から）

鍛冶炉 SX 11（東から）

鍛冶炉 SX 11 土層状態（北から）

炉 SX 64 内の 1 ・ 2 号竈（北から）

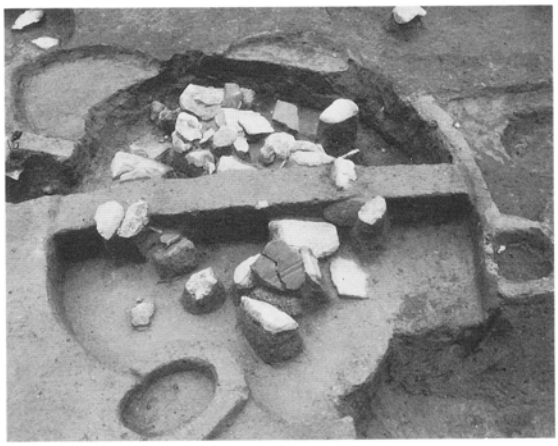
炉 SX 64 内の 2 号竈（北から）



石積遺構 SX 129（南から）

鍛冶炉 SX 211（西から）

土壙墓 SX 20（西から）



土壙墓 SX 24（西から）

土壙墓 SX 24 内遺物出土状態（東から）

土壙墓 SX 24（南から）

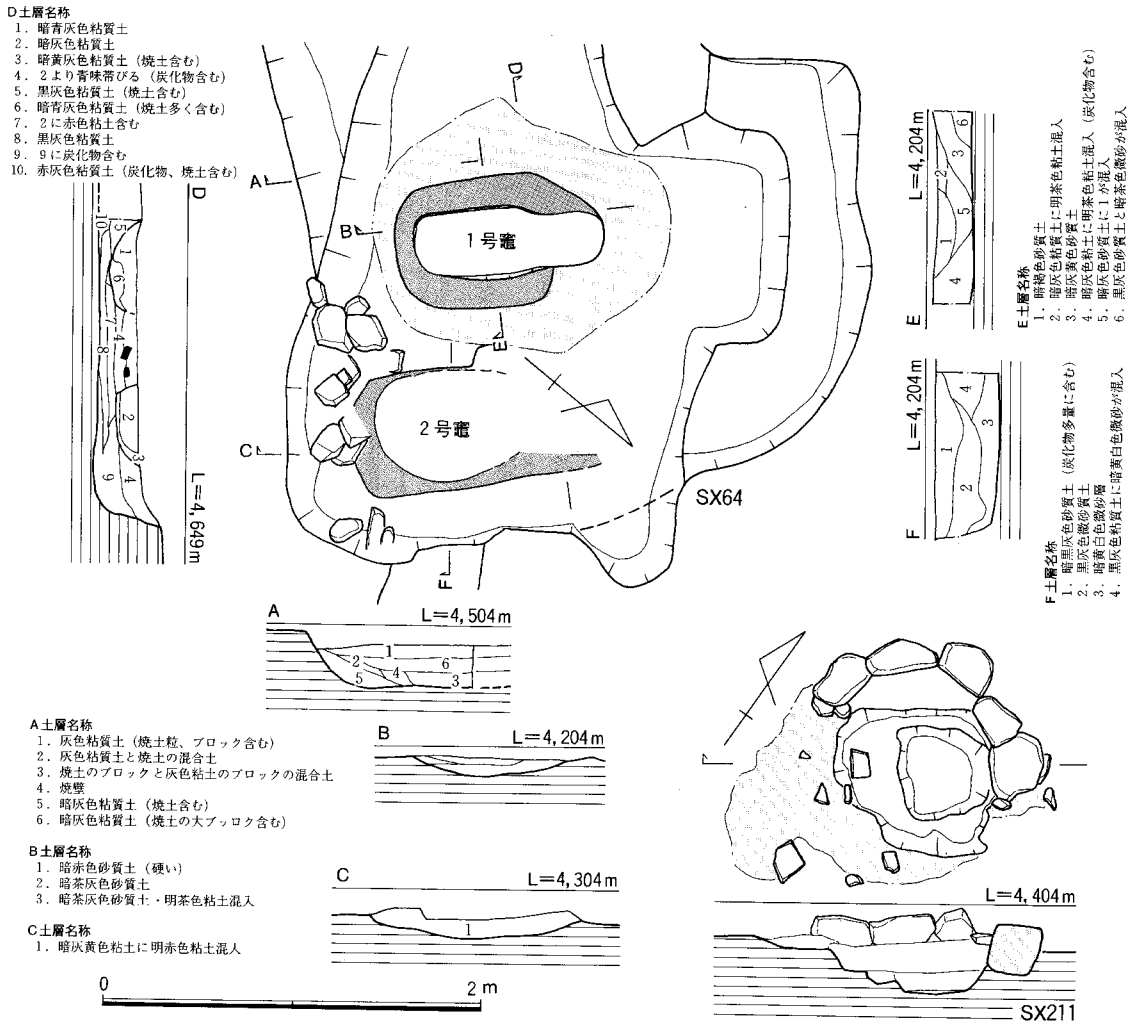


Fig. 59　炉跡 SX 64・SX 211 実測図（縮尺 1/40）

切り底の土師器皿、瓦質土器摺鉢、備前焼摺鉢、格子目叩きの平瓦、中心飾りが梅鉢文の軒平瓦が出土している。

(6)　炉跡・構造物出土遺物（Fig. 60～63）

SX01 の出土遺物は 1・5 は中国白磁碗、2 は白磁台付炉、3 は越州窯系の青磁坏、7・8 は国産陶器碗で、7 は高取焼であろう。6 は唐津刷毛目碗、4 は洛北産の緑釉陶器、9 は急須であろうか、注口部が 2 重になっている。10は鬼瓦の外縁部、11は中心飾りが三巴文の軒丸瓦、12は三葉文を中心飾りにした軒平瓦、13・14は平瓦で、13の谷部には「一郎左衛門カ」の文字がある。**SX02 の出土遺物**は17・22～24は伊万里焼の皿で、23・24には内底部にコンニャク版がある。

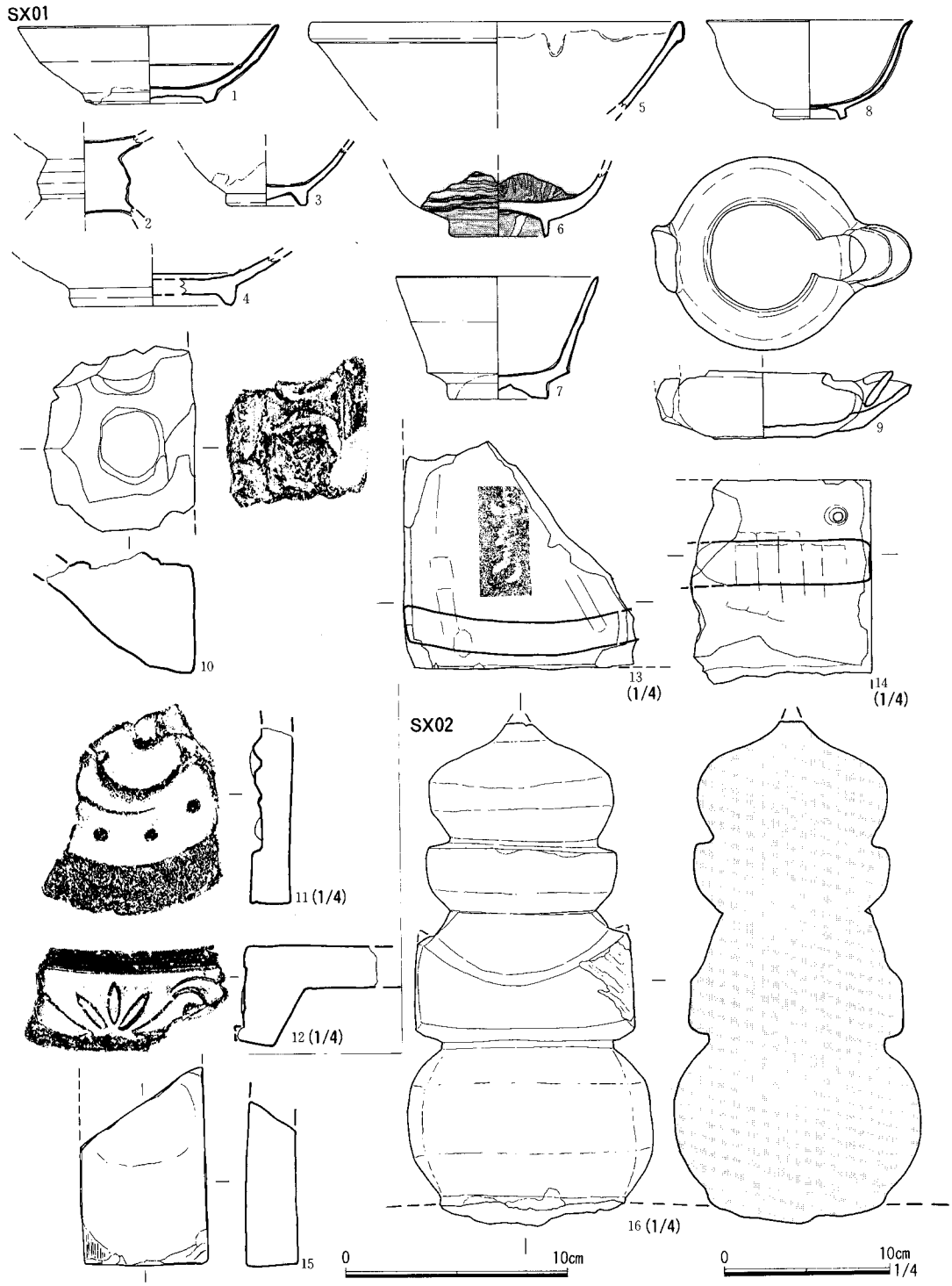


Fig. 60 土壙 SX 01・溜桝 SX 02 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

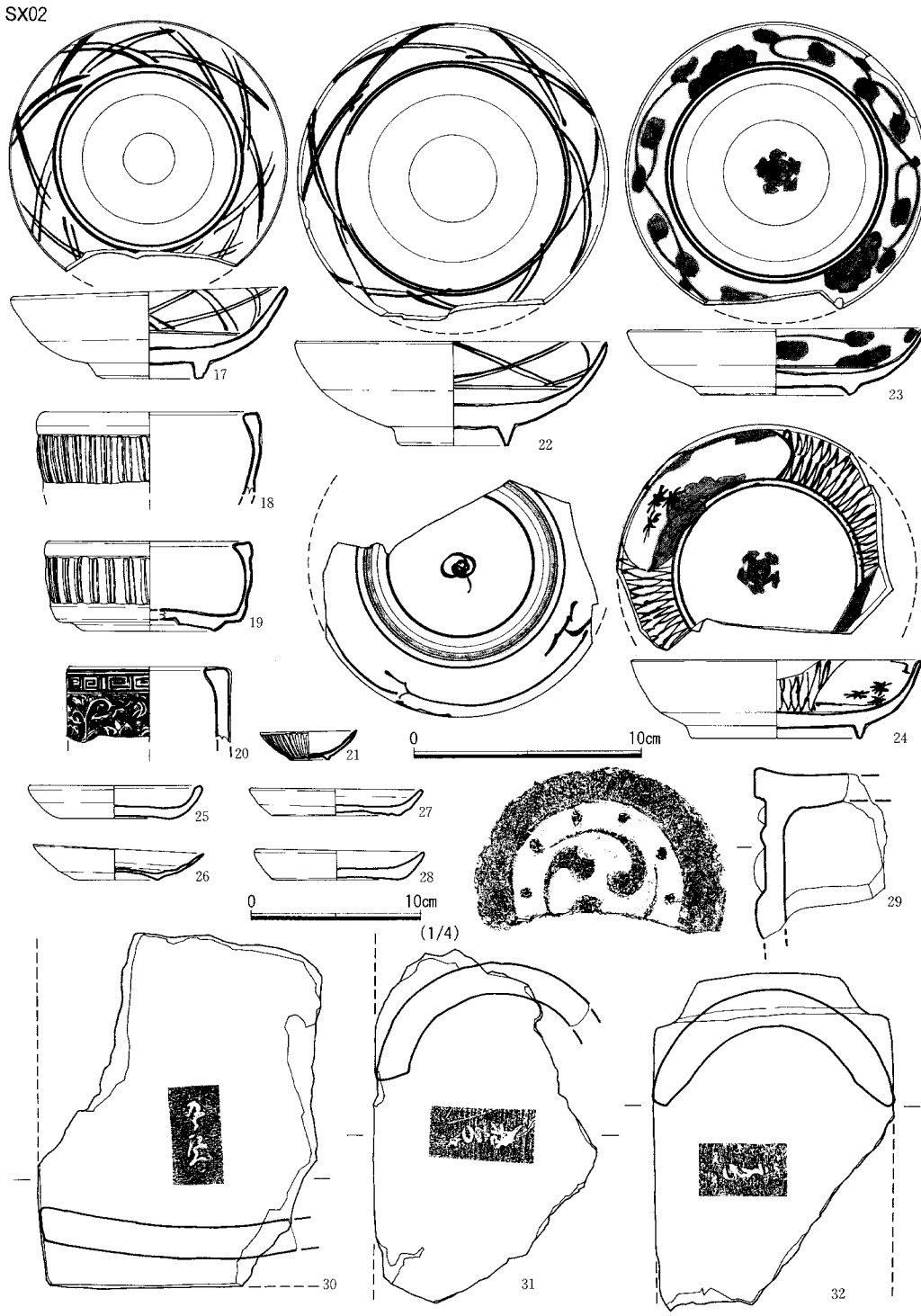


Fig. 61　溜桝 SX 02 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

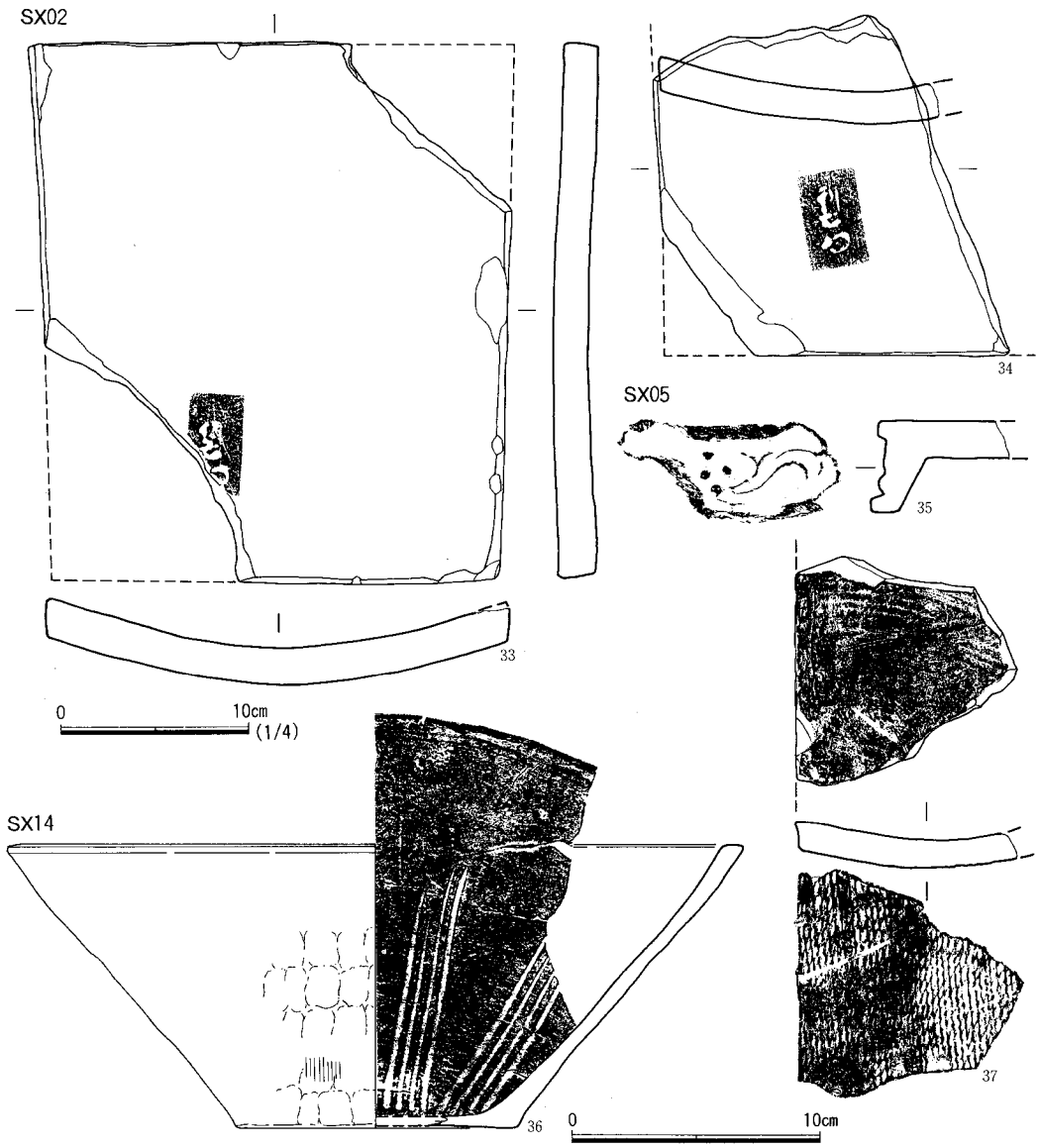


Fig. 62　溜桝 SX 02・14、土壙墓 SX 05 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

18・19・20は伊万里の香炉で、19は白磁、18・20は青磁である。21は紅皿、25～28は土師器糸切り底の皿、29は三巴文の軒丸瓦、30・33・34は平瓦で、谷部に「九郎左衛門」・「利右衛門」のスタンプ文字がある。31・32は丸瓦で、背部に「松右衛門」・「二郎左衛門」のスタンプ文字がある。15は砥石、16は砂岩製の一石五輪塔で、地輪を欠損している。**SX05 の出土遺物**は、35が梅花文

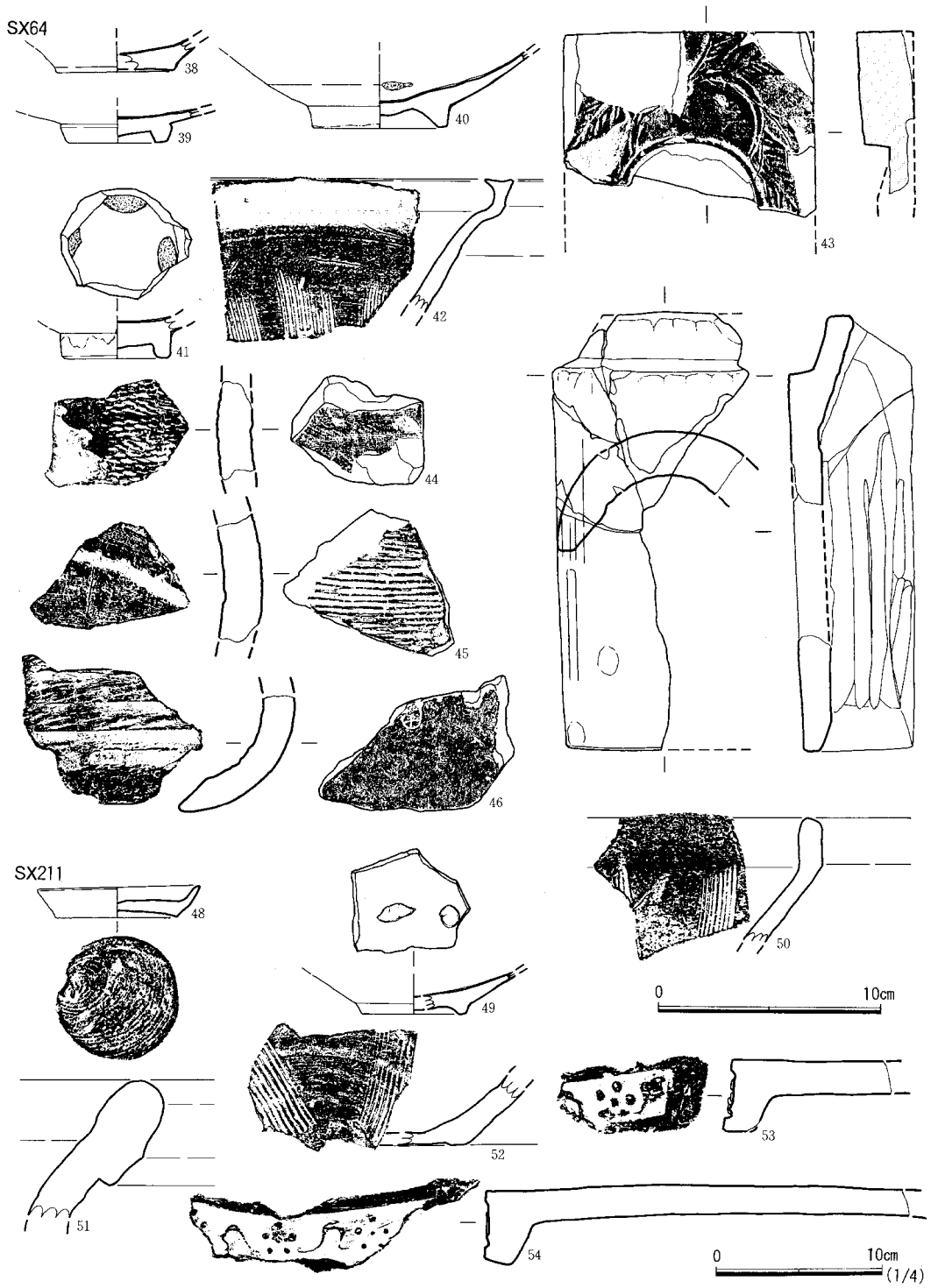


Fig. 63 炉跡 SX 64・211 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

を配した軒平瓦、37は背部が縄目叩きの平瓦である。**SX14 の出土遺物**は36が瓦質土器の摺鉢である。他に三巴文の軒丸瓦がある。**SX64 の出土遺物**は、38が中国青磁碗、39～41が李朝陶器の碗、42は福岡地方の陶器摺鉢、44・45～47は丸瓦で、46の背部に「□平」の印鑑を押している。44の背部は縄目叩きで、45の背部は平行叩きである。43は赤間石の硯で、表面に草木状の文様をあしらう。**SX211 の出土遺物**は、48が土師器糸切り底の皿、49が唐津焼碗、50が瓦質土器の摺鉢、51は備前焼甕、52が備前焼摺鉢、53・54が中心飾りに梅花文を配した軒平瓦である。

(7) 土壙墓 (Fig. 64・65)

SX05 (Fig. 64) 平面形は隅丸長方形を呈している。長さ147cm、幅54cm、深さ40cmを測る。遺物はいずれも細片であるが、鉄釘が出土したため土壙墓とした。

SX20 (Fig. 64) 平面形は隅丸長方形を呈し、断面形は逆梯形を呈している。土壙中位、或いは底面に鉄釘が列状に出土しており、棺桶の位置・大きさを示している。棺の大きさは長さ176cm、幅79cm、深さ22cmの大きさが推定できる。遺物は細片であるが、土師器皿・坏の他、中国青磁、白磁、高麗青磁が出土している。

SX24 (Fig. 64) 平面形は不整の隅丸長方形を呈し、長さ212cm、深さ66cmを測る。断面形は逆梯形状を呈するが、土壙上部に人頭大の礫を投げ入れている。遺物はこの礫中から多量に出土したが、下位からは鉄釘、刀子等が出土するため、土壙墓とした。

遺物には糸切り底の土師器皿・坏、中国白磁、明染付皿、唐津焼皿、瓦質土器摺鉢・火舎、備前摺鉢、軒平瓦がある。

SX39 (Fig. 64) **SK01** に切られている。平面形は隅丸長方形を呈し、幅は83cmを測る。削平が著しく、深さは9cmである。断面形はレンズ状である。

遺物は細片であるが、糸切り底の土師器皿・坏、瓦質土器、中国陶磁器の他、床面から鉄釘が出土している。

SX65 (Fig. 64) **SK51** に切られ、**SK68** を切っている。平面形は隅丸長方形を呈し、現存長140cm、幅131cmを測る。床面から鉄釘が列状に出土しており、木棺の位置を示すものと考えられる。棺桶の規模は、幅48cm、長さ100cm以上が推定できる。遺物はいずれも細片であるが、糸切り底の土師器皿、瓦器椀、鉄釘が出土している。

SX111 (Fig. 64) **SK93** に切られる。平面形は不整の隅丸長方形を呈し、断面形は逆梯形である。長さ192cm、深さ87cmを測る。底面から鉄釘が出土したため土壙墓とした。

遺物は糸切り底の土師器皿・坏、中国白磁碗が出土している。

SX113 (Fig. 64) **SK96** に切られる。東側壁が崩壊しているが、平面形は隅丸長方形を、断面形は逆梯形を呈する。長さは129cm、底面での幅は58cmを測る。

遺物は細片であるが、糸切りの土師器皿・坏、中国白磁、青磁、貨幣、滑石製品、鉄釘等が出

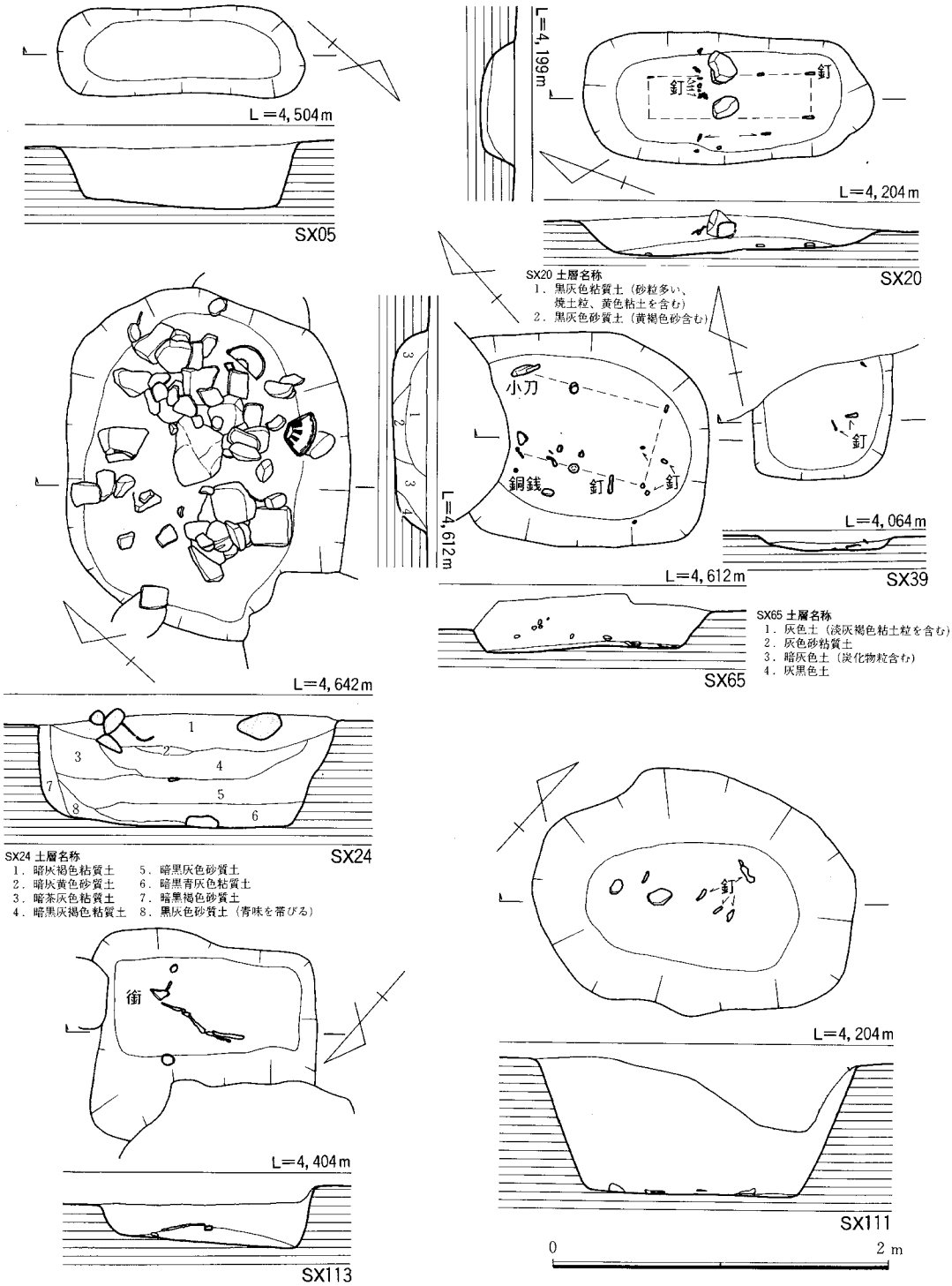
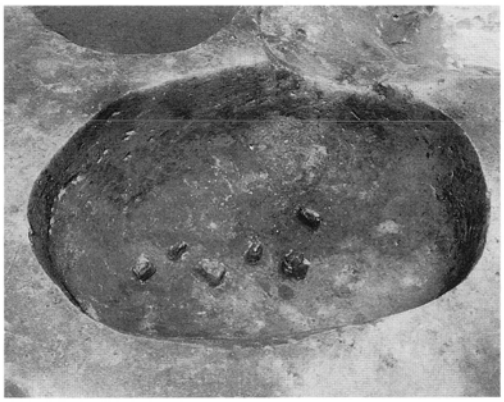
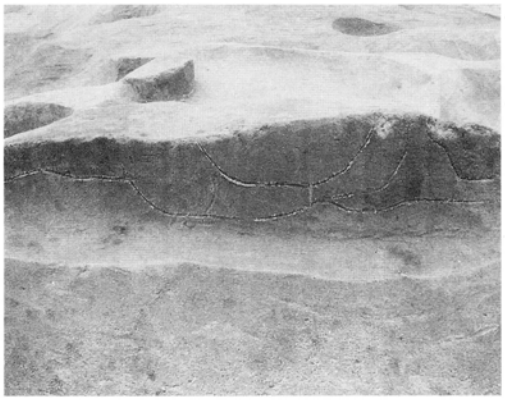


Fig. 64　土壙墓 SX 05～113 実測図（縮尺 1/40）

土壙墓 SX 65（東から）



土壙墓 SX 111（南から）



土壙墓 SX 215 の土層状態

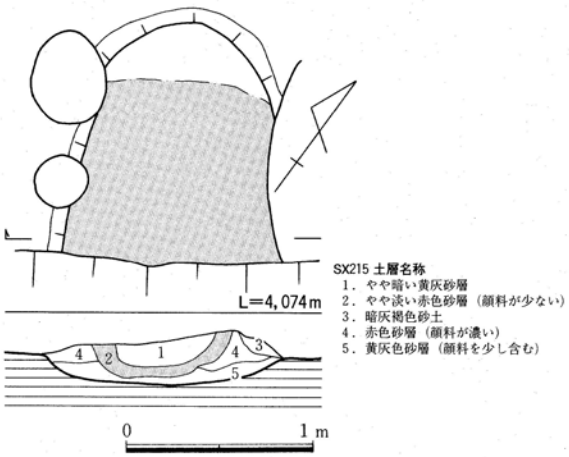


Fig. 65　土壙墓 SX 215 実測図（縮尺 1/40）

土した。

SX215（Fig. 65）　溝 **SD09**・土壙 **SK186** に切られる。表面に赤色顔料が散布していたので、この範囲を土壙と考えたが、平面的には木棺を検出できなかったため、溝 **SD09** によって切られた。断面において確認した。棺は割竹型の木棺墓で、現存長約90㎝、幅75㎝を測る。遺物の出土はないが、博多遺跡の従来からの検出例から古墳時代初頭の時期であろう。

(8)　土壙墓出土遺物（Fig. 66・67）

SX20 の出土遺物は、1・2が土師器糸切り底の皿、3・4 が糸切り底の坏である。**SX24 の出土遺物**は、5・6 が土師器糸切り底の皿、7・8 が糸切り底の坏、9・10は中国白磁碗で、9 は縁辺を整形してメンコ状にしている。11は明代の染付皿、12は染付碗で、外底部に「萬福優同」の呉須文字がある。13は瓦質土器の摺鉢で、口縁端部をつまみ出している。使用による磨滅著しい。14は土師質土器の鉢で、外面上位に爪形文がある。15・16は備前焼で、15は水盤もしくは水指、16は

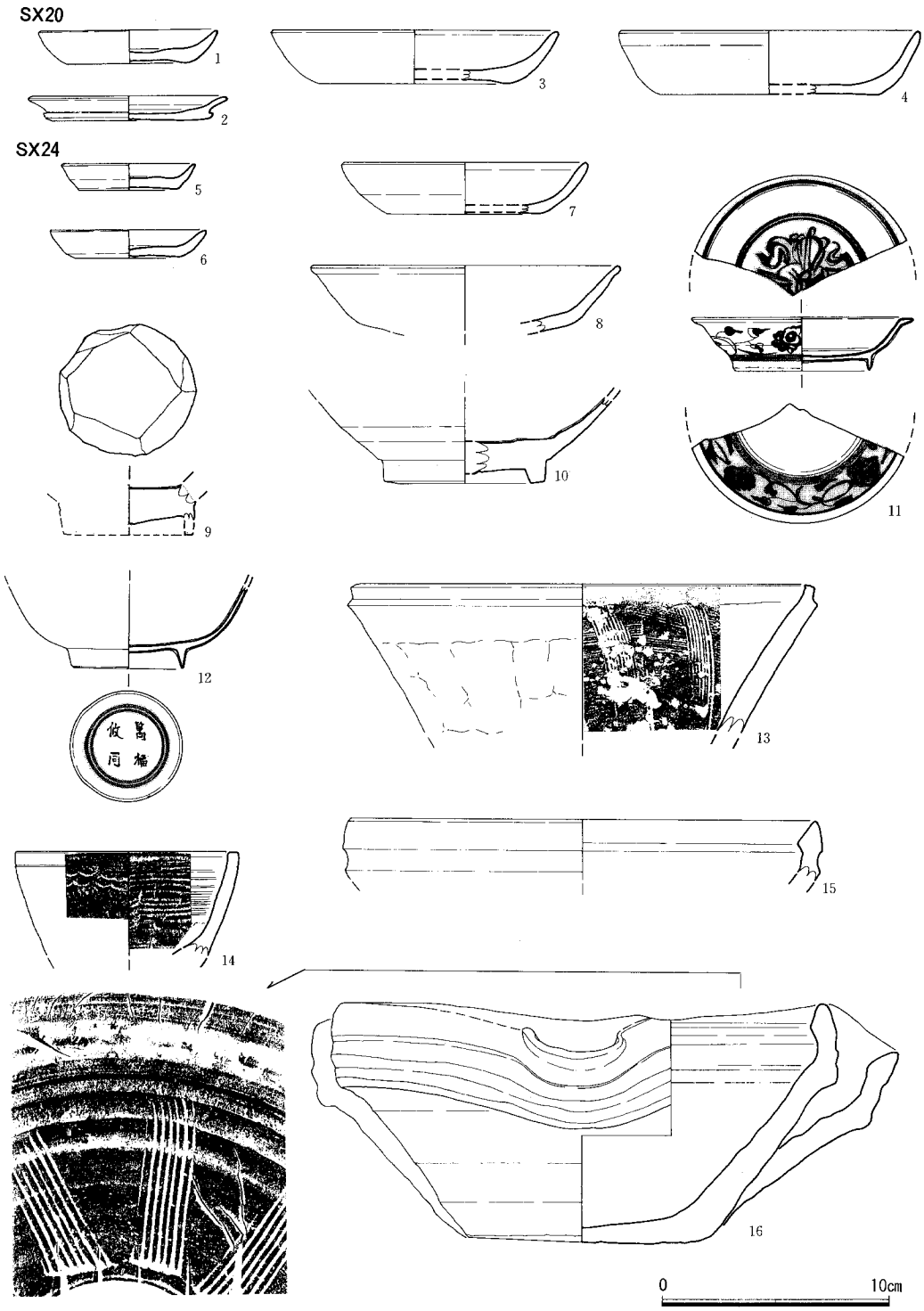


Fig. 66 土壙墓 SX 20・24 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

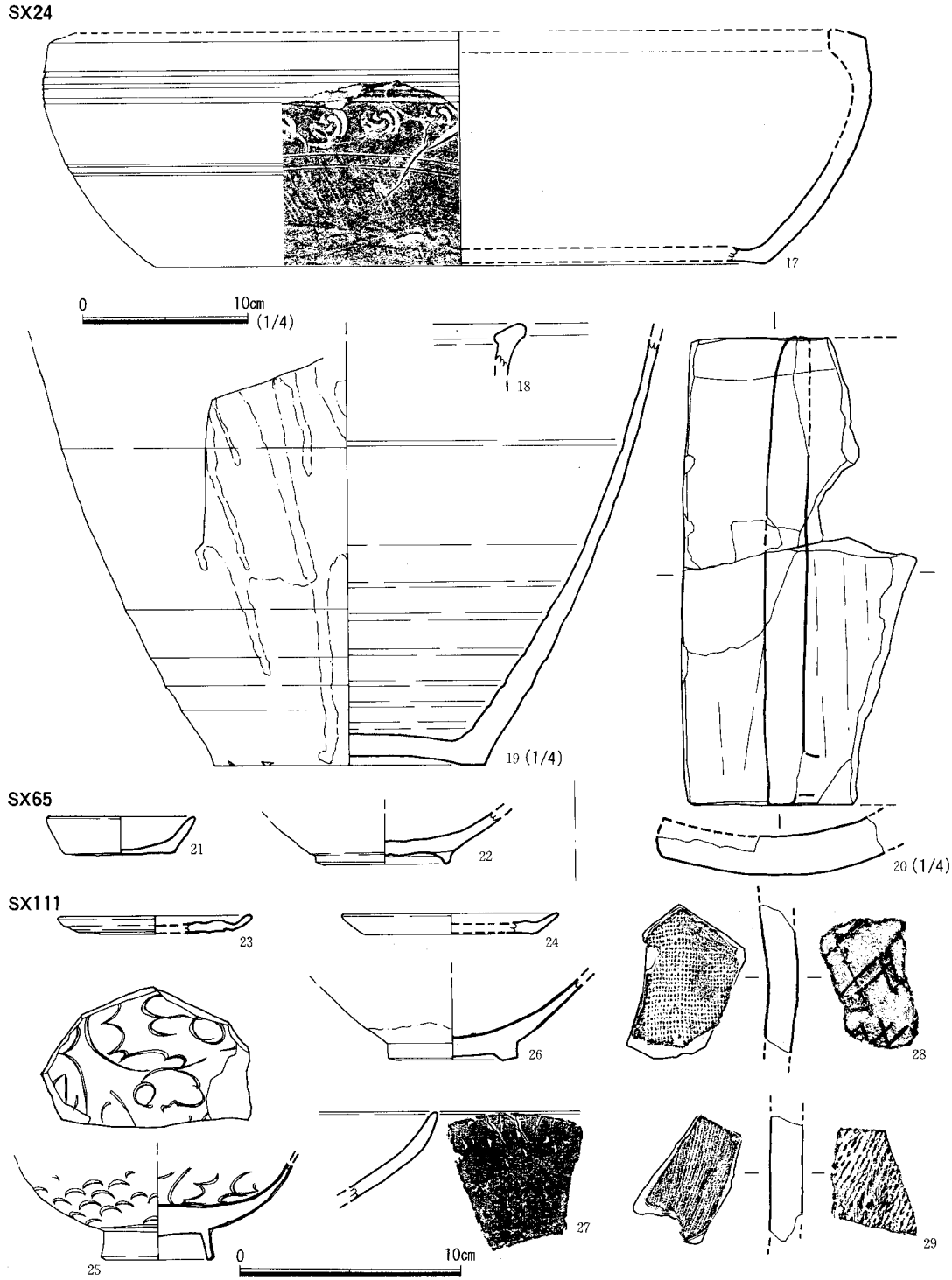
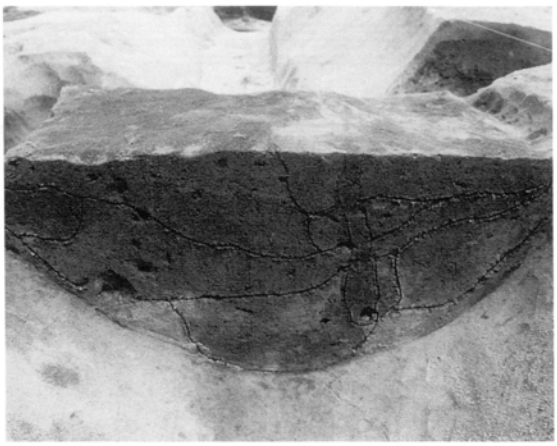
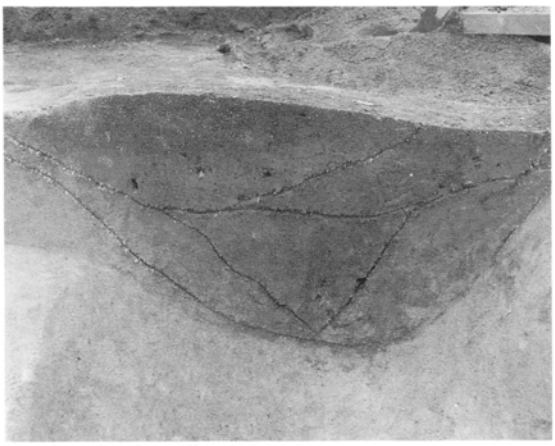


Fig. 67 土壙墓 SX 24～111 出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

溝 SD 02 土層状態（東から）



溝 SD 08 土層状態（北から）



溝 SD 09 土層状態（東から）

溝 SD 150 内「椭田宮」銘瓦出土状態

SP 102 内遺物出土状態（西から）

SP 310 内遺物出土状態（西から）

摺鉢である。17は瓦質土器の火舎で、２次火を受け褐色を呈している。外面に三巴文をスタンプしている。18は中国陶器壺の口縁部、19は中国陶器甕である。20は平瓦である。**SX65 の出土遺物**は、21が土師器糸切り底の皿、22は瓦器椀である。**SX111 の出土遺物**は、23・24が糸切り底の土師器皿、27は瓦質土器の鉢で、外面に爪形文がある。弥生土器の可能性がある。26は中国白磁碗、25が青磁碗、28・29は平瓦で、28の背部は格子目叩き、29は平行叩きで、谷部は糸切り痕が残る。

(9)　溝 (Fig. 68)

奈良時代～江戸時代の溝を10条検出した。SD01～07 は第１面、SD08・09・150 は第３面で検出した。

SD01　東西方向の溝で、SD02 と切り合う。溝幅は75cmを測り、断面形は逆梯形を呈する。遺物には、土師器皿・坏、中国陶磁器、国産陶器が出土している。

SD02 (Fig. 68)　溝 SD01 と切り合う。東西方向の溝で、断面形は逆梯形を呈する。遺物には、中国白磁碗、伊万里染付皿、瓦質土器、摺鉢、平瓦等が出土している。

SD03・04 (Fig. 68)　南側境界地にあるため、規模、及び切合い関係など不明である。緑釉陶器、瓦質土器、中国青磁、白磁、備前焼等が出土した。

SD05　削平のため規模不明。東西方向の溝で、現存幅72cmを測る。中国陶磁器、瓦器片、土師器皿・坏、瓦などが出土した。

SD06　溝 SD01・02 の延長線上に位置するため、同一溝と考えられる。削平のため、規模不明である。伊万里赤絵片等が出土した。

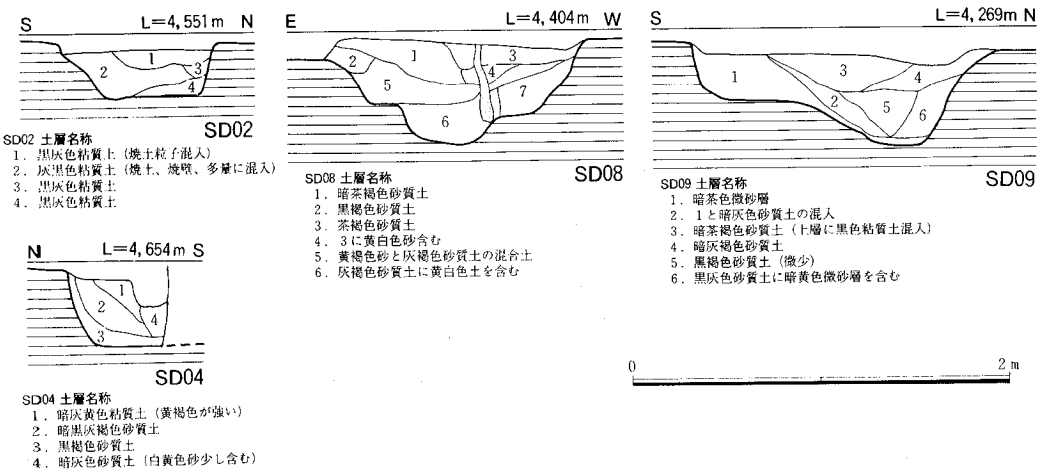


Fig. 68　溝 SD 02～09 実測図（縮尺 1/40）

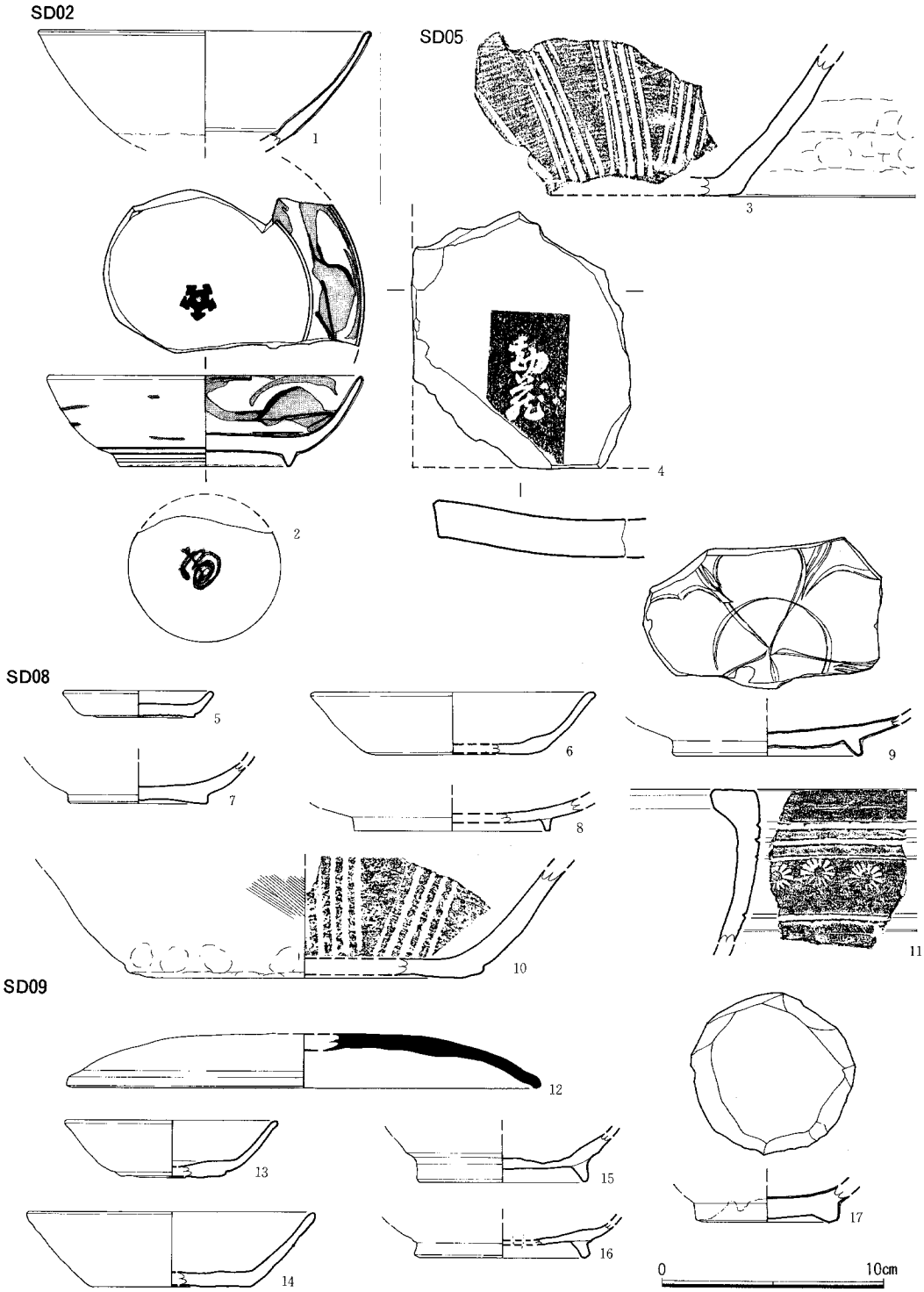


Fig. 69 溝 SD 02～09 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

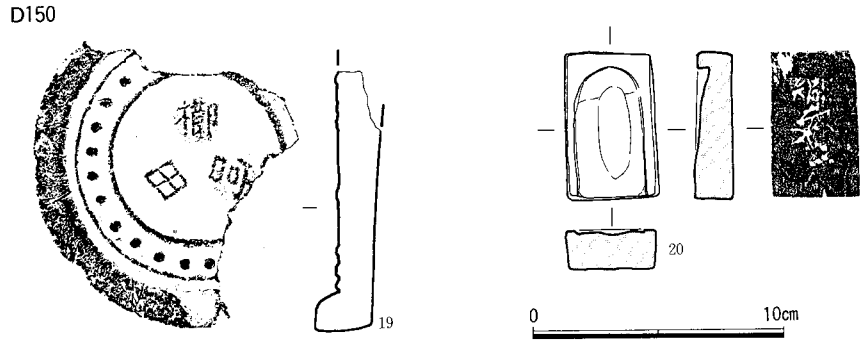


Fig. 70 溝 SD 150 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

SD07　東西方向の溝で、SD01・02 に平行している。西側は近世遺構の切り合い関係が著しく、把握できなかった。遺物には、中国陶磁器、明染付、糸切り底の土師器皿・坏、丸瓦等が出土した。

SD08（Fig. 68）　南北方向の溝で、南側は近世遺構のため把握できなかった。溝の断面形は不整な箱薬研堀である。溝幅は155cmを測る。遺物は土師器糸切り底の皿・坏、長門産緑釉陶器、越州窯系青磁蓮花文皿、土師質土器摺鉢、瓦質土器火舎等が出土した。

SD09（Fig. 68）　東西方向の溝で、溝 SD07 に重複している。SD07 同様に SD01・02 に平行している。溝の南側壁は２段掘りになっているので、溝が切り合っている可能性がある。溝幅は135cm、深さ54cmを測る。遺物は土師器ヘラ切り底の坏・椀、須恵器赤焼け土器、中国白磁碗を加工した泥メンコ等が出土した。

SD150　東西方向の溝で、溝 SD09 の南側に位置している。溝幅は35cm、深さ30cmを測る。遺物には土師器皿、中国陶磁器、滑石製小型硯、「櫛田宮」銘の軒丸瓦が出土した。

(10)　溝出土遺物（Fig. 69・70）

SD02 の出土遺物は、１が中国白磁碗、２は伊万里染付皿で、内底にコンニャク版がある。４は平瓦で、谷部にスタンプの「勘蔵」銘がある。**SD05 の出土遺物**は、３は瓦質土器の摺鉢である。**SD08 の出土遺物**は、５が土師器糸切り皿、６が坏、７・８は緑釉陶器で、長門産であろう。９は越州窯青磁皿で、内面にヘラ描きの蓮花文を描く。10は瓦質土器の摺鉢で、内面に下し目がある。11は瓦質土器の火舎で、外面に菊花文のスタンプがある。**SD09 の出土遺物**は、12は須恵器の蓋、13は土師器の坏、14は瓦器の坏か。15・16は土師器の椀、17は中国白磁碗で、縁辺を加工して泥メンコ状に成形している。**SD150 の出土遺物**は、土師器皿、内黒土器、中国陶磁器が出土しているが、いずれも細片である。19は「櫛田宮」銘の軒丸瓦で、内区と外区に圏線を施し、その間に珠文を貼り付けている。須恵質である。20は滑石製の硯で、長さ６cm、幅3.6cmを測る。良く使用されており、海部と陸部の境は不明瞭である。海部は半円形を呈する。

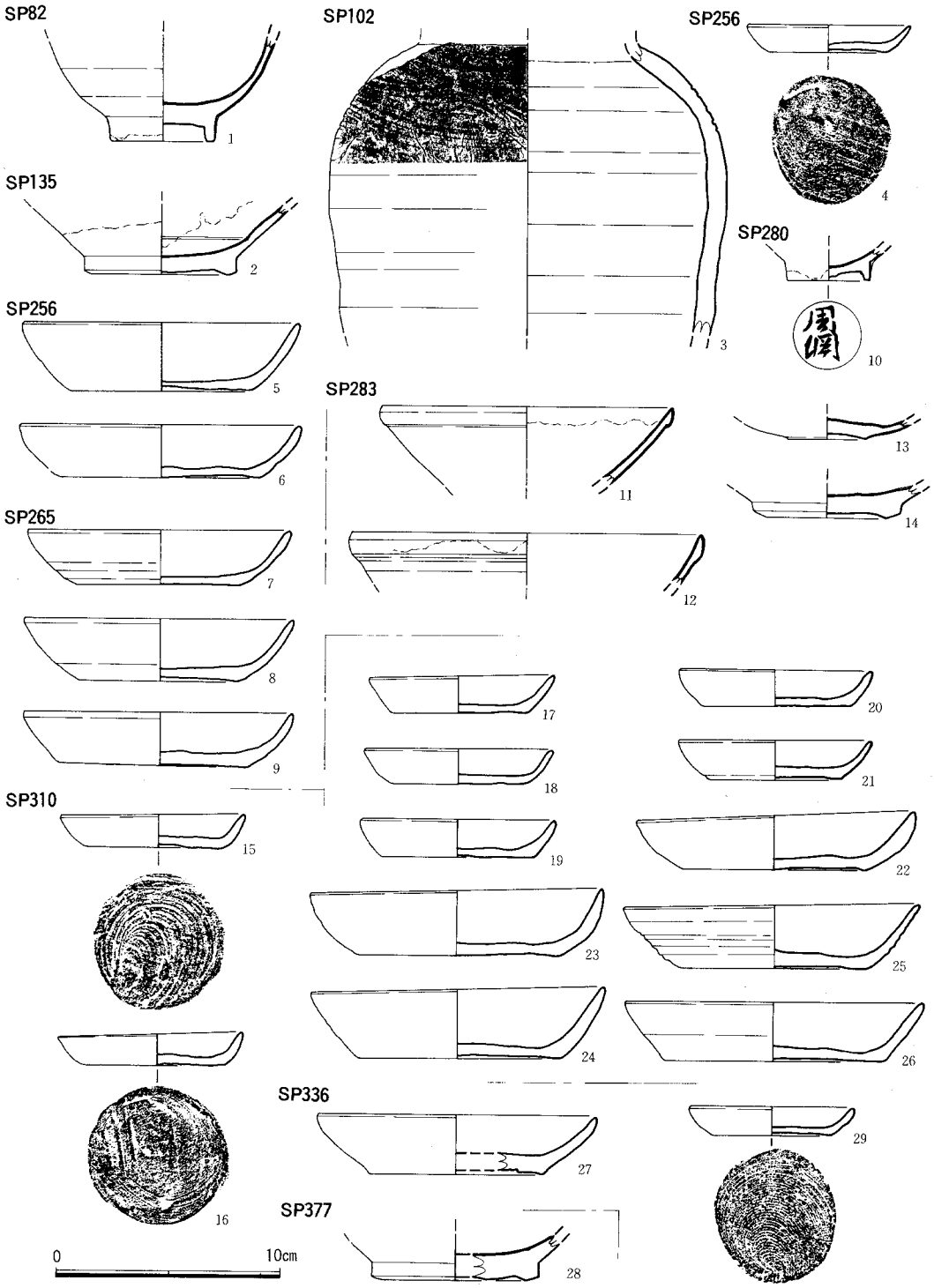


Fig. 71 SP 82～377 出土遺物実測図（縮尺 1/3）

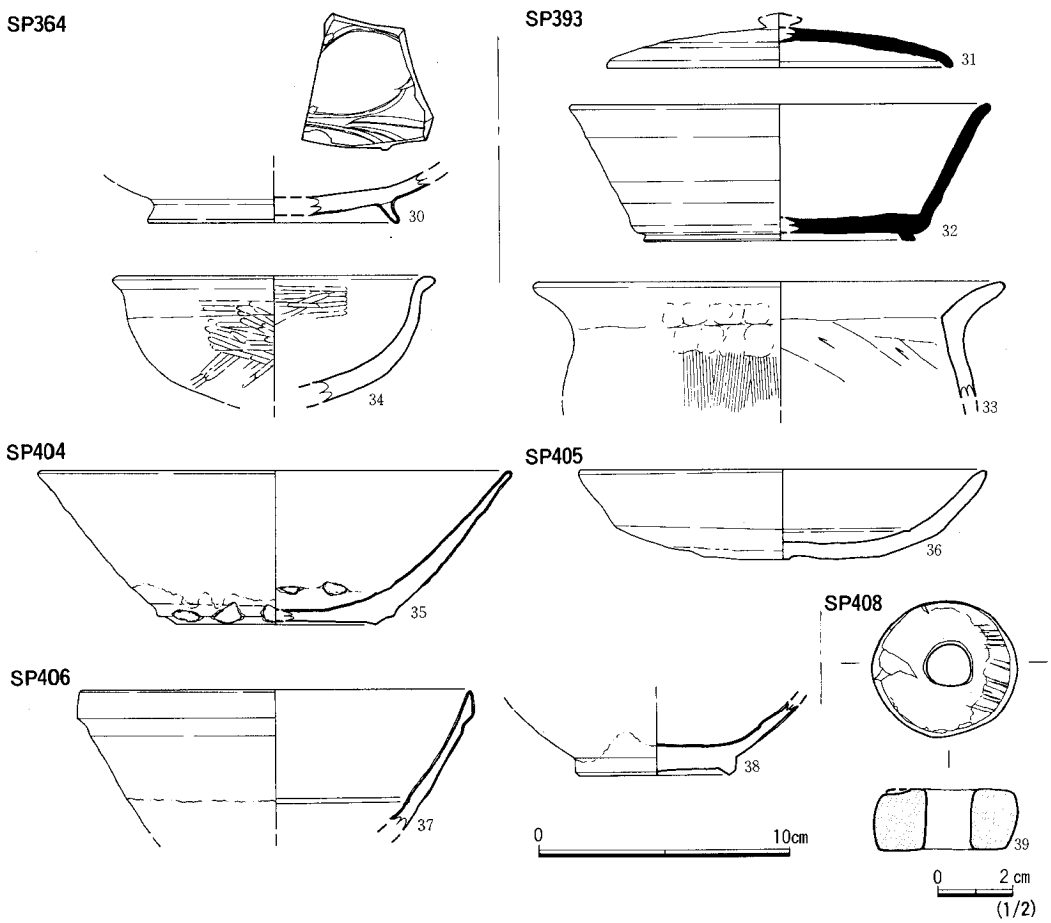


Fig. 72 SP 364～408 出土遺物実測図（縮尺 1/2・1/3）

(11) Pit 遺構 (SP)

柱穴と考えられる。径20～50cmを測る Pit を多数検出した。いずれも柱穴と考えられるが、建物として把握することはできなかった。SP256・265・310 等からは多量の遺物が出土している。Pit の作られた時期は奈良時代から室町時代末までの幅をもっている。

(12) Pit 遺構出土遺物 (Fig. 71・72)

1 は SP82、2 は SP135、3 は SP102、4 ～ 6 は SP256、7 ～ 9 は SP265、10は SP280、11 ～14は SP283、15～26は SP310、27・29は SP336、30は SP364、28は SP377、31～33は SP393、34は SP403、35は SP404、36は SP405、37～39は SP406 からの出土である。

Pit 遺構出土遺物の内、1 は陶器碗で、唐津焼である。2 は中国白磁碗、3 は備前焼壺、4 ～

表土

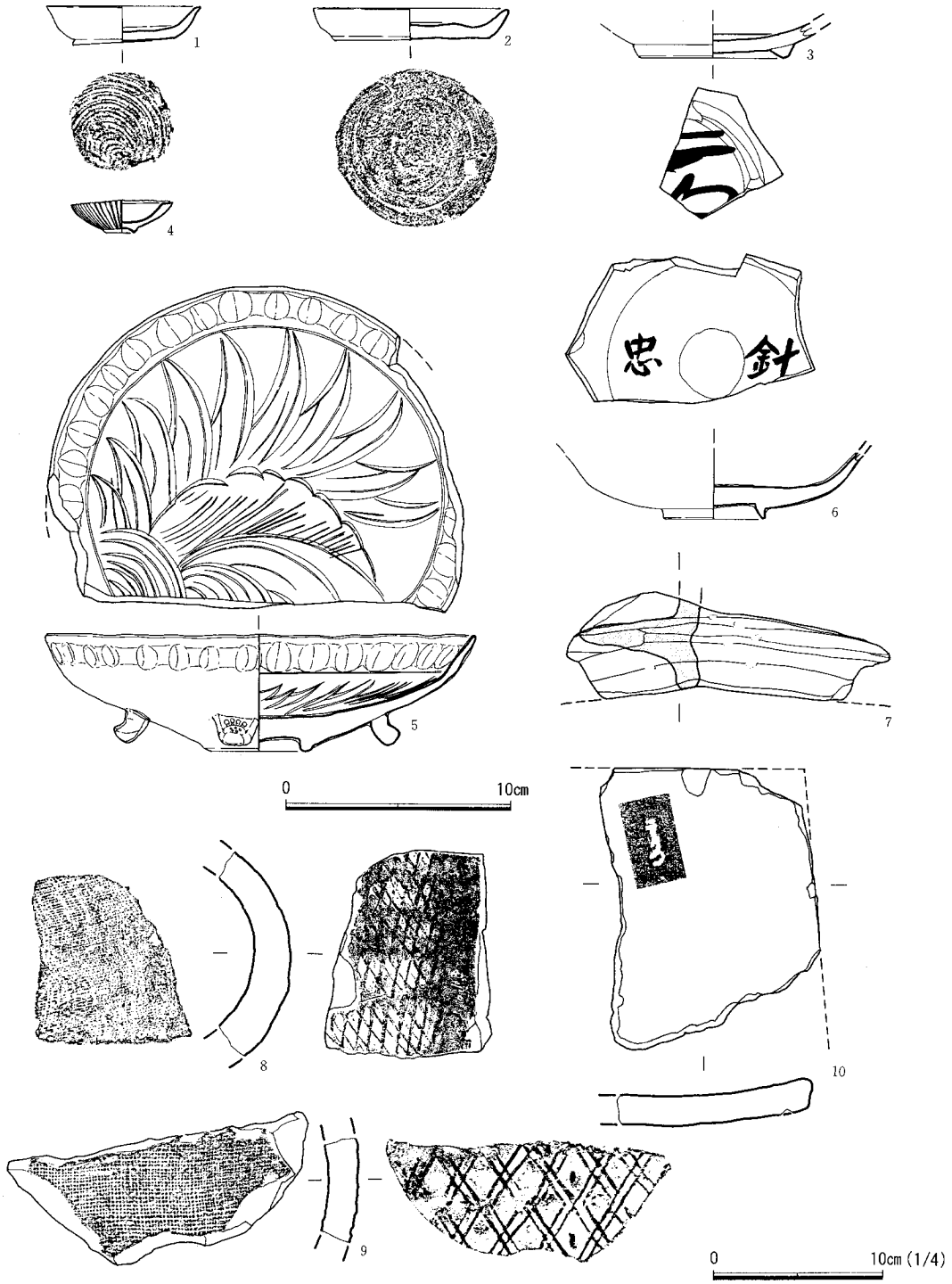


Fig. 73　表土出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）

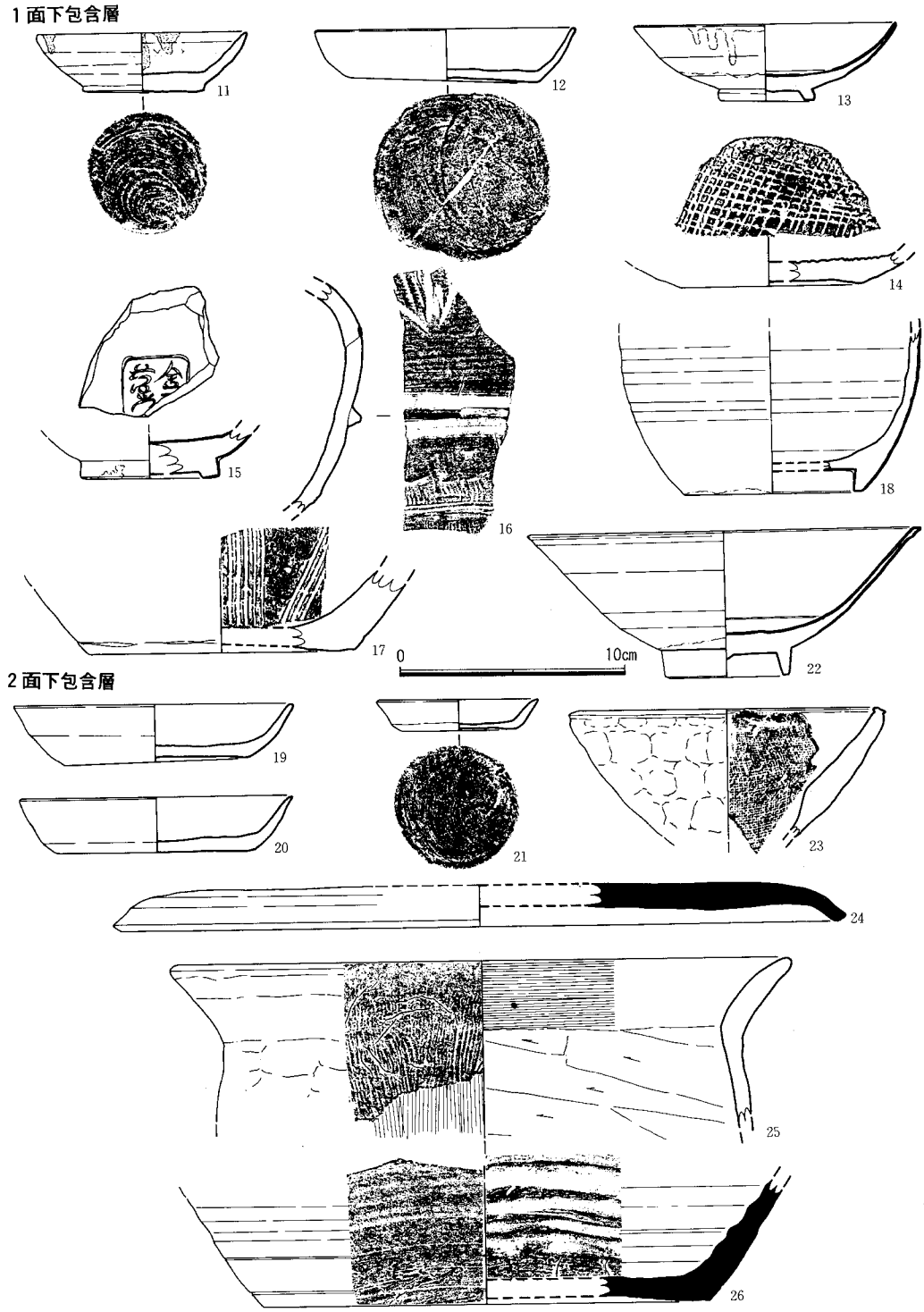


Fig. 74　1面・2面下包含層出土遺物実測図（縮尺 1/3）

3面

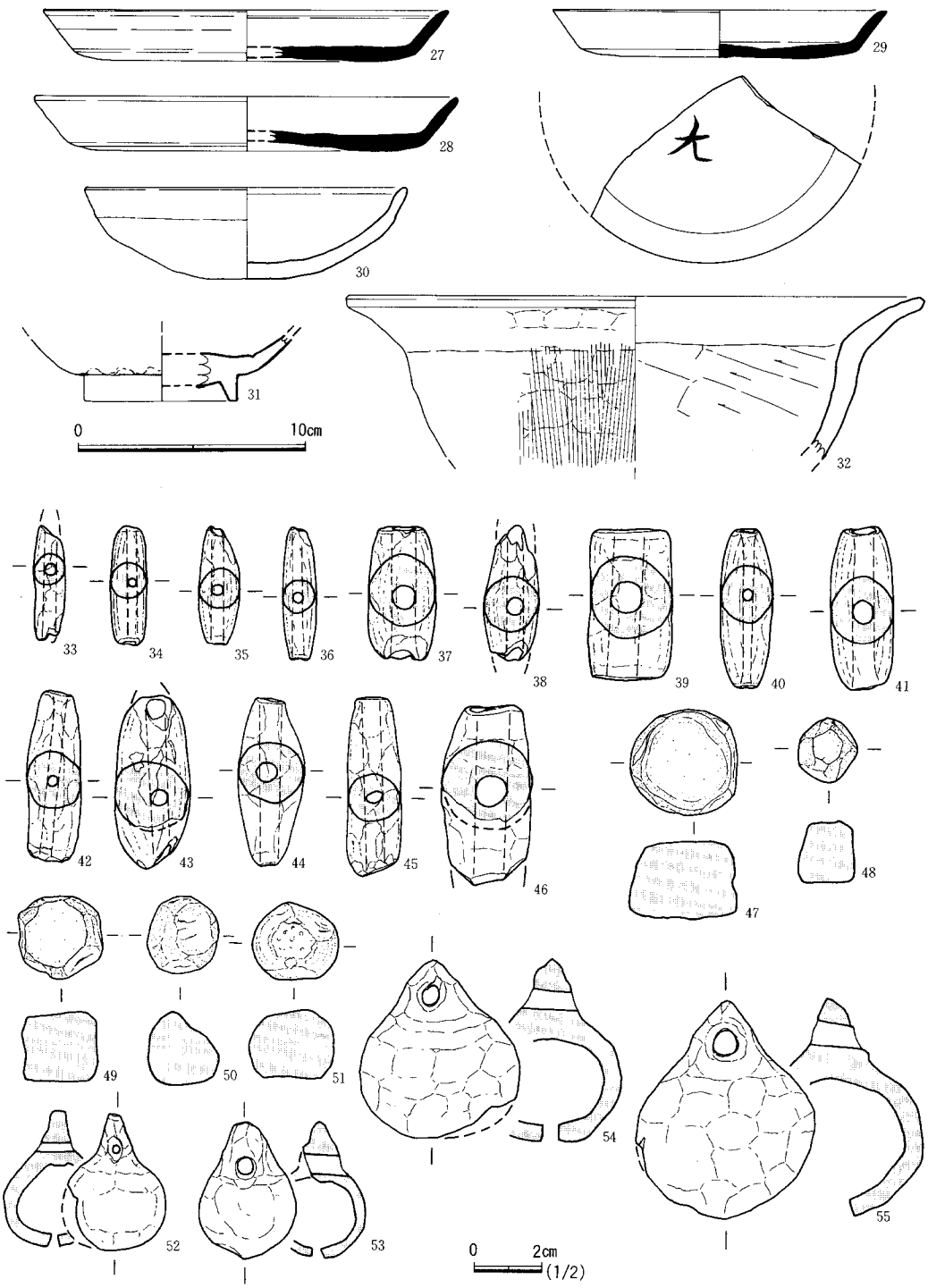


Fig. 75 第3面出土遺物、及び各遺構出土土製品実測図（縮尺 1/2・1/3）

Tab. 1　第70次調査出土土錘・石錘一覧表

挿図番号	遺物番号	出 土 遺 構	長さ(cm)	最大径(cm)	孔径(cm)	重量(g)	備　　考
33	366	SE 90	現存長4.1	1.7	0.45	11.0	
33	371	〃　上層	現存長5.1	2.45	0.8	27.5	
33	367	〃　井戸側	4.7	1.65	0.5	10.5	
33	370	〃　〃	5.3	1.8	0.6	16.0	
33	368	SE 155	4.9	1.95	0.65	19.0	
33	365	〃	3.5	1.1	0.35	3.5	
33	364	SE 155	3.2	1.9	0.6	10.0	
33	372	SE 155 掘り方	5.6	3.1	0.9	43.0	
33	313	SE 188	6.35	1.8	——	19.0	砂岩
33	369	SE 221掘り方	5.3	1.15	0.45	9.0	穴は両方から穿孔
78	33	SK 19	4.9	2.0	0.6	14.5	
78	44	SK 26	3.5	1.0	0.3	3.5	
78	40	SK 31	4.0	2.0	0.75	16.0	
78	46	SK 53	現存長3.5	1.2	0.35	4.0	
78	36	SK 164 B	現存長5.1	1.7	0.3	15.5	
78	31	SK 178 下面	現存長5.1	2.2	0.45	18.5	
78	43	SX 01	4.0	1.0	0.35	3.0	
78	38	〃	4.8	1.8	0.3	12.5	
78	45	SX 65	3.4	0.9	0.45	2.5	
78	41	SD 06	4.5	2.4	0.95	29.5	
78	35	第1面下包含層	4.9	1.9	0.65	15.5	
78	40	第2面下包含層	現存長5.4	2.7	0.9	27.0	
78	39	〃　〃	現存長4.0	1.55	0.5	8.5	
78	37	〃　〃	現存長5.1	1.45	0.55	11.0	

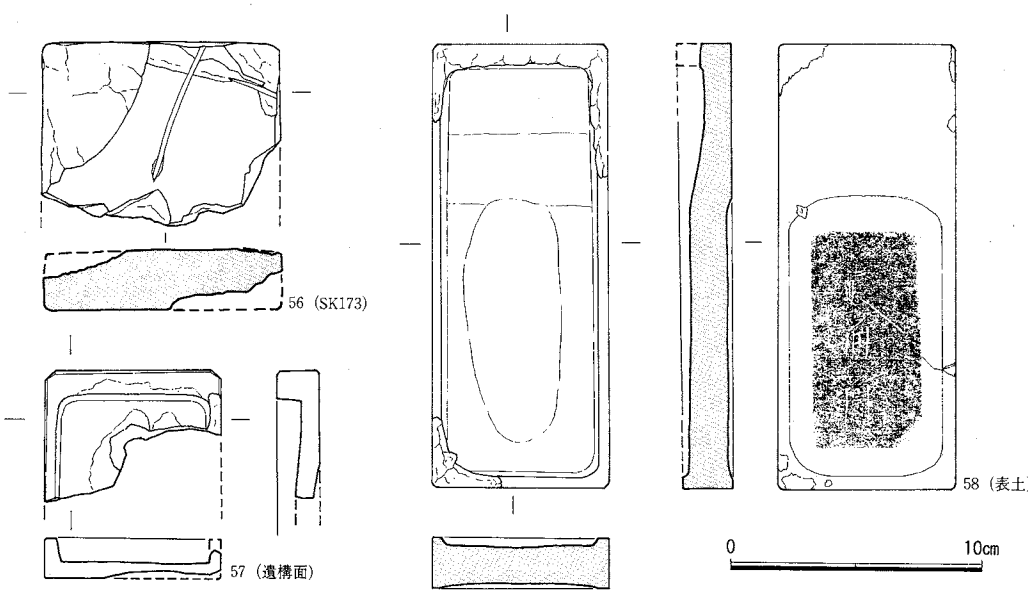


Fig. 76　各遺構出土の硯実測図（縮尺 1/3）

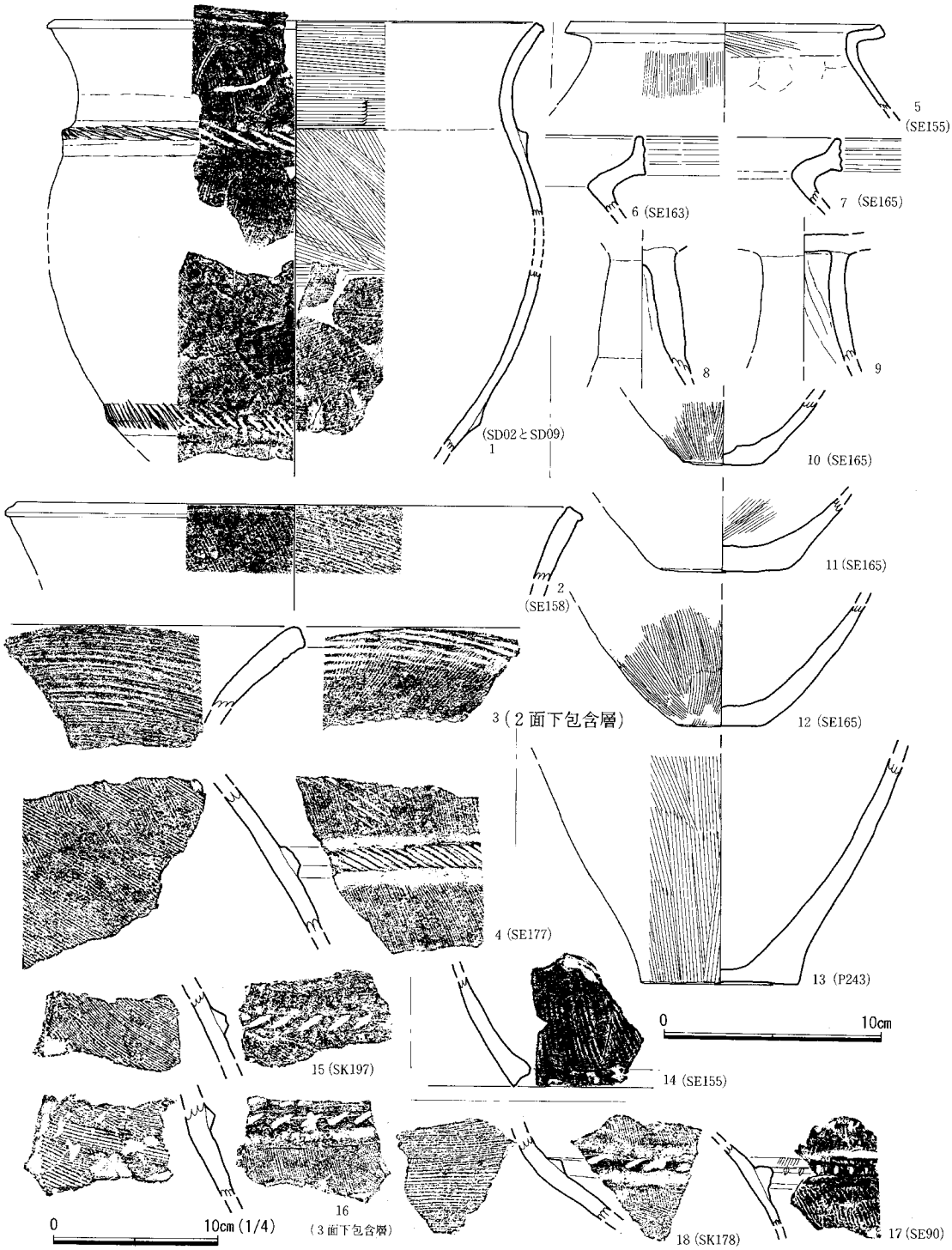


Fig. 77 各遺構出土の弥生式土器・土師器実測図（縮尺 1/3・1/4）

9は糸切り底の皿・坏で、外底部に板目がある。11～14は中国の白磁で、11・12・14は碗、13は皿である。15～21は糸切り底の土師器皿、22～27は糸切り底の坏、29は糸切り底の土師器皿、28は白磁碗である。30は越州窯の青磁皿で、内面に蓮花文を描く。31・32は須恵器で、31は蓋、32は坏である。33は土師器甕、34は土師器椀、35は越州窯青磁碗である。36は土師器の丸底坏である。37・38は白磁碗、39は石製の紡錘車で、直径3.8cm、孔径1.3cmを測る。

(13) 表土・遺構面・包含層出土遺物 (Fig. 73～75)

1～10は**表土**、11～18は**1面下包含層**、19～26は**2面下包含層**、27～32は**3面の遺構面**出土である。

表土出土の遺物は、1・2が糸切り底の土師器皿、3が瓦器椀で、外底に墨書がある。4は伊万里の紅皿である。5は伊万里系の青磁皿、6は伊万里焼の白磁皿で、内底に見込みは釉の掻き取りを行い、「針忠」の墨書がある。7は移動式竈の鍔、8は丸瓦、9・10は平瓦である。8・9は、背部に斜格子目叩きを施す。10は谷部に「二郎左衛門」のスタンプがある。**1面下包含層の出土遺物**には、11・12が糸切り底の土師器坏、13は陶器碗で、福岡地方産であろうか。14は瀬戸・美濃系の下し皿、15は龍泉窯系青磁で、「金玉満堂」のスタンプがある。16は瓦質土器の湯釜、17は陶器の摺鉢、18は国産陶器の壺である。**2面下包含層の出土遺物**は、19・20は糸切り底の土師器坏、21は皿、22は白磁碗、23は焼塩壺、24は須恵器皿、25は土師器甕、26は須恵器の壺で、朝鮮産である。**第3面の出土遺物**は、27～29は須恵器の皿で、29の外底部には「大」字の墨書がある。30は土師器丸底の坏、31は越州窯系青磁碗、32は土師器鉢である。

(14) その他の遺物 (Fig. 75・76)

土製品・石製品 (33～55) 33～46は土製の管状土錘で、計測値は Tab. 1 に示している。52～55は土鈴である。52は **SK51**、53・55は **SX02**、54は**表土**から出土した。47・48は土玉で、瓦を転用・加工している。49～51は石製の玉で、47・48と同様の用い方をしたものと考えられる。50・51は研磨して、丸みをもたせている。56～58は硯で、**PK173**、57は**遺構面**、58は**表土**出土である。56は滑石製、57は瓦製である。58は赤間石の硯で、裏面に「赤間関」の線刻文字がある。56は面取りと、研磨調整が行われているが、最終的に硯に加工されるのか判断できない。

(15) 弥生式土器・土師器 (Fig. 77)

遺構面、及び各遺構に伴って、弥生式土器・土師器片が出土したため一括して報告するが、この時期の遺構は確認できていない。

1～4・14～17は、大型の甕形土器である。頸部と胴部に山形突帯を貼り付け、ヘラによって太い刻目を入れる。外面はタテハケ調整、内面はヨコハケ調整であるが、3・4の外面の一部には

平行タタキ痕がみられる。1は復原口径23cm、現存高68cmを測る。弥生時代終末期の土器である。10～12は甕の底部で、10・12の底径は小さい。13は器台片と考えられる。8・9は高坏の脚部で、8筒部はやや膨らんでいるところから、8は土師器と考えられる。5～7は瀬戸内からの搬入土器で、いずれも口縁部を内傾させ、6・7は口縁端部を上につまみ出して、外面に沈線を施している。

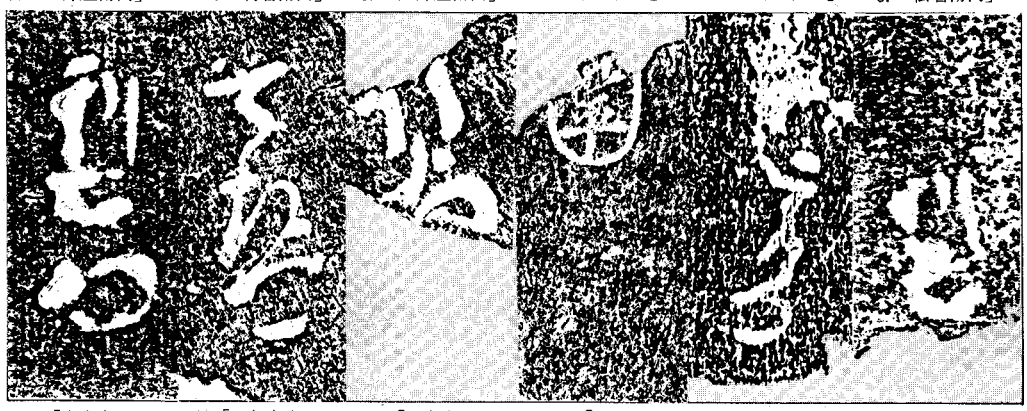
(16) 文字瓦 (Fig. 78)

近世遺構からは、丸瓦・平瓦等が出土したが、これらの瓦には丸瓦の背部や、平瓦の谷部にヘラ描き、又はスタンプによる文字銘が残されていた。ここでは、「今宿……」等の西区今宿において生産された瓦は存在していない。最も多いのが、「利右衛門」次に「二郎左衛門」で、この内「利右衛門」銘は博多68次調査においても出土している。溜桝SX02からは「利右衛門」「九郎左衛門」「二郎左衛門」「松右衛門」銘の瓦が出土しており、同時期に存在した瓦職人と考えられる。「勘蔵」は黒田家の「お連れ衆」である瓦師・山崎権右衛門の二男の市左衛門の4代目に二男勘蔵とある。「圀ヵ平」は同じく、「お連れ衆」の正木伝兵衛の7代目に喜平とある。SX02からは伊万里、唐津系の陶磁器が多量に出土しており、遺構時期は18世紀前半代にあてることができる。又、炉跡SX64は季朝、又は唐津陶器により、17世紀前半代の年代を与えることが可能である。その他、印版には10・18があり、17は記号と考えられる。

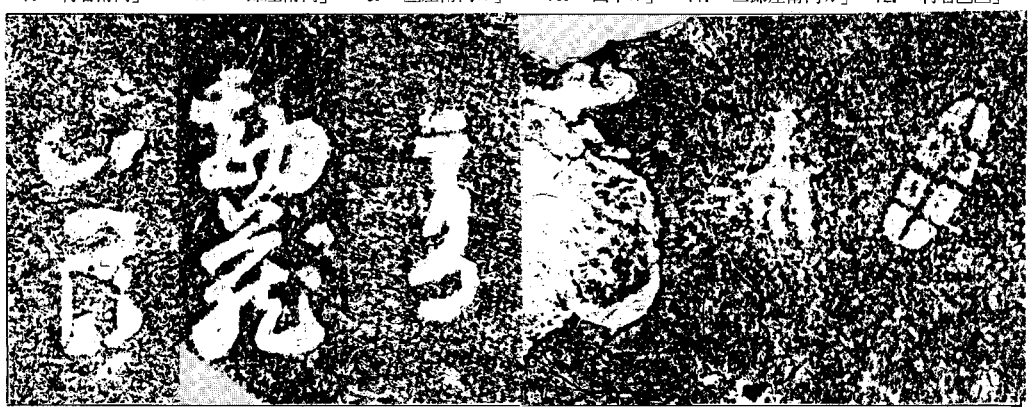
Tab. 2　第70次調査出土鉄製品一覧表

挿図番号	遺物番号	出土遺構	種類	計測値(単位cm) 長さ	幅	厚さ	備考
79	1	SE90	鏃	現存長8.5	0.4	0.6～0.3	
79	2	SE90	鏃	現存長7.4	0.7	0.8～0.2	
79	3	SE90井側内	鏃	現存長8.8	0.3	0.4	
79	4	SE165井側内	鏃	現存長6.4	1.0	1.0～0.7	木質残る
79	5	SE90	鏃	現存長7.0	0.3	0.8	両端開いている
79	6	SE90	鏃	現存長5.5	0.7	0.6	木質残る
79	7	SE90	鏃	現存長5.6	1.2	1.3	
79	8	SE90	鏃	現存長5.3	0.9	1.0～0.4	木質残る
79	9	SX20	鏃	現存長4.5	0.3	0.8～0.4	
79	10	表土	鏃	現存長8.2	0.5	0.6～0.5	
79	11	SX65	鏃	現存長5.8	0.7	0.6	
79	12	SK63	釘	現存長13.2	0.6～0.4	0.6	木質残る
79	13	SK181	釘	現存長12.7	1.7～1.1	1.3～1.0	
79	14	SX20	釘	現存長5.2	1.1～0.5	0.4	先端が曲がっている
79	15	SX20	釘	現存長5.2	0.9～0.6	0.2	先端が曲がっている
79	16	SX20	釘	現存長5.0	0.5・0.4～0.2	0.6	木質残る
79	17	SX02	釘	現存長5.6	0.6	0.7	
79	18	SX20	釘	現存長4.7	0.4	0.5	
79	19	SX20	釘	現存長2.7	0.3	0.3	木質残る
79	20	SX24	釘	現存長3.8	0.5	0.6	曲がっている
79	21	SX24	釘	現存長4.0	0.6～0.3	0.7	曲がっている
79	22	SX39	釘	現存長6.9	0.7～0.3	0.8	曲がっている
79	23	SX65	釘	現存長4.2	0.8・0.4～0.2	0.6	
79	24	SX65	釘	現存長3.1	0.8	0.3	
79	25	SX65	釘	現存長3.1	0.6・0.3～0.2	0.4	曲がっている
79	26	SK63	釘	現存長7.9	1.1	0.6	木質残る
79	27	SK63	釘	現存長8.1	0.7～0.5	0.5	
79	28	SX64	釘	現存長9.5	1.0～0.5	1.2～0.6	
79	29	SX65	釘	現存長8.7	0.8～0.4	0.8～0.5	曲がっている
79	30	SX24	釘	現存長3.0	0.4	0.6	先端部欠損
79	31	SX24	釘	現存長3.5	0.4	0.6	先端部欠損
79	32	SX65	釘	現存長5.1	0.5～0.3	0.6	曲がっている
79	33	SE90	釘	現存長5.6	1.8・1.2～1.0	1.4	
79	34	SD08	釘	現存長5.2	0.5・0.3～0.2	0.5	曲がっている
79	35	調査区北壁	釘	現存長7.9	0.5	0.4	頭部欠損
79	36	Pit	不明	現存長6.4	2.1	0.6	
79	37	SE155井傍内	不明	2.7	1.7	0.4	
79	38	SE155c	不明	現存長2.3	1.8	0.4	曲がっている
79	39	SD02	輪鍔	現存長5.2	径3.6	1.0	
79	40	SX14	鍔	現存長11.9	2.7～1.3	2.2	
79	41	SK148	釘	現存長14.9	0.6	0.9～0.6	屈曲する
79	42	SE206	釘	現存長14.0	0.6	1.0	
79	43	SK168	釘	現存長12.3	0.5～0.2	0.5～0.3	
79	44	SE155	不明	3.1	3.1	0.3	四角の板状
79	45	SX02	不明	現存長5.0	3.3	3.3	
79	46	2面下包含層	不明	現存長4.0	0.6	0.5～0.3	
79	47	不明	不明	現存長14.6	5.0	0.4～0.3	
80	48	SX02	刀子	現存長5.7	2.5	0.5	木質残る
80	49	SK183	刀子	現存長6.3	1.7	0.3	
80	50	SX145	刀子	現存長15.2	1.7	1.1～0.8	

1.「一郎左衛門」　2.「利右衛門」　3.「九郎左衛門」　4.「利右衛門」　5.「二郎左衛門」　6.「松右衛門」



7.「利右衛門」　8.「一郎左衛門」　9.「□左衛門カ」　10.「園平カ」　11.「二郎左衛門カ」　12.「利右□□」



13.「利右衛門」　14.「勘蔵」　15.「二郎左衛門」　16.「一郎左衛門」　17. 記号カ　18. 印版

1. SX01 (平瓦)	2. SX02 (平瓦)	3. SX02 (平瓦)	4. SX02 (平瓦)	5. SX02 (平瓦)	6. SX02 (丸瓦)
7. SX02 (平瓦)	8. SK04 (丸瓦)	9. SK22 (丸瓦)	10. SX64 (丸瓦)	11. SK71 (丸瓦)	12. S211 (平瓦)
13. SX211 (平瓦)	14. S002 (平瓦)	15. 表土 (平瓦)	16. S29 (平瓦)	17. SD03 (平瓦)	18. S03 (平瓦)

Fig. 78　各遺構出土文字瓦拓影　(縮尺 1/1)

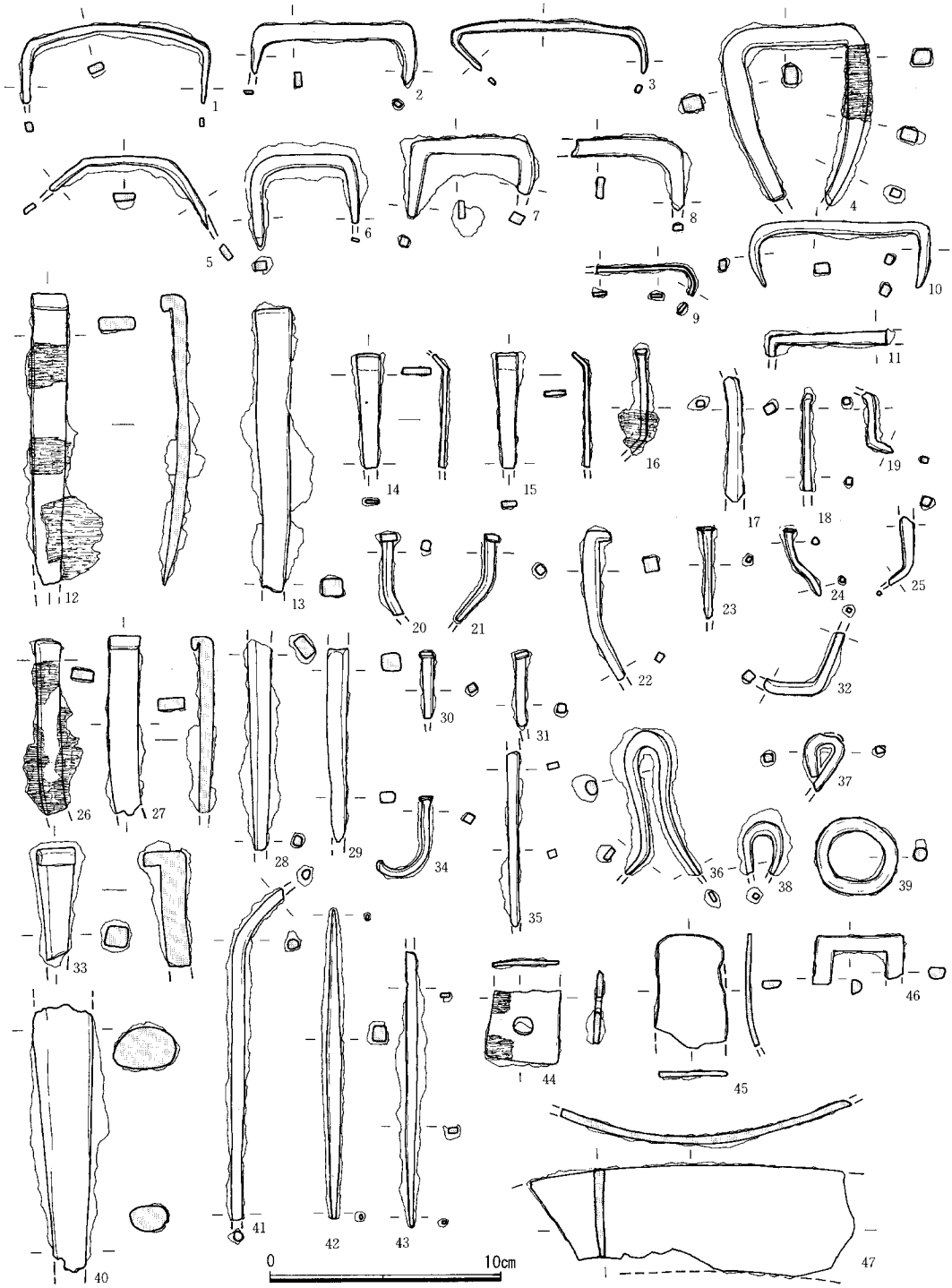


Fig. 79 鉄製品実測図（縮尺 1/3）

Tab. 3　第70次調査ガラス製品・青銅製品一覧表

挿図番号	遺物番号	出土遺構	種類	計測値（単位cm）	備考
80	51	第一面下包含層	鉾	現存長7.1	最大幅1.3、厚さ0.2
80	52	SX02	煙管雁首	現存長6.75	吸口部
80	53	SP08	煙管雁首	現存長6.5、羅宇接合部径0.9	
80	54	SK23	煙管雁首	現存長5.85、羅宇接合部径0.9	
80	55	SX02	煙管雁首	現存長3.0、火皿外径1.5、内径1.2、深さ1.2	火皿部
80	56	SK13	煙管吸口	現存長3.9、羅宇接合部径0.9	
80	57	SE02	煙管吸口	現存長5.6、羅宇接合部径1.0	
80	58	遺構面	煙管吸口	現存長7.0、羅宇接合部径1.0	
80	59	SX02	釘	現存長5.4	
80	60	SX14	支脚状品	現存長4.5	中空であるが穴は砂で塞がっている
80	61	SX65	刀子	現存長9.9cm、身幅最大1.2cm	SX24-1と接合、柄は欠損木製鞘の上に青銅板を巻く
80	62	SE02	錠	長さ5.8、幅2.8	
80	63	SK28	仏具	径3.8、高さ1.3	
80	64	SK23	飾金具	現存長2.9、現存幅1.9	
80	65	SE90	飾金具	長さ4.7、幅1.6	
80	66	SX64	鈴	径2.45、高さ3.0	
80	67	SE90	不明	径1.0、幅0.8	

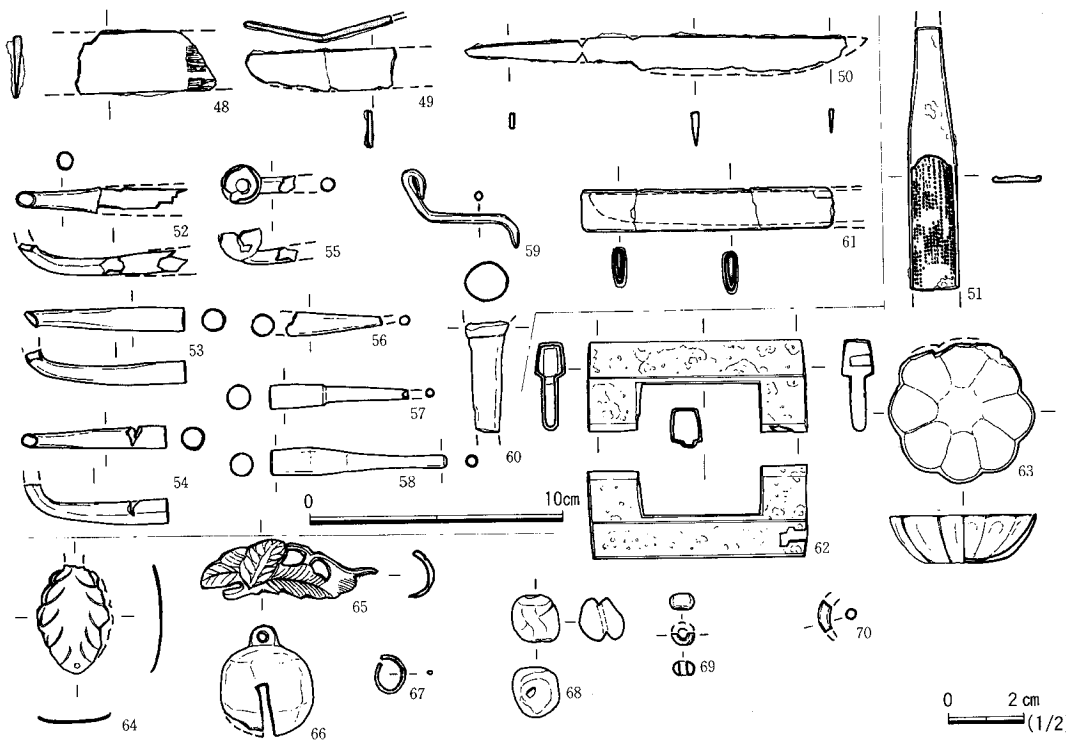
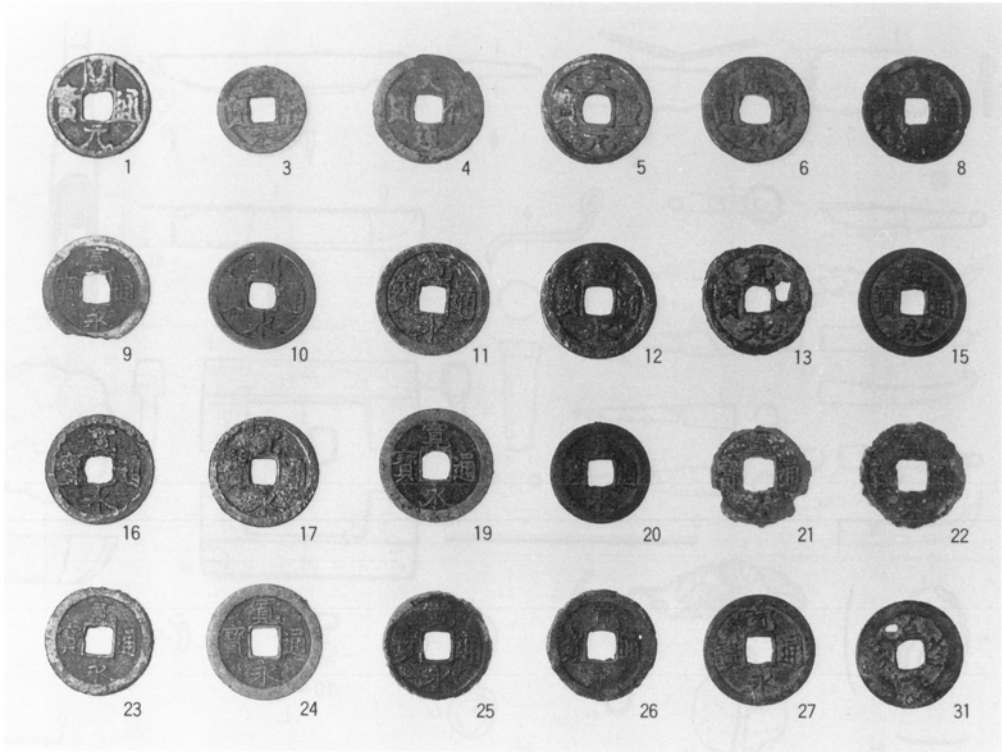


Fig. 80　青銅製品・鉄製品実測図（縮尺 1/2・1/3）

(17)　鉄製品・青銅製品・ガラス製品 (Fig. 79・80)

各遺構から、鉄製品・青銅製品が出土しており、これらの出土地点や製品の大きさについては一覧表にまとめているので、詳細は表を参考にされたい。但し、全てを実測できなかったので、ここでは代表的な遺物だけに限定して掲載している。遺物の内訳は、1～11が鉄製の鏃で、いずれも小型品であるが、特に4は幅が狭い。12～35までが鉄製の釘で、いずれも頭を折り曲げている。SK63・181 出土の12・13は、長さ8.1cmを測る。これらが出土した土壙は江戸時代ではあるが、12は釘の先端まで、横方向の木質が残っており、厚い板材の利用に用いられたものである。36～37は頭部を環状に曲げたもので、用途は不明。36の両先端は尖っており、材に打込んで、環状部を利用したものであろう。42～43はヤス状の棒状鉄器、44・45・47は幅広の鉄板で、用途不明。49・50は鉄製の刀子・小刀で、49は小刀の茎子であろう。50は現存長15.2cmを測る。61は青銅製の刀子で、刀身部は鞘に入っている。鞘は木製の鞘の上から銅板を巻いて仕上げている。52～58は煙管、60は不明、62は青銅製の錠、63は仏具か、64・65は飾り金具、66は青銅製鈴、68～70はガラス玉である。68は2次火のため溶着している。68はダークブルー、69はライトブルー70はライトグリーンで、68は径1.35cm、69は径0.6cmを測る。



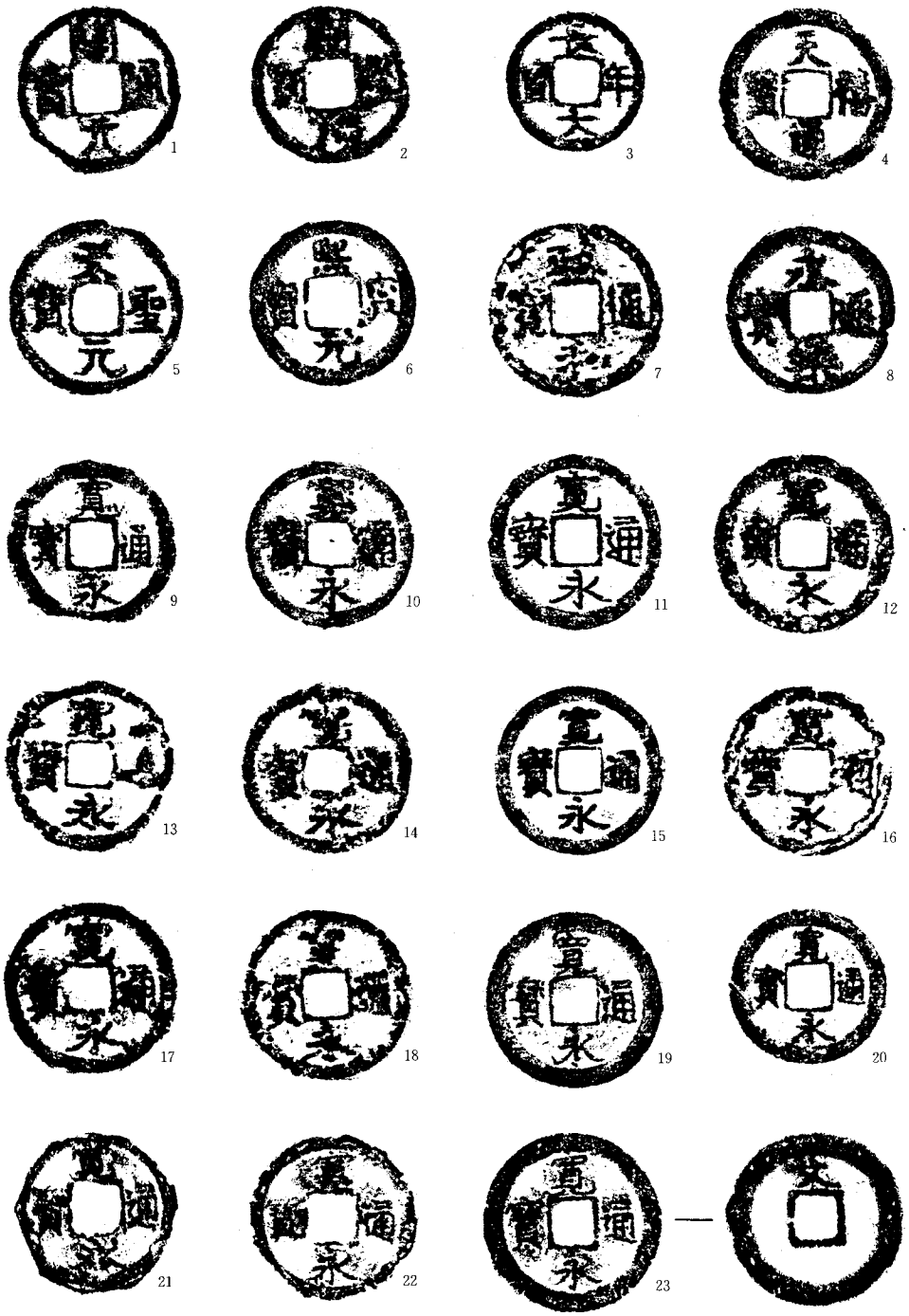


Fig. 81　第70次調査出土の貨幣①（縮尺 1/1）

Tab. 4　第 70 次 調 査 出 土 貨 幣 一 覧 表

挿図番号	遺物番号	出土地点	銭貨名	外径(cm) 水平	外径(cm) 垂直	外縁厚(cm)	初鋳年	時代	備考
84	1	遺構面	開元通寶	2.31	2.32	0.09	621(武徳4年)	唐	
84	2	遺構面	開元通寶	2.22	2.21	0.09	621(武徳4年)	唐	
84	3	SK91	長年大寶	1.93	1.94	0.14	848	平安	仁明
84	4	SX24	天禧通寶	2.45	2.43	0.11	1017	宋	
84	5	SE217	天聖元寶	2.40	2.50	0.08	1023(天聖元年)	北宋	
84	6	SP13	熙丁元寶	2.34	2.36	0.16	1068(熙寧元年)	北宋	
84	7	SK114	政和通寶	2.45	2.45	0.11	1111(政和元年)	北宋	
84	8	SK23	永樂通寶	2.41	2.38	0.11	1408(永樂□□)	明	悪銭カ
84	9	SX02	寛永通寶	2.40	計測不可	0.10	1636(寛永13年)	江戸	
84	10	SK21	寛永通寶	2.32	2.34	0.12	1636(寛永13年)	江戸	
84	11	SK26	寛永通寶	2.45	2.45	0.14	1636(寛永13年)	江戸	
84	12	SK32	寛永通寶	2.54	2.54	0.14	1636(寛永13年)	江戸	
84	13	SE52	寛永通寶	2.41	2.38	0.16	1636(寛永13年)	江戸	
84	14	SE52	寛永通寶	2.39	2.40	0.16	1636(寛永13年)	江戸	
84	15	SE52	寛永通寶	2.39	2.42	0.14	1636(寛永13年)	江戸	
84	16	SX65	寛永通寶	2.39	2.41	0.14	1636(寛永13年)	江戸	
84	17	SK96	寛永通寶	2.39	2.40	0.11	1636(寛永13年)	江戸	
84	18	SK208	寛永通寶	2.37	2.39	0.13	1636(寛永13年)	江戸	
84	19	SX01	寛永通寶	2.46	2.46	0.14	1636(寛永13年)	江戸	
84	20	SX02	寛永通寶	2.19	2.19	0.15	1636(寛永13年)	江戸	
84	21	SX02	寛永通寶	計測不可	計測不可	0.12	1636(寛永13年)	江戸	
84	22	SX02	寛永通寶	計測不可	計測不可	0.12	1636(寛永13年)	江戸	
84	23	SX02	寛永通寶	2.36	2.37	0.14	1636(寛永13年)	江戸	
85	24	SX02	寛永通寶	2.55	2.51	0.14	1636(寛永13年)	江戸	裏に「文」の文字
85	25	SX13	寛永通寶	2.35	2.36	0.14	1636(寛永13年)	江戸	
85	26	SX13	寛永通寶	2.44	2.41	0.10	1636(寛永13年)	江戸	
85	27	SX13	寛永通寶	2.41	2.42	0.12	1636(寛永13年)	江戸	
85	28	表土	寛永通寶	2.30	2.31	0.11	1636(寛永13年)	江戸	
85	29	表土	寛永通寶	2.32	2.33	0.13	1636(寛永13年)	江戸	
85	30	包含層	□符通寶	2.40	計測不可	0.09	不明	不明	
85	31	SK47	不明	2.36	2.36	0.07	不明	不明	

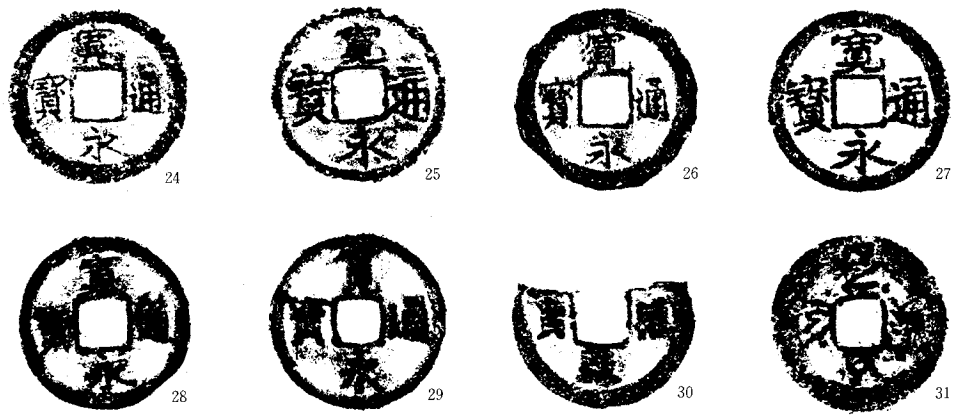
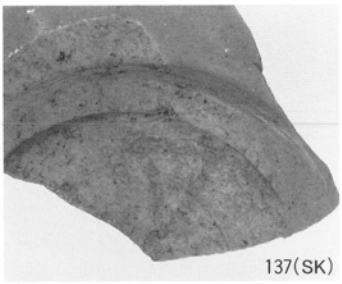
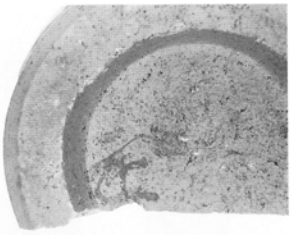


Fig. 82　第70次調査出土の貨幣②（縮尺 1/1）

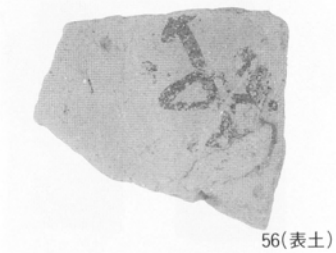
33(SK)

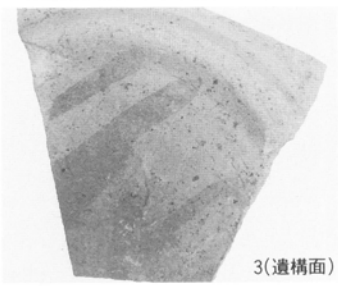
116(SE)

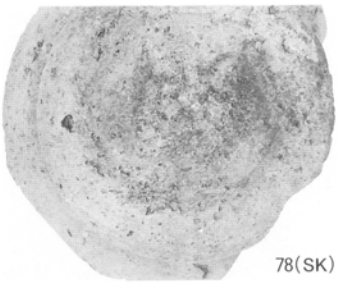

137(SK)

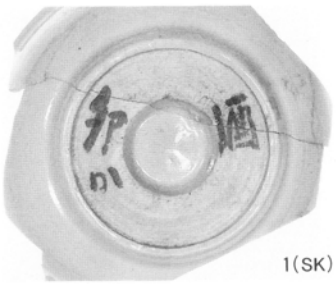

315(SE)

175(SE)


56(表土)

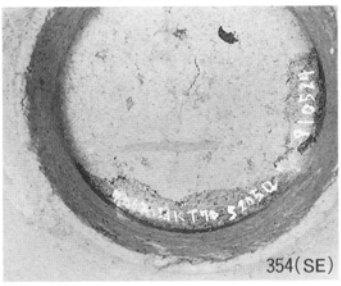

3(遺構面)

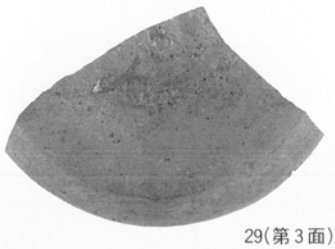

78(SK)

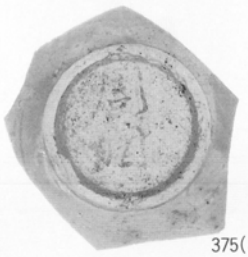

1(SK)

6(遺構面)

10(Pit)


354(SE)


29(第3面)


375(SK)

374(SK)

第70次調査出土墨書土器

※数字は実測図の番号に一致する

7(SK)

54(SX)

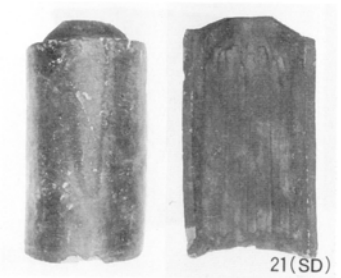
44(SK)

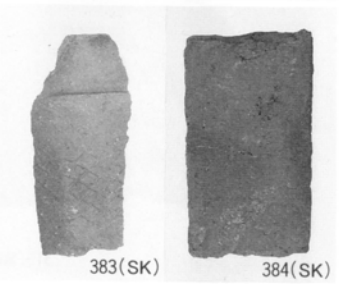
50(SK)

12(SX)

62(SE)

376(SE)


21(SD)


383(SK) 384(SK)

19(SD)

10(SE)

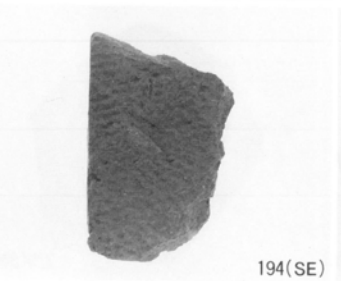
10(SX)

38(SK)

12(SX)

69(SE)

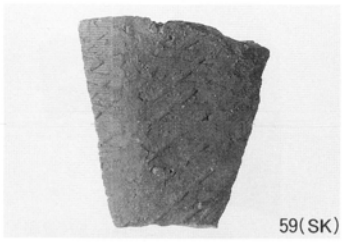
59(SK)

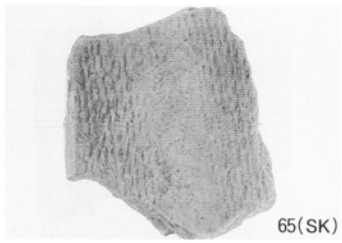

194(SE)

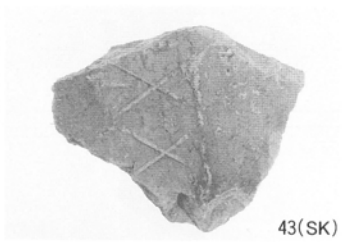
13(SK)

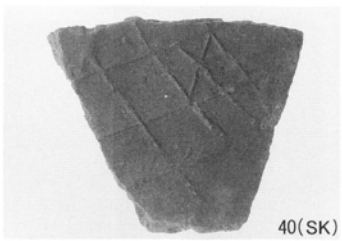
第70次調査出土瓦類

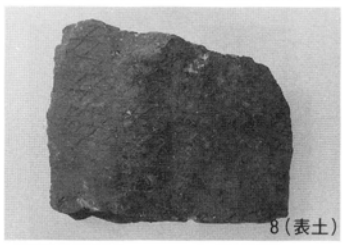
※数字は実測図の番号に一致する

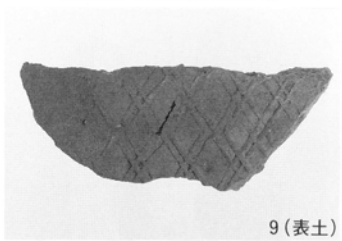

59(SK)

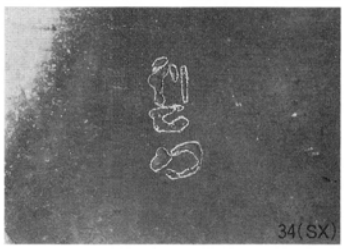

65(SK)

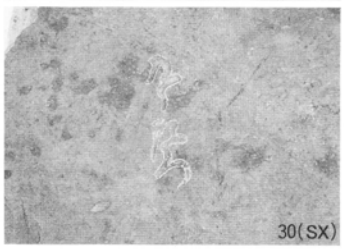

43(SK)

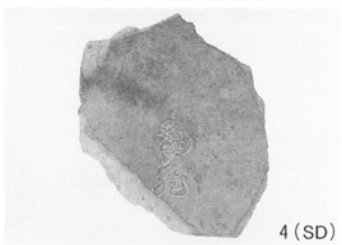

40(SK)

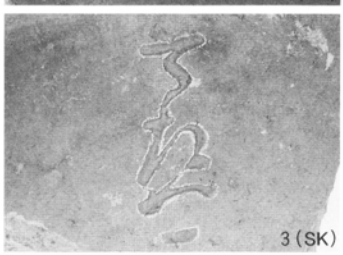

8（表土）

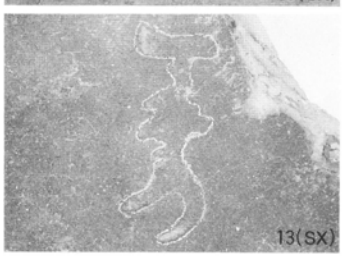

9（表土）

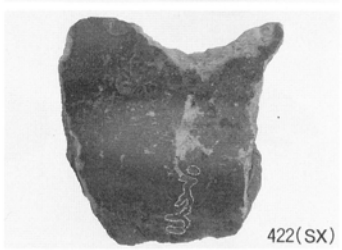

34(SX)

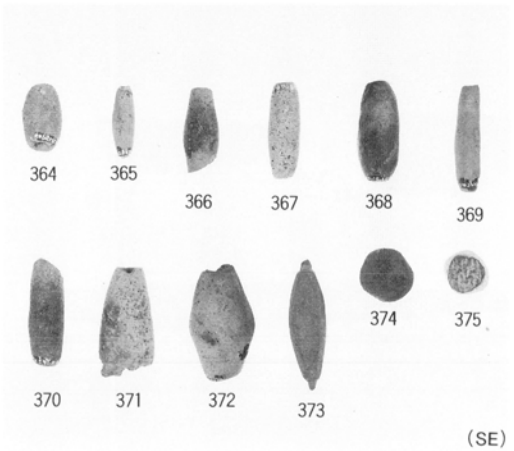

30(SX)

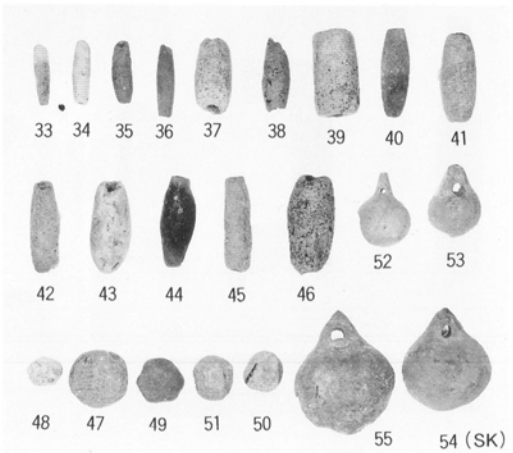

4（SD）


3（SK）

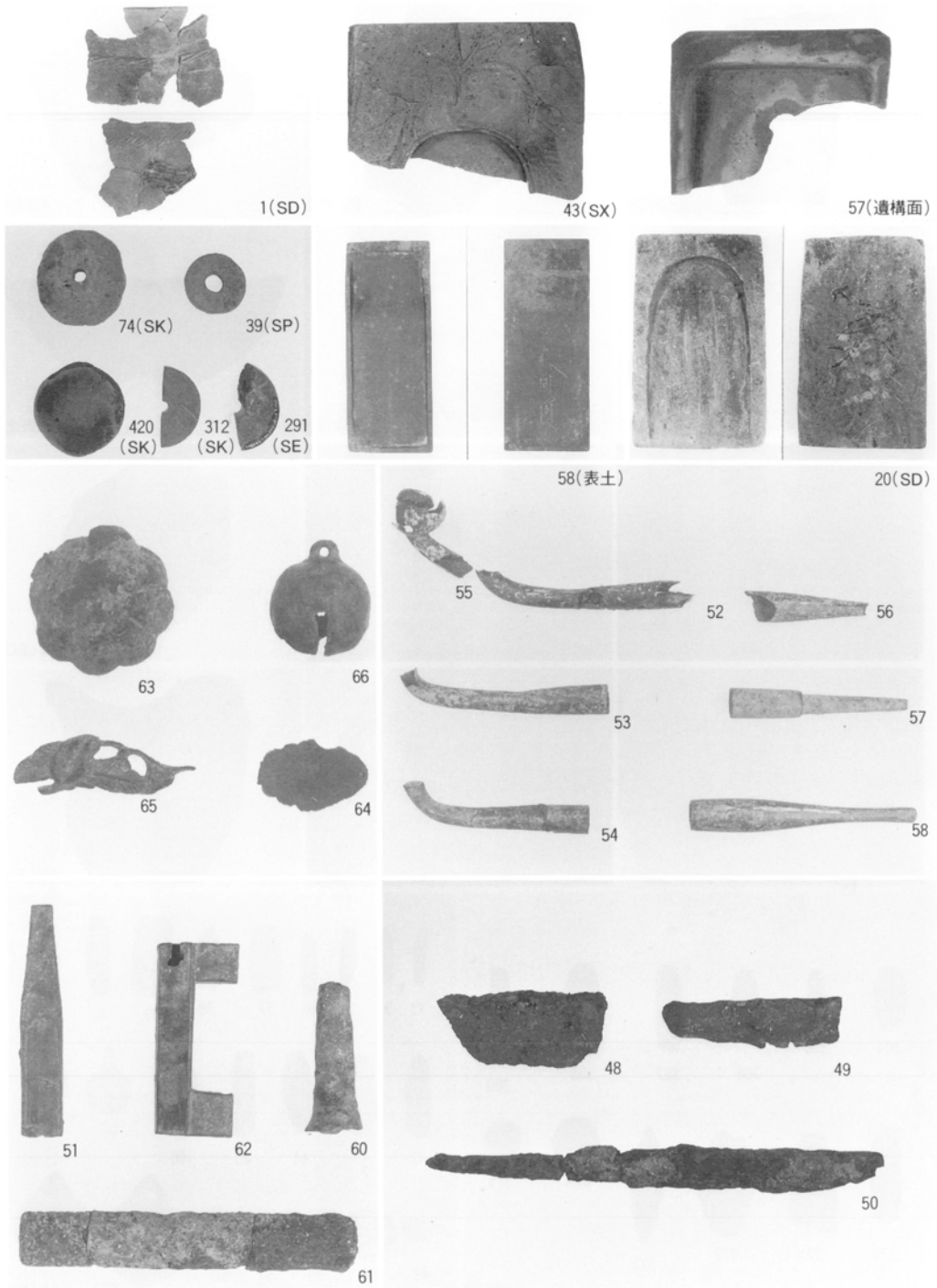

13(SX)


422(SX)





第70次調査出土瓦・土製品　　※数字は実測図の番号に一致する



第70次調査出土　その他の遺物　※数字は実測図の番号に一致する

＜付　編＞

福岡市内出土の五輪塔と板碑

日本民俗学会々員　吉　田　扶希子

板碑・五輪塔は何のために建立されたのか。墓標か、供養塔か、それ以外か。その建立目的は時代背景と出土状況から検証されなければならない。九州において立石が始まったのは13C後半であり、14C以降“石塔”が標識として現れる。それは[註1]佐賀県霊仙寺跡で立証されている。そして供養塔から墓標化していくのは鎌倉期から室町期にかけての時代である。福岡市内の場合、北九州地域における[註2]白岩西遺跡や[註3]力丸遺跡のように中世墓地群の一墓から出土したものでない。その上、出土地点に造立されていたとは考えにくいものが多い。

1．五輪塔について

空輪　空輪と風輪は一体化して造るのが普通である。時代を追うごとに空輪の頂部は尖り、風輪も鋭角な感じを増す。法量もタイプ別に分かれる。築港線第1次調査の場合、Tab. 1 No. 1・2は全長（柄の部分は除く）28.5cm、幅（空輪部・風輪部共に）23.5cmを測り、大型である。一方、同一の遺構の出土にもかかわらず、No. 3・4は全長22.0cm、16.0cmと小型になる。形状的にも前者は、風輪基部を垂平に削り取り、シャープ観がある。白岩西遺跡でいうⅡ－1類である。後者は、風輪部にも丸みを残し、くびれ部にもしまりがない。No. 4は、空輪と風輪の段が顕著ではなく、浅い溝も設けているにすぎない。51号土壙を囲む礫中から出土しており、墓であったかもしれない。14C後半～15Cと考えられる。

火輪　五輪塔の年代を比定する際、火輪の軒の反り具合をみることが最も一般的である。江戸時代に入ると軒の反りは強くなってくる。築港線第2次調査の場合(No. 15)、高さ11.5cm、軒の幅26.4cmを測る。軒は頂部より弯曲を描いて反り上がる。一方、築港線第1次調査(No. 5・6)は直線的に軒が延びる。いずれも軒先で急に反り上がるものではない。白岩西遺跡のⅣ類である。No. 15も配石遺構からの出土であり、転石とされるが配石に関連があるだろう。14C前半である。

水輪　火輪と同様に高さ、幅、上下のすぼまり方が異なってくる。築港線第1次調査（No. 7～10）は体部は球形を成す。その上下を平坦に削り取った形である。No. 7は高さ42.0cmと大型である。梵字はない。他は高さ29cm前半を測り、いずれも梵字を刻む。No. 8・9は四面にキリーク、タラーク、アク、ウーンの金剛界四仏を示す。No. 10は四面共、カ（地蔵菩薩）であり、上の石からのつながりであろう。

水輪は鎌倉時代中期から末に、蔵骨器として使用されている。福岡市内の出土品にはみられないが、白岩西遺跡では、13C中頃～14C初頭の陶製五輪塔が出土しており、容器として使用した可能性は大いに考えられる。報告者によれば、「火葬場にて焼いた骨を水輪部に納骨して、埋葬地に運び、他の容器に移した後、墓上に建立」とある。

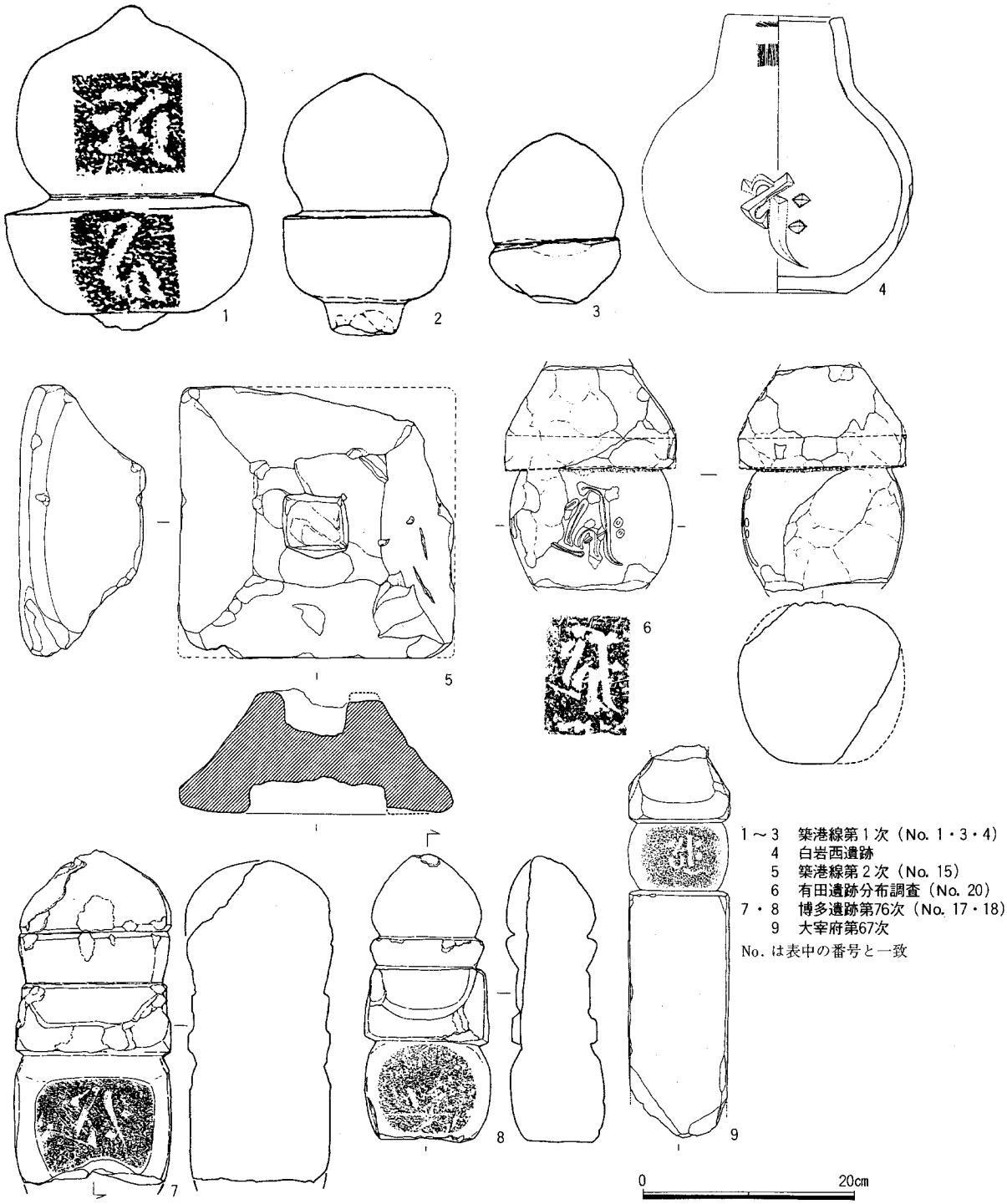
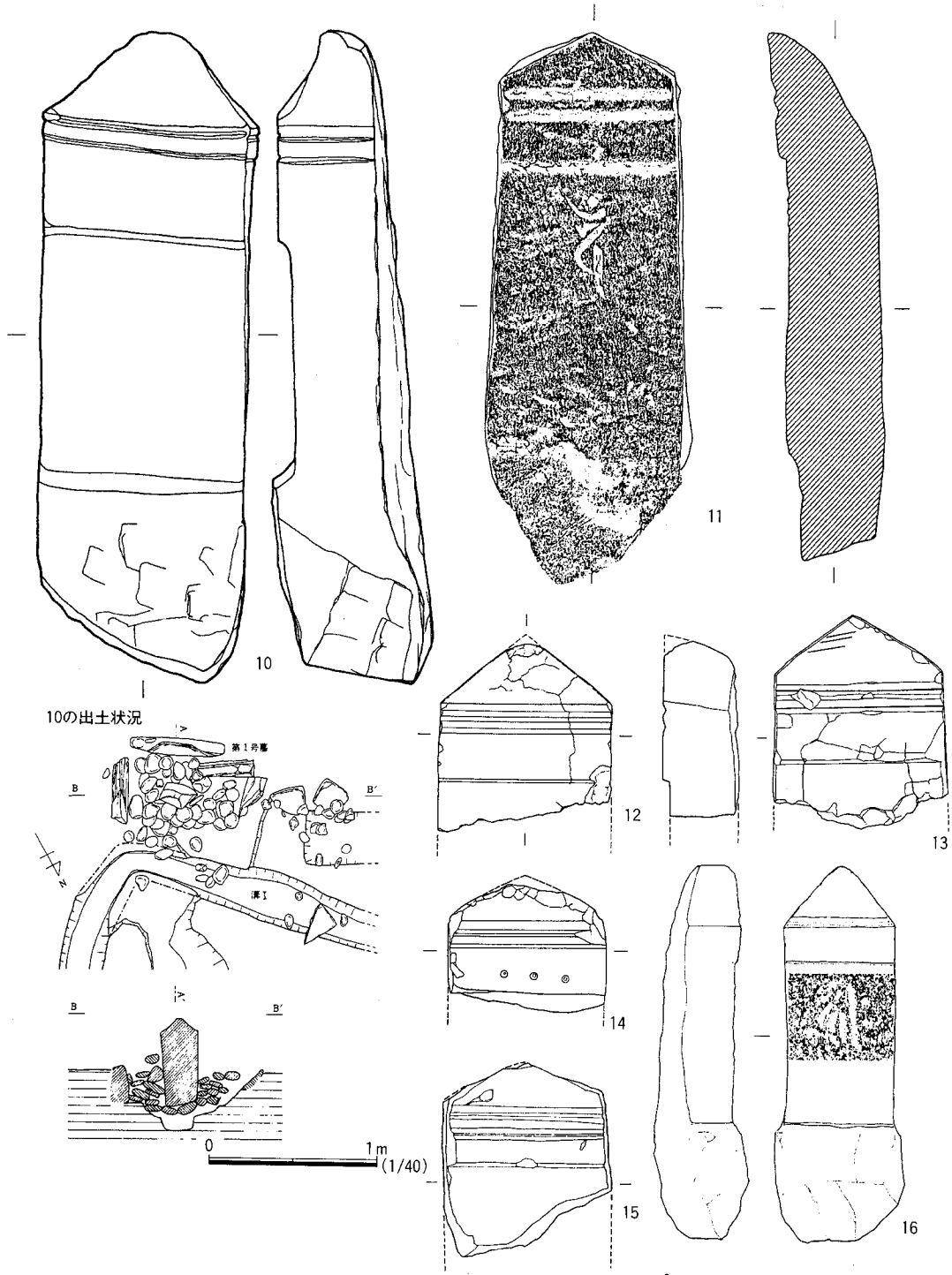


Fig. 83　五輪塔実測図（縮尺1/6）



10. 力丸遺跡　11. 築港線第3次（No. 1）　12. 有田遺跡第19次（No. 14）
13. 有田遺跡第64次（No. 24）　14. 有田遺跡第24次（No. 12）　15. 博多遺跡第68次（No. 5）
16. 大宰府第107次　　No. は表中の番号と一致

Fig. 84　板碑実測図（縮尺1/6）

地輪　後世、地輪には、正面に法号（戒名）、左右側面に年月日を刻むため、一般的に全長が長くなる。福岡市内の出土は数が少なく、形状も高さ11～17cm、巾26～27.3cmの長方形であり比較はできない。中型に属し、14C後半に属すると思われる。県下では[註4]大宰府第67次調査では地輪が異様に長い一石五輪塔が出土している。

一石五輪塔　その名のとおり、ホゾ穴によって組み合わせる組合せ式五輪塔ではなく、一つの石で五輪塔を削りだしているものである。五輪塔が全体的に小型化していくうちに生まれたものである。江戸時代にはいるとその数は増大する。福岡市内には鎌倉時代後期の建立と考えられる一石五輪塔が現存する。地蔵松原一石五輪塔で、福岡市東区箱崎町地蔵松原米一丸祀堂にある。梵字も銘もないが、地輪に如来坐像を半肉彫りにしている。博多遺跡群第70次調査（No. 19）は比較的遺存状態が良く、空輪から水輪まで現存する。現存長は30.2cmを測る。空輪部に稜をもち、火輪部の軒はあまり反らない。博多遺跡群第76次調査のNo. 17は同サイズである。しかし、空輪と風輪の境は一条の溝によるのみで、不明瞭である。風輪も直接的で、火輪の軒の造りも小さく、高さも低い。水輪は方形状である。時代的に新しく江戸時代前期のものである。建物の基礎遺構からの検出である。博多遺跡群第60次調査No. 16も同タイプである。No. 18になると一層小型化が進み、現存長27.2cm（空輪から水輪まで）と小さい。空輪と風輪は段をもち明確に分かれる。全体的に厚みがなく、空輪部は縦に長い。火輪部は背が高く、軒は直線的に延びる。徐々に五つの石の境も明確さを欠いていく。また墓標化した地輪には前述したように大切な戒名などを刻むため、全体に基礎部分の占める割合が増している。そして最後には五輪塔はその形を失い、板状の墓標にとって変わられるのである。17C後半にはその傾向がみられる。

2．板碑について

板碑の誕生には、[註5]五輪塔の各部を簡略化したという説と、卒塔婆から生まれたという説の二説がある。五来重氏によれば、卒塔婆のあの独特の形は仏教からではなく、民間に根づいていた古来の葬送儀礼により誕生したとされる。いずれにせよ、供養塔として建立され始めた板碑は、15C以降、墓標としての使用が顕著になる。北九州市の力丸遺跡はその典型である。完全な形で出土している。福岡市内ではこのような例はみられない。ただ、配石遺構、土壙からの出土の場合、力丸遺跡のような状況だったのかと想定することができる。福岡市内では、溝の敷石や砥石になったりで、原位置を留めていない。民俗例においても、井戸の積石、地蔵仏に転用と多々みられる。

板碑　一石五輪塔同様、時代と共に小型化が進んでいく。築港第３次調査（Tab. 2）のように、幅17.2cmを測る。これは全形を遺存している。頭部山形で、横に薬研彫りを２条施す。額部との境には段を有し、碑身にはバン（金剛界大日如来）を刻む。配石遺構からの出土である。博多遺跡群第68次調査も同様であり、鎌倉時代末から戦国時代の形である。これに対して15C中頃になると、有田遺跡群にみられるように、小型化が進む。有田遺跡群第36次調査出土のNo. 18・19も

同様である。砂岩製がほとんどである。青石塔婆といわれる緑泥片岩製の“典型的板碑”に対して“類型板碑”といわれるものである。武蔵国のように緑泥片岩がないため、形状だけ模倣した厚みのある砂岩製の塔婆が広がったのである。この後、供養塔であった板碑は一方で墓標化、もう一方では庚申塔へつながる庚申待板碑へとその姿を変えていく。近世になり、木製塔婆にその主たる地位を奪われ、板碑は本来の姿を変え、やがて消滅していくのである。

3．ま と め

中世に盛行した板碑、五輪塔は、当時の日本人の死に対する考え、信仰に基づいて建立されている。仏教の思想が既に浸透していた日本人は、死者の骨に対して尊厳をもち、特別な霊的存在を抱くようになり、死後の“浄化”を望む。火葬は骨の浄化をより早く進める手段である。“供養”の考えが生まれ、塔を造立することにより、魂の浄化を図るのである。供養というのは死者に対する追善供養であり、逆修であった。逆修とは生きているうちに供養をして、仏の救済を受けようとするもので、この教えは広く浸透していた。[註6]福岡城三の丸出土の板碑には「逆修善根」と刻まれたのも一例である。“本世”に対する考え方の現われである。

13Cに立石が、14Cは石塔類が供養塔として登場する。一部の地域では陶製五輪塔も用いられ、蔵骨器としての役目をする。14Cには五輪塔の形は確立し、宗旨によってその形を変化させていった。14C後半には既に五つの石の境がなくなり始め、小型化が進み一石五輪塔が現われる。以後墓標として全国的に広まるが、17C後半には板碑も供養塔として関東を中心に現われるが、15Cには墓標となり形状を模倣した類型板碑として九州でみられるようになる。

双方の福岡市内の出土状況を考えると、配石遺構と溝が多い。配石遺構はいずれもその場には造立されていないと報告される。しかし、その遺構に付随することは間違いないだろう。溝は敷石状で、その一つに再利用されている。また有田遺跡の場合、16Cの居館の区画溝からの出土が2例みられ、境を意識した塞の神的板碑として考えられる。

以上、福岡市内・県下における発掘調査による出土例を探ってきたが、報告書において記述がないものが多く、報告書の意図と異なる点もあるかもしれない。ご教示をいただきたい。

註1　「霊仙寺跡」　東脊振村文化財調査報告書第4集　東脊振村文化財研究会　1980
註2　「白岩西遺跡」　北九州市埋蔵文化財調査報告書第43集　財団法人北九州市埋蔵文化財事業団埋蔵文化財調査室　1985
註3　「力丸遺跡」　北九州市埋蔵文化財調査報告書第26集　北九州市教育委員会　1978
註4　「大宰府史跡」昭和55年度発掘調査概報　九州歴史資料館　1981
註5　千々和實「板碑源流考」　『日本歴史』284・285号　板碑の源流である二説を論じる。
註6　「福岡市の板碑」　福岡市教育委員会　1992

Tab. 1　福岡市内出土五輪塔一覧表

No.	種　類	遺　跡　名	所　在　地	出土遺構	長さ	幅	厚	材　質	形　状	備　考	文献
1	空風輪	築港線第1次	福岡市博多区上呉服町1	4号石組	28.5	23.5				キャ・カ	1
2	空風輪				28.5	23.5				キャ・カ	
3	空風輪				22.0	15.5					
4	空風輪				16.0	13.5			柄なし		
5	火輪				17	29					
6	火輪				26	29					
7	水輪				42.0	47					
8	水輪				29	35					
9	水輪				21.5	29					
10	水輪				29.0	38.5					
11	地輪	築港線第2次	福岡市博多区上呉服町1	40号配石	26.9	27.6	16.2	砂岩			2
12	地輪				30.6	31.8	23.1	砂岩			
13	空風輪				26.5			砂岩			
14	地輪			39号配石	27	27.5	17	花崗岩			
15	火輪				26.4	11.5			火輪・水輪	アク16C前半	
16	一石五輪塔	博多遺跡群第60次	福岡市博多区綱場町115他	111号溝	(19.5)	(13.2)	14.7		火輪・水輪	アク16C後半	3
17	一石五輪塔	博多遺跡群第76次	福岡市博多区上呉服町569他	SX191	30.2			砂岩	空輪から水輪	アク	4
18	一石五輪塔			SH121	27.2					二次的混入品	
19	一石五輪塔	博多遺跡群第70次	福岡市博多区冷泉町338	SX02	30.2			砂岩	空輪から水輪		5
20	一石五輪塔	有田遺跡分布調査	福岡市早良区有田2-22-3	2号土壇表採	21.8			砂岩	火輪・水輪	キリーク（阿弥陀如来）	6

Tab. 2　福岡市内出土板碑一覧表

No.	種　類	遺　跡　名	所　在　地	出土遺構	長さ	幅	厚	材　質	形　状	備　考	文献
1	板碑	築港線第3次	福岡市博多区上呉服町1	59号配石	47.8	17.2	8.5			バン	7
2	板碑	博多遺跡第26次	福岡市博多区上呉服町34		28.4	30.2	9.3		連碑	キリーク	7
3	板碑	博多遺跡第60次	福岡市博多区網場町115	111号溝	20.2	13.8	7.1			溝の石材として利用 16C後半	3
4	板碑			93号石積	6.9	7.1	0.6		破片	キリーク・タラーク 16C後半	
5	板碑	博多遺跡第68次	福岡市博多区古門戸町98-1	SE20	(17.8)	15.2	6.5	砂岩			8
6	板碑	博多遺跡第76次	福岡市博多区上呉服町594	SX194	21.2	14.2	6.8			室町後～江戸	4
7	板碑	諸岡館址	福岡市博多区諸岡1丁目	SK039	17.56	17.2	7.9	砂岩	幅1cmの2条彫り	碑身折面を砥面利用	9
8	板碑			SK018-A	29.7	15.7	8.5	砂岩	板碑基部		
9	板碑			SK018-B	17.5	16.2	7.1	砂岩	板碑基部	中央の一部を砥面利用	
10	自然石板碑			西専寺墓地一角	63.2	41.2	8.0			キリーク・サク・サ（左右逆）	
11	板碑	有田遺跡第24次	福岡市早良区有田2-10-7	濠状遺構内上層	(13.7)	16.2	7.7	中粒砂岩	下部のみ	カもしくはカーンか	10
12					(11.8)	14.2	6.2	中粒砂岩	頚部のみ 径7㎜の円形穴並列	他に破片3点	
13	板碑	有田遺跡第28次	福岡市早良区有田2-22-3	敷石状遺構	17.6	14.6	10.5	中粒砂岩	頭部が長い	梵字字体不明	11
14	板碑	有田遺跡第19次	福岡市早良区有田1-24-4	2号溝（居館又	(15.6)	15.7	7.6	砂岩		碑伝か？	12
15				は屋敷に伴う濠	(5.2)	(4.7)	(3.4)		板碑残片		
16				状遺構）	(15.3)	(14.5)	(5.7)	砂岩			
17					(12.7)	(13.4)	(5.5)		碑身	キリーク	
18	板碑	有田遺跡第36次	福岡市早良区小田部5-143	1号甕棺	(15.0)	16.5	8.6	砂岩	小型板碑	後世の混入。力丸遺跡と類似	12
19				P31	(14.7)	(10.2)	6.5	砂岩	小型板碑	礎石として利用	
20	板碑	有田遺跡第42次	福岡市早良区有田2-85	1号溝	14.0	13.8	7.6	中粒砂岩		キリーク　16C代	
21	板碑	有田遺跡第44次	福岡市早良区有田2-14-9	井戸	14.2	13.6	6.8	砂岩	頭部のみ		13
22	板碑	有田遺跡第86次	福岡市早良区小田部5-143	4号溝（屋敷の区画溝）	14.8	(8.4)	6.5	砂岩		碑伝か？　16C前～中	6
23	板碑	有田遺跡第83次	福岡市早良区有田1-127-3	1号溝	10.5	14.3	8.6	砂岩	山形　薬研彫り2条	16C後	14
24	板碑	有田遺跡第64次	福岡市早良区小田部5-151	1号溝	(19.2)	15.4	8.4	砂岩	破片		15
25	板碑	有田遺跡第113次	福岡市早良区有田1-28-9	SD02	(10.2)	(5.4)	7.2	花崗岩系		16C後	16
26	板碑	有田遺跡第121次	福岡市早良区小田部5-154-2	SD02	27.8	16.3	11.2	砂岩	碑面のみ　小型板碑	15C	17
27	板碑	有田遺跡下水道	福岡市早良区有田	K10SK04	21.0	14.2	8.0	砂岩		キリーク	18
28	板碑	有田遺跡第6次	福岡市早良区有田1-20-3	4号土壙	(14.0)	15.0	6.4	砂岩			19
29				4号土壙	(19.8)	17.7		砂岩			

文献　1　「都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告（Ⅰ）博多」
福岡市埋蔵文化財調査報告書第183集　福岡市教育委員会　1988
文献　2　「都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告（Ⅱ）博多」
福岡市埋蔵文化財調査報告書第184集　福岡市教育委員会　1988
文献　3　「博多30」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第285集　福岡市教育委員会　1992
文献　4　「博多40」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第332集　福岡市教育委員会　1993
文献　5　「博多41」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第370集　福岡市教育委員会　1994
文献　6　「有田・小田部第６集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第113集　福岡市教育委員会　1985
文献　7　「都市計画道路博多駅築港線関係埋蔵文化財調査報告（Ⅲ）博多」
福岡市埋蔵文化財調査報告書第204集　福岡市教育委員会　1989
文献　8　「博多32」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第287集　福岡市教育委員会　1992
文献　9　「諸岡遺跡」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第108集　福岡市教育委員会　1984
文献　10　「有田・小田部　第１集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第 58集　福岡市教育委員会　1980
文献　11　「有田・小田部　第２集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第 81集　福岡市教育委員会　1982
文献　12　「有田・小田部　第４集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第 96集　福岡市教育委員会　1983
文献　13　「有田・小田部　第５集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第110集　福岡市教育委員会　1984
文献　14　「有田・小田部　第７集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第139集　福岡市教育委員会　1986
文献　15　「有田・小田部　第８集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第155集　福岡市教育委員会　1987
文献　16　「有田・小田部　第11集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第234集　福岡市教育委員会　1990
文献　17　「有田・小田部　第12集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第264集　福岡市教育委員会　1991
文献　18　「有田・小田部　第14集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第266集　福岡市教育委員会　1991
文献　19　「有田・小田部　第19集」　福岡市埋蔵文化財調査報告書第377集　福岡市教育委員会　1994

Tab. 5　第 70 次 調 査 遺 構 一 覧 表 ①

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SE01	SE01	井戸	不整円形	円筒形	122 井筒79	116 井筒81	309+α	土師器、瓦質土器(鉢)、国産陶器、染付、瓦(丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、貨幣、壁 〈掘り方〉瓦(平瓦)、鉄製品(釘)	近世	瓦井戸
SE02	SE02	井戸	不整円形	円筒形	148 井筒84	143 井筒91	72+α	〈掘り方〉土師器、須恵器、瓦質土器(火舎)、中国青磁、中国白磁、国産陶器、常滑、鉄製品(釘)、鉄滓、貨幣、石製品(滑石) 〈井側内〉土師器(皿・坏・甕)、須恵器(甕)、瓦器(椀)、瓦質土器、中国白磁、染付、木炭	近世	瓦井戸
SE03	SE03	井戸	——	円筒形	井筒61	井筒60	25+α	————	近世	瓦井戸
SX01	S01	土壙	不整方形	——	330+α	115	90	土師器(皿・灯明皿・坏・椀・甕)、土師質土器(焼塩壺・焙烙)、須恵器、内黒土器、黒色土器、瓦質土器(火舎)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁、中国陶器、国産陶器(蓋・碗・壺・瓶・甕)、染付(皿・碗)、七輪、土製品(人形?)、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦・軒丸瓦・桟瓦・鬼瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、貨幣、自然遺物(骨・貝)	近世	境界地にある
SX02	S02	溜桝	不整方形	——	645+α	240+α	191	土師器(皿・灯明皿・坏)、土師質土器(焙烙)、須恵器(坏)、内黒土器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢、甕・火舎)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、国産青磁、国産白磁(紅皿)、国産陶器、唐津(碗、摺鉢)、染付(皿・碗・瓶・甕・乗燭)、七輪、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦・軒丸瓦・瓦塼)、鉄製品(釘)、青銅製品(煙管)、鉄滓、貨幣、石製品(硯・石臼・五輪塔)、炉壁、自然遺物(骨・貝)、木炭 〈掘り方〉国産陶磁器、七輪、瓦(丸瓦・軒丸瓦) 〈下層〉土師器(皿・甕)、土師質土器(焼塩壺・焙烙)、須恵器、黒色土器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国陶磁器、国産青磁、国産陶器、染付、七輪、瓦(平瓦・丸瓦・軒丸瓦・桟瓦・瓦塼)、木炭、炉壁、自然遺物(貝) 〈石垣内側〉土師器、須恵器、瓦質土器、磁器、染付、七輪、瓦(丸瓦・平瓦)、炉壁	近世	S03と同一 石垣積み
	S03	——	——	——	——	——	——			SX02と同一
SK04	S04	土壙	不整円形	逆梯形	98+α	102	55	土師器、須恵器、瓦質土器(捏鉢)、白磁(皿)、国産陶器(瓶)、唐津(摺鉢)、現川?、染付(皿・碗・猪口・鉢)、七輪、瓦(平瓦・丸瓦)、自然遺物(貝)	近世	
SX05	S05	土壙墓	隅丸長方形	逆梯形	147	54	40	瓦質土器(火舎)、中国陶器、国産陶器、染付、七輪、土製品(人形)、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦・桟瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、木炭	近世	
	S06									SX64と同一
SK07	S07	土壙	——	——	——	——	——	須恵器、瓦質土器(火鉢)、中国陶器、青磁、白磁(碗)、国産陶器(摺鉢)、染付(小坏・碗)、鉄滓、炉壁、木炭	近世	SX64に切られる
	S08									SK62と同一
SK09	S09	土壙	不整円形	逆梯形	91	85	66	須恵器、中国陶器、青磁、白磁、瓦	中世	SK16に切られる
SK10	S10	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	130+α	122	59	土師器、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(蓋)、内黒土器、瓦質土器、中国陶器、青磁、白磁、瓦、鉄滓	中世	境界地にある
SX11	S11	炉	不整隅丸長方形	逆梯形	325+α	221	86	土師器(坏・椀・器台)、土師質土器(鉢・火舎)、内黒土器(椀)、瓦器(椀)、瓦質土器、中国青磁、中国白磁(碗)、中国陶器、国産陶器(碗)、鉄製品(釘)、鉄滓 〈掘り方〉土師器(皿・坏)、土師質土器(摺鉢)、須恵器、朝鮮須恵器、内黒土器、瓦器、中国陶器、青磁(碗)、白磁(碗)、国産陶器、染付、土管、瓦(丸瓦・平瓦) 〈炉内〉土師器(皿)、土師質土器(鉢)、須恵器、朝鮮須恵器、瓦質土器(摺鉢)、中国青磁、中国陶器、白磁、国産陶器(摺鉢)、染付、土管、瓦(丸瓦・平瓦・軒丸瓦・桟瓦)、自然遺物(貝)	近世	鍛冶炉
SK12	S12	土壙	不整円形	逆梯形	165	150+α	98	土師器(皿・坏)、土師質土器(焙烙)、須恵器、中国青磁、中国白磁(碗)、中国陶器(鉢・甕)、染付、七輪、瓦(平瓦・軒平瓦)、鉄滓、自然遺物(貝)、木炭	近世	
SK13	S13	土壙	不整円形	逆梯形	90	100	44	土師器(皿・灯明皿・坏・甑の把手)、土師質土器(摺鉢・焙烙)、須恵器、内黒土器(椀)、瓦質土器(摺鉢・火舎)、中国陶器、白磁(皿・坏・碗)、国産陶器(蓋・碗・甕・摺鉢)、天目、唐津、現川、染付(碗・瓶)、七輪、瓦(平瓦・丸瓦・軒丸瓦・桟瓦・瓦塼)、鉄製品(釘)、青銅製品(煙管)、貨幣、炉壁	近世	

Tab. 5　第 70 次調査遺構一覧表②

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SK14	S14	土壙		逆梯形	——	——	——	土師器(皿・坏・甕)、土師質土器(焙烙)、須恵器(蓋・甕)、瓦質土器(摺鉢)、中国陶器、緑釉陶器、青磁(碗)、白磁(碗)、国産陶器、唐津(碗・甕盤・摺鉢)、京焼、肥前(碗)、現川(碗)、染付(坏・碗)、七輪、瓦(平瓦・丸瓦・軒丸瓦)、鉄製品(釘)、青銅製品、鉄滓	近世	消滅
SK15	S15	土壙	不整長方形	逆梯形	306+α	188+α	32	土師器(皿・坏・甕・甑)、土師質土器、須恵器(坏・甕)、黒色土器、瓦質土器、中国陶器、青磁(香炉)、白磁(碗)、国産陶器、唐津、染付、七輪、瓦(平瓦・丸瓦)、貨幣、石製品(滑石製鍋)	近世	境界地にある
SK16	S16	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	195	65+α	39	土師器(皿・坏)、須恵器(蓋)、瓦質土器(甕)、中国陶磁器、国産陶器、鉄製品(釘)		境界地にある
SK17	S17	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	163	79+α	38	土師器(皿・坏・甕・摺鉢)、土師質土器(焙烙)、須恵器(蓋)、瓦質土器、中国陶器、青磁(皿・碗)、白磁(皿・碗)、国産陶器、染付、瓦(丸瓦)、鉄滓、木炭		境界地にある
SK18	S18	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿)、土師質土器、須恵器、瓦質土器、中国青磁(碗)、中国陶器(盤)、青磁(瓶)、白磁(碗)、国産陶器(甕・摺鉢)、染付、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)		平面図実測不可
SK19	S19	土壙	隅丸長方形	逆梯形	94	44	31	土師器(皿・坏)、土師質土器(甕)、須恵器(蓋・坏)、内黒土器、黒色土器、瓦器(椀)、中国陶器(甕・盤)、青磁(碗)、白磁(碗)、国産陶器、瓦(丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓	中世	
SX20	S20	土壙墓	隅丸長方形	逆梯形	176	79	22	土師器(皿・坏)、須恵器、中国青磁、中国白磁、中国青白磁、中国陶器、高麗青磁、鉄製品(釘)、鉄滓	中世	木棺あり
SK21	S21	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	255	195	58	土師器(皿・坏・鉢・甕)、土師質土器(焼塩壺・摺鉢・甘堝)、須恵器、内黒土器、黒色土器、瓦質土器(鉢・火舎)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(鉢・盤)、国産白磁、国産陶器、唐津、上野、福岡(摺鉢)、染付(皿)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、貨幣(寛永通寶)、木炭	近世	
SK22	S22	土壙	不整楕円形	逆梯形	100	70+α	18	土師器(皿)、須恵器、中国陶器、青磁、白磁(碗)、国産陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)		SK73に切られる
SK23	S23	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	192	162+α	20	土師器(皿・坏・壺)、須恵器、瓦器、瓦質土器(鉢)、中国白磁、中国陶器、国産陶器、伊万里、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、青銅製品(煙管)、鉄滓、貨幣(永楽通寶)、石製品(硯)	近世	
SX24	S24	土壙墓	不整隅丸長方形	逆梯形	212	184	66	土師器(皿・椀)、土師質土器(鉢)、須恵器、李朝須恵器、須恵質土器、黒色土器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢・火舎)、中国白磁、中国陶器(甕)、緑釉陶器、白磁(泥メンコ)、国産陶器、備前?唐津?(皿)、伊万里、瓦(平瓦)、鉄製品(釘・釣針?・刀子・鏃)、青銅製品、鉄滓、貨幣(天禧通寶)、自然遺物(骨・漆)	中世末	SK37に切られる
SK25	S25	土壙	不整円形	逆梯形	116	108	33	土師器(皿・坏)、須恵器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、明染付、唐津、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、自然遺物(木の実)	中世	SK57に切られる
SK26	S26	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	207	120	35	土師器(皿・坏)、須恵器、瓦質土器(鉢・摺鉢)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、李朝陶器、国産陶器、唐津(皿・甕)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、貨幣(寛永通寶)	近世	他の遺構に切られる
SK27	S27	土壙	不整楕円形	逆梯形	110	63	32	土師器(皿・坏)、中国白磁、国産陶磁器、伊万里、瓦(平瓦)	近世	他の遺構に切られる
SK28	S28	土壙	隅丸長方形	逆梯形	103+α	84	43	土師器(皿・坏)、須恵器、瓦器、中国白磁、中国陶器、国産陶磁器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、青銅製品、石製品、炉壁	近世	SK26に切られる
SK29	S29	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	138	63	36	弥生土器、土師器(皿・坏・椀)、須恵器、内黒土器、瓦器(椀)、中国白磁、中国陶器、明染付、鉄製品(釘)、貨幣、石製品(滑石)	近世	SK28に切られる
SK30	S30	土壙	不整楕円形	逆梯形	132+α	69+α	53	土師器(皿)、須恵器、瓦器、中国白磁、緑釉陶器、国産陶器、唐津、天目	近世	境界地にある
SK31	S31	土壙	不整楕円形	摺鉢形	105+α	80	78	土師器(皿・坏・椀・甕)、土師質土器(鉢・摺鉢)、須恵器、瓦質土器(摺鉢)、中国陶磁器、国産陶器、瓦(丸瓦)、七輪、鉄製品(釘)	近世	SK194と同一
SK32	S32	土壙	不整楕円形	逆梯形	93	68	40	土師器(皿・坏・甕)、土師質土器(鍋)、須恵器、東播窯系須恵器、朝鮮須恵器、瓦器、瓦質土器、中国陶磁器、李朝陶器、国産陶磁器、唐津、福岡、土製品(人形、泥メンコ)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、青銅製品、鉄滓、貨幣(寛永通寶)、石製品(砥石)、自然遺物(骨・貝・漆)	近世	

Tab. 5　第 70 次調査遺構一覧表③

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模（cm）			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SK33	S33	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	120+α	70+α	24	土師器(皿・坏)、須恵器、中国白磁、中国陶器、鉄製品(釘)、石製品(滑石)	中世	SK36 に切られる
SK34	S34	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	217	160	90	土師器(皿・坏・甕)、須恵器、東播窯系須恵器、朝鮮須恵器、瓦器(椀)、瓦質土器(摺鉢・火舎)、中国陶磁器、国産陶器、七輪、瓦(平瓦・瓦塼)、鉄製品(釘)、鉄滓	近世	
SK35	S35	土壙	楕円形	逆梯形	90+α	100	29	土師器(皿・坏)、土師質土器、須恵器、瓦質土器(摺鉢・火舎)、中国陶磁器、国産陶器、福岡、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)	近世	SK34 に切られる
SK36	S36	土壙	不整楕円形	逆梯形	92+α	118	40	土師器(皿・甕)、内黒土器、瓦器、瓦質土器、中国陶磁器、李朝三島手、国産陶器(玩具)、唐津、福岡(花器)、染付、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、自然遺物(竹)	近世	SK34 に切られる
SK37	S37	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	191+α	204	68	土師器(皿・坏)、須恵器、内黒土器、黒色土器、中国陶器、国産陶磁器、鉄製品(釘)、鉄滓		SK12 に切られる
	S38									SK133と同一
SX39	S39	土壙墓	隅丸長方形	逆梯形	75+α	83	9	土師器(皿)、須恵器、内黒土器、瓦質土器(鉢)、中国陶磁器、鉄製品(釘)	中世	SX14 に切られる
SK40	S40	土壙	楕円形	逆梯形	103	50	22	土師器(皿)、中国白磁、陶器	中世	
SK41	S41	土壙	不整円形	逆梯形	150	140+α	40	土師器(皿・坏)、土師質土器(鍋)、須恵器、瓦質土器、中国青磁、中国白磁、中国陶器、青銅製品	中世	
SD42	S42	溝	——	逆梯形	80	204+α	25	土師器(皿・坏)、須恵器、須恵質土器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、鉄製品(釘)、鉄滓	中世	SX14 に切られる
SK43	S43	土壙	円形	摺鉢形	134	130	47	弥生土器(壺)、土師器(皿)、土師質土器(摺鉢・鍋)、須恵器、瓦質土器(摺鉢)、李朝白磁、中国陶器、明染付、白磁、国産陶器、備前、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、炉壁、自然遺物(骨・貝・漆)	中世	「椿田宮」銘の軒平瓦
SK44	S44	土壙	不整円形	逆梯形	146	140	56	土師器(皿・坏)、須恵器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国青磁、中国白磁、明白磁(皿)、中国陶器、李朝陶器、国産陶器、唐津、染付、土製品(玉)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、炉壁、自然遺物(骨・鱗・貝)、木炭	近世	
SK45	S45	土壙	長方形または方形	逆梯形	174	76+α	18	土師器(皿)、土師質土器(摺鉢)、須恵器、瓦質土器(湯釜)、中国陶磁器、国産陶器(摺鉢)、国産磁器、唐津、瓦(平瓦)、土製品(鞴羽口)、青銅製品、鉄滓	近世	S213と同一境界地にある
SK46	S46	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	134	110	16	土師器、土師質土器(鍋)、瓦質土器(摺鉢・消炭壺)、中国陶磁器、明染付、国産陶器、唐津(碗)、瓦(平瓦)、鉄滓、貨幣		S214 と同一 SK45 に切られる
SK47	S47	土壙	不整円形	逆梯形	128	84+α	12	土師器(皿)、土師質土器、須恵器、瓦質土器、中国陶器、中国磁器、国産陶磁器、瓦(桟瓦)、貨幣	近世	SK46・SK215 に切られる
SK48	S48	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	97+α	57+α	45	土師器(皿)、土師質土器(鍋)、須恵器、瓦器、李朝陶器、国産陶器(摺鉢)、染付、瓦(丸瓦)、鉄製品、自然遺物(貝)		SX11 に切られる
SK49	S49	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	237	152	58	土師器(皿)、土師質土器(摺鉢)、須恵器(蓋・甕)、瓦器、瓦質土器、中国陶器、青磁、白磁、国産陶器、染付(碗)、瓦(平瓦・丸瓦・軒丸瓦)、青銅製品、鉄滓、木炭	近世	S212 と同一 SX11 に切られる
SK50	S50	土壙	隅丸長方形	逆梯形	142	79+α	18	土師器(皿・甕)、明青磁、中国白磁(碗)、国産陶磁器、鉄製品(釘)		SK51 に切られる
SK51	S51	土壙	楕円形	逆梯形	120	110	48	土師器(皿・坏・甑)、土師質土器、須恵器(蓋・甕)、中国陶器、中国青磁(碗)、中国白磁(合子の蓋)、国産陶器(摺鉢)、唐津(碗・甕)、福岡(瓶)、染付(碗)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、木炭、自然遺物(木の実)	近世	
SE52	S52	井戸	不整楕円形	逆梯形	108+α 井筒61	125 井筒68	15+α	土師器(皿・鉢・甕)、須恵器(坏・蓋)、瓦質土器(鉢)、中国青磁、中国白磁(碗・壺)、中国陶器(鉢)、国産陶器(鉢・甕・摺鉢)、染付(皿・碗)、瓦器(皿・椀)、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦・軒丸瓦)、貨幣(寛永通寶)、自然遺物(貝) 〈掘り方〉土師器(皿)、須恵器(蓋)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、国産陶器、肥前 〈井側〉土師器、瓦質土器(鉢)、白磁、陶器、天目、瓦(丸瓦)	近世	瓦井戸
SK53	S53	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	190	192	34	弥生土器(壺・甕)、土師器(皿・坏)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(蓋・壺・甕)、中国青磁、中国白磁(碗)、中国陶器(鉢)、染付、土製品(鞴羽口)、鉄製品(釘)	中世	SK55 と切りあう

Tab. 5　第 70 次調査遺構一覧表④

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SK54	S54	土壙	円形	逆梯形	80	80	24	土師器(皿・壺)、須恵器(甕)、白磁、国産陶器、唐津、天目、染付、瓦(平瓦)、鉄滓	近世	中に Pit を有する
SK55	S55	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	96	74+α	13	弥生土器、土師器(皿)、須恵器、鉄製品(釘)	中世	SK53 と切りあう
SK56	S56	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	88+α	65+α	5	土師器(皿)、須恵器、朝鮮須恵器、内黒土器(椀)、中国白磁、中国陶器、木炭		SK23・SK24・SK37 に切られる
SK57	S57	土壙	不整楕円形	逆梯形	65+α	80	7	土師器(皿)、中国白磁、中国陶器、鉄製品(釘)	中世	SX24 に切られる
SK58	S58	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	80+α	53	12	土師器(皿)、中国青磁(碗)、中国白磁(碗)、鉄製品(釘)	中世	SK59 に切られる
SK59	S59	土壙	隅丸長方形	逆梯形	216	62+α	13	土師器(皿)、須恵器、中国白磁(碗)、中国陶器、貨幣	中世	SK33・34・60 に切られる
SK60	S60	土壙	不整楕円形	逆梯形	90	72	34	土師器(皿・坏・甕・竈)、須恵器、瓦器(椀)、中国白磁(碗)、中国陶器、明染付、鉄製品(釘)、滑石	中世	
SK61	S61	土壙	——	——	——	——	——	弥生土器(甕)、土師器(皿・坏)、須恵器、瓦質土器(湯釜)、中国白磁、中国陶器(小碗・鉢)、染付		平面図実測不可
SK62	S62	土壙	方形	逆梯形	162	157	46	土師器(皿)、須恵器、瓦質土器(捏鉢)、中国陶器、中国白磁(碗)、国産陶器(碗・甕)、七輪、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(石臼)	近世	S08と同一
SK63	S63	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・甕)、須恵器、瓦器、瓦質土器、中国白磁、青磁、国産陶磁器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品、自然遺物(貝)、木炭	近世	攪乱カ
SX64	S64	炉	不整形	逆梯形	513	318+α	35	土師器、土師質土器(焙烙)、須恵器、東播系須恵質土器(鉢)、中国白磁、中国陶器、明染付、青磁(碗)、白磁(碗)、国産陶器、染付、七輪、瓦(平瓦・丸瓦・桟瓦)、鉄製品、青銅製品(鈴)、鉄滓、木炭 〈No. 1 竈〉土師器(皿・坏・椀・甕)、須恵器、内黒土器、瓦器(椀)、瓦質土器(摺鉢)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、国産陶器、瓦、石製品(滑石鍋)、自然遺物(骨) 〈No. 2 竈〉土師器、瓦質土器(火舎)、中国白磁、中国陶器(捏鉢)、李朝白磁、陶器、瓦(平瓦・桟瓦)、石製品(碁石)	近世	S06 と同一 竈 2 基あり
SX65	S65	土壙墓	不整隅丸長方形	逆梯形	140	131	30	土師器(皿・坏)、須恵器(坏・甕・鉢)、内黒土器、瓦質土器(鉢・摺鉢)、中国青磁(皿・碗・合子の蓋)、中国陶器(盤)、国産陶器(瓶)、唐津(碗・鉢)、染付(皿)、瓦(丸瓦)、鉄製品(釘・小刀・鑿白)、貨幣(寛永通寶)、鉄滓、石製品(滑石)	中世末～近世	SK50 に切られる
SK66	S66	土壙	不整長方形	逆梯形	80+α	92	5	土師器(皿・坏・壺・甕)、土師質土器(鉢)、須恵器(蓋・甕)、青磁(ミニチュア坏・合子の蓋)、白磁(碗)、国産陶器、備前、染付、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓	中世	SK67 に切られる 木棺あり
SK67	S67	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	120	65+α	26	土師器(皿・坏)、土師質土器、青磁、国産陶器、染付(皿)、七輪、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、自然遺物(骨)	近世	SK40 に切られる
SK68	S68	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	163	155	26	土師器(皿・甕)、中国陶器、青磁、国産陶器		
SK69	S69	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿)、瓦質土器、青磁、国産陶器、鉄製品(釘)		攪乱
	S70									SK123と同一
SK71	S71	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・椀・甕)、須恵器、須恵質土器、瓦質土器、中国青磁、中国白磁、中国陶器、国産陶器(碗)、唐津、染付、七輪、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦・軒丸瓦)	近世	場所不明
SK72	S72	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿)		場所不明
SK73	S73	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿)、瓦質土器(消炭壺の蓋)、染付(皿)	中世	平面図実測不可 SP21 に切られる
SK74	S74	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏)、瓦器(椀)、瓦質土器、中国陶器、青磁、白磁、鉄製品(釘)、石製品(滑石)、壁	中世	平面図実測不可 SK15 に切られる
SK75	S75	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	222	164	55	土師器(皿)、須恵器、青磁(碗)、白磁、陶器、染付(碗)、瓦、石製品(滑石)	中世	境界地にある
SD76	S76	溝	——	——	130+α	23	50	土師器(皿)、瓦質土器、青白磁、陶器	中世	場所不明
SK77	S77	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿)、須恵器、青白磁、陶器、鉄製品(釘)	中世	
SK78	S78	土壙	不整方形	逆梯形	115+α	128+α	141	土師器(皿)、須恵器、白磁(碗)、陶器、染付、瓦、鉄製品(釘)	中世	

Tab. 5　第 70 次調査遺構一覧表⑤

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SK79	S79	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	186	150	96	土師器(皿・坏)、須恵器、中国青磁(碗)、中国白磁(碗)、中国陶器、国産陶器、染付、鉄製品(釘)、鉄滓、炉壁、自然遺物(骨)	近世	SK21 に切られる
SK80	S80	土壙	不整楕円形	逆梯形	145	96+α	43	土師器(皿・坏)、須恵器、須恵質土器、瓦器(椀)、中国白磁(碗)、中国陶器、国産陶磁器、木炭		境界地にある
SK81	S81	土壙	——	——	——	——	——	土師器、中国陶器	中世	
SK83	S83	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	194	143+α	72	土師器(皿・坏・甕)、須恵器、瓦器(椀)、瓦質土器、中国青磁、中国白磁、中国陶器、国産陶器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、貨幣	中世	
SK84	S84	土壙						国産陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、壁	近世	
SE90	S90	井戸	不整円形	逆梯形	304 井筒168	268 井筒80	107+α	弥生土器、土師器(皿・坏・椀・甕・甑)、土師質土器(鉢・摺鉢・鍋・湯釜)、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢・甕・摺鉢・湯釜)、中国青磁(皿・碗)、中国陶器(鉢・甕)、白磁(皿・碗・蓋)、国産陶器(碗・鉢・壺・甕・摺鉢)、天目(碗)、染付(皿・碗)、土製品(土錘)、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦・桟瓦)、鉄製品(釘・鎹)、青銅製品、鉄滓、貨幣、石製品(石臼・砥石)、木炭、自然遺物(骨・貝ー蛤ほか) 〈掘り方〉土師器(皿・坏・甕・甑)、土師質土器(鉢・摺鉢)、須恵器(皿・坏・甕)、内黒土器(椀)、瓦質土器(火舎)、中国青磁(皿・碗・瓶)、中国白磁(碗)、中国陶器、国産陶器(碗、鉢・甕・摺鉢)、染付(碗)、瓦(平瓦・丸瓦・軒平瓦・桟瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石) 〈井側内〉弥生土器(甕)、土師器(皿・坏・椀・甕・竈)、土師質土器(摺鉢・釜)、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器(椀)、瓦器、瓦質土器(摺鉢・火舎)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗・水指)、緑釉陶器、中国陶器(鉢・盤)、李朝三島手？、国産陶器(碗・鉢・壺・甕・摺鉢)、天目、染付(碗・蓋)、瓦(平瓦・丸瓦・瓦塼・玩具)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(硯・滑石鍋)	中世末	井側は木桶
SK91	S91	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	228+α	192	20	弥生土器(壺)、土師器、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器、瓦質土器(火舎)、中国陶器、青磁、白磁(碗)、青白磁？(碗)、陶器(大甕)、染付、瓦、鉄製品(釘)、貨幣(長年元寶)	中世	境界地にある SK142 に切られる
SK92	S92	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	80	67	18	弥生土器(壺)、青磁、白磁、陶器(摺鉢)、貨幣	中世	
SK93	S93	土壙	円形	逆梯形	95	93	33	土師器(移動式竈)、土師質土器(焼塩壺・鍋)、須恵器、鉄製品(釘)	中世	SP300 に切られる
SK94	S94	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	223+α	127	59	土師器(皿・坏・椀・蓋・甕・甑)、土師質土器(摺鉢・焼塩壺・鍋)、須恵器(皿・坏・蓋・壺)、朝鮮須恵器、須恵質土器(甕)、東播磨系須恵質土器(鉢)、内黒土器(椀)、黒色土器(椀)、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢・湯釜)、中国青磁(碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(鉢・壺)、中国染付(皿)、国産陶器、備前、瓦(平瓦)、土製品、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(砥石・滑石)	中世	SP106と同一
SK95	S95	土壙	不整円形	摺鉢形	167	156	116	弥生土器、土師器(皿・坏・椀・甕)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、須恵質土器、内黒土器(椀)、黒色土器(椀)、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国青磁(碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(鉢・壺)、国産陶器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘・鎹)、鉄滓、石製品(滑石・紡錘車)	中世	
SK96	S96	土壙	不整方形	逆梯形	170	127	44	須恵器、中国陶器(摺鉢)、青磁(碗)、白磁(碗)、国産陶器、染付(碗)、瓦、鉄製品(釘)、鉄滓、貨幣(寛永通寶)、自然遺物(骨・歯・貝)	中世	
SK97	S97	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	125+α	105	52	土師器、須恵器(甕)、内黒土器、青磁、白磁、瓦、鉄製品(釘)、自然遺物(骨)	中世	トレンチに切られる 境界地にある
SK98	S98	土壙	——	——	——	——	——	土師器、須恵器、白磁(碗)	中世	
SK99	S99	土壙	不整方形	逆梯形	51+α	66	4	土師器、青磁	中世	SK21 に切られる
SK100	S100	土壙	不整楕円形	逆梯形	85	52	14	土師器(皿・坏)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器、瓦器(碗)、中国白磁、中国陶器	中世	SP220 に切られる
SK101	S101	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・甕)、須恵器、中国白磁、中国陶器、鉄滓	中世	平面図実測不可
SK102	S102	土壙	不整円形	逆梯形	56+α	41+α	13	土師器(皿・坏)、中国白磁、中国陶器	中世	
SK103	S103	土壙	円形	逆梯形	118	110	14	土師器(皿・坏・椀・甕)、須恵器、中国白磁、中国陶器、瓦	中世	

Tab. 5　第 70 次調査遺構一覧表⑥

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SK104	S104	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・椀・甕)、須恵器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国白磁、中国陶器、鉄製品(釘)、石製品(滑石)	中世	SK61 に切られる
SK105	S105	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	108	62+α	20	土師器(皿・坏・椀)、瓦質土器(鉢)、中国白磁、青磁、陶器、石製品(滑石)	中世	SK83 に切られる
SK106	S106	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・甕)、須恵器、東播系須恵質土器(鉢)、土師質土器(鍋)、瓦器(椀)、中国青磁、白磁(碗・皿)、中国陶器、土製品、石製品(砥石)	中世	SK94 に切られる
SK107	107	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器、瓦質土器(鉢)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、国産陶器、鉄滓	中世	SK94 に切られる
SK108	S108	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	167	104+α	39	土師器(皿・坏・甕)、須恵器、瓦質土器、中国白磁(碗)、中国陶器、染付	中世	SK94 に切られる
SK109	S109	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器、瓦器(椀)、瓦質土器(摺鉢)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、明染付、鉄製品(釘)、貨幣	中世	平面図実測不可
SK110	S110	土壙	不整円形	逆梯形	72+α	93+α	45	土師器(皿・坏・甑)、須恵器(坏・甕)、朝鮮須恵器、黒色土器(椀)、中国陶器、白磁、瓦、鉄製品(釘)、石製品(砥石・滑石)	古代末	SX111・SK141 に切られる
SX111	S111	土壙墓	不整隅丸長方形	逆梯形	192	148	87	土師器(皿・坏・椀)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器、李朝須恵質土器、瓦器(椀)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、瓦(平瓦)、鉄製品、鉄滓	中世	Pit252 に切られる
SK112	S112	土壙	不整円形	逆梯形	80	73	57	土師器(皿・坏・椀)、須恵器、中国白磁(碗)、中国陶器(鉢)、鉄製品(釘)、木炭	中世	
SX113	S113	土壙墓	隅丸方形	逆梯形	129	124	42	土師器(皿・坏)、瓦器(椀)、中国白磁(碗)、中国陶器、鉄製品(釘)	中世	SK96 に切られる
SK114	S114	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	156+α	116	18	土師器(皿・坏)、須恵器(坏)、中国青磁(碗・乳鉢)、中国白磁、中国陶器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、貨幣(政和通寶)、石製品(滑石)	中世	SK75 に切られる 境界地にある
SK115	S115	土壙	不整円形	レンズ状	210+α	133+α	67	土師器(皿・坏・椀・甕)、土師質土器(摺鉢・焼塩壺)、須恵器(坏)、瓦質土器(摺鉢)、中国青磁(碗)、中国白磁(碗)、緑釉陶器、国産陶器	中世	S193 と同一 SE02 に切られる
SK116	S116	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	114+α	72+α	37	土師器(皿・坏・椀)、土師質土器(鉢・鍋)、須恵器、須恵質土器、中国青磁(碗)、中国白磁(碗)、中国陶器(皿・壺)、瓦、鉄滓	中世	攪乱に切られる 境界地にある
SD117	S117	溝	——	逆梯形	87+α	226+α	29	土師器(皿・甕)、土師質土器(焙烙)、須恵器(蓋・坏)、内黒土器、黒色土器、瓦質土器、中国陶器(盤)、青磁(碗)、白磁、国産陶器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓		境界地にある
SK118	S118	土壙	不整形	逆梯形	85	38+α	21	土師器(皿・坏)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器、中国白磁	中世	
SK119	S119	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	125+α	57+α	10	土師器(皿・坏)、須恵器、瓦質土器(鉢)、中国陶器、青磁、白磁	中世	SX65・SK118 に切られる
SK120	S120	土壙	——	——	——	——	——	土師器、須恵器、青磁	中世	SX65・SK119 に切られる
	S121									S173と同一
SK122	S122	土壙	——	——	——	——	——	土師器、青磁、白磁、国産陶器		平面図実測不可
SK123	S123	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿)、須恵器(坏)、瓦質土器(鉢)、中国陶器(捏鉢)、白磁(碗)、青磁、国産陶器		SX24 に切られる S70と同一
SK124	S124	土壙	——	——	——	——	——	須恵器、青磁、白磁(碗)、陶器(壺・瓶)、瓦、鉄滓、瓦器(椀)、石製品(滑石)	中世	平面図実測不可
SK125	S125	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	130+α	70+α	102	土師器、中国陶器、青磁、白磁		3面
	S126									SE159と同一
SK127	S127	土壙	円形	逆梯形	121	70+α	26	土師器(皿・坏)、須恵器(坏・蓋・瓶)、瓦質土器(捏鉢)、青磁(碗)、白磁(碗)、鉄製品(釘)、壁	中世	SX24・SK66 に切られる
SK128	S128	土壙	不整隅丸方形	逆梯形	212+α	198+α	7	土師器、須恵器、白磁、陶器、鉄滓	中世	SK21 に切られる
SX129	S129	石積遺構	円形	逆梯形	掘り方 70	69	20	土師器(皿・坏)、須恵器、中国白磁、白磁(合子)、陶器、鉄製品(釘)	中世	
SK130	S130	土壙	不整楕円形	逆梯形	87	71	27	土師器(皿)、朝鮮須恵器、瓦器(椀)、中国陶器、青磁、白磁、陶器、鉄製品(釘)	中世	境界地にある
SK131	S131	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	87	25+α	40	土師器(皿・坏)、須恵器(甕)、青磁(皿)、白磁、陶器、瓦、鉄滓	中世	境界地にある
SK132	S132	土壙	不整楕円形	逆梯形	94	134+α	22	土師器(皿・坏)、須恵器(蓋・甕)、青磁、白磁(碗・合子)、陶器、鉄製品(釘)、自然遺物(骨)	中世	SP274 に切られる

Tab. 5　第 70 次調査遺構一覧表⑦

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態 平面形	形態 断面形	規模(cm) 長	規模(cm) 幅	規模(cm) 深	出土遺物	時代	備考
SK133	S133	土壙	不整隅丸長方形	摺鉢形	152+α	141+α	69	土師器(皿・坏)、須恵器、東播窯系須恵質土器、李朝須恵質土器、瓦器(椀)、瓦質土器(甕)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器、青磁、国産陶器(摺鉢)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、自然遺物(骨)	中世	S38と同一
SK134	S134	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器、瓦器	中世	
SK135	S135	土壙	——	——	——	——	——	土師器、白磁(皿・碗)	中世	平面図実測不可 境界地にある
	S136a	土壙	不整方形	逆梯形	112+α	110+α	15	土師器(皿・坏・椀・甕)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(甕)、須恵質土器、内黒土器、瓦器(椀)、中国陶器(壺)、中国白磁(碗)、磁器、国産陶器、瓦(平瓦)、鉄滓、石製品(砥石・滑石)	中世	S136bと遺物の区別なし
SE136	S136b	井戸	不整形円	逆梯形	295+α 井筒67	193+α 井筒63	181+α	〈掘り方〉土師器(皿・坏・椀)、須恵器(坏・蓋・甕)、瓦器(椀)、中国青磁(碗)、中国白磁(皿・坏・碗)、須恵器(坏・蓋・甕)、瓦器(椀)、中国青磁(碗)、中国白磁(皿・碗・蓋・壺)、中国陶器、国産陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石) 〈井側内〉土師器(皿・坏・椀)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・甕)、内黒土器(椀)、瓦器、瓦質土器、中国青磁(皿・碗・鉢)、中国白磁(碗)、中国陶器(壺・甕・盤)、緑釉陶器(鉢)、国産陶器、福岡(甕)、肥前(壺・瓶)、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、石製品(滑石鍋)、自然遺物(軽石？・骨)	中世	S136aと遺物の区別なし 井側は木桶
SK137	S137	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・鉢)、須恵器(坏・甕)、瓦器(椀)、白磁、陶器、緑釉陶器、鉄製品(釘)、鉄滓	中世	SE156の上面にある
SK138	S138	土壙	不整楕円形	逆梯形	95	53	29	土師器(皿・坏)、須恵器(鉢・甕)、内黒土器(椀)、瓦器、白磁、陶器、鉄滓		SK139に切られる
SK139	S139	土壙	不整方形	逆梯形	120+α	64+α	16	弥生土器、土師器(皿・坏)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏)、朝鮮須恵器、内黒土器(椀)、黒色土器(椀)、中国青磁、中国白磁(皿・碗・壺・合子)、中国陶器(壺)、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石)	中世	SK80に切られる 境界地にある
SK140	S140	土壙	不整楕円形	——	——	——	——	土師器(皿・椀)、須恵器(壺)、中国白磁(碗)、中国陶器、鉄滓、サスカイト片	中世	平面図実測不可
SK141	S141	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	100+α	78+α	36	弥生土器、土師器(皿・坏・壺・甕・竈)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、朝鮮須恵質土器、黒色土器(椀)、青磁、白磁(碗)、陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)	中世	SK92に切られる
SK142	S142	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	195	113	76	土師器(皿・坏・椀)、須恵器(坏・壺・甕)、黒色土器(椀)、中国白磁(碗)、中国陶器、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(砥石)	中世	SK92に切られる
SK143	S143	土壙	——	——	——	——	——	弥生土器(甕)、土師器、須恵器、青磁(碗、瓶)、白磁(皿・碗)、陶器、瓦、鉄製品(釘)、石製品(滑石ミニチュア鍋)	中世	SK178と同一
SK144	S144		——	——	——	——	——	土師器	中世	平面図実測不可
SX145	S145	土壙墓	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏)、須恵器、内黒土器、中国陶器(壺・盤)、明染付、青磁、白磁(皿・碗)、国産陶器、鉄製品(釘・鋏)、鉄滓、石製品(滑石)	中世	場所不明
SK146	S146	土壙	——	——	——	——	——	鉄滓	中世	平面図実測不可 SP 349に切られる
SK147	S147	土壙	——	——	——	——	——	鉄製品(釘)	中世	平面図実測不可
SK148	S148	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿)、鉄製品(釘)	中世	場所不明
SD150	S150	溝	——	逆梯形	495+α	35+α	30	弥生土器(甕)、土師器(皿・甕)、須恵器、内黒土器(椀)、中国青磁(碗)、中国陶器(盤)、白磁、国産陶器		
SE155	S155	井戸	不整隅丸長方形	逆梯形	534 井筒80	506 井筒77	237+α	土師器(皿・坏・甕・器台・甑)、土師質土器(焼塩壺・鉢)、須恵器(坏・蓋・甕)、須恵質土器(甕)、内黒土器(椀)、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(鉢・行平・水指)、国産陶器(蓋・甕)、土製品(土錘・羽口)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘・リング)、石製品(滑石鍋)、木炭 〈掘り方〉土師器(皿・坏・甕・竈・甑)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、須恵質土器(摺鉢)、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国青磁(皿・碗・瓶？)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(鉢・壺・瓶？・甕・盤)、国産陶器(碗・壺・水注)、唐津(甕)、肥前(壺)、瀬戸、土製品(土錘)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石)、自然遺物(骨・歯) 〈井戸側内〉土師器(皿・坏・器台)、須恵器(坏・蓋・甕)、須恵質土器、内黒土器、瓦器(椀)、瓦質土器、中国青磁(碗・瓶)、中国白磁(皿・碗・合子)、中国陶器(鉢)、国産陶器、唐津、肥前、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石)、木炭		井側は木桶 SE136b・188・221・222に切られる

Tab. 5　第 70 次調査遺構一覧表⑧

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SE155	S155a	井戸	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・甕・製塩土器?)、須恵器(坏・甕)、瓦器(椀)、瓦質土器、中国陶器(鉢・壺・盤)、青磁(皿・碗)、白磁(皿・碗)、青白磁(蓋)、国産陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石)	中世	13c 前
	S155b	井戸	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・甕)、須恵器(坏・蓋・甕)、瓦器(椀)、瓦質土器、中国青磁(皿)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(盤)、陶器(甕・瓶?)、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)		
	S155c	井戸	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・椀・甕)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、須恵質土器、内黒土器、瓦器(椀)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(鉢・壺)、国産陶器(香炉)、唐津、肥前、瀬戸、土製品(土錘)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、青銅製品、鉄滓、貨幣、石製品(滑石鍋)、木炭		
SE156	S156	井戸	不整隅丸長方形	逆梯形	350 井筒70	258+α 井筒69	206+α	弥生土器、土師器(皿・坏・椀・甕・甑)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(蓋・甕)、瓦質土器(火鉢?)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器、国産陶器、瓦(丸瓦)、鉄滓、石製品(滑石) 〈掘り方〉土師器(皿・坏・壺・甕)、須恵器(蓋・甕)、中国陶器(鉢)、青磁、白磁(碗)、陶器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘) 〈井側内〉土師器、須恵器(蓋・甕)、青磁、白磁	中世	SE01 に切られる 13c 後半
SK157	S157	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	123+α	113	21	土師器(皿・坏・椀)、土師質土器(鉢・焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、中世須恵器、朝鮮須恵器、須恵質土器、東播窯系須恵質土器(鉢)、黒色土器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢・火舎・鼎)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(壺)、緑釉陶器、青白磁(坏?・合子)、白磁(皿・碗)、国産陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、石製品(砥石・滑石・滑石鍋)	中世	境界地にある
SE158	S158	井戸	不整隅丸長方形	裁頭円錐形	373+α 井筒59	400+α 井筒52	244	弥生土器(甕)、土師器(皿・坏・甕・器台)、土師質土器(焼塩壺・鉢)、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器、中国青磁(碗)、中国白磁(碗)、中国陶器、青白磁(合子)、国産陶器、鉄製品(釘)、木炭	古代末	井側は木桶 SE156 に切られる SE165A と同一か?
SE159	S159	井戸	不整楕円形	逆梯形	170 井筒34	142 井筒32	151+α	土師器(皿・坏・甕)、須恵器(坏・蓋・甕)、瓦器、中国白磁(碗)、中国陶器(鉢・壺)、青磁(碗)、白磁(皿・碗)、国産陶器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘・鎹?)、青銅製品 〈掘り方〉土師器(皿・椀)、須恵器、中国青磁、中国白磁(碗)、中国陶器、土製品(土錘)、瓦、石製品(滑石) 〈井側内〉土師器(皿・坏・甕・器台)、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器、瓦器(椀)、中国青磁(碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器、国産陶器、瓦(平瓦・丸瓦)	中世	井側は木桶 S126と同…
SK160	S160	土壙	——	——	——	——	——	須恵器、中国陶器、青磁(皿・碗)、国産陶器	中世	平面図実測不可
SK161	S161	土壙	——	——	——	——	——	土師質土器(焼塩壺)、須恵器、白磁(碗)	中世	平面図実測不可
SK162	S162	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏)、須恵器(皿・坏)、白磁、陶器、鉄製品(釘)	中世	平面図実測不可
SE163	S163	井戸	不整円形	逆梯形	514	273+α	74	弥生土器(甕植)、土師器(皿・坏・壺・瀬戸内式壺)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(皿・坏・蓋・壺・甕)、須恵質土器、黒色土器、内黒土器、瓦器(椀)、瓦質土器、中国陶器(甕・盤・捏鉢)、青磁(皿・碗)、白磁(皿・碗)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石) 〈井側内〉弥生土器(坏)、土師器(皿・坏・鍋)、須恵器(皿・坏・壺・甕)、黒色土器、瓦質土器(鉢)、中国陶器、青磁(皿・碗)、白磁(皿・碗)、国産陶器(壺・甕)、瓦(平瓦)	中世	
SK164	S164	土壙	不整円形	逆梯形	220	200	104	土師器(皿・坏・椀)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器、黒色土器、瓦器(椀)、瓦質土器(捏鉢)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(碗・壺)、中国陶器(壺)、青白磁(合子)、天目、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、青銅製品、石製品(滑石)、木炭	中世	
SK 164A	S164a	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・椀)、須恵器、朝鮮須恵器、内黒土器、中国陶器、白磁(碗)、瓦(平瓦・丸瓦)、石製品(滑石)	中世	平面図実測不可
SK 164B	S164b	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・椀・甕?・鉢?)、須恵器、東播窯系須恵質土器、中国青磁、中国白磁、中国陶器、瓦(平瓦)、鉄滓	中世	平面図実測不可

Tab. 5　第70次調査遺構一覧表⑨

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模(cm)			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SE165	S165	井戸	不整隅丸長方形	截頭円錐形	385+α 井筒62 桶58	358+α 井筒53 桶58	221+α	弥生土器(壺)、土師器(坏・甕)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、、中国陶器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、石製品(滑石紡錘車) 〈掘り方〉弥生土器(甕)、土師器(坏・甕・竈・甑の把手・蛸壺?)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器(坏)、中国青磁、中国陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓 〈井側内〉土師器(皿・坏・甕・器台)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、鉄製品(釘)	古代	井側は木桶
SK166	S166	土壙	不整円形	逆梯形	150	65+α	50	土師器(皿・坏)、須恵器(椀)、瓦器(椀)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器、青磁(皿)、瓦(平瓦)、石製品(滑石鍋)	中世	境界地にある
SK167	S167	土壙	不整楕円形	逆梯形	123	107	46	弥生土器、土師器(皿・壺)、須恵器(坏・甕)、内黒土器(椀)、黒色土器、瓦器(椀)、白磁、鉄製品(釘)、木炭	中世	他の遺構に切られる
SK168	S168	土壙	不整形	逆梯形	138	119+α	65	土師器(皿・坏・椀・壺)、須恵器(坏・甕)、瓦器、中国白磁(皿・碗・壺)、中国陶器(壺・盤)、瓦(平瓦)、鉄製品、石製品(砥石)、自然遺物(骨)	中世	他の遺構に切られる
SE169	S169	井戸	——	——	——	——	——	土師器(坏)、須恵器、瓦質土器(鉢)、白磁(碗)、青白磁(蓋)、陶器、瓦(平瓦)、鉄滓	中世	平面図実測不可
SK170	S170	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・甕)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器(椀)、瓦質土器(椀・鉢・摺鉢)、中国陶器(甕)、青磁(皿・碗)、白磁(皿・碗)、唐津、瓦、石製品(滑石)、自然遺物(骨)	中世	
SK171	S171	——	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・鉢・甕)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋)、内黒土器、瓦質土器、中国青磁(碗)、中国白磁(碗)、中国陶器、国産陶器、肥前、瓦(平瓦)、土製品(羽口)		SK203と同一
SK172	S172	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿)、土師質土器(焼塩壺)、中国陶器、青磁、白磁(碗)、木炭		平面図実測不可
SK173	S173	土壙	楕円形	逆梯形	152	125	72	土師器(皿・坏・椀・甕)、須恵器(坏・甕)、内黒土器(坏)、黒色土器(椀)、中国陶器、青磁(碗)、白磁(蓋・碗)、陶器、瓦、鉄(釘)、石製品(滑石)、木炭	中世	SI21と同一
SK174	S174	土壙	不整楕円形	逆梯形	260	224+α	26	土師器(皿)、瓦質土器	中世	境界地にある SK173に切られる
SK175	S175	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	90+α	78	74	弥生土器(壺)、土師器(皿)、須恵器、瓦質土器(鉢)、白磁(皿・合子)、陶器	中世	境界地にある SK173に切られる
SK176	S176	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	108+α	88+α	47	土師器(皿・坏・鉢・竈)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、須恵質土器、内黒土器、瓦質土器(鉢・火舎)、中国陶器、明染付、青磁(皿・碗・瓶・合子)、白磁(碗)、唐津(甕)、高取、肥前、瓦、鉄製品、鉄滓、石製品(砥石・滑石)	近世	境界地にある
SE177	S177	井戸	——	——	——	——	——	土師器(坏)、須恵器(甕)、瓦質土器、白磁(皿・碗)、肥前、鉄製品、石製品(紡錘車)	中世	平面図実測不可
SK178	S178	土壙	円形	逆梯形	133	130	71	弥生土器(壺・甕)、土師器(皿・坏・壺・甕・器台・甑の把手)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・鉢・壺・甕)、東播窯系須恵器(鉢)、内黒土器(椀)、瓦器(椀)、瓦質土器(坏・鉢)、中国青磁(皿・碗・鉢・瓶)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(盤)、青磁(碗・瓶)、白磁(皿・碗)、陶器、肥前(甕・瓶)、黒釉陶器、瓦(平瓦)、木炭	中世	SK143と同一
SK179	S179	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	141+α	96	41	土師器(皿・坏・壺・甕)、須恵器(坏・鉢・甕)、瓦器(椀)、瓦質土器(摺鉢)、中国青磁(皿・碗)、中国陶器(盤)、白磁(碗)、国産陶器(瓶)、肥前、青磁染付(碗)、瓦(丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石)	中世	
SK180	S180	土壙	不整形	逆梯形	73+α	40+α	27	土師器(皿)、須恵器(坏)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、明染付、国産陶器、唐津(摺鉢)、福岡(碗)、染付、伊万里、瓦(平瓦・丸瓦・瓦塼)、鉄製品(釘)、鉄滓、自然遺物(骨)	近世	境界地にある
SK181	S181	土壙	不整円形	逆梯形	138	128	94	土師器(皿・坏)、中国陶器、青磁(皿)、白磁(皿・碗・壺)、青白磁(合子)、鉄製品	中世	
SK182	S182	土壙	不整円形	逆梯形	114+α	72+α	83	土師器(皿)、須恵器(甕)、瓦器(椀)、瓦質土器、中国陶器、青磁、白磁(皿・碗)、土製品?	中世	境界地にある SK181・183に切られる
SK183	S183	土壙	不整楕円形	逆梯形	90+α	82+α	77	土師器(皿・坏・甕)、須恵器(坏・甕)、須恵質土器(鉢)、瓦質土器(摺鉢)、中国陶器(甕)、青磁(皿・碗)、白磁(碗)、国産陶器、鉄製品(釘)、青銅製品、鉄滓、木炭	中世	境界地にある

Tab. 5　第70次調査遺構一覧表⑩

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態 平面形	形態 断面形	規模(cm) 長	規模(cm) 幅	規模(cm) 深	出土遺物	時代	備考
SK184	S184	土壙	不整円形	逆梯形	127+α	71+α	58	土師器(皿・坏・椀)、須恵器(坏・甕)、瓦器、瓦質土器、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・椀)、中国陶器(瓶)、国産陶器、鉄製品(釘)、鉄滓	中世	SK181・125に切られる
SK185	S185	土壙	不整円形	逆梯形	70+α	59+α	54	土師器(甑の把手)、須恵器、国産陶器(瓶)	中世	
SK186	S186	土壙	不整楕円形	逆梯形	100+α	102	46	土師器(坏・蓋・甕)、須恵器(皿・蓋)	古代	他のPitに切られる
SK187	S187	土壙	不整楕円形	逆梯形	59	48	130	土師器(坏)、国産陶器		
SE188	S188	井戸	不整楕円形	摺鉢形	350+α 井筒73	175+α 井筒60	256+α	土師器(皿・坏・器台・甑)、土師質土器(甕・焼塩壺)、須恵器(坏・蓋・甕)、東播系須恵器(鉢)、内黒土器、黒色土器(椀)、瓦器(椀)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗・水指)、中国陶器(鉢・壺)、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)、石製品(石錘)、自然遺物(骨) 〈掘り方〉土師器、須恵器(蓋)、中国白磁、瓦(平瓦) 〈井側内〉土師器(皿・坏・甑)、須恵器(甕)、中国青磁(碗)、中国白磁(碗)、中国陶器(鉢・壺)、国産陶器(壺)、瓦(丸瓦)	中世	井側は木桶
SK189	S189	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	235	85+α	98	土師器(皿・坏・甕)、須恵器(坏・蓋)、瓦器(椀)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(壺)、青磁、国産陶器(甕)、染付、瓦(平瓦・丸瓦・瓦塼)、鉄滓	古代	境界地にある
SK190	S190	土壙	不整円形	逆梯形	227+α	188+α	13	土師器(皿)、須恵器、国産陶器		SK78に切られる 境界地にある
SK191	S191	土壙	——	——	——	——	——	土師器(坏・甑)、須恵器(甕)、青磁		平面図実測不可
SK192	S192	土壙	不整円形	逆梯形	72+α	50+α	29			境界地にある
	S193									SK115と同一
SK195	S195	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏)、須恵器(皿・坏・甕)、内黒土器、瓦器(椀)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(鉢)、国産陶器(皿)	中世	平面図実測不可
	S194									SK31と同一
SK196	S196	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	110	77+α	48	土師器、瓦(丸瓦)	中世	
SK197	S197	土壙	不整円形	逆梯形	93	88	72	弥生土器(甕)、土師器(坏)、須恵器(坏・蓋・甕)、中国白磁(碗)、中国陶器(盤)、国産陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)	中世	
SK198	S198	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	99+α	59+α	51	土師器、須恵器(坏)、国産陶器、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓		他の土壙に切られる 境界地にある
SE199	S199	井戸	不整円形	逆梯形	104+α 井筒53	58+α 井筒30	133+α	弥生土器、土師器(皿・坏)、須恵器(坏)、内黒土器(椀)、瓦器(椀)、中国陶器(盤)、青磁、白磁、瓦、鉄製品(釘)、石製品(滑石)、自然遺物(骨) 〈井側内〉土師器、瓦器(椀)、青磁		井側は木桶 SK190に切られる
SK200	S200	土壙	不整円形	逆梯形	120+α	95+α	49	土師器(坏・甕)、須恵器、青磁、白磁、国産陶器、瓦		SK201・202に切られる
SK201	S201	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	107+α	112+α	54	土師器(坏・蓋・甕)、須恵器(皿・坏・蓋)、白磁	中世	SK202に切られる
SK202	S202	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	147+α	114	90	土師器(皿・坏・蓋・甕)、須恵器(坏・蓋・蓋)、瓦器(椀)、中国青磁(皿・碗)、中国陶器(鉢・甕)、白磁(皿・碗)、国産陶器(鉢・甕)、唐津(甕)、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、木炭	近世	SK203に切られる
SK203	S203	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	137+α	105+α	56	土師器(皿・坏・鉢・甕)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(蓋・坏)、内黒土器、白磁(碗)、瓦質土器、中国陶器、青磁(皿・碗)、白磁(碗)、国産陶器、肥前(瓶)、土製品(鞴羽口)、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)	近世	SK171と同一
SK204	S204	土壙	不整楕円形	逆梯形	187	167	82	土師器(坏)、須恵器、内黒土器、白磁(碗)、国産陶器		
SE205	S205	井戸	不整円形					土師器(皿・坏・蓋・甕)、土師質土器、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器、瓦器(椀・鉢)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗・瓶)、中国陶器(鉢・壺・盤)、肥前、天目、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、石製品(滑石鍋)	中世	SE221・222
SE206	S206	井戸	不整楕円形	逆梯形	172+α 井筒60	200 井筒63	191+α	〈掘り方〉土師器、須恵器(甕)、陶器 〈井側内〉土師器(皿・坏)、土師質土器、須恵器、瓦器(椀)、中国白磁(皿・碗)、陶器、自然遺物(骨)	中世	井側は木桶 SE156に切られる
SE207	S207	井戸	不整隅丸長方形	逆梯形	192+α 井筒61	190 井筒67	265	〈掘り方〉土師器(皿・坏・甕)、須恵器(坏・蓋・甕)、内黒土器、瓦器、瓦質土器(鍋)、青磁、白磁(碗)、陶器、唐津、瓦(平瓦・丸瓦) 〈井側内〉土師器、須恵器、青磁	中世	

Tab. 5　第 70 次調査遺構一覧表⑪

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態 平面形	形態 断面形	規模(cm) 長	規模(cm) 幅	規模(cm) 深	出土遺物	時代	備考
SK208	S208	土壙	——	——	——	——	——	土師器(皿・坏・甕)、土師質土器(摺鉢)、須恵器(皿・坏・蓋・甕)、内黒土器、瓦質土器(鉢？)、中国陶器、青磁(皿・碗)、白磁(碗)、国産陶器(鉢・瓶・摺鉢)、唐津(皿)、肥前(碗)、福岡(摺鉢)、瀬戸、染付(皿・碗)、瓦(平瓦・丸瓦・軒丸瓦)、鉄製品(釘)、鉄滓、貨銭(寛永通寶)、石製品(滑石)、黒曜石片、自然遺物(骨)	近世	
SK209	S209	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	111+α	119+α	35	土師器(皿・坏)、須恵器、白磁、青磁、国産陶器、瓦(平瓦・丸瓦・桟瓦)、鉄滓	近世	
SK210	S210	土壙	不整隅丸長方形	逆梯形	70+α	36	32	土師器(坏)、中国陶器、自然遺物(軽石)		
SX211	S211	炉	不整円形	逆梯形	190	156	29	土師器(皿・坏・竈・甑)、土師質土器(摺鉢)、須恵器(甕)、瓦質土器(摺鉢・火舎)、中国陶器(鉢)、青磁(碗)、石磁(皿・碗)、国産陶器(蓋・碗・甕・摺鉢)、染付、瓦(平瓦・丸瓦・桟瓦)、鉄製品(釘)、青銅製品、鉄滓	近世	鍛冶炉
	S212									SK49と同一
	S213									SK45と同一
	S214									SK46と同一
SK215	S215	土壙	不整形	逆梯形	64+α	52+α	5			
SX215	S215b	土壙墓	隅丸長方形	逆梯形	137+α	120+α	25	土師器、須恵器、瓦質土器(火舎？)、青磁、国産陶器、瓦(平瓦)		割竹型木棺
SK216	S216	土壙	——	——	——	——	——	土師器(坏・甕)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏・甕)、内黒土器(椀)、瓦器(椀)、瓦質土器(摺鉢・火舎)、中国陶器(盤)、青磁、白磁(碗)、国産陶器(水指)、染付、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品(釘)	中世末～近世	場所不明
SE217	S217	井戸	不整円形	逆梯形	235+α 井筒56	150+α 井筒60	101+α	貨幣(天聖元寶) 〈掘り方〉土師器(坏・甑)、須恵器(坏)、瓦質土器(火鉢？)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿)、陶器、鉄製品(釘) 〈井側内〉鉄製品(釘)	中世	井側は六角形
SE218	S218	井戸	不整円形	——	——	——	——	〈掘り方〉土師器(椀) 〈井側内〉土師器(皿・甕)、須恵器(坏・蓋・甕)、黒色土器(椀)、瓦器(椀)、中国青磁(皿・碗)、中国白磁(皿・碗)、中国陶器、国産陶器、瓦、自然遺物(骨)	中世	
SE219	S219	井戸	不整円形	逆様形	190+α 井筒67	168+α 井筒66	101+α			井側は木桶
SE220	S220	井戸	不整円形	逆梯形	173 井筒70	162 井筒63	62+α			井側は木桶 SE90に切られる
SE221	S205a	井戸	不整円形	逆梯形	130+α 井筒37	130+α 井筒40	107+α	鉄製品(釘)、鉄滓 〈掘り方〉土師器(皿・坏・壺・甕)、須恵器(坏・蓋・甕)、瓦器、中国青磁(皿・碗・水指)、中国白磁(皿・碗)、陶器、瓦(平瓦・丸瓦)、鉄製品、石製品(石臼？・滑石) 〈井側内〉土師器(鉢)、須恵器、中国青磁、中国白磁(碗・水指)、中国陶器、瓦(丸瓦・瓦塼？)、土製品(土錘)	古代末	井側は木桶
SE222	S205b	井戸	不整円形	逆梯形	130+α 井筒65+α	172 井筒65	196+α	土師器(皿・坏・甕)、須恵器(坏)、内黒土器、瓦器(椀)、中国青磁(皿・碗)、中国陶器(壺)、白磁(碗)、国産陶器(鉢)、唐津、瓦(平瓦)、自然遺物(骨)	中世	木桶井戸、SE222に切られる
SP82	P82	柱穴	不整円形		28	36	25.5	土師器、瓦(平瓦)、鉄製品		
SP102	P102	柱穴	不整円形		48	44	14.5	弥生土器、土師器(皿)、土師質土器(焼塩壺)、須恵器(坏)、内黒土器、中国白磁、中国陶器、国産陶器、国産磁器、瓦(平瓦)、鉄製品	中世末	
SP135	P135	柱穴	不整円形		——	——	——	中国白磁(碗)	中世	場所不明
SP243	P243	柱穴	不整円形		14	14	12.0	弥生土器(甕)、鉄製品(釘)、鉄滓		
SP256	P256	柱穴	不整円形		28	24	37.5	土師器(皿・坏)、須恵器(坏)、瓦質土器、中国白磁(碗)、鉄滓	中世	
SP265	P265	柱穴	不整円形		52+α	64	13.0	土師器(皿・坏)、須恵器(坏)、内黒土器(椀)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、国産陶器	中世	
SP280	P280	柱穴	不整円形		22	26+α	18.0	中国白磁	中世	
SP310	P310	柱穴	不整円形		62+α	60	21.5	土師器(皿・坏)、須恵器(坏)、中国青磁(碗)、中国白磁(碗)、鉄製品(釘)	中世	

Tab. 5　第 70 次 調 査 遺 構 一 覧 表 ⑫

遺構名	旧遺構名	遺構種類	形態		規模 (cm)			出土遺物	時代	備考
			平面形	断面形	長	幅	深			
SP364	P364	柱穴	不整円形		50	42	36.5	土師器(皿)、土師質土器(鍋)、黒色土器(椀)、瓦器(碗)、中国白磁、中国陶器、青磁	古代	
SP393	P393								古代	
SP403	P403	柱穴	不整円形		45	85	22.5	土師器(椀)	中世	
SP404	P404	柱穴	不整円形		45	80	40+α	土師器、須恵器(坏)、緑釉陶器	古代	SK164 に切られる
SP405	P405	柱穴	不整円形		75.5	70	68	土師器(坏・椀・甑)、須恵器(坏)、瓦質土器、中国白磁(皿・碗)、中国陶器(壺)、瓦	中世	
SP406	P406	柱穴	不整円形		31+α	66+α	53	土師器(坏)、須恵器、内黒土器、中国白磁、青磁、国産陶器、染付、瓦(平瓦・丸瓦・軒丸瓦)、鉄滓、自然遺物(骨)	中世	境界地にある
SP 406A	P406a	柱穴	不整円形		——	——	——	土師器(皿・坏)、須恵器(坏・瓦泉)、瓦器(椀)、中国白磁(碗・壺)、中国陶器(壺)、緑釉陶器(碗)、瓦(平瓦)		場所不明
SP407	P407	柱穴	不整円形		45+α	70+α	50.5	土師器(皿・坏)、須恵器、内黒土器(椀)、中国白磁(碗)、中国陶器、鉄滓	中世	
SP408	P408	柱穴	不整円形		23+α	33	13.5	土師器、石製品(紡錘車)		
SD01	SD01	溝	——	逆梯形	650+α	75	107	土師器(皿・坏)、須恵器、瓦器(椀)、中国陶器、白磁、青磁、国産陶器、瓦、炭	中世	
SD02	SD02	溝	——	逆梯形	1110+α	105	59	土師器(皿・坏・甕・把手)、土師質土器、須恵器(坏・甕)、内黒土器、黒色土器、瓦器(椀)、瓦質土器、中国青磁、中国白磁、中国陶器、国産陶器(摺鉢・甕)、白磁(碗)、青磁、染付、瓦(平瓦・丸瓦・桟瓦)、鞴羽口、鉄製品、滑石、碁石(?)、木炭、炉壁、焙烙	近世	
SD03	SD03	溝	——	——	——	——	——	土師器、須恵器、中国白磁、国産陶器(備前)、瓦(平瓦)、鉄製品(釘)	中世	平面図実測不可
SD04	SD04	溝	——	逆梯形	——	——	30	土師器(坏)、須恵器、中国青磁、中国白磁、中国陶器、緑釉陶器、瓦器、瓦質土器、瓦(丸瓦)、鉄製品(釘)	中世	
SD05	SD05	溝	——	逆梯形	206+α	72	16.5	弥生土器(甕)、土師器(甕・坏・皿)、須恵器、青磁、白磁(碗)、中国陶器、瓦器、瓦質土器(摺鉢)、瓦	中世末	
SD06	SD06	溝	——		——	——	——	弥生土器(甕)、土師器(坏・皿)、須恵器(甕・蓋)、青磁、白磁、赤絵	近世	
SD07	SD07	溝	——		428+α	58	55	土師器、須恵器、中国白磁、中国青磁、中国陶器、明染付、瓦(丸瓦)	中世末	
SD08	SD08	溝	——	箱薬研堀	766+α	155	79	土師器(二重口縁壺・甕・皿・坏・椀・鉢)、須恵器(甕・坏)、土師質土器、瓦質土器(鉢・摺鉢・甕)、内黒土器・越洲青磁、中国青磁、中国白磁、中国陶器、緑釉陶器、瓦(丸瓦)、石製品	中世	
SD09	SD09	溝	——	2段堀り	406+α	135	54	土師器(甕・皿・坏・椀)、須恵器(坏・蓋・甕)、土師質土器(鍋)、須恵質土器、瓦器(椀)、瓦質土器(鉢)、中国青磁、中国白磁、中国陶器、天目、泥メンコ、瓦、鉄製品(釘)	中世	

作　業　風　景

博　多　41

博多遺跡群第70次発掘調査報告

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第370集

1994年（平成６年）３月３１日発行

編集・発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神１丁目８－１
電話（092）711－4666

印　　刷　福岡印刷株式会社
福岡市博多区東那珂１丁目10－15
電話（092）451－0027